

男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

平成23年3月

鹿 児 島 市

目 次

第1章 調査の概要

調査の概要	3
-------------	---

第2章 調査結果

1 回答者の属性	7
2 男女平等意識について	
(1) 様々な分野における男女の地位の平等意識	11
(2) 社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識	17
(3) 男女が平等でない原因	20
(4) 男女が平等になるために重要なこと	23
3 家庭生活について	
(1) 性別役割分担に対する考え方	26
(2) 性別役割分担に対する考え方に賛成する理由	30
(3) 家事の分担についての理想と現実	33
(4) 男性が家事、育児をすることについての考え	37
(5) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方の希望と現実	41
(6) 男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと	46
4 社会活動・地域活動	
(1) 社会活動・地域活動への参加状況	48
(2) 女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと	50
5 結婚について	
(1) 結婚についての考え	52
(2) 夫婦同姓・別姓を選択できることに対する考え	55
6 家庭での高齢者介護について	
(1) 家庭での高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え	57
(2) 高齢者介護について今後必要なこと	59
7 就労について	
(1) (結婚、子育てを踏まえた) 女性の仕事に対する考え	61
(2) 現実の働き方で「仕事を(一時的に)やめる」を選んだ理由	64
(3) 職場での男女格差の有無	67
(4) 社会全体としての女性の働きやすさに対する考え	70
(5) 女性が働きにくいと思う理由	72
8 教育について	
(1) 子どもの育て方についての考え	75
(2) 男女共同参画を実現するために学校教育の現場で必要なこと	78
9 女性の政策参画について	
(1) 方針・政策を決める際の女性の意見の反映度	80
(2) 政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由	84
(3) 女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること	87
10 人権・暴力について	
(1) ドメスティック・バイオレンスに対する考え方	89
(2) 現在または過去における配偶者の有無	93
(3) 配偶者からのDVの被害経験の有無	95
(4) 配偶者からのDVにより命の危険を感じたことの有無	95
(5) 10歳代から20歳代における交際相手の有無	101
(6) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無	103
(7) 交際相手からのDVにより命の危険を感じたことがあるかの有無	103
(8) DVにあった際の相談の有無	107
(9) DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由	109

(10) DVの未然防止にとって必要なこと	112
(11) メディアにおける性・暴力表現についての考え	114
11 男女共同参画に関する用語	
(1) 用語の認知度	116
12 行政について	
(1) 男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと	120
13 自由意見	123

第3章 資料

調査票	133
-----	-----

第 1 章

調査の概要

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、平成17年度の意識調査以降、男女共同参画社会に向けた取組が進む中、市民の意識と実態がどのように変化してきているか把握するとともに、23年度に行う第2次男女共同参画計画の策定に向けて今後の施策を検討するための基礎資料とするものである。

2 調査方法

- (1) 調査対象者 鹿児島市在住の20歳以上の男女3,000人
- (2) 抽出方法 鹿児島市住民基本台帳から無作為抽出
- (3) 調査期間 平成22年9月3日（金）～平成22年9月24日（金）
- (4) 調査方法 調査票による本人記入方式（郵送配布・郵送回収による郵送調査法）

3 回収結果

調査名	配布数	有効回答数	有効回収率
男女共同参画に関する市民意識調査	3,000人	1,395人	46.5%

4 集計上の留意点

- (1) 集計結果は百分率で算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 複数回答の場合は、有効回答者実数より高くなっている場合がある。
- (3) 集計表中に、「年代」「性別」等の分けをしているが、各区分に未記入データが含まれているため各区分の小計と、合計の数値が異なる場合がある。
- (4) 有意差検定には「 χ^2 乗検定」を用い、有意水準を5%（p値が0.05未満なら有意差あり）とする。
- (5) 分析コメントにおいては、検定により有意差が検出された項目に対してのみ「高い」「低い」「差がある」といった表現を用いている。

5 統計上の用語について

母集団

調査対象となる数値、属性等の源泉となる集合全体のこと。

母数

母集団の分布を表現する数値のこと。

有意

「確率的に偶然とは考えにくく、意味があると考えられる」こと。

帰無仮説

検定の結果最終的に棄却されるべきもので、「母数Aと母数Bの間には差がない」という形の仮説。

p値

帰無仮説の下で実際にデータから計算された統計量よりも極端な統計量が観測される確率。

有意水準

どの程度の正確さをもって帰無仮説を棄却するかを表す定数。有意水準5%で有意という場合には、「実際には偶然に過ぎないのに、誤って『意味がある』と判断している」可能性が最大で5%あるということ。

有意差

帰無仮説を「2つの母数に差がない」という形にした場合には、帰無仮説が棄却されることで「2つの母数の間には有意差がある」という結論が導かれる。

期待値（期待度数）

帰無仮説「2つの母数に差がない」が成立したときに期待される値（度数）

実測値（観測度数）

期待値（期待度数）に対し、実際に観測された値（度数）

 χ^2 乗検定（カイ二乗検定）

期待値（期待度数）と実測値（観測度数）との差が誤差の範囲であるかを、 χ^2 乗値を用いて解析する検定手法。

 χ^2 乗値（カイ二乗値）

期待値（期待度数）と実測値（観測度数）との差を表す指標。

$$\chi^2 \text{乗値} = (\text{実測値} - \text{期待値}) \times (\text{実測値} - \text{期待値}) \div \text{期待値}$$

【参考】本報告書で結果を引用した過去の調査

- ◆ 平成17年度「男女共同参画に関する市民意識調査」（鹿児島市）
（20歳以上の男女3,000人 有効回収数1,416人）
※本文中では、「前回調査」と表記している。
- ◆ 平成19年度「夫婦やパートナーとの日常生活についてのアンケート」（鹿児島市）
（18歳以上の男女3,000人 有効回収数1,045人）
※本文中では、「平成19年度DV調査」と表記している。
- ◆ 平成20年度「男女間における暴力に関する調査」（内閣府）
（20歳以上の男女5,000人 有効回収数3,129人）
※本文中では、「内閣府DV調査」と表記している。
- ◆ 平成21年度「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）
（20歳以上の男女5,000人 有効回収数3,240人）
※本文中では、「内閣府調査」と表記している。
- ◇ 比較に使用した図表は、集計データを元に改めて作成しているため、前回調査及び内閣府調査時に公表されたものと異なる場合がある。

第 2 章

調 査 結 果

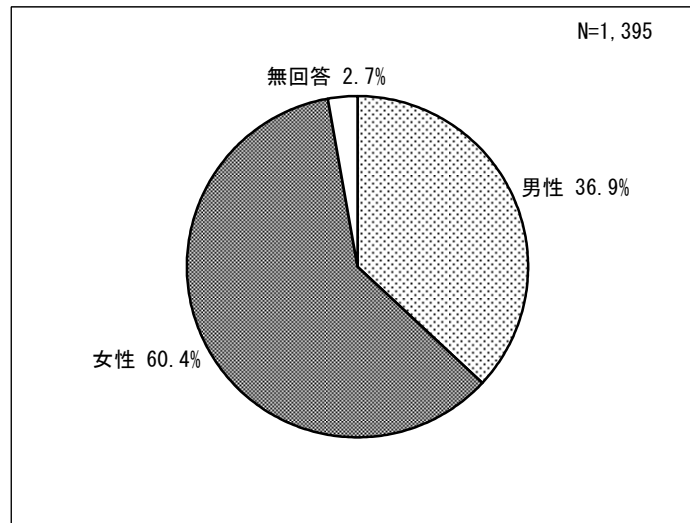
第2章 調査結果

1 回答者の属性

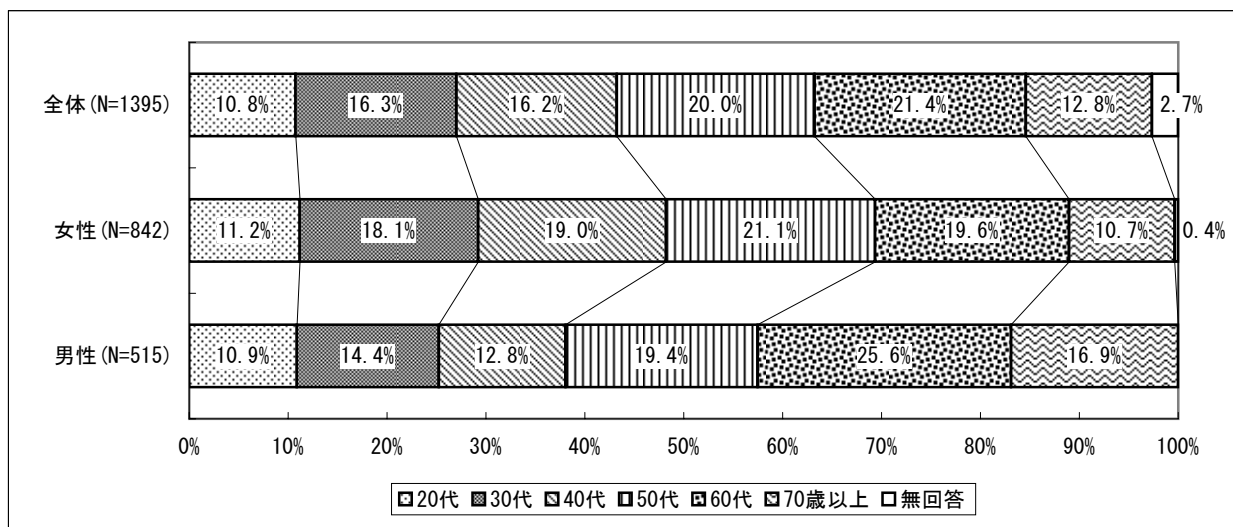
回答者1,395人の属性は、以下の通り。

【F1】性別

	サンプル数	男性	女性	無回答
全体	100.0 1395	36.9 515	60.4 842	2.7 38

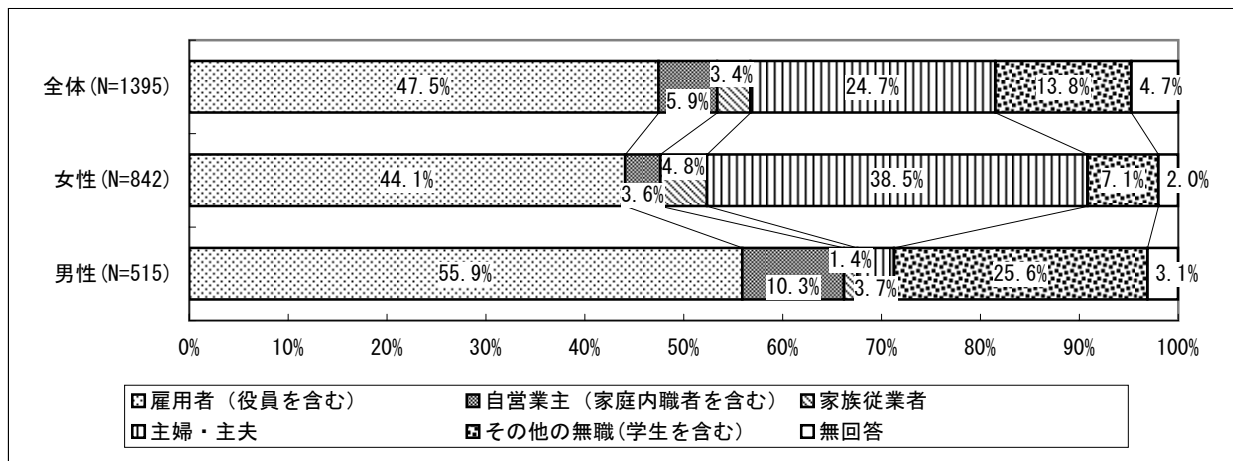


【F2】年齢



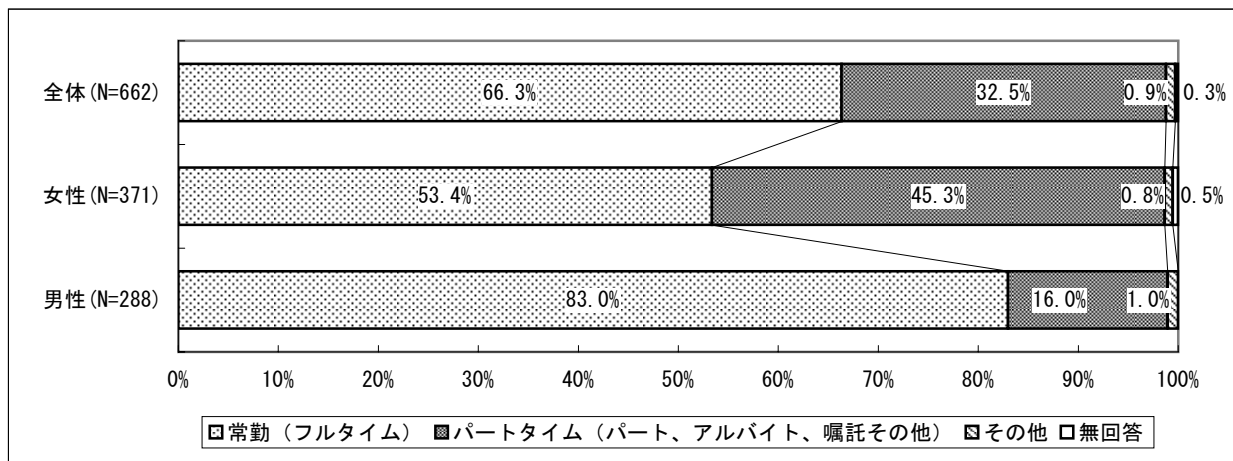
		サンプル数	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
全体		100.0	10.8	16.3	16.2	20.0	21.4	12.8	2.7
		1395	150	227	226	279	298	178	37
性別	男性	100.0	10.9	14.4	12.8	19.4	25.6	16.9	0.0
	男性	515	56	74	66	100	132	87	0
性別	女性	100.0	11.2	18.1	19.0	21.1	19.6	10.7	0.4
	女性	842	94	152	160	178	165	90	3

【F3】 職業



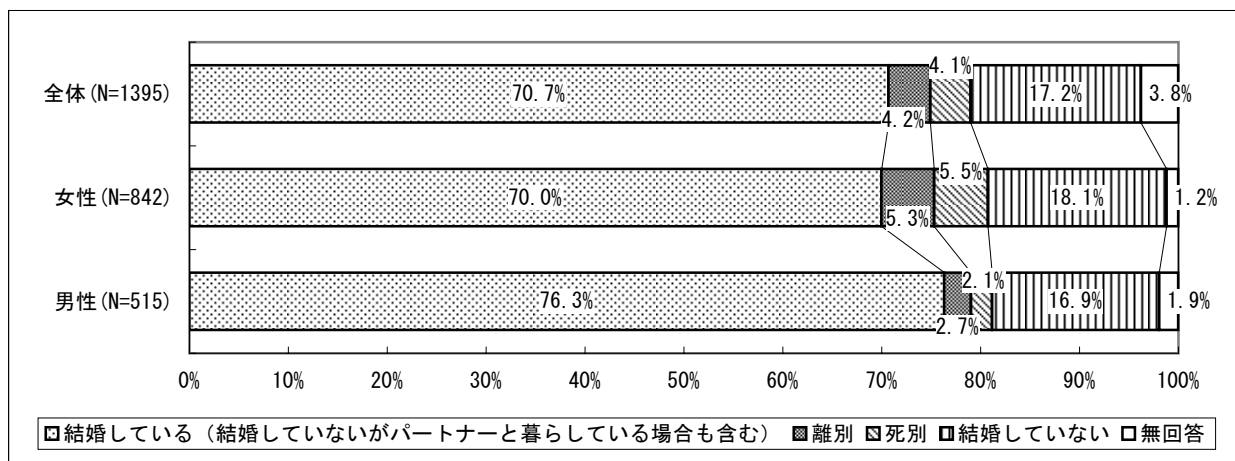
	サンプル数	雇用者 (役員を含む)	自営業主 (家庭内職者を含む)	家族従業者	主婦・主夫	その他の無職 (学生を含む)	無回答
		全体	47.5	5.9	3.4	24.7	13.8
	1395	662	83	47	345	192	66
性別	男性	55.9	10.3	1.4	3.7	25.6	3.1
	515	288	53	7	19	132	16
女性	44.1	3.6	4.8	38.5	7.1	2.0	
	842	371	30	40	324	60	17

【F4】 就労状況



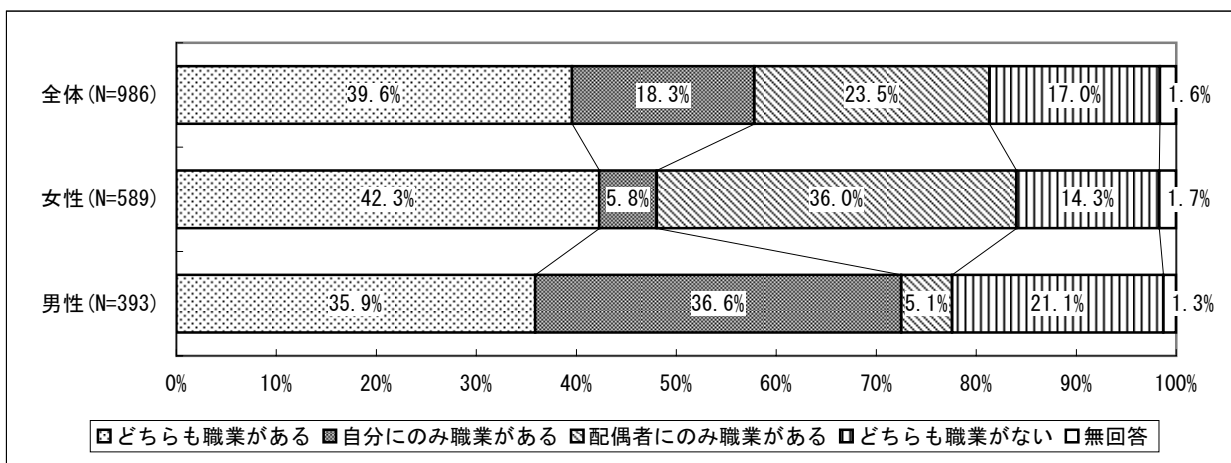
	サンプル数	常勤 (フルタイム)	パートタイム (パート、アルバイト、嘱託その他)	その他	無回答
		全体	66.3	32.5	0.9
	662	439	215	6	2
性別	男性	83.0	16.0	1.0	0.0
	288	239	46	3	0
女性	53.4	45.3	0.8	0.5	
	371	198	168	3	2

【F5】 婚姻状況



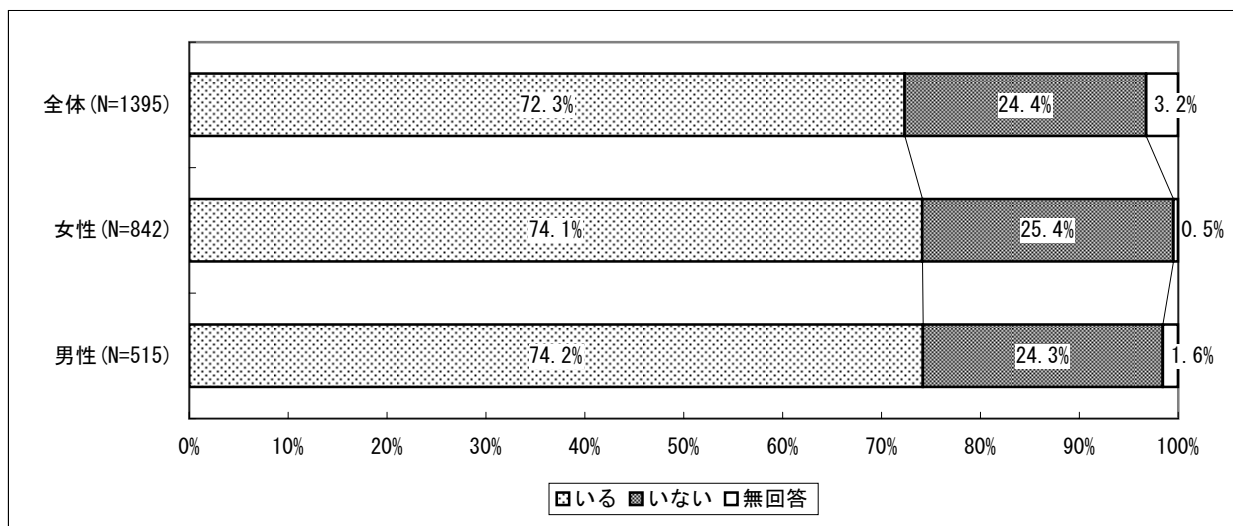
性別	サンプル数	結婚している (結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む)	離別	死別	結婚していない	無回答
		割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
全体	1395	70.7	4.2	4.1	17.2	3.8
男性	515	76.3	2.7	2.1	16.9	1.9
	393	393	14	11	87	10
女性	842	70.0	5.3	5.5	18.1	1.2
	589	589	45	46	152	10

【F6】 夫婦の就労形態



性別	サンプル数	どちらも職業がある	自分のみ職業がある	配偶者のみ職業がある	どちらも職業がない	無回答
		割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
全体	986	39.6	18.3	23.5	17.0	1.6
男性	393	35.9	36.6	5.1	21.1	1.3
	141	141	144	20	83	5
女性	589	42.3	5.8	36.0	14.3	1.7
	249	249	34	212	84	10

【F7】子どもの有無



		サンプル数	いる	いない	無回答
全体		100.0	72.3	24.4	3.2
		1395	1009	341	45
性別	男性	100.0	74.2	24.3	1.6
		515	382	125	8
	女性	100.0	74.1	25.4	0.5
		842	624	214	4

2 男女平等意識について

(1) 様々な分野における男女の地位の平等意識

【問1】 男性と女性は憲法上では平等となっていますが、次にあげる①～⑦の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

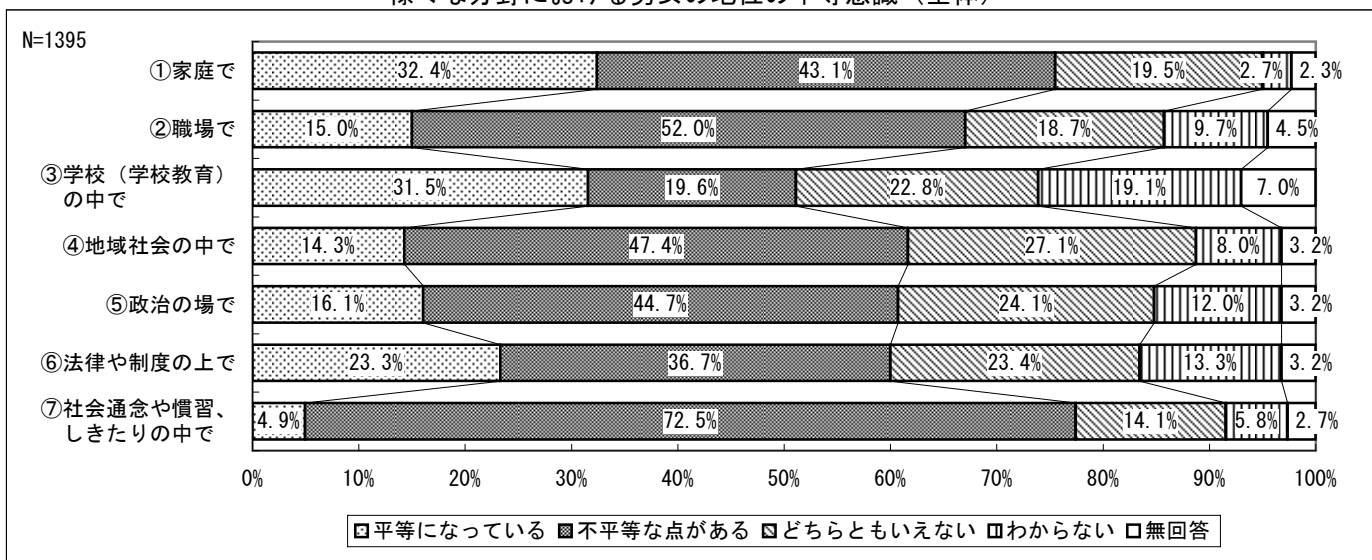
～「社会通念や慣習、しきたりの中で」低い。女性は「家庭」において男性より不平等感が強い～

様々な分野における男女の地位の平等意識をみると、全体では「平等になっている」の割合は「①家庭で」(32.4%)、「③学校(学校教育)の中で」(31.5%)、「⑥法律や制度の上で」(23.3%)となっており「不平等な点がある」の割合は、「社会通念や慣習、しきたりの中で」(72.5%)、「職場で」(52.0%)、「地域社会の中で」(47.4%)となっている。

①～⑦の設問項目の内、「平等になっている」の割合が「不平等な点がある」を上回っているのは「③学校(学校教育)の中で」のみ(平等になっている：31.5%、不平等な点がある：19.6%)で、それ以外の項目では「不平等な点がある」が上回っている。中でも「⑦社会通念や慣習、しきたりの中で」の数値差(平等になっている：4.9%、不平等な点がある：72.5%)が大きい。

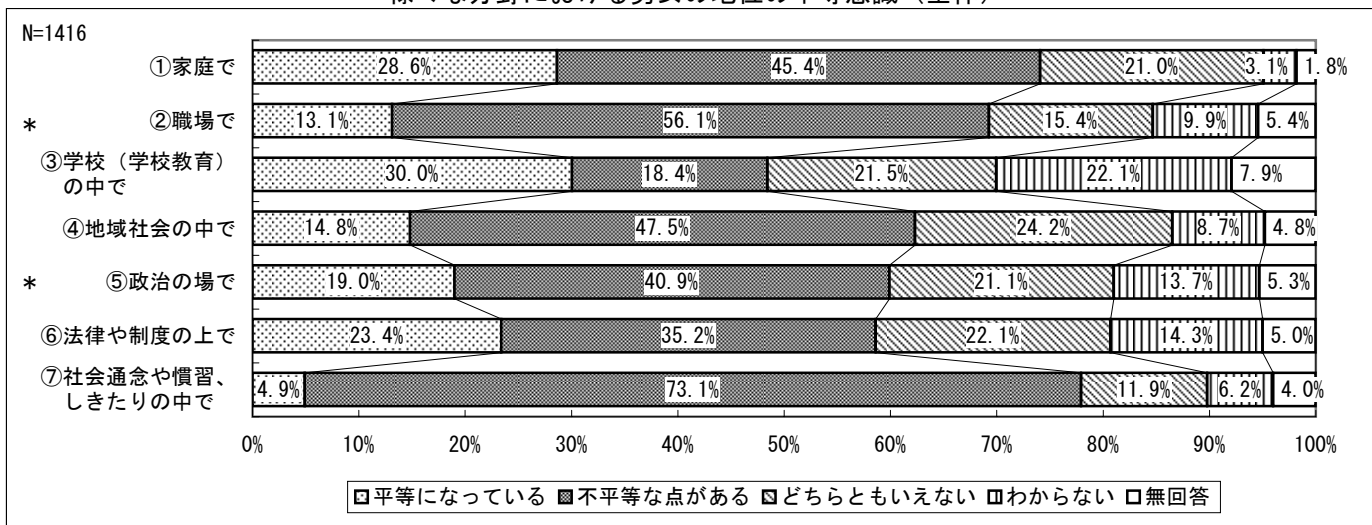
前回調査と比較すると、「②職場で」と「⑤政治の場で」において有意差がみられ、「②職場で」は「平等になっている」と「どちらともいえない」の割合が、「⑤政治の場で」は「不平等な点がある」と「どちらともいえない」の割合が前回より増加している。

様々な分野における男女の地位の平等意識（全体）



【前回調査】

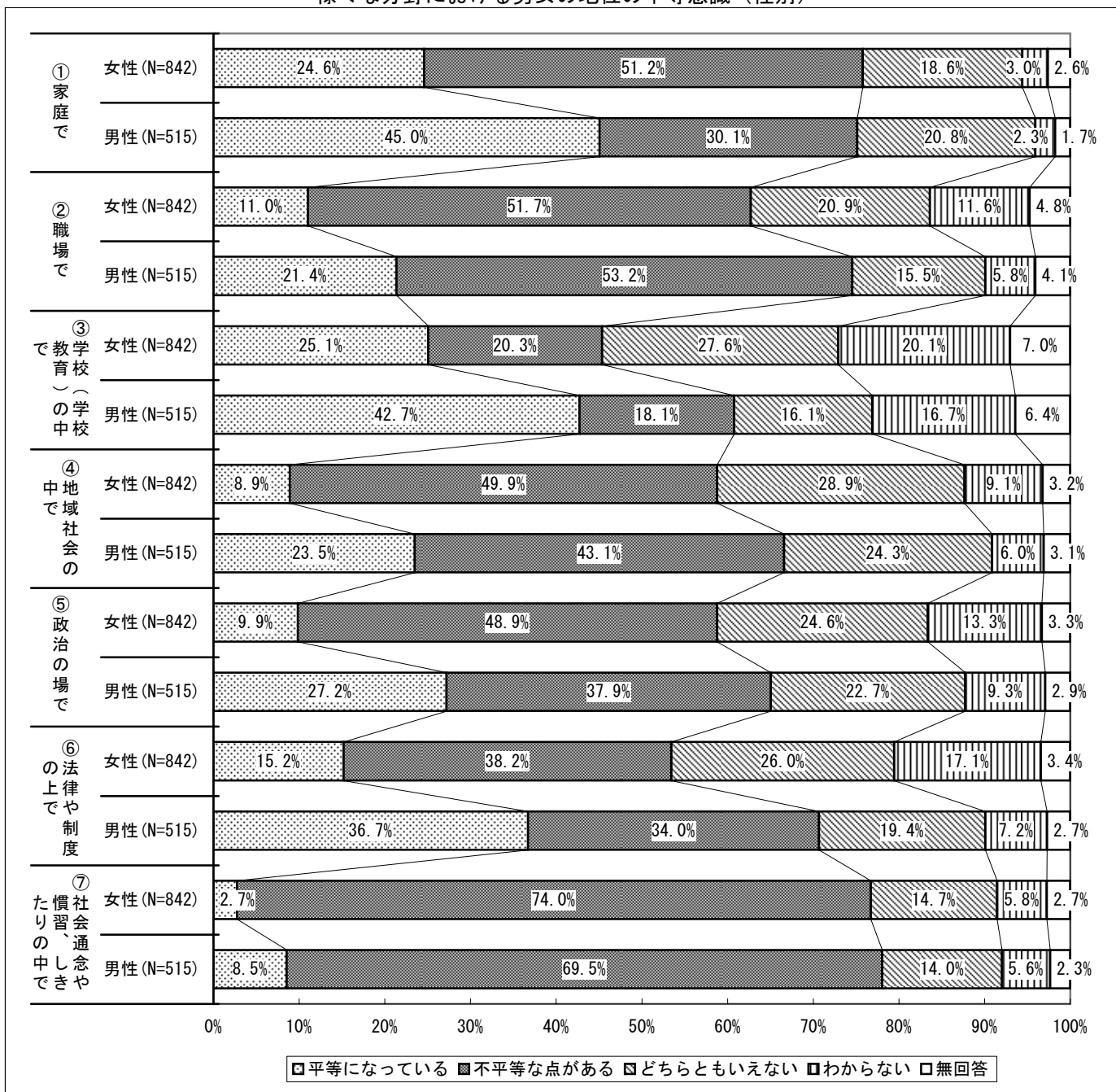
様々な分野における男女の地位の平等意識（全体）



*: 今回調査と有意差あり

性別にみると、男性はすべての項目において「平等になっている」と考える割合が女性より高く、特に「①家庭で」は、「不平等な点がある」と考える割合も大きく異なることから、男女間に意識の差があると考えられる。

様々な分野における男女の地位の平等意識（性別）



様々な分野における男女の地位の平等意識（性・年代別）

	サンプル数	①家庭で					②職場で				
		平等 になっている	不平等 な点がある	どちら ともいえない	わから ない	無回 答	平等 になっている	不平等 な点がある	どちら ともいえない	わから ない	無回 答
全体	100.0	32.4	43.1	19.5	2.7	2.3	15.0	52.0	18.7	9.7	4.5
	1395	452	601	272	38	32	209	726	261	136	63
男性計	100.0	45.0	30.1	20.8	2.3	1.7	21.4	53.2	15.5	5.8	4.1
	515	232	155	107	12	9	110	274	80	30	21
20代	100.0	39.3	16.1	42.9	1.8	0.0	17.9	53.6	17.9	8.9	1.8
	56	22	9	24	1	0	10	30	10	5	1
30代	100.0	28.4	45.9	23.0	2.7	0.0	13.5	68.9	16.2	1.4	0.0
	74	21	34	17	2	0	10	51	12	1	0
40代	100.0	50.0	34.8	13.6	1.5	0.0	24.2	56.1	18.2	1.5	0.0
	66	33	23	9	1	0	16	37	12	1	0
50代	100.0	51.0	28.0	16.0	2.0	3.0	30.0	50.0	15.0	3.0	2.0
	100	51	28	16	2	3	30	50	15	3	2
60代	100.0	46.2	31.8	14.4	3.8	3.8	22.0	50.8	15.9	6.1	5.3
	132	61	42	19	5	5	29	67	21	8	7
70歳以上	100.0	50.6	21.8	25.3	1.1	1.1	17.2	44.8	11.5	13.8	12.6
	87	44	19	22	1	1	15	39	10	12	11
女性計	100.0	24.6	51.2	18.6	3.0	2.6	11.0	51.7	20.9	11.6	4.8
	842	207	431	157	25	22	93	435	176	98	40
20代	100.0	37.2	37.2	17.0	7.4	1.1	18.1	50.0	26.6	5.3	0.0
	94	35	35	16	7	1	17	47	25	5	0
30代	100.0	23.7	54.6	19.7	0.7	1.3	10.5	59.9	21.1	7.2	1.3
	152	36	83	30	1	2	16	91	32	11	2
40代	100.0	20.6	58.1	15.0	2.5	3.8	12.5	56.9	20.6	6.3	3.8
	160	33	93	24	4	6	20	91	33	10	6
50代	100.0	27.0	53.4	18.0	0.6	1.1	10.7	56.2	20.8	10.1	2.2
	178	48	95	32	1	2	19	100	37	18	4
60代	100.0	18.2	50.9	23.6	4.2	3.0	7.9	50.3	15.8	20.0	6.1
	165	30	84	39	7	5	13	83	26	33	10
70歳以上	100.0	26.7	44.4	17.8	5.6	5.6	8.9	24.4	25.6	23.3	17.8
	90	24	40	16	5	5	8	22	23	21	16

	サンプル数	③学校(学校教育)の中で					④地域社会の中で				
		平等 になっている	不平等 な点がある	どちら ともいえない	わから ない	無回 答	平等 になっている	不平等 な点がある	どちら ともいえない	わから ない	無回 答
全体	100.0	31.5	19.6	22.8	19.1	7.0	14.3	47.4	27.1	8.0	3.2
	1395	440	273	318	266	98	199	661	378	112	45
男性計	100.0	42.7	18.1	16.1	16.7	6.4	23.5	43.1	24.3	6.0	3.1
	515	220	93	83	86	33	121	222	125	31	16
20代	100.0	39.3	23.2	23.2	12.5	1.8	16.1	42.9	33.9	7.1	0.0
	56	22	13	13	7	1	9	24	19	4	0
30代	100.0	35.1	23.0	18.9	23.0	0.0	14.9	43.2	25.7	14.9	1.4
	74	26	17	14	17	0	11	32	19	11	1
40代	100.0	48.5	22.7	19.7	9.1	0.0	28.8	43.9	24.2	3.0	0.0
	66	32	15	13	6	0	19	29	16	2	0
50代	100.0	51.0	16.0	12.0	13.0	8.0	31.0	43.0	19.0	4.0	3.0
	100	51	16	12	13	8	31	43	19	4	3
60代	100.0	39.4	15.2	15.2	22.7	7.6	21.2	46.2	25.8	4.5	2.3
	132	52	20	20	30	10	28	61	34	6	3
70歳以上	100.0	42.5	13.8	12.6	14.9	16.1	26.4	37.9	20.7	4.6	10.3
	87	37	12	11	13	14	23	33	18	4	9
女性計	100.0	25.1	20.3	27.6	20.1	7.0	8.9	49.9	28.9	9.1	3.2
	842	211	171	232	169	59	75	420	243	77	27
20代	100.0	27.7	22.3	34.0	14.9	1.1	10.6	41.5	31.9	14.9	1.1
	94	26	21	32	14	1	10	39	30	14	1
30代	100.0	25.7	21.1	27.6	23.0	2.6	11.2	53.3	25.0	9.2	1.3
	152	39	32	42	35	4	17	81	38	14	2
40代	100.0	20.0	27.5	32.5	15.6	4.4	2.5	54.4	31.3	7.5	4.4
	160	32	44	52	25	7	4	87	50	12	7
50代	100.0	29.2	21.3	26.4	16.3	6.7	11.2	60.1	22.5	5.1	1.1
	178	52	38	47	29	12	20	107	40	9	2
60代	100.0	21.2	16.4	24.2	27.9	10.3	7.3	48.5	30.9	9.7	3.6
	165	35	27	40	46	17	12	80	51	16	6
70歳以上	100.0	30.0	8.9	21.1	22.2	17.8	13.3	28.9	35.6	13.3	8.9
	90	27	8	19	20	16	12	26	32	12	8

	サンプル数	⑤政治の場で					⑥法律や制度の上で				
		平等 になっている	不平等 な点がある	どちら ともいえない	わから ない	無回 答	平等 になっている	不平等 な点がある	どちら ともいえない	わから ない	無回 答
全体	100.0	16.1	44.7	24.1	12.0	3.2	23.3	36.7	23.4	13.3	3.2
	1395	224	623	336	167	45	325	512	327	186	45
男性計	100.0	27.2	37.9	22.7	9.3	2.9	36.7	34.0	19.4	7.2	2.7
	515	140	195	117	48	15	189	175	100	37	14
20代	100.0	8.9	42.9	30.4	16.1	1.8	21.4	41.1	25.0	10.7	1.8
	56	5	24	17	9	1	12	23	14	6	1
30代	100.0	28.4	45.9	14.9	10.8	0.0	24.3	45.9	23.0	6.8	0.0
	74	21	34	11	8	0	18	34	17	5	0
40代	100.0	22.7	54.5	19.7	1.5	1.5	36.4	48.5	13.6	1.5	0.0
	66	15	36	13	1	1	24	32	9	1	0
50代	100.0	33.0	32.0	25.0	8.0	2.0	47.0	31.0	14.0	6.0	2.0
	100	33	32	25	8	2	47	31	14	6	2
60代	100.0	28.8	34.8	23.5	10.6	2.3	35.6	29.5	22.0	9.1	3.8
	132	38	46	31	14	3	47	39	29	12	5
70歳以上	100.0	32.2	26.4	23.0	9.2	9.2	47.1	18.4	19.5	8.0	6.9
	87	28	23	20	8	8	41	16	17	7	6
女性計	100.0	9.9	48.9	24.6	13.3	3.3	15.2	38.2	26.0	17.1	3.4
	842	83	412	207	112	28	128	322	219	144	29
20代	100.0	6.4	50.0	25.5	18.1	0.0	10.6	45.7	24.5	19.1	0.0
	94	6	47	24	17	0	10	43	23	18	0
30代	100.0	6.6	56.6	24.3	11.2	1.3	13.2	35.5	32.9	17.1	1.3
	152	10	86	37	17	2	20	54	50	26	2
40代	100.0	10.0	58.1	19.4	9.4	3.1	15.0	46.9	21.9	13.1	3.1
	160	16	93	31	15	5	24	75	35	21	5
50代	100.0	8.4	51.1	25.3	14.0	1.1	16.3	43.3	26.4	12.4	1.7
	178	15	91	45	25	2	29	77	47	22	3
60代	100.0	11.5	42.4	27.3	15.8	3.0	12.7	30.3	30.3	22.4	4.2
	165	19	70	45	26	5	21	50	50	37	7
70歳以上	100.0	18.9	26.7	27.8	13.3	13.3	26.7	24.4	15.6	22.2	11.1
	90	17	24	25	12	12	24	22	14	20	10

		⑦社会通念や慣習、しきたりの中で					
		サンプル数	平等 になっている	不平等 な点がある	どちら ともいえない	わから ない	無回 答
全体		100.0 1395	4.9 69	72.5 1011	14.1 197	5.8 81	2.7 37
性・ 年代別	男性計	100.0 515	8.5 44	69.5 358	14.0 72	5.6 29	2.3 12
		20代	100.0 56	5.4 3	78.6 44	10.7 6	5.4 3
	30代	100.0 74	5.4 4	77.0 57	13.5 10	4.1 3	0.0 0
		40代	100.0 66	7.6 5	77.3 51	13.6 9	1.5 1
	50代	100.0 100	14.0 14	62.0 62	17.0 17	4.0 4	3.0 3
		60代	100.0 132	5.3 7	67.4 89	15.9 21	9.1 12
	70歳以上	100.0 87	12.6 11	63.2 55	10.3 9	6.9 6	6.9 6
		女性計	100.0 842	2.7 23	74.0 623	14.7 124	5.8 49
	20代	100.0 94	3.2 3	69.1 65	16.0 15	11.7 11	0.0 0
		30代	100.0 152	3.3 5	78.9 120	13.8 21	2.6 4
	40代	100.0 160	1.3 2	81.9 131	11.3 18	2.5 4	3.1 5
		50代	100.0 178	2.2 4	82.0 146	12.4 22	2.2 4
	60代	100.0 165	0.6 1	70.3 116	18.8 31	7.9 13	2.4 4
		70歳以上	100.0 90	7.8 7	48.9 44	18.9 17	14.4 13

(2) 社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識

【問2】 社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。

～『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回る～

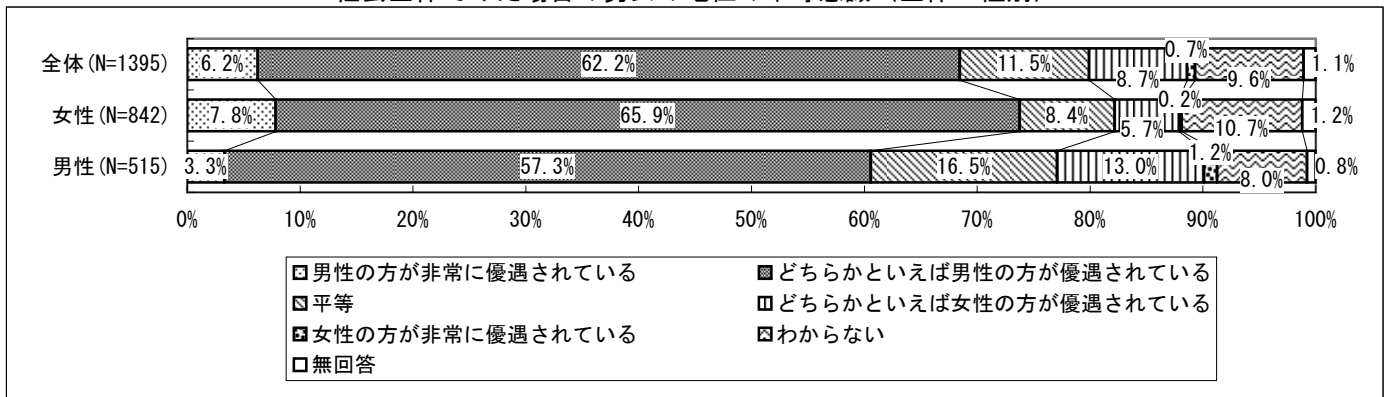
社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識をみると、全体では「男性の方が非常に優遇されている」(6.2%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(62.2%)を合わせた『男性優遇』は68.4%で、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(8.7%)と「女性の方が非常に優遇されている」(0.7%)を合わせた『女性優遇』(9.4%)を59.0ポイント上回っている。

これを性別にみると、『男性優遇』と感じる割合は男性(60.6%)よりも女性(73.7%)が高く、『女性優遇』と感じる割合は女性(5.9%)より男性(14.2%)が高い。また、「平等」と感じる割合は男性(16.5%)の方が女性(8.4%)よりも高くなっている。

前回調査との比較では、有意差はみられない。

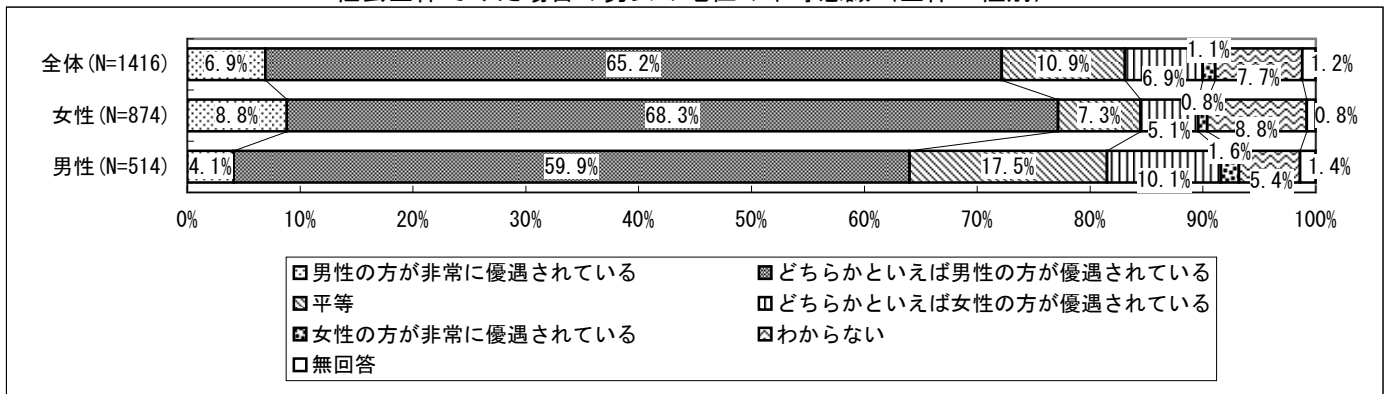
内閣府調査と比較すると「平等」の割合が低く『女性優遇』の割合が高くなっている。

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識 (全体・性別)



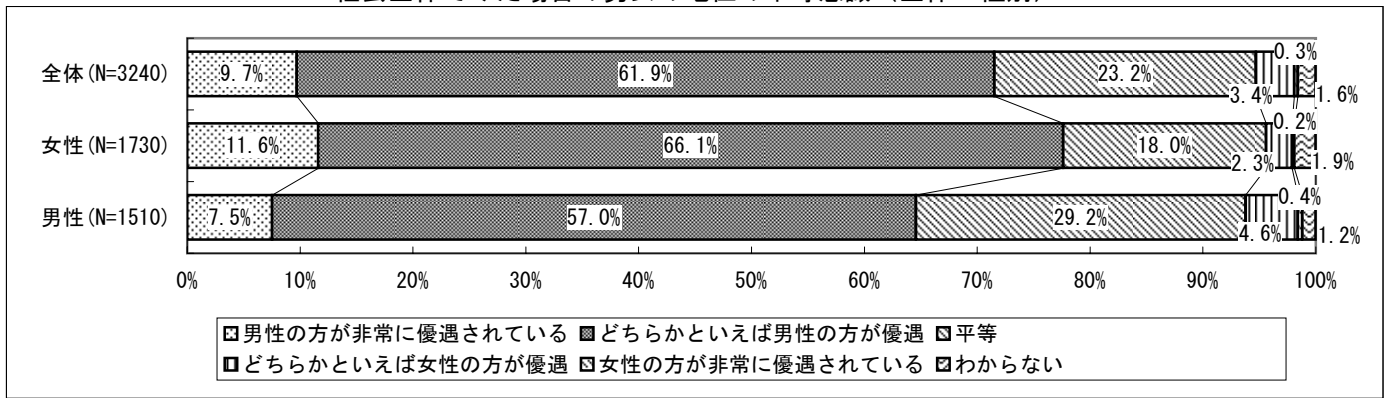
【前回調査】

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識 (全体・性別)



【内閣府調査】

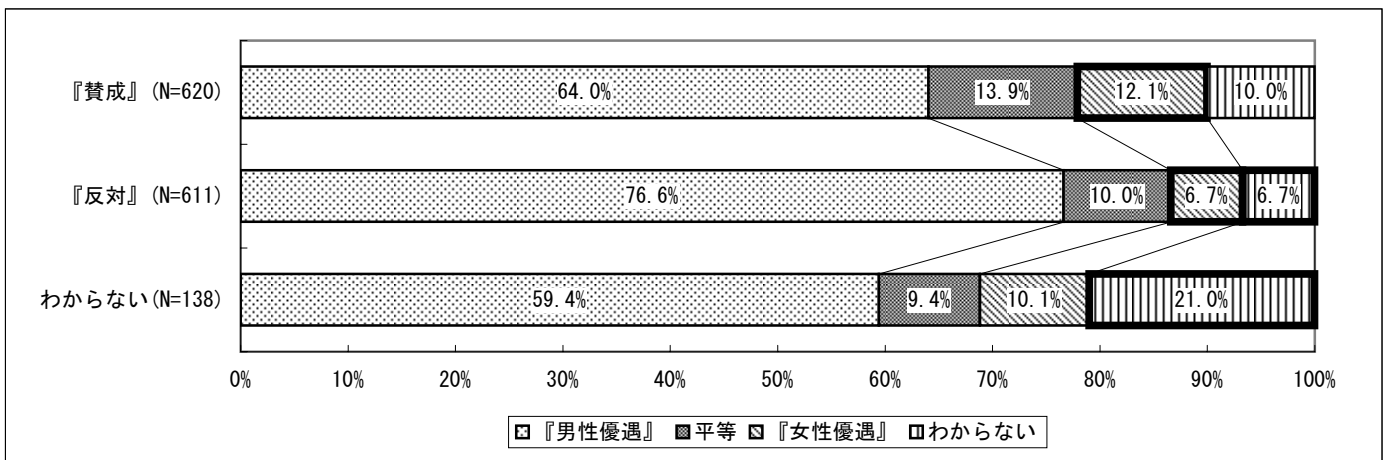
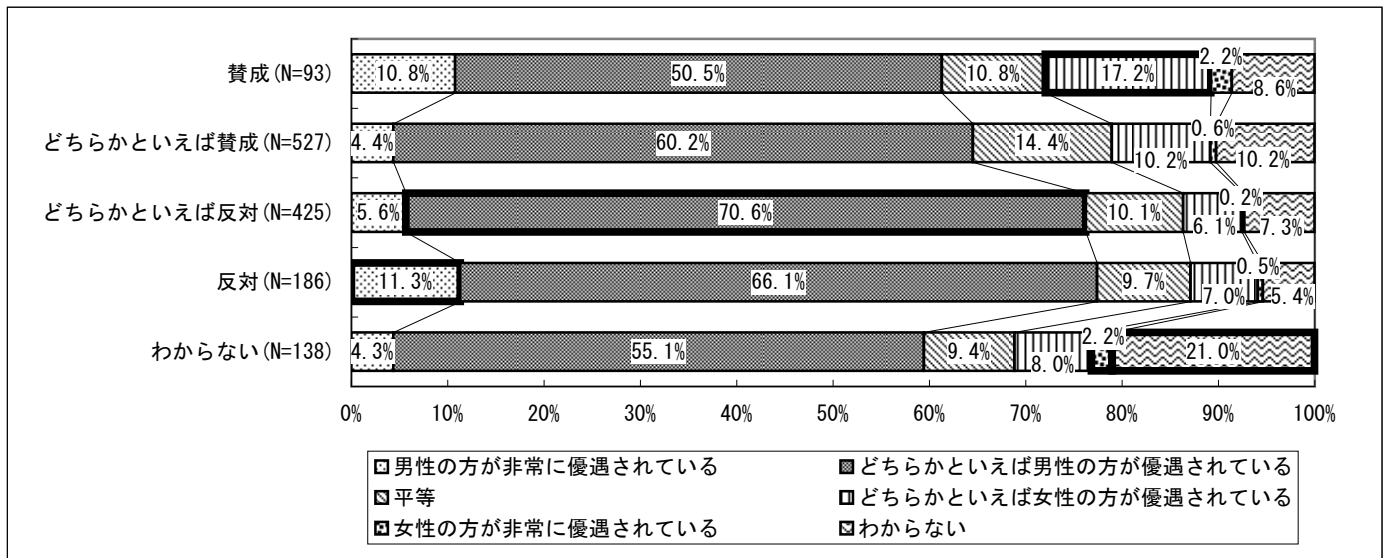
社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識 (全体・性別)



【問5：性別役割分担の考え方】とのクロス分析

性別役割分担の考え方（「男性は仕事、女性は家庭」という考え方）別では、性別役割分担の考え方に『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）の人は『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）の人より『男性優遇』と感じる割合が高く『女性優遇』と感じる割合が低い。

		【問2】						合計
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	
【問5】	賛成	10	47	10	16	2	8	93
	どちらかといえば賛成	23	317	76	54	3	54	527
	どちらかといえば反対	24	300	43	26	1	31	425
	反対	21	123	18	13	1	10	186
	わからない	6	76	13	11	3	29	138
	合計	84	863	160	120	10	132	1,369



※ 95%の確率で有意差が検出された項目の枠を強調 **■** している。

※ 以降本報告書では、性的役割分担の考え方に「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合計したものを『賛成』とし、「反対」、「どちらかといえば反対」を合計したものを『反対』とする。

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識（性・年代別）

		サンプル数	男性の方が非常に優遇されている	どちらの方が優遇されている	平等	どちらの方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		100.0 1395	6.2 87	62.2 868	11.5 160	8.7 121	0.7 10	9.6 134	1.1 15
性・年代別	男性計	100.0 515	3.3 17	57.3 295	16.5 85	13.0 67	1.2 6	8.0 41	0.8 4
	20代	100.0 56	1.8 1	58.9 33	7.1 4	25.0 14	0.0 0	7.1 4	0.0 0
		30代	100.0 74	2.7 2	52.7 39	8.1 6	20.3 15	2.7 2	13.5 10
	40代		100.0 66	4.5 3	45.5 30	22.7 15	15.2 10	3.0 2	7.6 5
		50代	100.0 100	2.0 2	61.0 61	19.0 19	11.0 11	1.0 1	6.0 6
	60代		100.0 132	6.1 8	60.6 80	15.9 21	8.3 11	0.0 0	8.3 11
		70歳以上	100.0 87	1.1 1	59.8 52	23.0 20	6.9 6	1.1 1	5.7 5
	女性計		100.0 842	7.8 66	65.9 555	8.4 71	5.7 48	0.2 2	10.7 90
	20代	100.0 94	7.4 7	57.4 54	6.4 6	6.4 6	0.0 0	21.3 20	1.1 1
		30代	100.0 152	5.9 9	67.8 103	8.6 13	7.2 11	0.0 0	9.9 15
	40代		100.0 160	9.4 15	67.5 108	6.3 10	5.6 9	0.0 0	10.6 17
		50代	100.0 178	9.6 17	67.4 120	9.6 17	5.6 10	0.6 1	5.1 9
	60代		100.0 165	7.3 12	67.3 111	7.9 13	6.1 10	0.6 1	10.3 17
		70歳以上	100.0 90	6.7 6	64.4 58	12.2 11	2.2 2	0.0 0	12.2 11

(3) 男女が平等でない原因

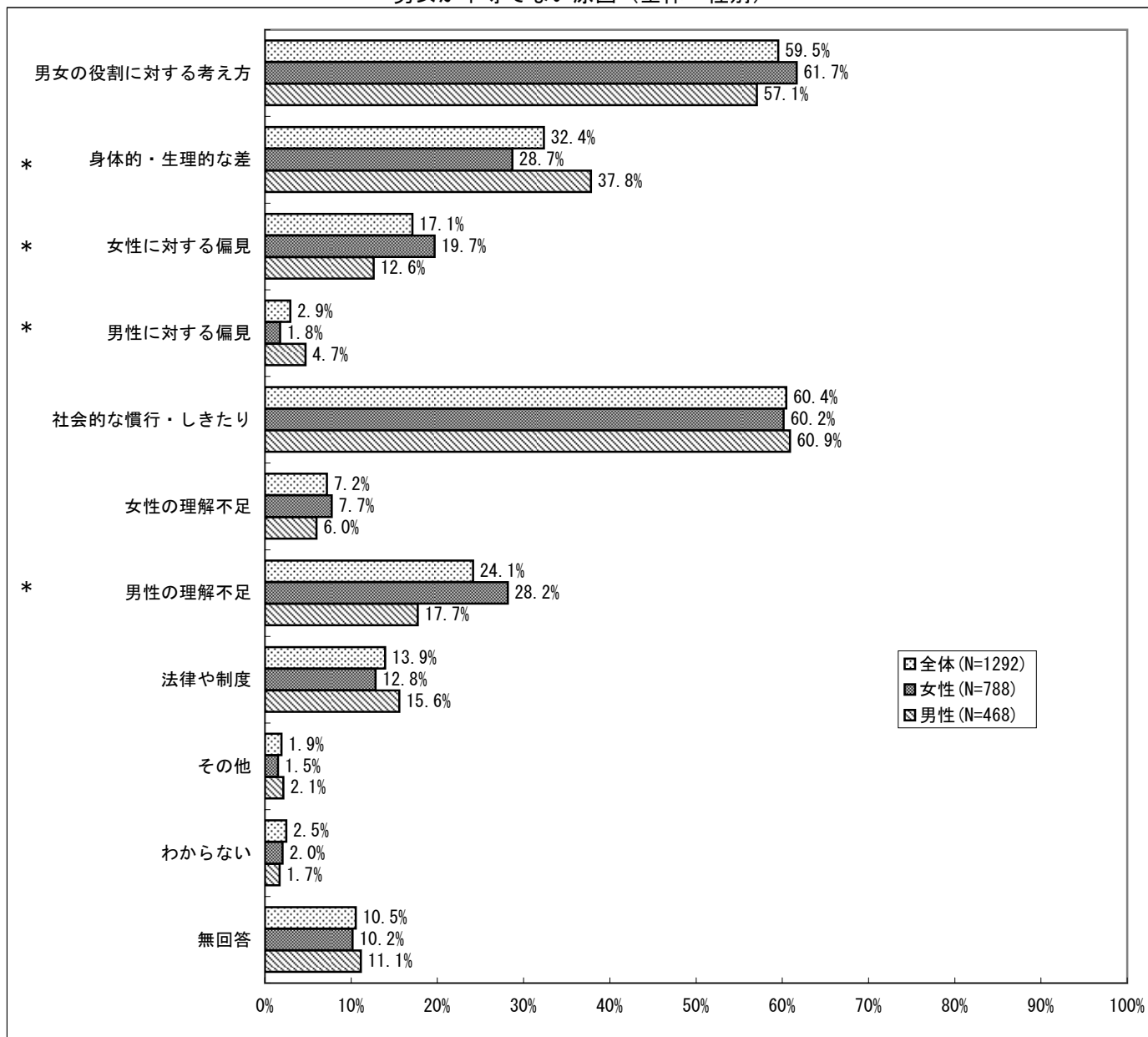
【問3】 問1、問2で不平等だと感じる、どちらかの性が優遇されていると答えた方におたずねします。主な原因はどこにあると思いますか。（複数回答）

～大きな原因は、「社会的な慣行・しきたり」「男女の役割に対する考え方」～

男女が平等でない原因についてみると、全体では「社会的な慣行・しきたり」（60.4%）が最も高く、次いで「男女の役割に対する考え方」（59.5%）となっている。

これを性別にみると、「身体的・生理的な差」（女性：28.7%、男性：37.8%）と「男性に対する偏見」（女性：1.8%、男性：4.7%）において男性の割合が女性より高く、「女性に対する偏見」（女性：19.7%、男性：12.6%）と「男性の理解不足」（女性：28.2%、男性：17.7%）において女性の割合が男性より高くなっている。

男女が平等でない原因（全体・性別）

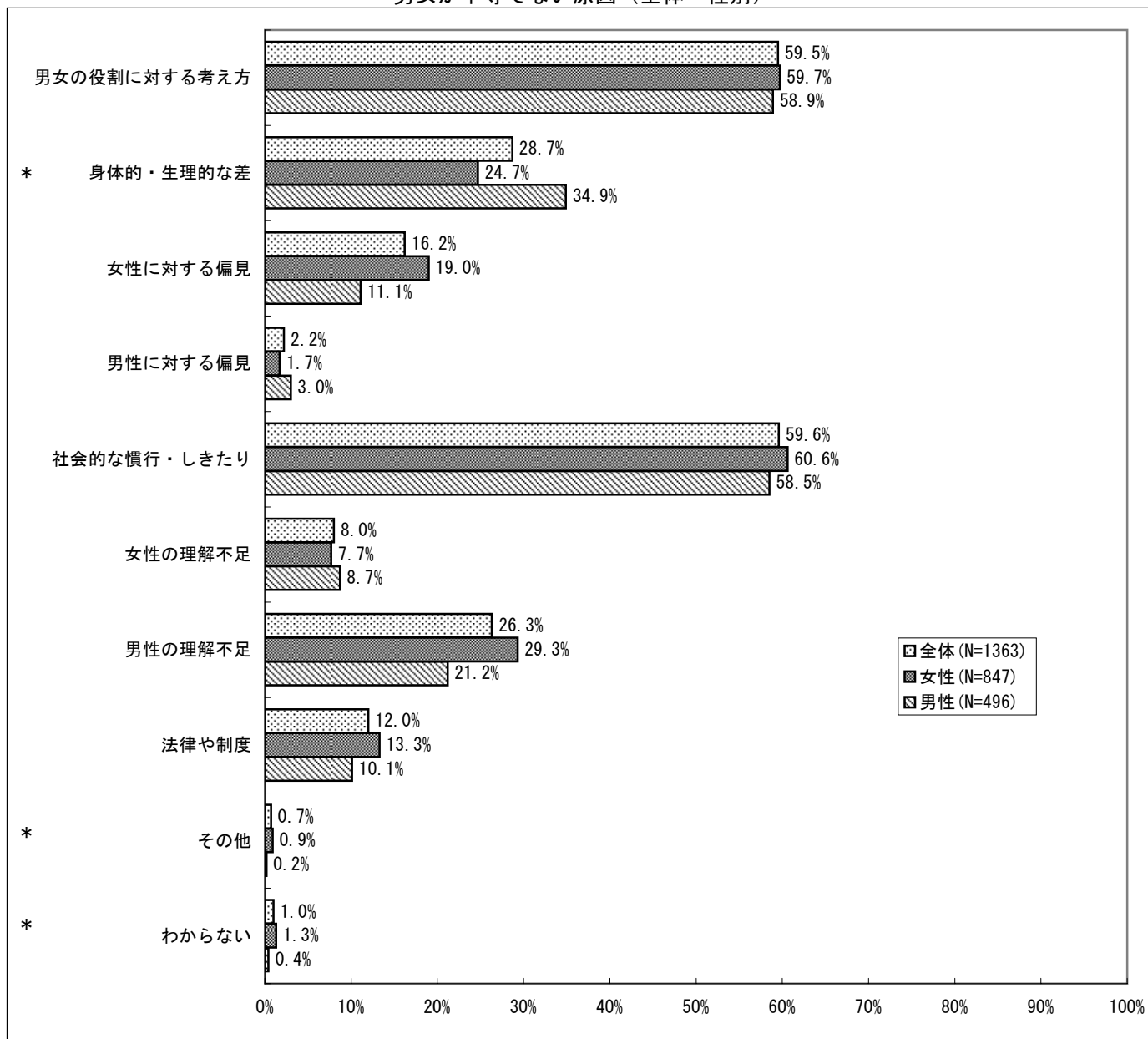


*:性別で有意差あり

【前回調査】

前回調査と比較すると、全体で「身体的・生理的な差」（今回：32.4%、前回：28.7%）の割合が前回より高く、「その他」（今回：1.9%、前回：0.7%）、「わからない」（今回：2.5%、前回：1.0%）の割合が前回より低くなっている。

男女が平等でない原因（全体・性別）



*: 今回調査と有意差あり

性別役割分担の考え方（「男性は仕事、女性は家庭」という考え方）別では、『賛成』※が『反対』※より高い項目は「身体的・生理的な差」（『賛成』：37.6%、『反対』：28.3%）で、逆に『反対』が『賛成』より高い項目は「男女の役割に対する考え方」（『賛成』：57.2%、『反対』：64.3%）と「女性に対する偏見」（『賛成』：13.7%、『反対』：20.1%）となった。

※ 『賛成』『反対』については、18ページの※を参照。

男女が平等でない原因（性・年代、性別役割分担の考え方別）

	サンプル数	え男女の役割に対する考	身体的・生理的な差	女性に対する偏見	男性に対する偏見	り社会的な慣行・しきた	女性の理解不足	男性の理解不足	法律や制度	その他	わからない	無回答	
全体	100.0	56.7	30.8	16.3	2.8	57.6	6.9	23.0	13.3	1.8	2.4	10.0	
	1357	769	418	221	38	781	93	312	180	25	32	136	
性・年代別	男性計	100.0	57.1	37.8	12.6	4.7	60.9	6.0	17.7	15.6	2.1	1.7	11.1
		468	267	177	59	22	285	28	83	73	10	8	52
	20代	100.0	68.8	37.5	6.3	6.3	64.6	4.2	18.8	18.8	0.0	0.0	10.4
		48	33	18	3	3	31	2	9	9	0	0	5
	30代	100.0	67.6	42.3	7.0	5.6	53.5	11.3	11.3	19.7	4.2	2.8	7.0
		71	48	30	5	4	38	8	8	14	3	2	5
	40代	100.0	56.1	40.9	12.1	4.5	69.7	6.1	19.7	16.7	0.0	0.0	9.1
		66	37	27	8	3	46	4	13	11	0	0	6
	50代	100.0	58.3	35.4	14.6	5.2	65.6	2.1	19.8	12.5	0.0	1.0	9.4
		96	56	34	14	5	63	2	19	12	0	1	9
	60代	100.0	48.3	34.7	15.3	5.1	55.1	9.3	20.3	16.1	5.1	3.4	14.4
		118	57	41	18	6	65	11	24	19	6	4	17
	70歳以上	100.0	50.8	40.7	15.3	1.7	64.4	1.7	15.3	11.9	0.0	0.0	15.3
		59	30	24	9	1	38	1	9	7	0	0	9
	女性計	100.0	61.7	28.7	19.7	1.8	60.2	7.7	28.2	12.8	1.5	2.0	10.2
		788	486	226	155	14	474	61	222	101	12	16	80
	20代	100.0	59.1	36.4	21.6	3.4	52.3	3.4	22.7	11.4	3.4	1.1	13.6
		88	52	32	19	3	46	3	20	10	3	1	12
	30代	100.0	59.3	26.7	20.7	2.2	56.3	5.9	23.0	12.6	2.2	2.2	11.9
		135	80	36	28	3	76	8	31	17	3	3	16
40代	100.0	65.9	27.5	16.7	1.4	55.1	9.4	29.7	15.9	1.4	1.4	10.1	
	138	91	38	23	2	76	13	41	22	2	2	14	
50代	100.0	66.3	36.2	14.1	0.6	64.4	8.0	26.4	14.7	1.2	1.8	9.2	
	163	108	59	23	1	105	13	43	24	2	3	15	
60代	100.0	56.8	26.5	25.2	2.6	63.2	9.7	34.8	10.3	0.6	1.9	9.0	
	155	88	41	39	4	98	15	54	16	1	3	14	
70歳以上	100.0	62.6	20.2	22.2	0.0	68.7	9.1	32.3	11.1	1.0	4.0	6.1	
	99	62	20	22	0	68	9	32	11	1	4	6	
性別役割分担の考え方	賛成	100.0	57.2	37.6	13.7	2.4	57.6	6.6	17.2	12.7	3.0	2.6	11.7
		575	329	216	79	14	331	38	99	73	17	15	67
	反対	100.0	64.3	28.3	20.1	2.7	63.7	7.8	31.1	15.4	0.9	1.2	8.0
		586	377	166	118	16	373	46	182	90	5	7	47
わからない	100.0	47.5	25.8	19.2	5.8	58.3	6.7	22.5	12.5	2.5	3.3	15.8	
	120	57	31	23	7	70	8	27	15	3	4	19	

(4) 男女が平等になるために重要なこと

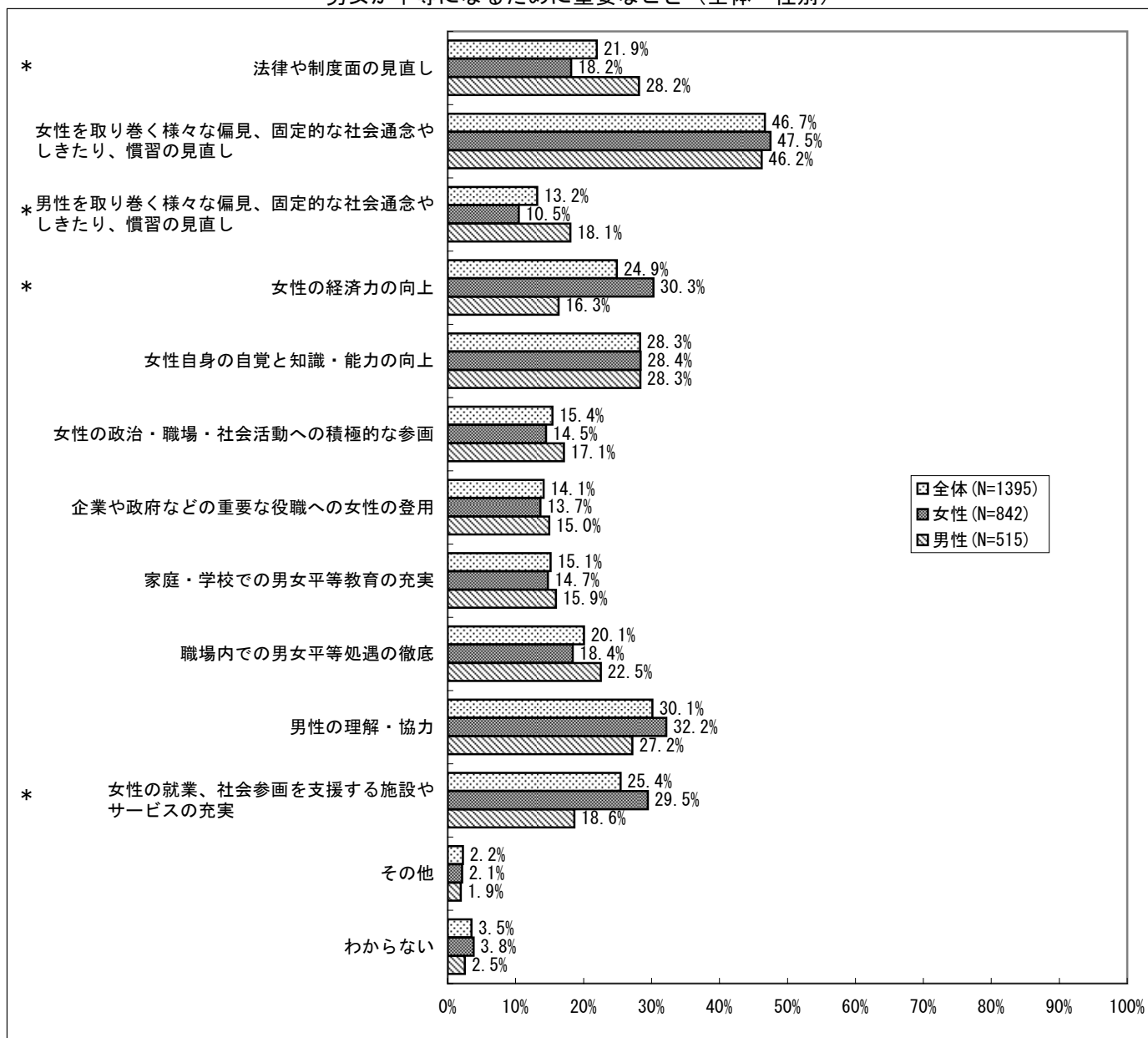
【問4】 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが重要であると思いますか。（複数回答）

～女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直しが必要～

男女が平等になるために重要なことについてみると、全体では「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」が46.7%で最も高く、次いで「男性の理解・協力」(30.1%)、「女性自身の自覚と知識・能力の向上」(28.3%)となっている。

これを性別にみると、「女性の経済力の向上」(女性：30.3%、男性：16.3%)と「女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実」(女性：29.5%、男性：18.6%)において女性が男性より高く、「法律や制度面の見直し」(女性：18.2%、男性：28.2%)と「男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」(女性：10.5%、男性：18.1%)において男性が女性より高くなっている。

男女が平等になるために重要なこと（全体・性別）



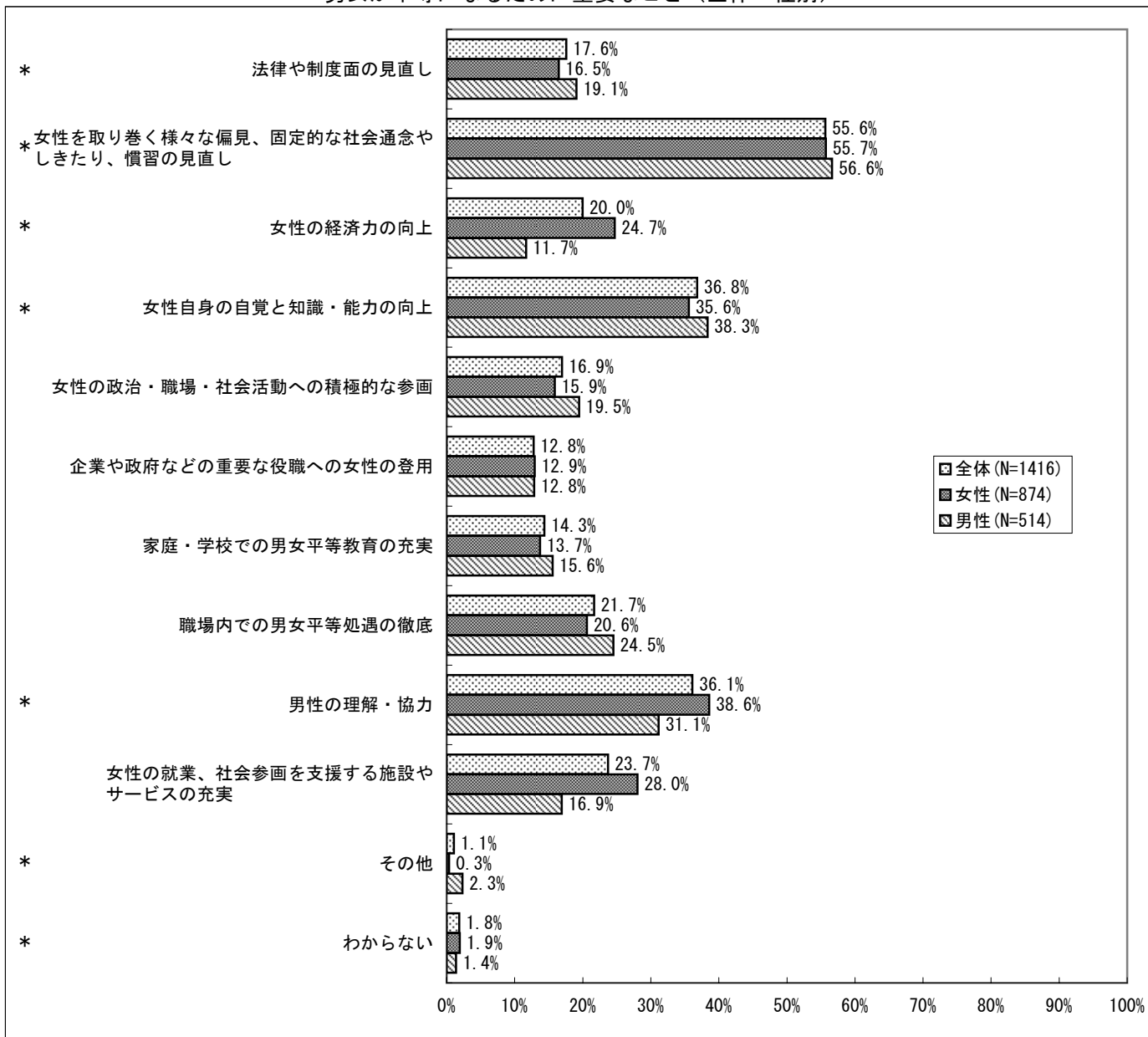
*:性別で有意差あり

性・年代別に見ると、男性は「男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」において年齢が上がるにつれて割合が低くなり、女性は「女性自身の自覚と知識・能力の向上」において年齢が上がるにつれて割合が高くなり、「職場内での男女平等処遇の徹底」において年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。

【前回調査】

前回調査と比較すると、「法律や制度面の見直し」（今回：21.9%、前回：17.6%）と「女性の経済力の向上」（今回：24.9%、前回：20.0%）において割合が増加し、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」（今回：46.7%、前回：55.6%）、「女性自身の自覚と知識・能力の向上」（今回：28.3%、前回：36.8%）及び「男性の理解・協力」（今回：30.1%、前回：36.1%）において割合が減少している。

男女が平等になるために重要なこと（全体・性別）



*: 今回調査と有意差あり

男女が平等になるために重要なこと（性・年代別）

		サンプル数	法律や制度面の見直し	固定的な社会通念やきたり、慣習の見直し	女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やきたり、慣習の見直し	女性の経済力の向上	女性の自身の自覚と知識・能力の向上	女性の積極的な参画	企業や政府などの重要な役職への女性の登用	家庭・学校での男女平等教育の充実	職場内での男女平等処遇の徹底	男性の理解・協力	女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実	その他	わからない	無回答
全体		100.0	21.9	46.7	13.2	24.9	28.3	15.4	14.1	15.1	20.1	30.1	25.4	2.2	3.5	1.5
		1395	306	651	184	347	395	215	197	211	280	420	355	31	49	21
性・年代別	男性計	100.0	28.2	46.2	18.1	16.3	28.3	17.1	15.0	15.9	22.5	27.2	18.6	1.9	2.5	1.6
		515	145	238	93	84	146	88	77	82	116	140	96	10	13	8
	20代	100.0	23.2	46.4	33.9	14.3	19.6	12.5	17.9	19.6	26.8	33.9	16.1	1.8	3.6	0.0
		56	13	26	19	8	11	7	10	11	15	19	9	1	2	0
	30代	100.0	28.4	55.4	27.0	10.8	18.9	13.5	13.5	16.2	20.3	29.7	14.9	5.4	1.4	1.4
		74	21	41	20	8	14	10	10	12	15	22	11	4	1	1
	40代	100.0	40.9	39.4	16.7	25.8	30.3	10.6	13.6	15.2	22.7	22.7	18.2	0.0	1.5	0.0
		66	27	26	11	17	20	7	9	10	15	15	12	0	1	0
	50代	100.0	26.0	54.0	17.0	9.0	26.0	20.0	16.0	16.0	21.0	23.0	20.0	3.0	3.0	3.0
		100	26	54	17	9	26	20	16	16	21	23	20	3	3	3
	60代	100.0	28.8	45.5	12.1	18.9	31.1	18.2	11.4	13.6	23.5	27.3	22.7	1.5	1.5	1.5
		132	38	60	16	25	41	24	15	18	31	36	30	2	2	2
	70歳以上	100.0	23.0	35.6	11.5	19.5	39.1	23.0	19.5	17.2	21.8	28.7	16.1	0.0	4.6	2.3
		87	20	31	10	17	34	20	17	15	19	25	14	0	4	2
	女性計	100.0	18.2	47.5	10.5	30.3	28.4	14.5	13.7	14.7	18.4	32.2	29.5	2.1	3.8	1.4
		842	153	400	88	255	239	122	115	124	155	271	248	18	32	12
	20代	100.0	16.0	51.1	12.8	25.5	19.1	19.1	19.1	12.8	23.4	28.7	31.9	2.1	2.1	0.0
		94	15	48	12	24	18	18	18	12	22	27	30	2	2	0
	30代	100.0	21.1	53.3	11.8	27.0	20.4	12.5	8.6	15.1	23.0	36.8	32.2	2.0	3.3	0.0
		152	32	81	18	41	31	19	13	23	35	56	49	3	5	0
40代	100.0	19.4	52.5	8.1	35.6	22.5	8.8	17.5	13.8	15.6	29.4	35.6	3.1	3.1	1.9	
	160	31	84	13	57	36	14	28	22	25	47	57	5	5	3	
50代	100.0	20.8	47.2	12.4	29.2	32.0	15.2	12.9	14.0	17.4	32.0	27.0	2.2	3.9	1.7	
	178	37	84	22	52	57	27	23	25	31	57	48	4	7	3	
60代	100.0	15.2	44.8	13.3	29.7	34.5	18.8	12.7	15.8	17.0	27.9	31.5	1.8	3.0	1.8	
	165	25	74	22	49	57	31	21	26	28	46	52	3	5	3	
70歳以上	100.0	14.4	32.2	1.1	35.6	43.3	14.4	13.3	17.8	14.4	40.0	13.3	1.1	7.8	3.3	
	90	13	29	1	32	39	13	12	16	13	36	12	1	7	3	

3 家庭生活について

(1) 性別役割分担に対する考え方

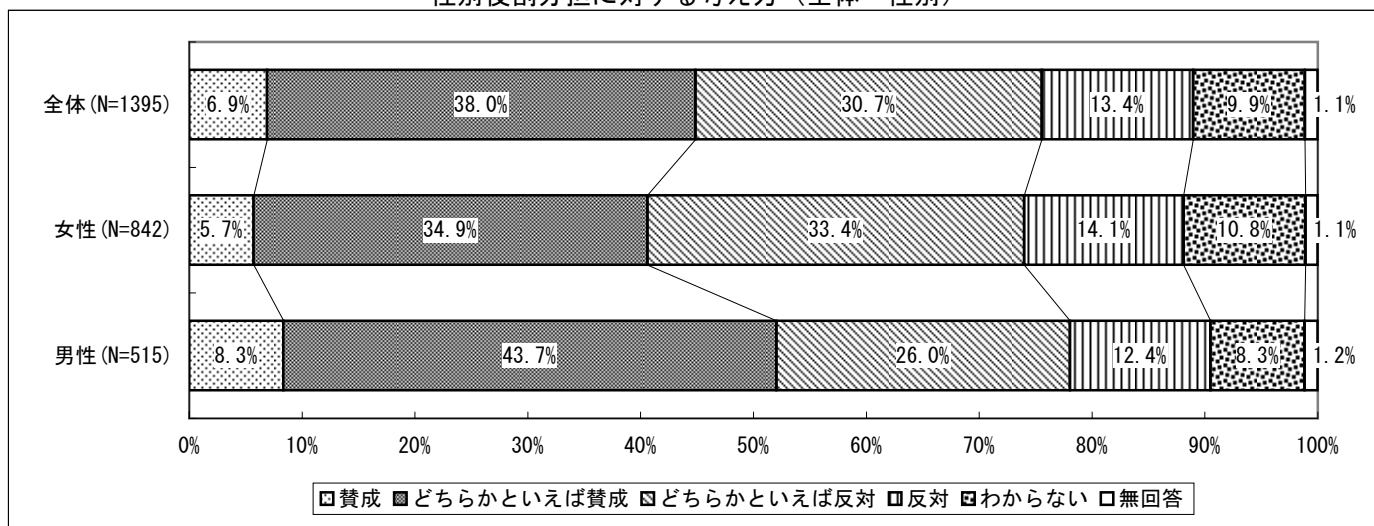
【問5】 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか。

～女性は4割、男性は5割が賛成～

性別役割分担に対する考え方についてみると、全体では「賛成」（6.9%）と「どちらかといえば賛成」（38.0%）をあわせた『賛成』が44.9%、「どちらかといえば反対」（30.7%）と「反対」（13.4%）をあわせた『反対』が44.1%となっている。

これを性別にみると、男性は『賛成』の割合が高く、女性は『反対』の割合が高くなっている。

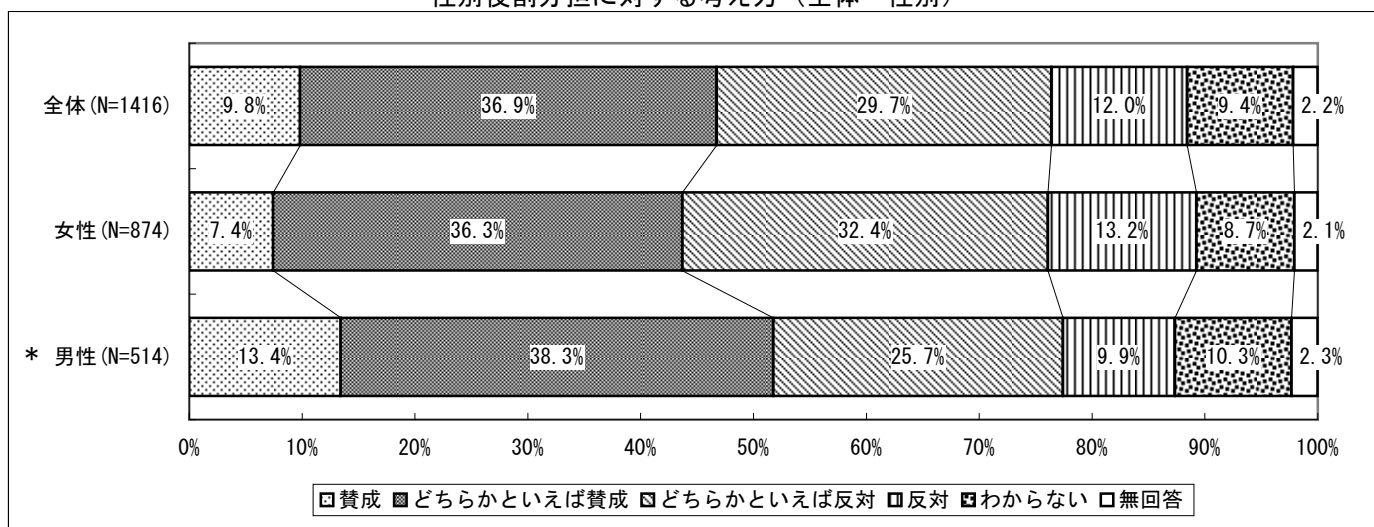
性別役割分担に対する考え方（全体・性別）



【前回調査】

前回調査と比較すると、男性の「賛成」（今回：8.3%、前回：13.4%）と「わからない」（今回：8.3%、前回：10.3%）が減少し、「どちらかといえば賛成」（今回：43.7%、前回：38.3%）と「反対」（今回：12.4%、前回：9.9%）が増加している。全体と女性に有意差はみられない。

性別役割分担に対する考え方（全体・性別）

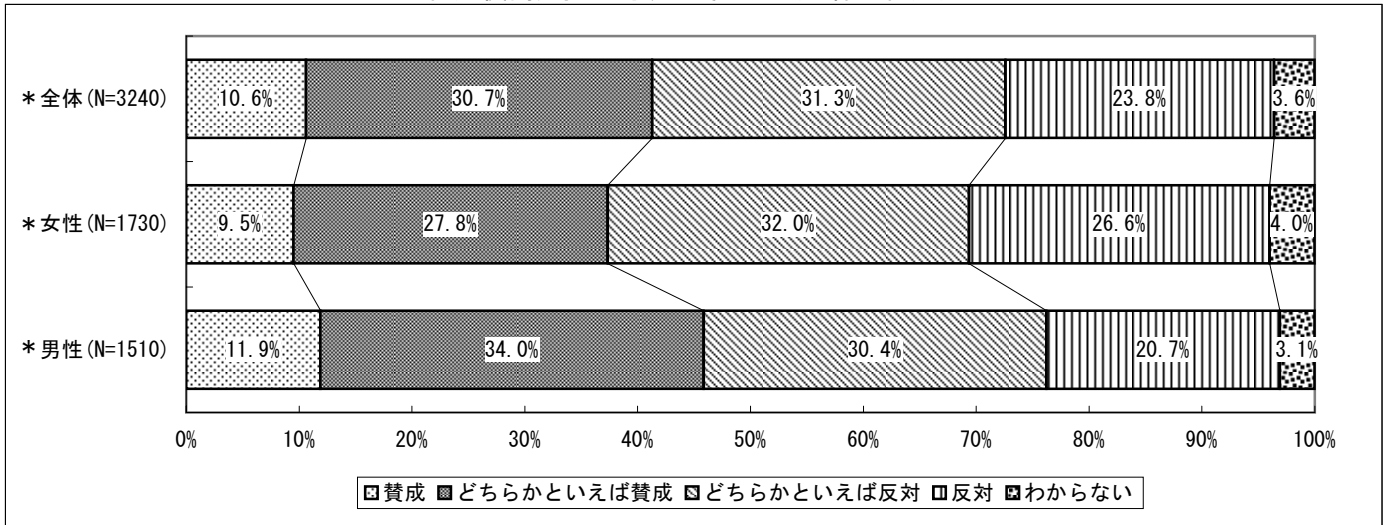


*: 今回調査と有意差あり

【内閣府調査】

内閣府調査と比較すると、全体では「賛成」（鹿児島市：6.9%、内閣府：10.6%）と「反対」（鹿児島市：13.4%、内閣府：23.8%）の割合は内閣府調査より低く、「どちらかといえば賛成」（鹿児島市：38.0%、内閣府：30.7%）と「わからない」（鹿児島市：9.9%、内閣府：3.6%）の割合は内閣府調査より高くなっている。

性別役割分担に対する考え方（全体・性別）



*: 鹿児島市調査と有意差あり

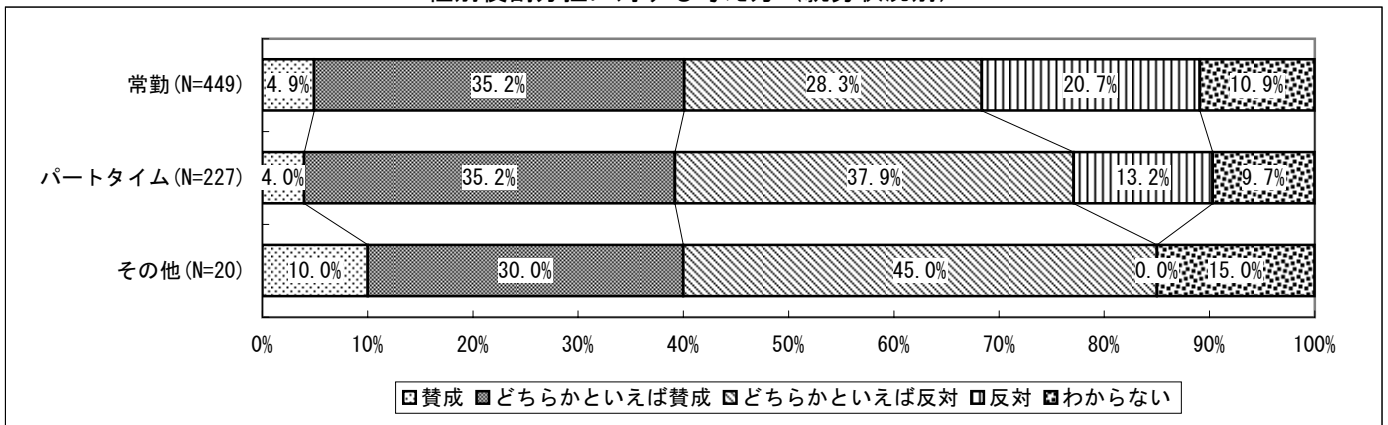
【F4：就労状況】とのクロス分析

就労状況別にみると、「常勤（フルタイム）」は「パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）」と比べ「反対」（常勤：20.7%、パートタイム：13.2%）の割合が高く、「どちらかといえば反対」（常勤：28.3%、パートタイム：37.9%）の割合が低くなっている。

性別役割分担に対する考え方（就労状況別）

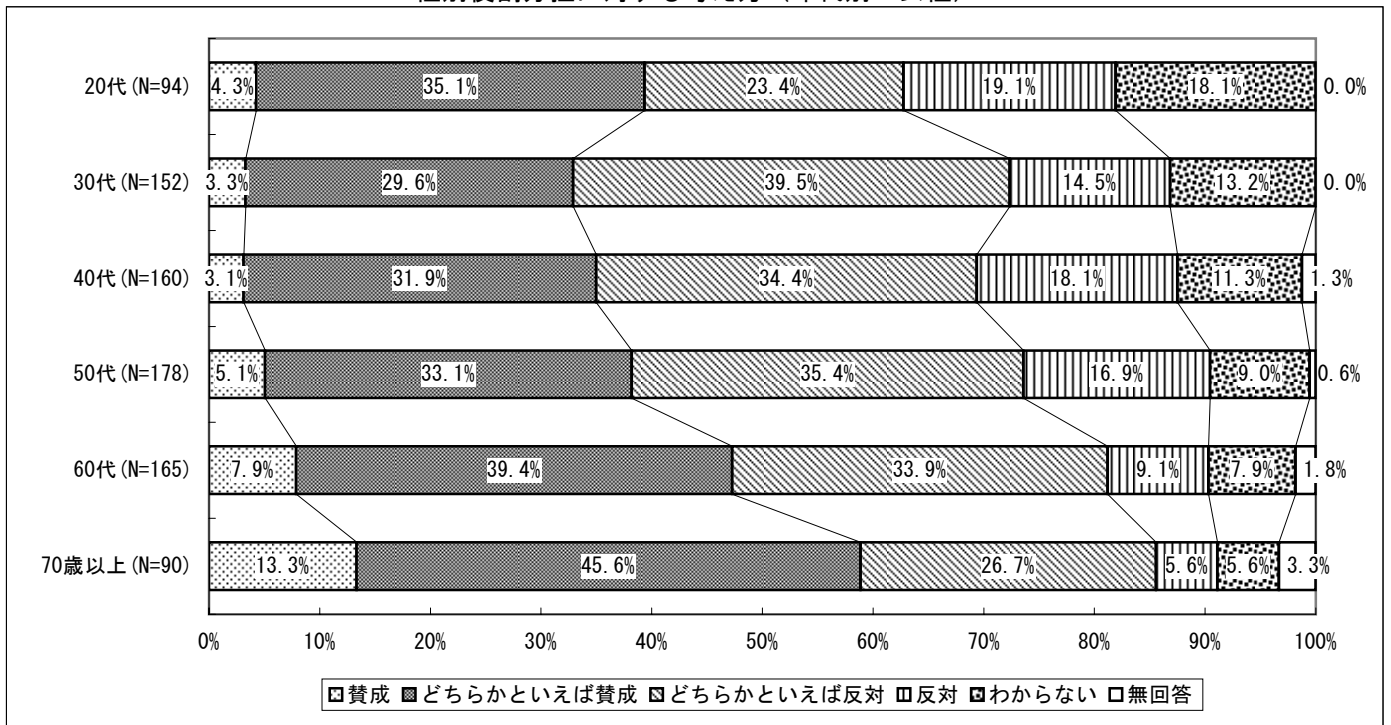
		【問5】					
		賛成	い ど ち ら か い え ば 賛 成 と	い ど ち ら か い え ば 反 対 と	反 対	わ か ら な い	合 計
【 F 4 】	常勤	22	158	127	93	49	449
	パートタイム	9	80	86	30	22	227
	その他	2	6	9	0	3	20
	合計	33	244	222	123	74	696

性別役割分担に対する考え方（就労状況別）

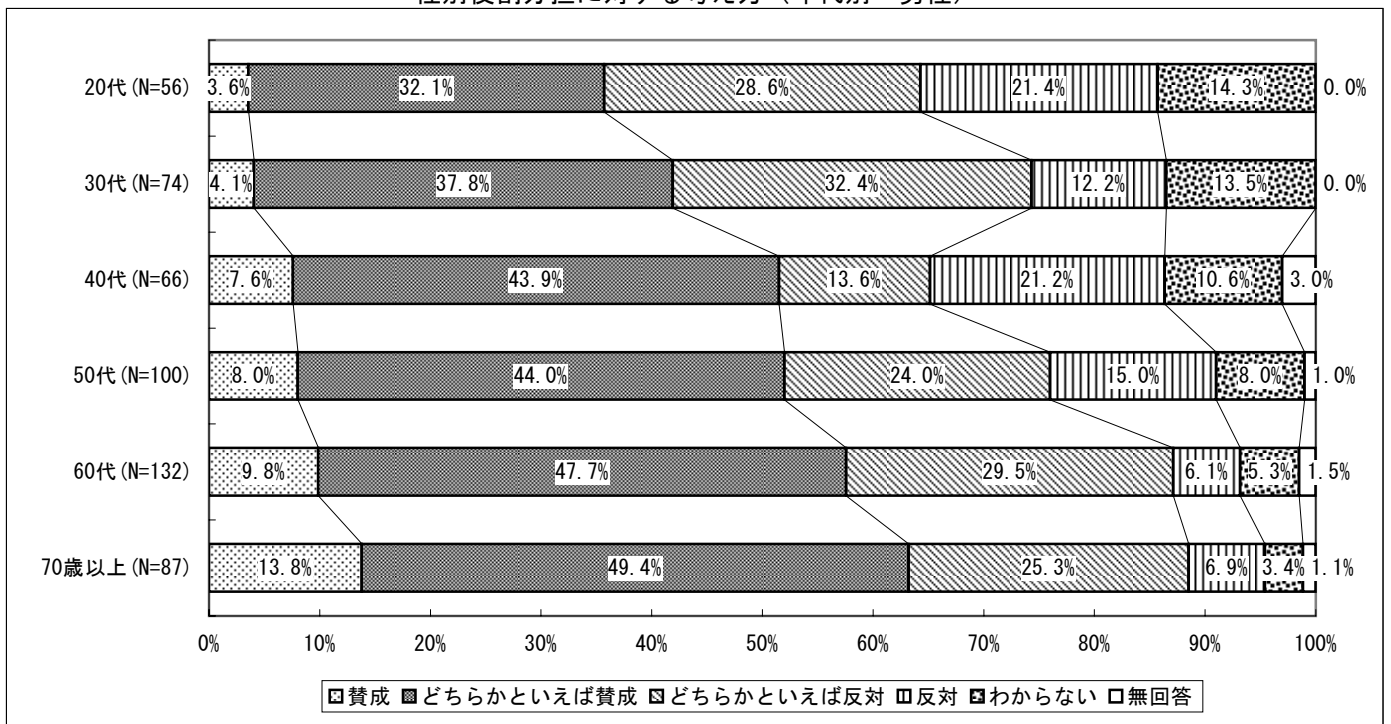


性・年代別にみると、年代が上がるにつれて『賛成』の割合が高くなる傾向が見られ、男性は40代以上、女性は60代以上で『賛成』が『反対』を上回っている。

性別役割分担に対する考え方（年代別・女性）



性別役割分担に対する考え方（年代別・男性）



性別役割分担に対する考え方（性・年代別）

		賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答	
全体	サンプル数	100.0	6.9	38.0	30.7	13.4	9.9	1.1
		1395	96	530	428	187	138	16
性・年代別	男性計	100.0	8.3	43.7	26.0	12.4	8.3	1.2
		515	43	225	134	64	43	6
	20代	100.0	3.6	32.1	28.6	21.4	14.3	0.0
		56	2	18	16	12	8	0
	30代	100.0	4.1	37.8	32.4	12.2	13.5	0.0
		74	3	28	24	9	10	0
	40代	100.0	7.6	43.9	13.6	21.2	10.6	3.0
		66	5	29	9	14	7	2
	50代	100.0	8.0	44.0	24.0	15.0	8.0	1.0
		100	8	44	24	15	8	1
	60代	100.0	9.8	47.7	29.5	6.1	5.3	1.5
		132	13	63	39	8	7	2
	70歳以上	100.0	13.8	49.4	25.3	6.9	3.4	1.1
		87	12	43	22	6	3	1
	女性計	100.0	5.7	34.9	33.4	14.1	10.8	1.1
		842	48	294	281	119	91	9
	20代	100.0	4.3	35.1	23.4	19.1	18.1	0.0
		94	4	33	22	18	17	0
	30代	100.0	3.3	29.6	39.5	14.5	13.2	0.0
		152	5	45	60	22	20	0
40代	100.0	3.1	31.9	34.4	18.1	11.3	1.3	
	160	5	51	55	29	18	2	
50代	100.0	5.1	33.1	35.4	16.9	9.0	0.6	
	178	9	59	63	30	16	1	
60代	100.0	7.9	39.4	33.9	9.1	7.9	1.8	
	165	13	65	56	15	13	3	
70歳以上	100.0	13.3	45.6	26.7	5.6	5.6	3.3	
	90	12	41	24	5	5	3	

(2) 性別役割分担に対する考え方に賛成する理由

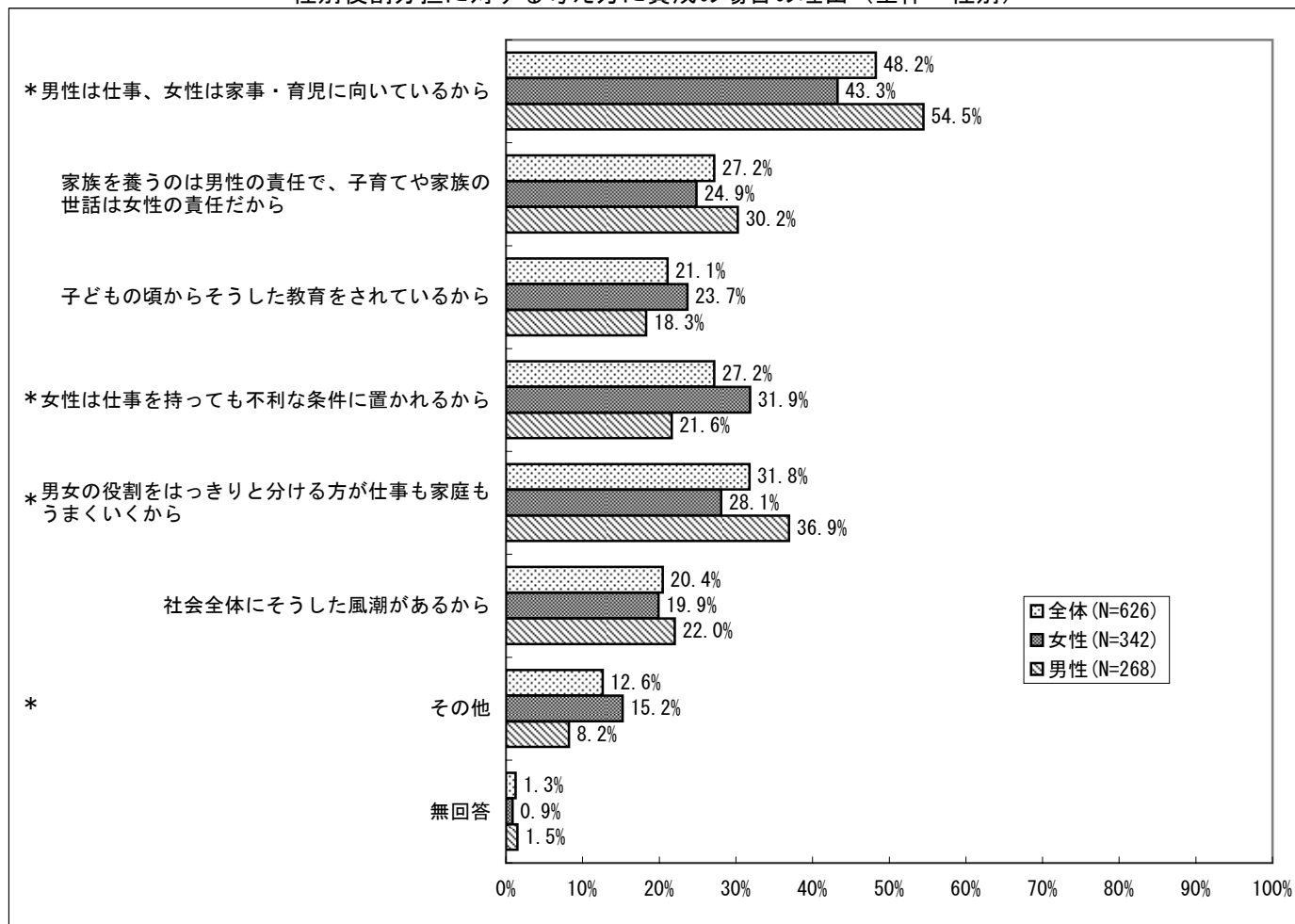
【問6】 問5で「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。
その理由は何ですか。（複数回答）

～5割の人が男性は仕事、女性は家事・育児に向いているからと回答～

性別役割分担に賛成の場合の理由をみると、全体では「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」の割合が48.2%で最も高く、次いで「男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」が31.8%となっている。

これを性別にみると、「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」（女性：43.3%、男性：54.5%）と「男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」（女性：28.1%、男性：36.9%）では男性の割合が女性よりも高く、「女性は仕事をもっても不利な条件に置かれるから」（女性：31.9%、男性：21.6%）では女性の割合が男性よりも高くなっている。

性別役割分担に対する考え方に賛成の場合の理由（全体・性別）

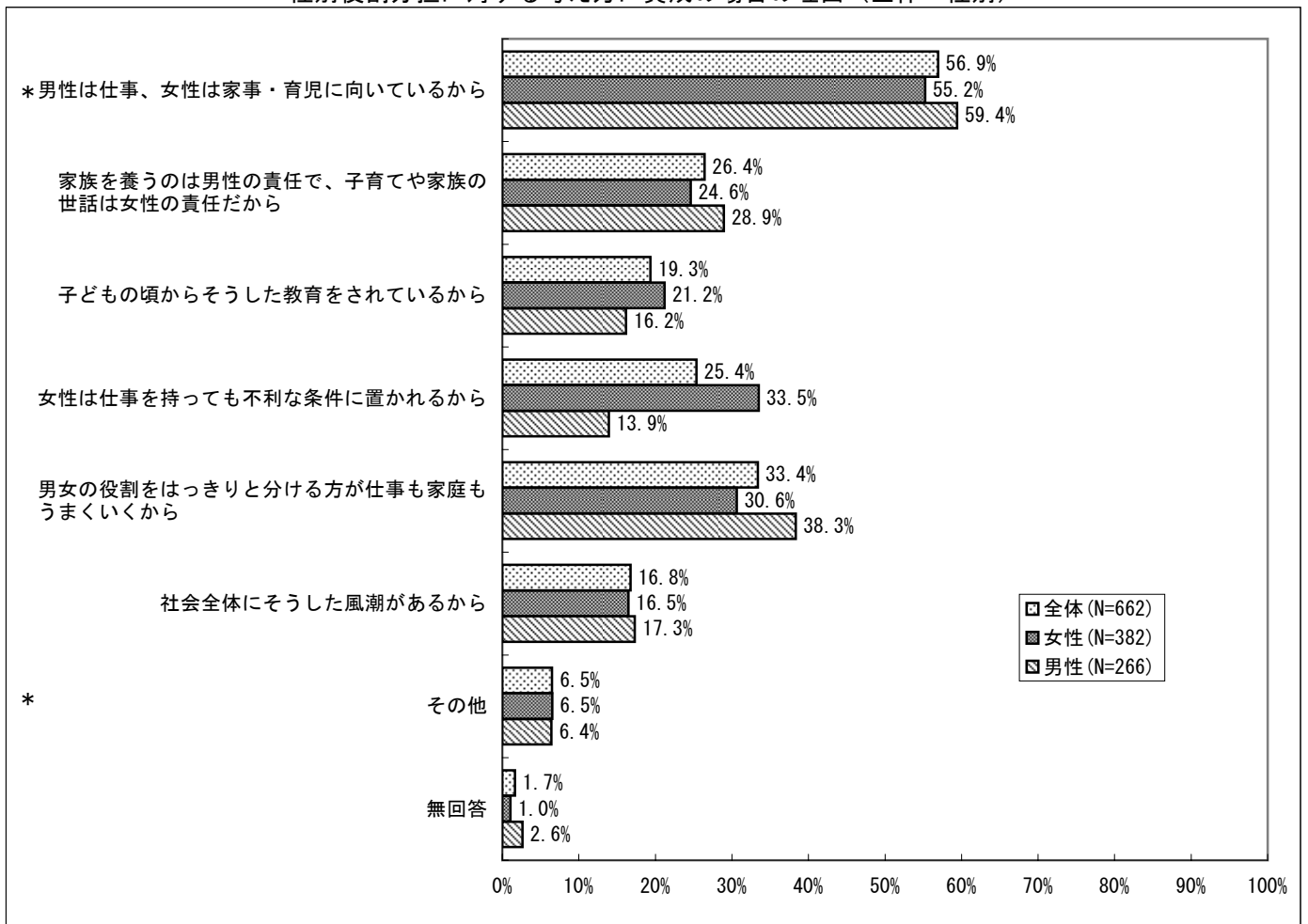


*:性別で有意差あり

【前回調査】

前回調査と比較すると、「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」（今回：48.2%、前回：56.9%）において、割合が前回調査より低下している。

性別役割分担に対する考え方に賛成の場合の理由（全体・性別）



*: 今回調査と有意差あり

性別役割分担に対する考え方に賛成の場合の理由（性・年代、性・配偶者の有無別）

		サンプル数	育児は男性に向いていて、女性から家事・	女性の子育てや家族の世話は責任	家族を養うのは男性の責任	子どもを育てるからそうした教	な女性に仕事を求めるから不利	くける方が仕事も家庭もうま	ある社会全体にそうした風潮が	その他	無回答
全体		100.0	48.2	27.2	21.1	27.2	31.8	20.4	12.6	1.3	
		626	302	170	132	170	199	128	79	8	
性・年代別	男性計	100.0	54.5	30.2	18.3	21.6	36.9	22.0	8.2	1.5	
		268	146	81	49	58	99	59	22	4	
	20代	100.0	35.0	20.0	5.0	20.0	50.0	30.0	20.0	0.0	
		20	7	4	1	4	10	6	4	0	
	30代	100.0	54.8	9.7	6.5	22.6	29.0	32.3	22.6	0.0	
		31	17	3	2	7	9	10	7	0	
	40代	100.0	55.9	38.2	20.6	29.4	20.6	14.7	11.8	0.0	
		34	19	13	7	10	7	5	4	0	
	50代	100.0	61.5	28.8	7.7	15.4	38.5	26.9	7.7	0.0	
		52	32	15	4	8	20	14	4	0	
	60代	100.0	55.3	36.8	27.6	27.6	36.8	17.1	0.0	2.6	
		76	42	28	21	21	28	13	0	2	
	70歳以上	100.0	52.7	32.7	25.5	14.5	45.5	20.0	5.5	3.6	
		55	29	18	14	8	25	11	3	2	
	女性計	100.0	43.3	24.9	23.7	31.9	28.1	19.9	15.2	0.9	
		342	148	85	81	109	96	68	52	3	
	20代	100.0	35.1	13.5	10.8	48.6	18.9	35.1	27.0	0.0	
		37	13	5	4	18	7	13	10	0	
	30代	100.0	52.0	18.0	18.0	26.0	32.0	16.0	14.0	0.0	
		50	26	9	9	13	16	8	7	0	
40代	100.0	33.9	21.4	19.6	41.1	21.4	19.6	19.6	0.0		
	56	19	12	11	23	12	11	11	0		
50代	100.0	47.1	26.5	17.6	32.4	29.4	13.2	20.6	0.0		
	68	32	18	12	22	20	9	14	0		
60代	100.0	44.9	26.9	33.3	23.1	29.5	21.8	7.7	1.3		
	78	35	21	26	18	23	17	6	1		
70歳以上	100.0	43.4	37.7	35.8	28.3	34.0	18.9	7.5	3.8		
	53	23	20	19	15	18	10	4	2		
性・配偶者の有無別	男性計	100.0	54.5	30.2	18.3	21.6	36.9	22.0	8.2	1.5	
		268	146	81	49	58	99	59	22	4	
	結婚している	100.0	55.0	31.3	20.9	22.3	38.9	22.3	6.6	1.9	
		211	116	66	44	47	82	47	14	4	
	結婚していない	100.0	51.0	27.5	7.8	21.6	31.4	21.6	15.7	0.0	
		51	26	14	4	11	16	11	8	0	
	女性計	100.0	43.3	24.9	23.7	31.9	28.1	19.9	15.2	0.9	
		342	148	85	81	109	96	68	52	3	
	結婚している	100.0	45.4	26.7	23.5	31.5	27.9	18.7	16.3	0.4	
		251	114	67	59	79	70	47	41	1	
結婚していない	100.0	37.2	19.8	23.3	33.7	27.9	24.4	12.8	2.3		
	86	32	17	20	29	24	21	11	2		

(3) 家事の分担についての理想と実際

日常生活における役割分担についておたずねします。

- 【問7】 (1) ①～⑧について、あなたの理想とする分担をお答えください。
 (2) 結婚している方、結婚してはいるがパートナーと暮らしている方におたずねします。
 ①～⑧について、実際にあなたの家庭では主にだれが分担していますか。

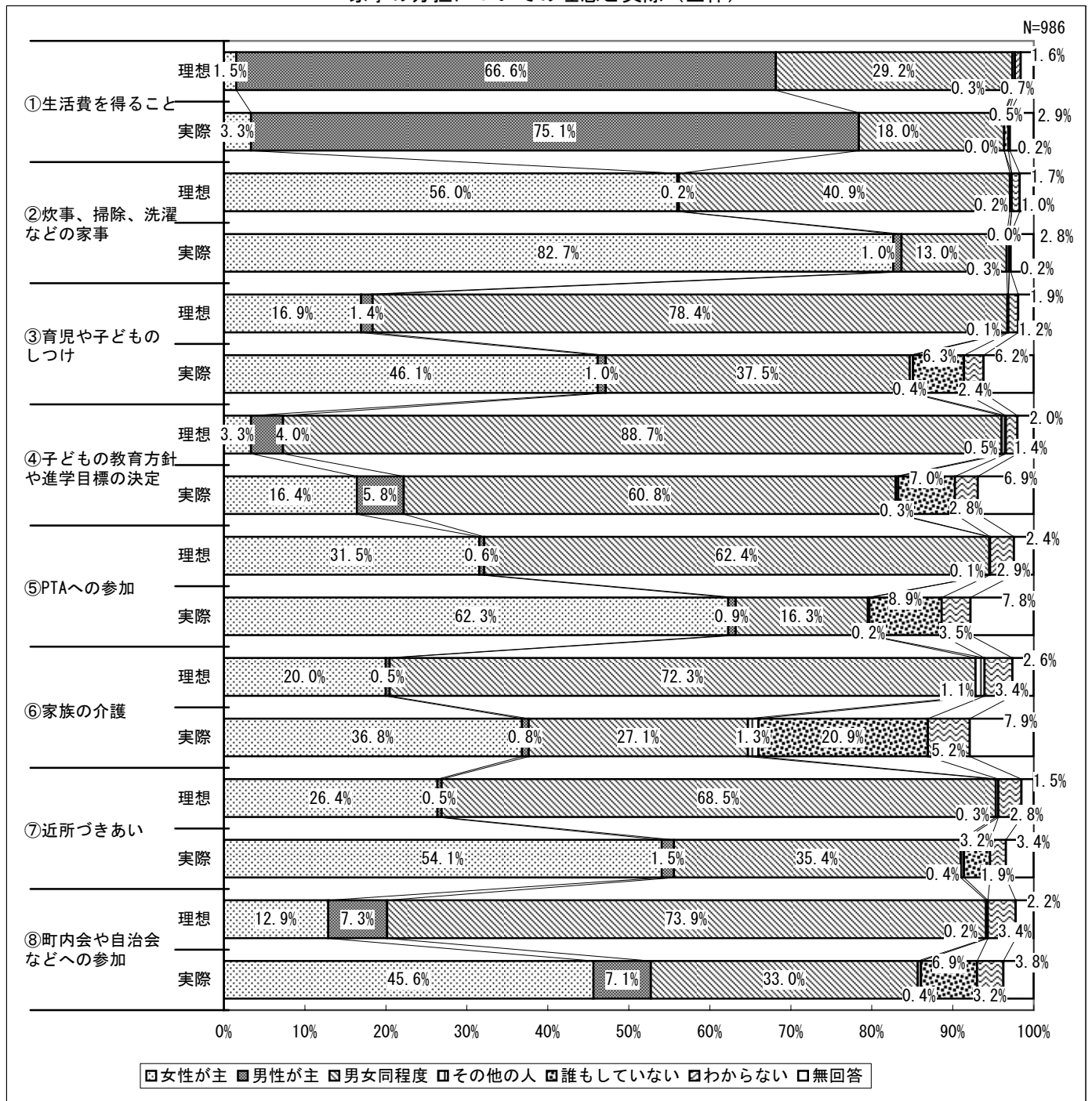
※ 以下は、結婚している方、結婚してはいるがパートナーと暮らしている方の回答についての分析結果である。

～家事分担で「男女同程度」の希望は多いが、多くを担っているのは女性～

家事の分担についてみると、理想では「④子どもの教育方針や進学目標の決定」の「男女同程度」が88.7%で最も高く、「③育児や子どものしつけ」の「男女同程度」が78.4%で続いている。

実際では、「②炊事、掃除、洗濯などの家事」の「女性が主」が82.7%で最も高く、「①生活費を得ること」の「男性が主」が75.1%で続いている。

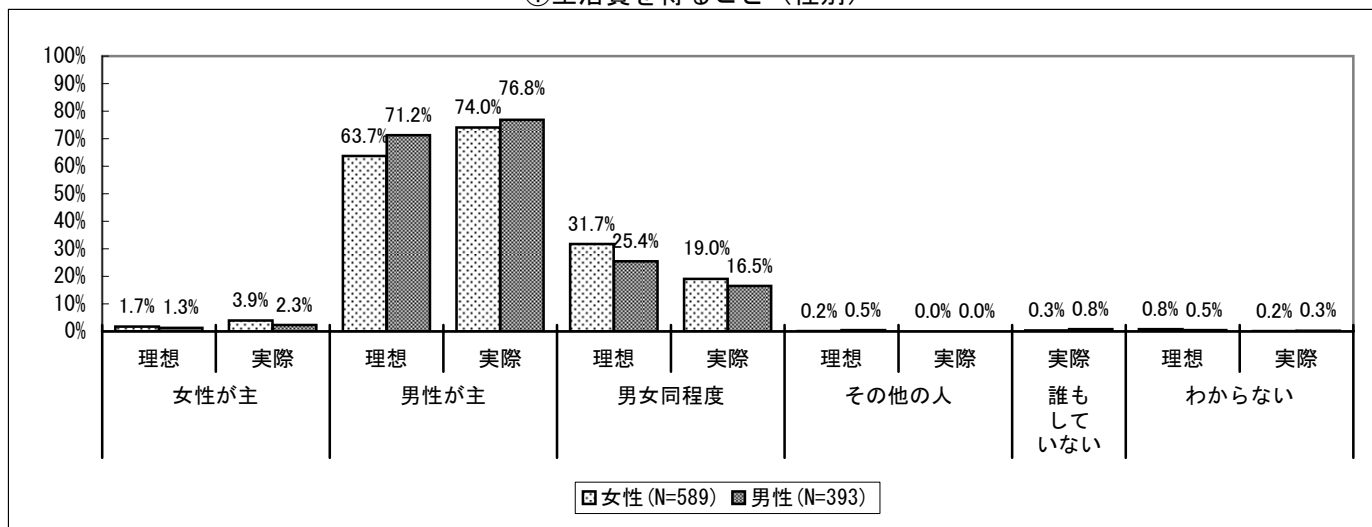
家事の分担についての理想と実際（全体）



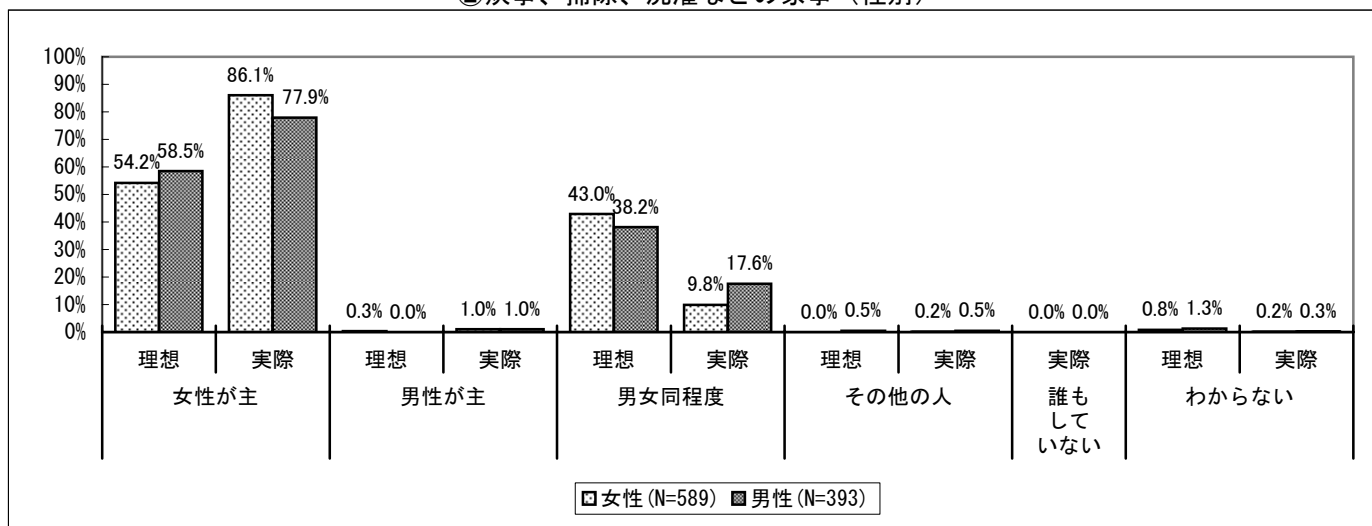
性別にみると、理想は「①生活費を得ること」では「男性が主」、「②炊事、掃除、洗濯などの家事」では「女性が主」、それ以外では「男女同程度」の割合が最も高くなっており、「⑧町内会や自治会などへの参加」を除いて性別による有意差はみられない。

実際は「①生活費を得ること」では「男性が主」、「②炊事、掃除、洗濯などの家事」では「女性が主」が最も高くなっており、それ以外では、男性は「男女同程度」と答えているものの女性は「女性が主」と答える傾向が見られる。

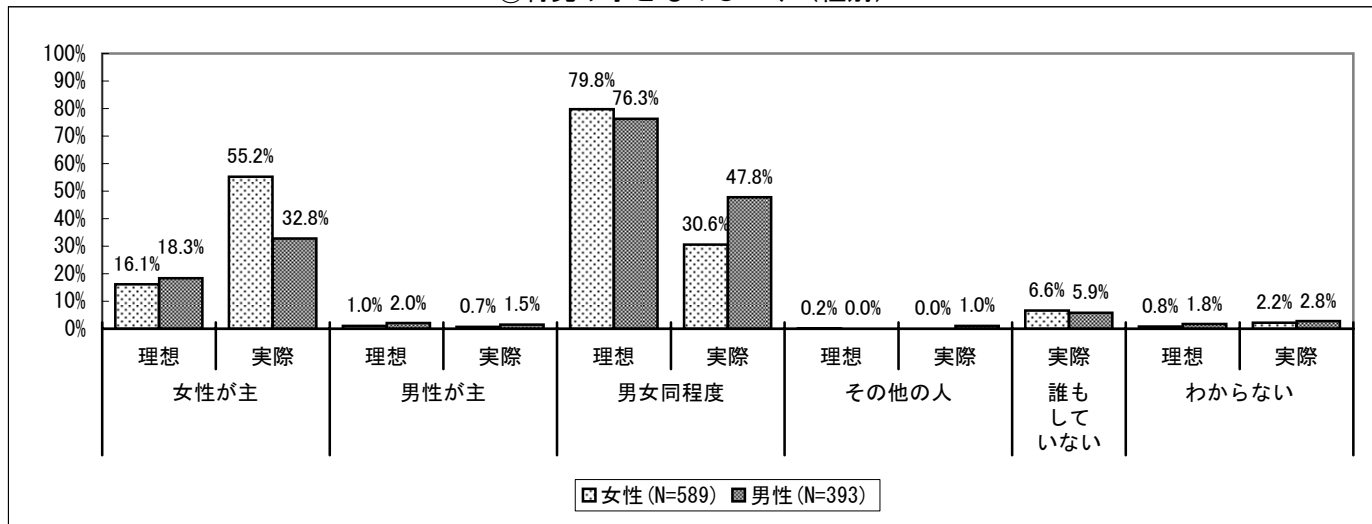
①生活費を得ること（性別）



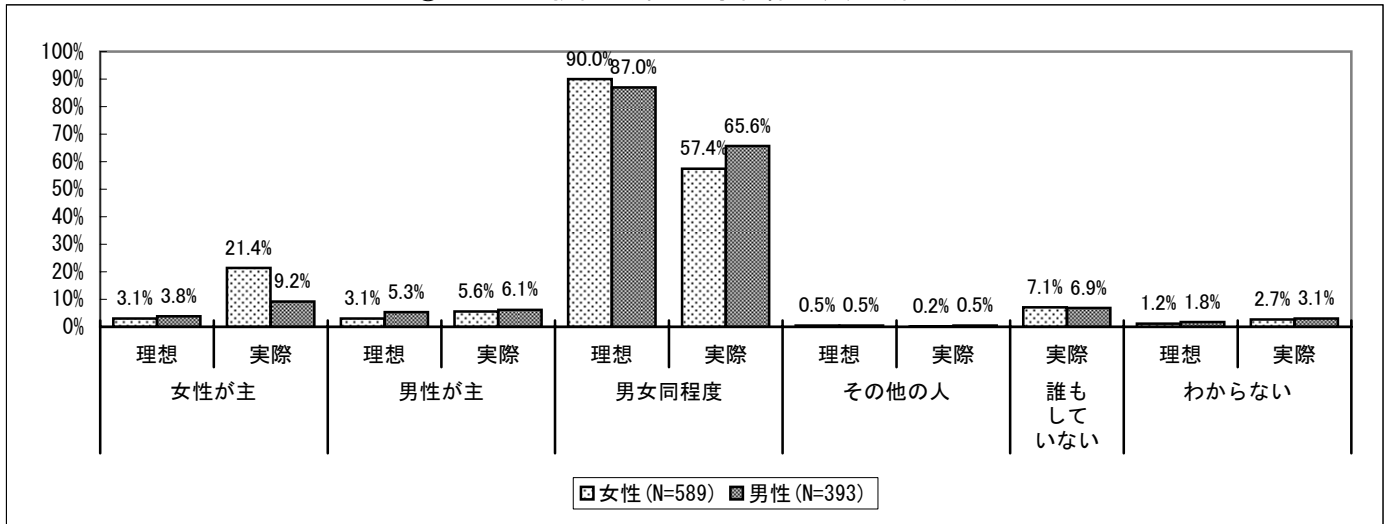
②炊事、掃除、洗濯などの家事（性別）



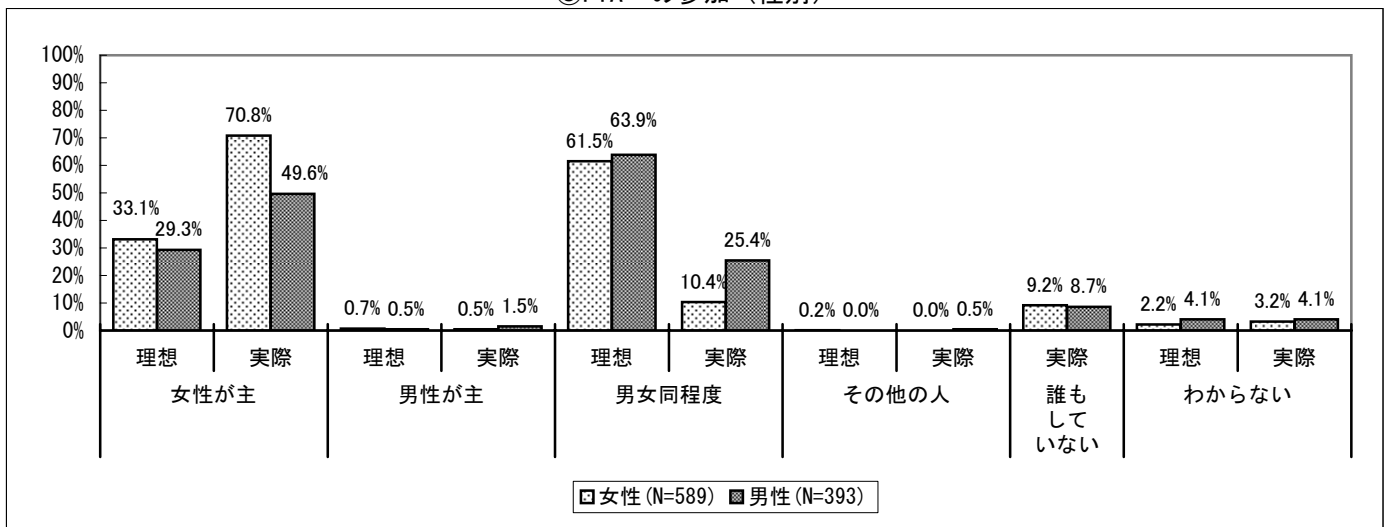
③育児や子どものしつけ（性別）



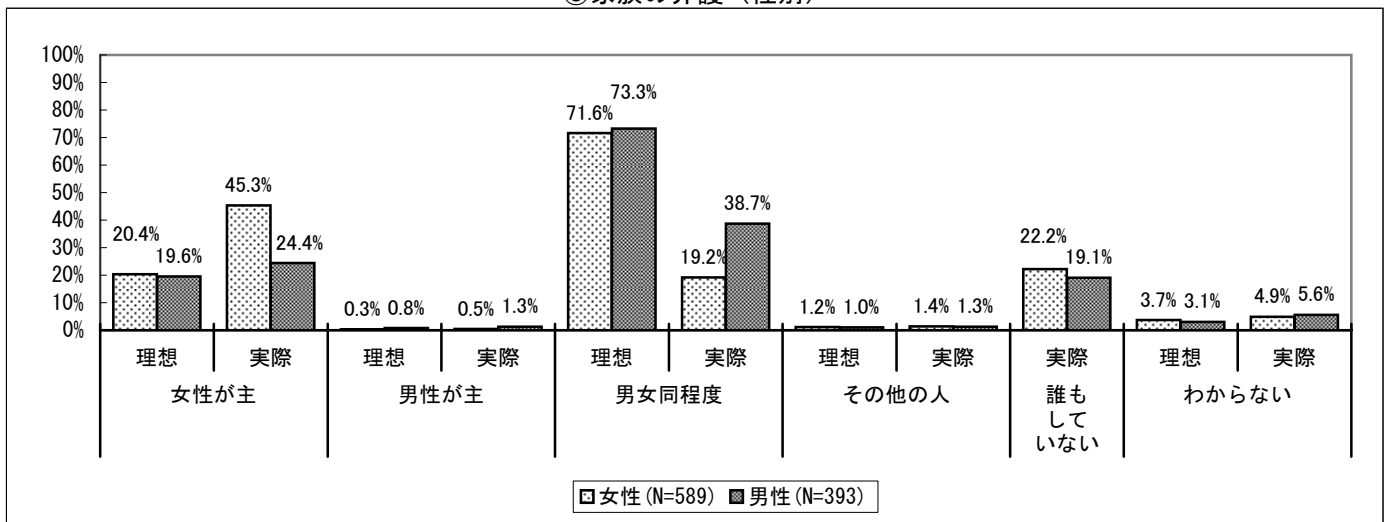
④子どもの教育方針や進学目標の決定（性別）



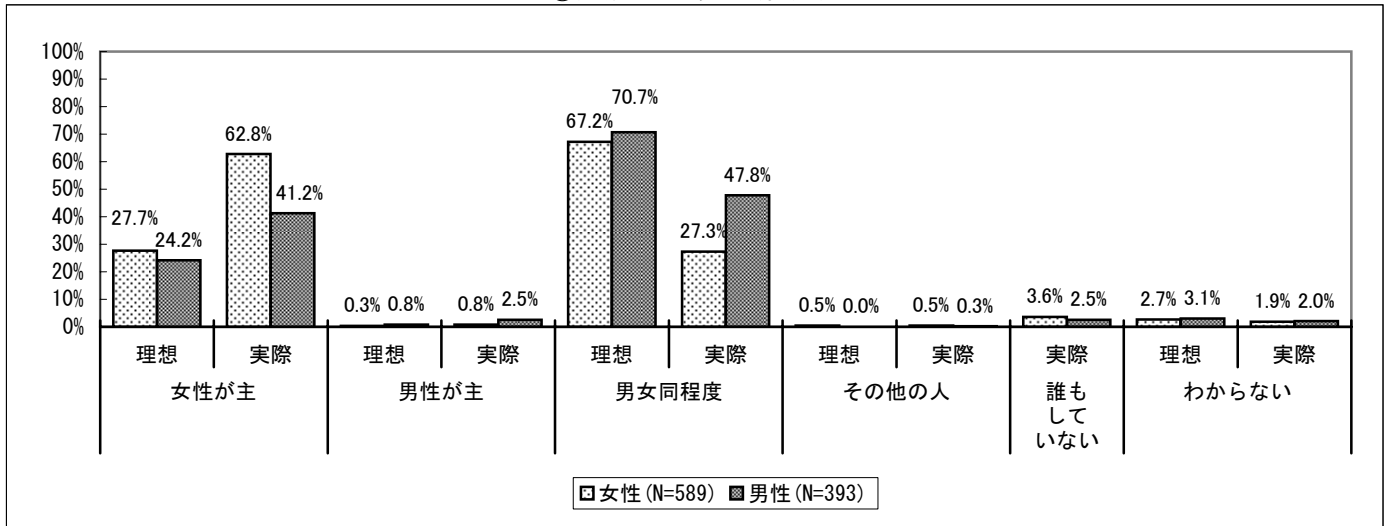
⑤PTAへの参加（性別）



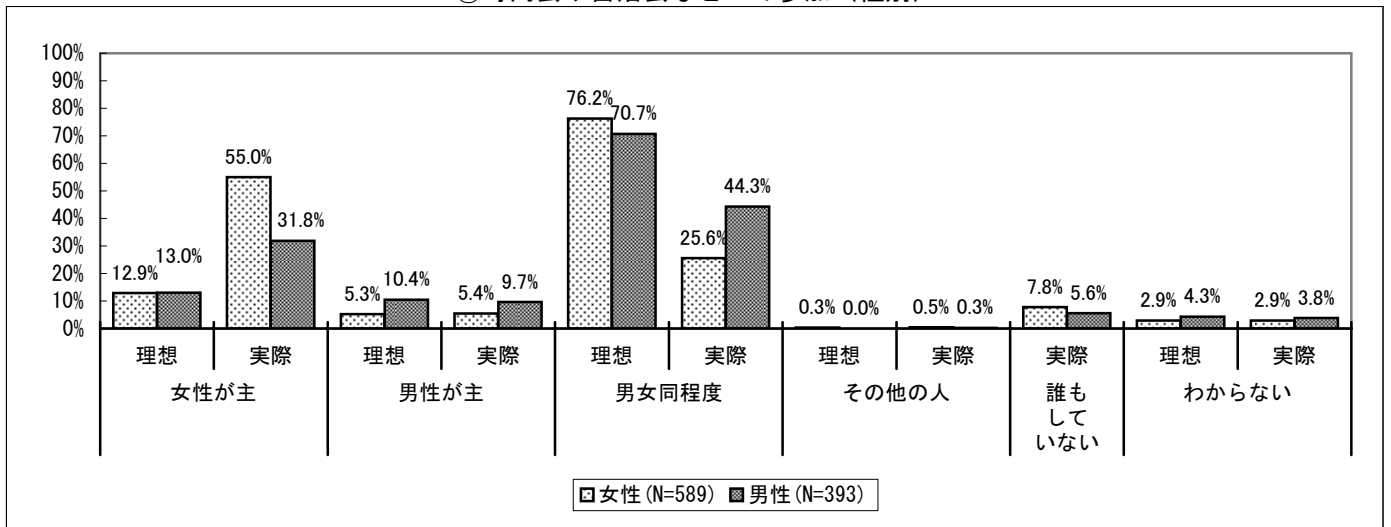
⑥家族の介護（性別）



⑦近所づきあい（性別）



⑧町内会や自治会などへの参加（性別）



(4) 男性が家事、育児をすることについての考え

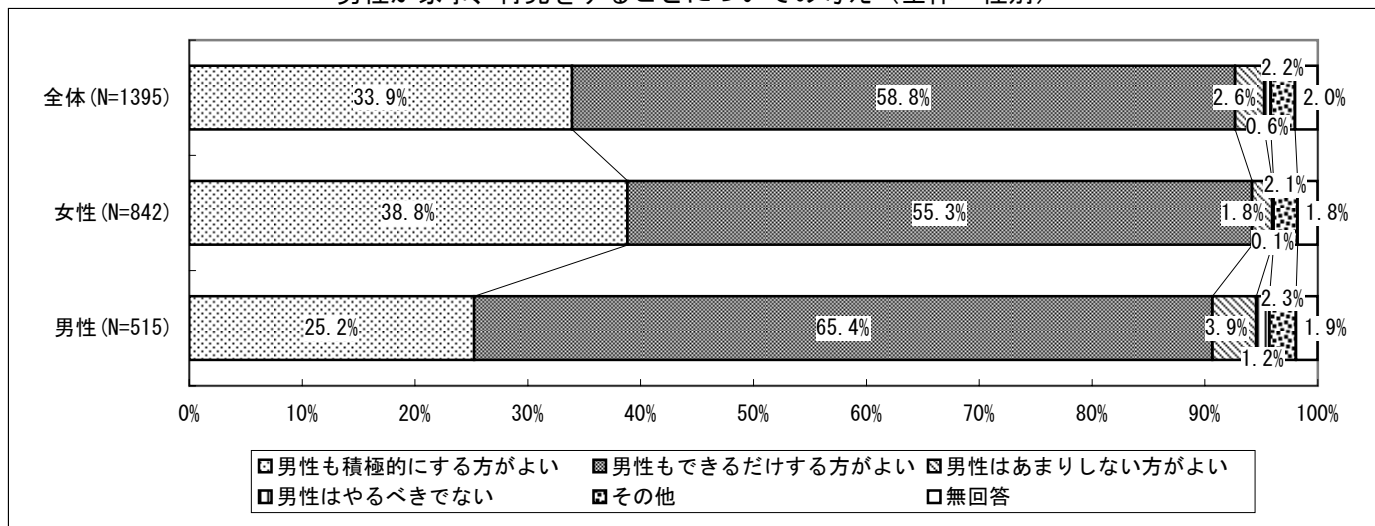
【問8】 男性が家事、育児などをする事についてどう思いますか。

～男女とも9割が肯定的～

男性が家事、育児をすることについての考えをみると、全体では「男性もできるだけする方がよい」が58.8%で最も高く「男性も積極的にする方がよい」(33.9%)を合わせると9割を超えている。

これを性別にみると、女性は男性と比べ「男性も積極的にする方がよい」(女性：38.8%、男性：25.2%)の割合が高くなっており、「男性もできるだけする方がよい」(女性：55.3%、男性：65.4%)を合わせると、女性では94.1%、男性では90.6%となっている。

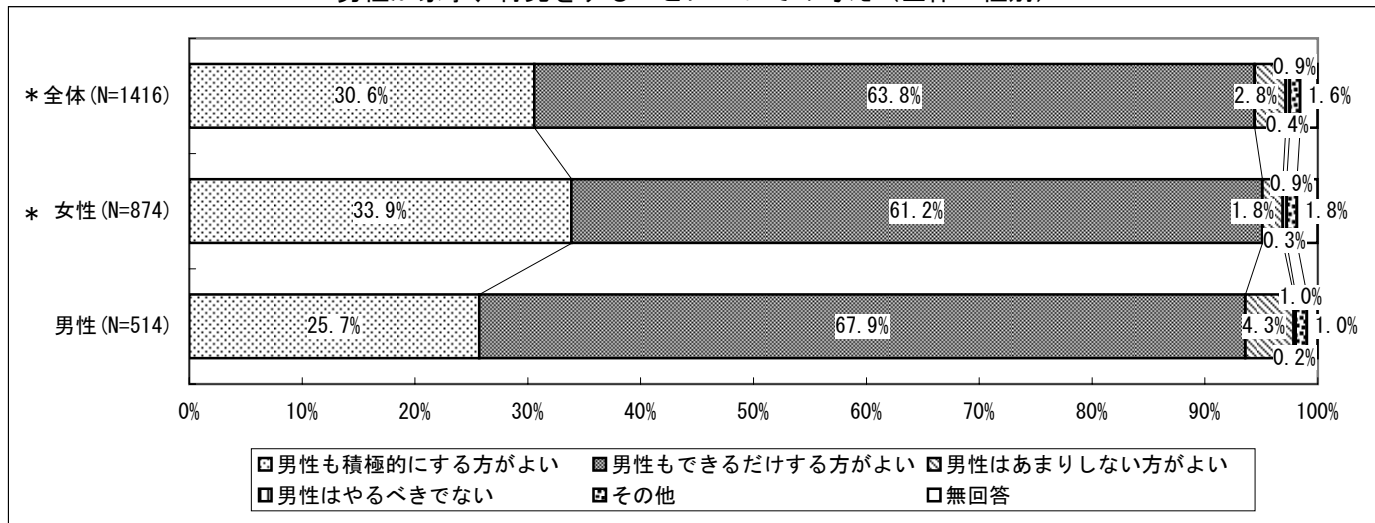
男性が家事、育児をすることについての考え (全体・性別)



【前回調査】

前回調査と比較すると、女性の「男性もできるだけする方がよい」(今回：55.3%、前回：61.2%)が減少し、「男性も積極的にする方がよい」(今回：38.8%、前回：33.9%)が増加している。男性について、前回調査との有意差はみられない。

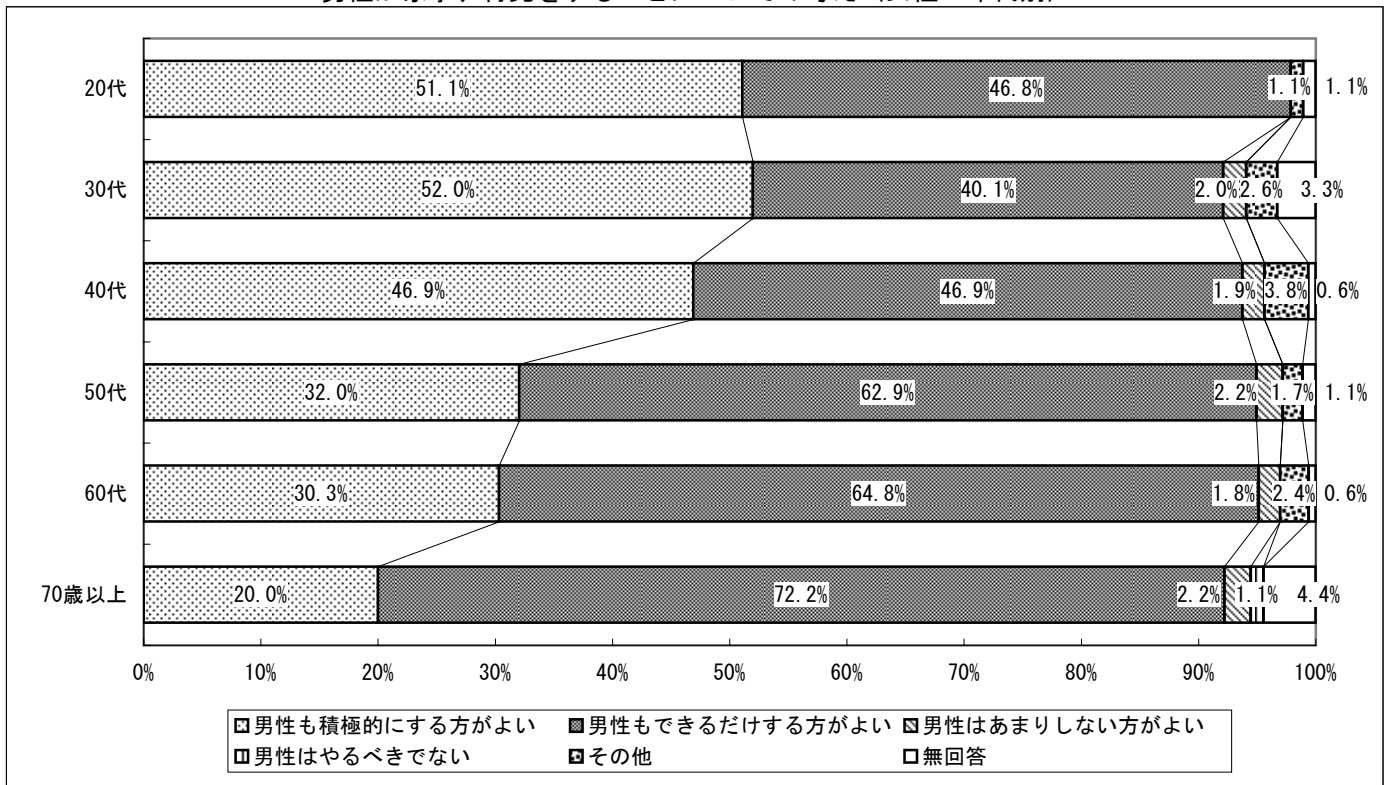
男性が家事、育児をすることについての考え (全体・性別)



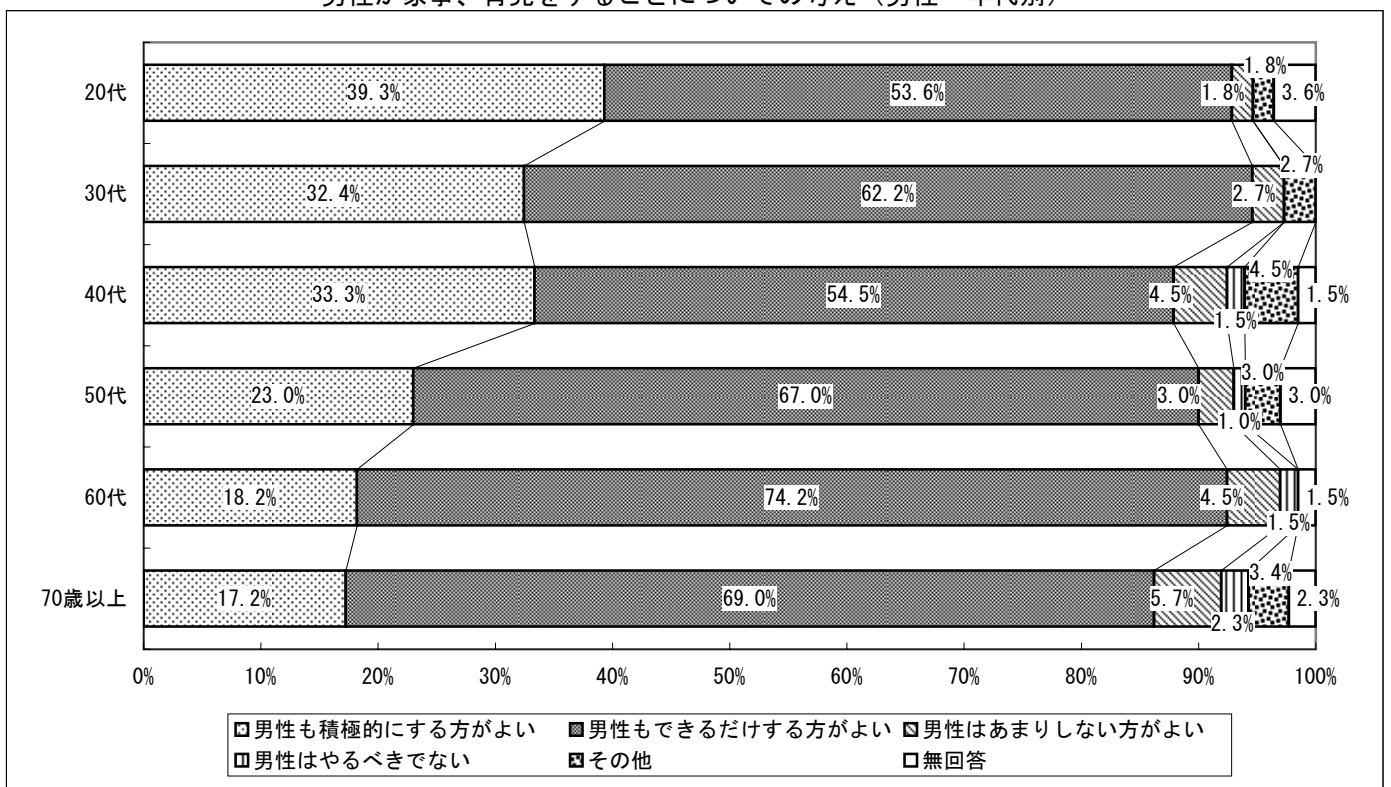
*: 今回調査と有意差あり

性・年代別にみると、年齢が上がるにつれ「男性も積極的にする方がよい」の割合が高くなっている。

男性が家事、育児をすることについての考え（女性・年代別）



男性が家事、育児をすることについての考え（男性・年代別）



男性が家事、育児をすることについての考え（性・年代別）

		サンプル数	男性も積極的にする	男性もできるだけの	男性はあまりしない	男性はやるべきでない	その他	無回答
全体		100.0 1395	33.9 473	58.8 820	2.6 36	0.6 8	2.2 30	2.0 28
性・年代別	男性計	100.0 515	25.2 130	65.4 337	3.9 20	1.2 6	2.3 12	1.9 10
	20代	100.0 56	39.3 22	53.6 30	1.8 1	0.0 0	1.8 1	3.6 2
	30代	100.0 74	32.4 24	62.2 46	2.7 2	0.0 0	2.7 2	0.0 0
	40代	100.0 66	33.3 22	54.5 36	4.5 3	1.5 1	4.5 3	1.5 1
	50代	100.0 100	23.0 23	67.0 67	3.0 3	1.0 1	3.0 3	3.0 3
	60代	100.0 132	18.2 24	74.2 98	4.5 6	1.5 2	0.0 0	1.5 2
	70歳以上	100.0 87	17.2 15	69.0 60	5.7 5	2.3 2	3.4 3	2.3 2
	女性計	100.0 842	38.8 327	55.3 466	1.8 15	0.1 1	2.1 18	1.8 15
	20代	100.0 94	51.1 48	46.8 44	0.0 0	0.0 0	1.1 1	1.1 1
	30代	100.0 152	52.0 79	40.1 61	2.0 3	0.0 0	2.6 4	3.3 5
	40代	100.0 160	46.9 75	46.9 75	1.9 3	0.0 0	3.8 6	0.6 1
	50代	100.0 178	32.0 57	62.9 112	2.2 4	0.0 0	1.7 3	1.1 2
	60代	100.0 165	30.3 50	64.8 107	1.8 3	0.0 0	2.4 4	0.6 1
	70歳以上	100.0 90	20.0 18	72.2 65	2.2 2	1.1 1	0.0 0	4.4 4

男性が家事、育児をすることについての考え（性・配偶者の有無、夫婦の就労形態、子の有無、性別役割分担の考え方別）

		サンプル数	男性がよい方も積極的にする	男性もできるだけの	男性はあまりしない	男性はやるべきでない	その他	無回答
性・配偶者の有無別	男性計	100.0	25.2	65.4	3.9	1.2	2.3	1.9
		515	130	337	20	6	12	10
	結婚している	100.0	26.0	66.2	4.1	1.3	1.5	1.0
		393	102	260	16	5	6	4
	結婚していない	100.0	24.1	64.3	1.8	0.0	5.4	4.5
		112	27	72	2	0	6	5
	女性計	100.0	38.8	55.3	1.8	0.1	2.1	1.8
		842	327	466	15	1	18	15
結婚している	100.0	37.4	56.9	2.2	0.2	2.5	0.8	
	589	220	335	13	1	15	5	
結婚していない	100.0	42.8	51.4	0.8	0.0	1.2	3.7	
	243	104	125	2	0	3	9	
夫婦の就労形態別	どちらも職業がある	100.0	40.5	53.3	3.1	0.3	2.3	0.5
		390	158	208	12	1	9	2
	自分のみ職業がある	100.0	25.0	67.8	1.7	1.7	2.8	1.1
		180	45	122	3	3	5	2
	配偶者のみ職業がある	100.0	35.3	59.5	2.2	0.0	2.2	0.9
232		82	138	5	0	5	2	
どちらも職業がない	100.0	20.2	72.6	5.4	0.6	0.6	0.6	
	168	34	122	9	1	1	1	
子の有無別	いる	100.0	32.4	61.6	2.7	0.5	1.5	1.3
		1019	330	628	28	5	15	13
	いない	100.0	39.9	51.0	1.5	0.3	4.1	3.2
		341	136	174	5	1	14	11
性別役割分担の考え方	賛成	100.0	23.6	65.7	4.2	0.8	3.4	2.4
		626	148	411	26	5	21	15
	反対	100.0	44.2	52.4	1.0	0.2	1.1	1.1
		615	272	322	6	1	7	7
	わからない	100.0	36.2	57.2	1.4	0.7	1.4	2.9
	138	50	79	2	1	2	4	

(5) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方の希望と現実

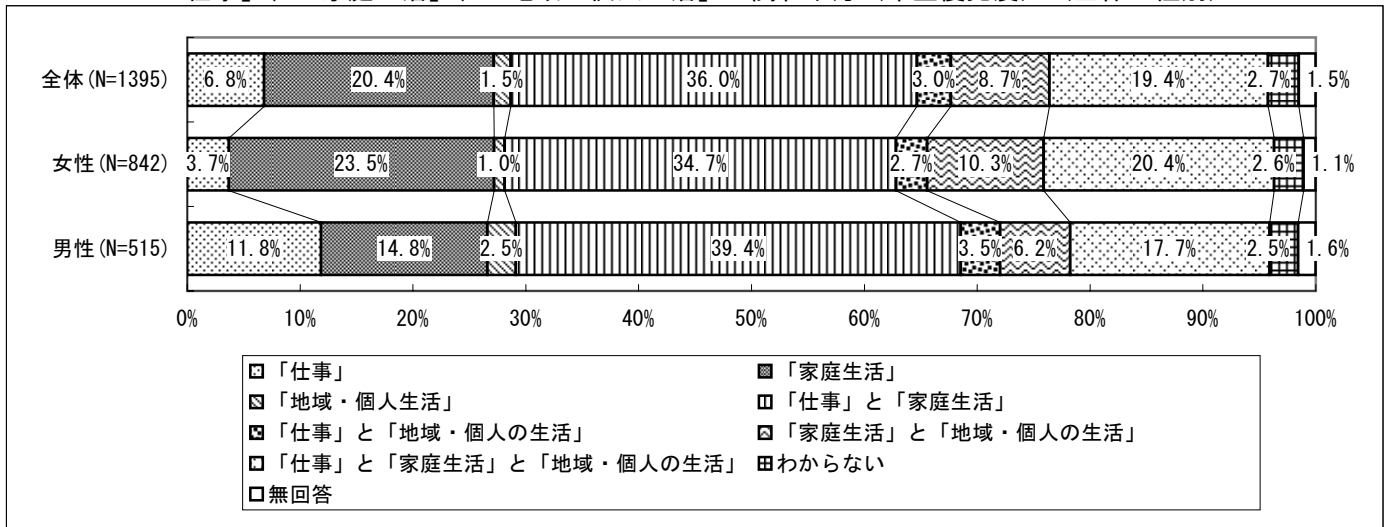
【問9】 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についておたずねします。
 (1) あなたの希望に最も近いものはどれですか。
 (2) それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。

～優先しているのは女性は「家庭生活」、男性は「仕事」が最も多い～

「仕事」と「家庭生活」、「地域・個人生活」との優先順位の希望についてみると、全体では「仕事」と「家庭生活」（36.0%）の割合が最も高く、「家庭生活」（20.4%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」（19.4%）の順となっている。

これを性別にみると、女性は男性より「家庭生活」（女性：23.5%、男性：14.8%）、「家庭生活」と「地域・個人の生活」（女性：10.3%、男性：6.2%）の割合が高くなり、男性は女性より「仕事」（女性：3.7%、男性：11.8%）の割合が高くなっている。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望優先度）（全体・性別）

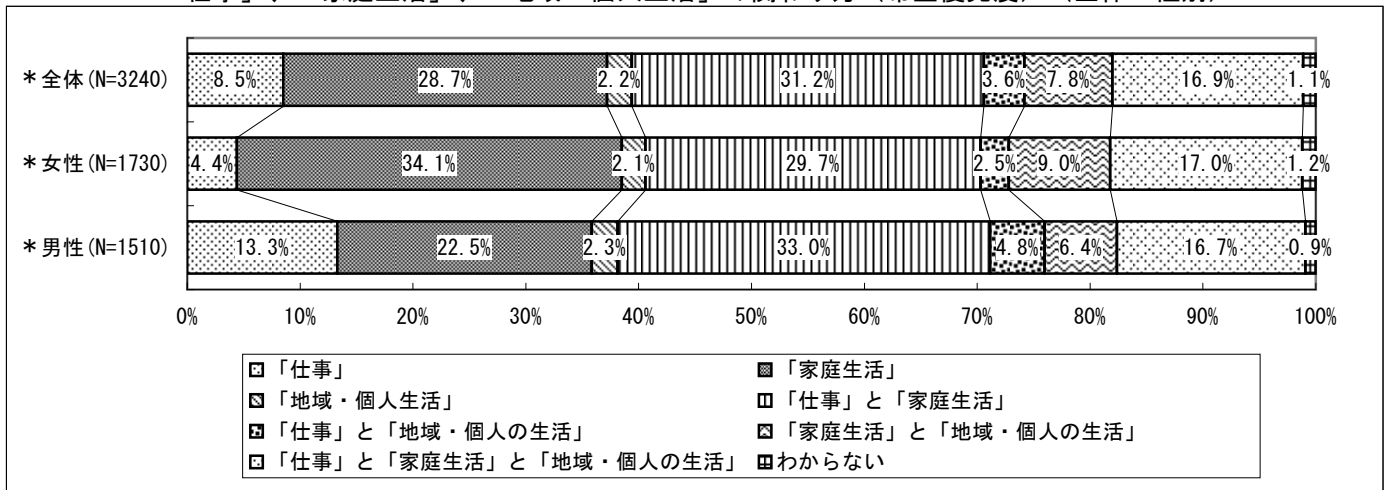


【内閣府調査】

内閣府調査と比較すると、全体では「家庭生活」（鹿児島市：20.4%、内閣府：28.7%）の割合が内閣府より低く、「仕事」と「家庭生活」（鹿児島市：36.0%、内閣府：31.2%）の割合が内閣府より高くなっている。

これを性別にみると、「家庭生活」の割合が内閣府（女性：34.1%、男性：22.5%）に対し鹿児島市（女性：23.5%、男性：14.8%）で男女ともに低くなっている。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望優先度）（全体・性別）

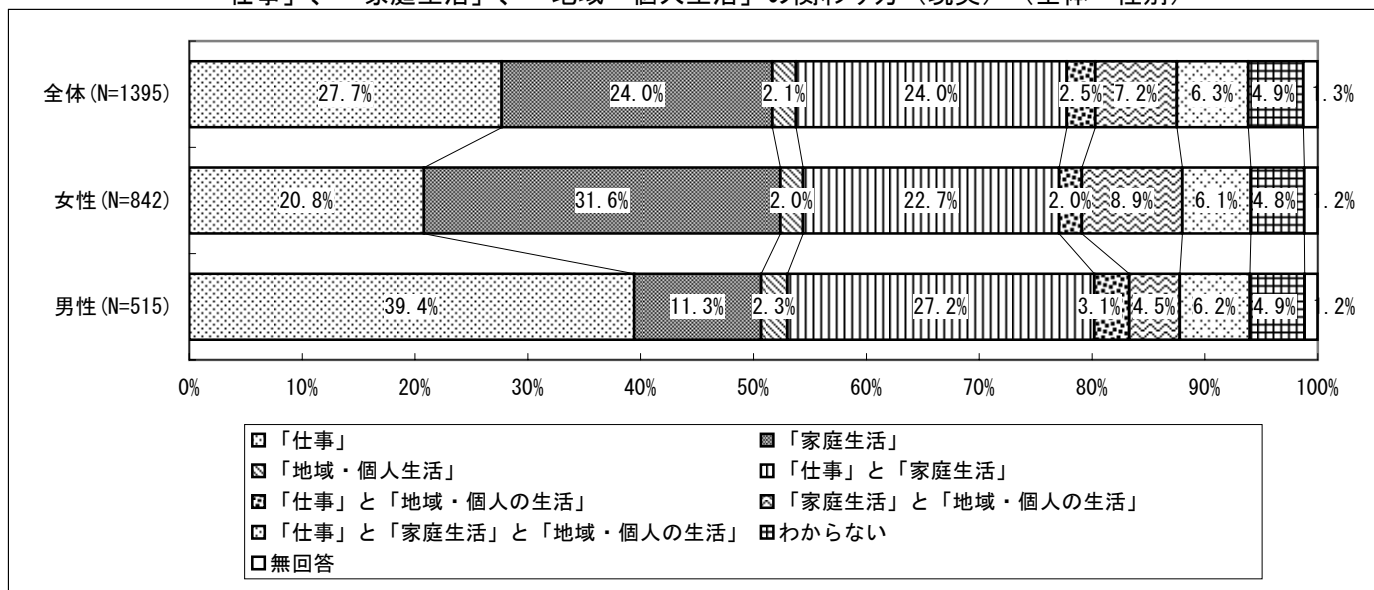


*: 鹿児島市調査と有意差あり

「仕事」と「家庭生活」、「地域・個人生活」との優先順位の現実についてみると、全体では「仕事」(27.7%)の割合が最も高く、「家庭生活」、「「仕事」と「家庭生活」」がともに24.0%で続いている。

これを性別にみると、女性は男性より「家庭生活」(女性：31.6%、男性：11.3%)、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」」(女性：8.9%、男性：4.5%)の割合が高くなり、男性は女性より「仕事」(女性：20.8%、男性：39.4%)の割合が高くなっている。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(現実)(全体・性別)

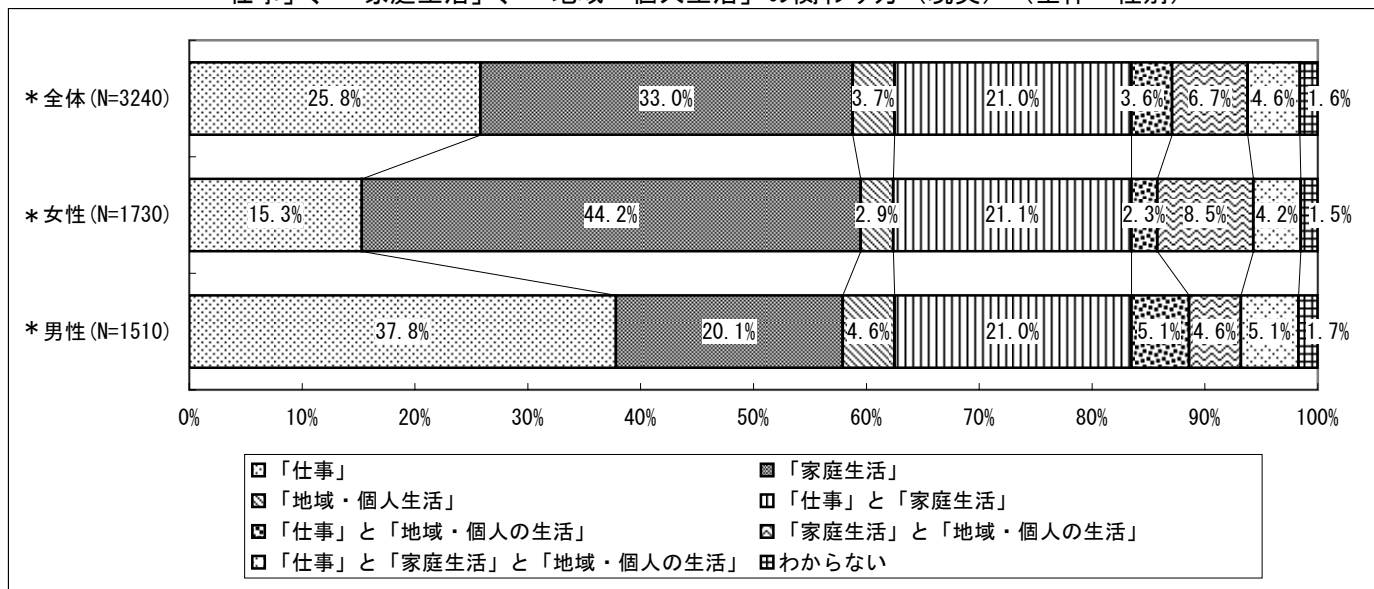


【内閣府調査】

内閣府調査と比較すると、全体では「家庭生活」の割合が内閣府の33.0%に対し鹿児島市は24.0%と低くなっている。

これを性別にみても同様で、「家庭生活」の割合が内閣府(女性：44.2%、男性：20.1%)に対し鹿児島市(女性：31.6%、男性：11.3%)で男女ともに低くなっている。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(現実)(全体・性別)

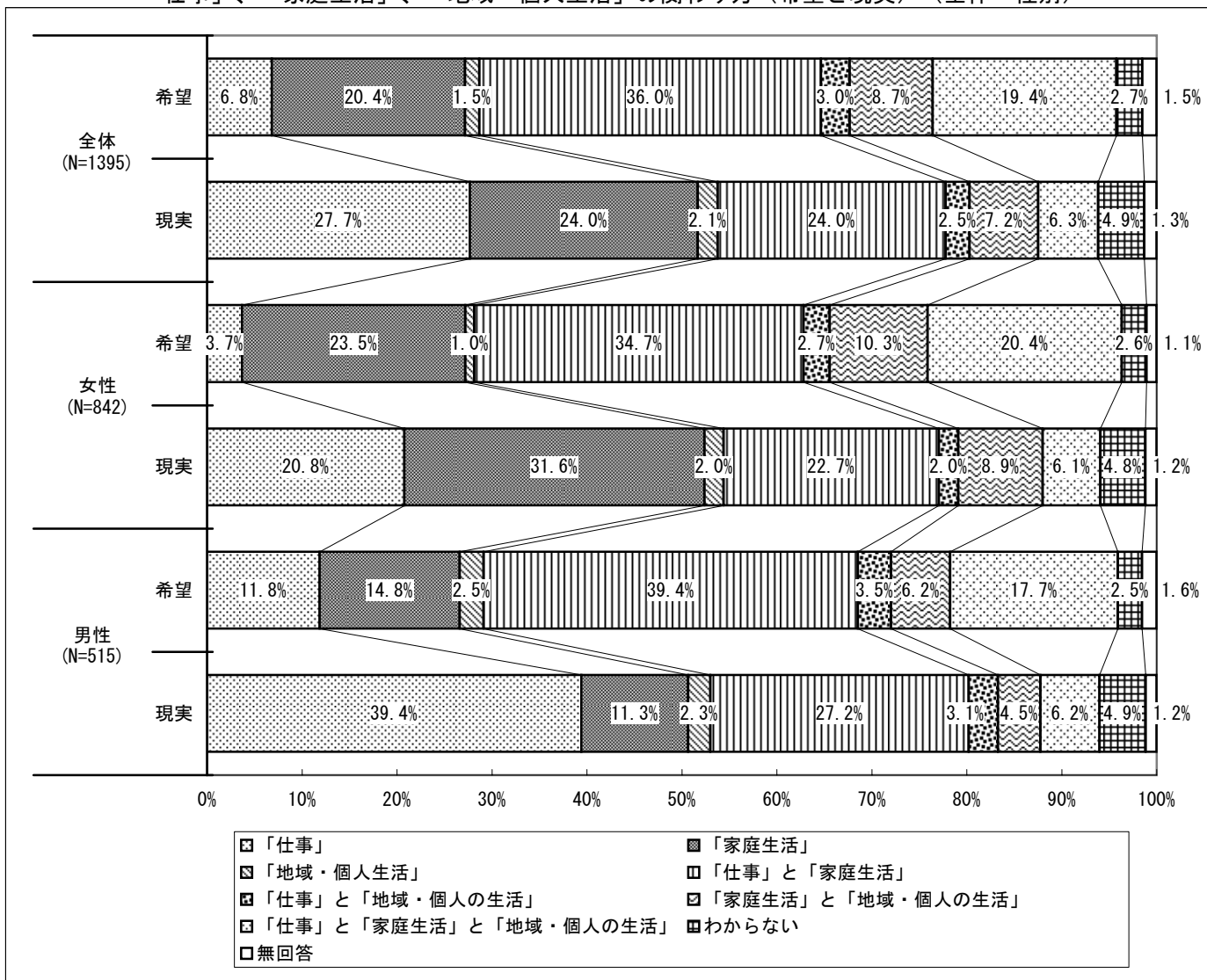


*:鹿児島市調査と有意差あり

「仕事」と「家庭生活」、「地域・個人生活」との優先順位の希望と現実について比較すると、全体では「仕事」の割合が希望（6.8%）に対し現実（27.7%）は増加し、「仕事」と「家庭生活」（希望：36.0%、現実：24.0%）と「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」（希望：19.4%、現実：6.3%）において、現実希望に対し減少している。

これを性別にみると、男女ともに希望に対し現実の「仕事」の割合が増加し、「仕事」と「家庭生活」と「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の割合が減少する傾向は全体と同様となっているが、「家庭生活」については、女性は希望（23.5%）より現実（31.6%）が増加し、男性は希望（14.8%）より現実（11.3%）が減少している。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望と現実）（全体・性別）



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望優先度）（性・年代別）

	サンプル数	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先したい	わからない	無回答	
全体	100.0 1395	6.8 95	20.4 284	1.5 21	36.0 502	3.0 42	8.7 122	19.4 270	2.7 38	1.5 21	
性・年代別	男性計	100.0 515	11.8 61	14.8 76	2.5 13	39.4 203	3.5 18	6.2 32	17.7 91	2.5 13	1.6 8
	20代	100.0 56	3.6 2	14.3 8	7.1 4	44.6 25	3.6 2	5.4 3	17.9 10	1.8 1	1.8 1
	30代	100.0 74	5.4 4	20.3 15	0.0 0	40.5 30	4.1 3	5.4 4	21.6 16	2.7 2	0.0 0
	40代	100.0 66	9.1 6	16.7 11	4.5 3	47.0 31	1.5 1	4.5 3	15.2 10	1.5 1	0.0 0
	50代	100.0 100	14.0 14	20.0 20	1.0 1	45.0 45	1.0 1	2.0 2	13.0 13	2.0 2	2.0 2
	60代	100.0 132	18.2 24	8.3 11	0.8 1	34.8 46	3.8 5	8.3 11	19.7 26	3.0 4	3.0 4
	70歳以上	100.0 87	12.6 11	12.6 11	4.6 4	29.9 26	6.9 6	10.3 9	18.4 16	3.4 3	1.1 1
	女性計	100.0 842	3.7 31	23.5 198	1.0 8	34.7 292	2.7 23	10.3 87	20.4 172	2.6 22	1.1 9
	20代	100.0 94	0.0 0	24.5 23	3.2 3	37.2 35	2.1 2	9.6 9	22.3 21	1.1 1	0.0 0
	30代	100.0 152	2.0 3	32.2 49	0.7 1	34.9 53	2.6 4	8.6 13	16.4 25	0.7 1	2.0 3
	40代	100.0 160	2.5 4	26.3 42	0.6 1	33.1 53	2.5 4	10.6 17	23.1 37	1.3 2	0.0 0
	50代	100.0 178	6.2 11	19.1 34	0.0 0	41.0 73	1.1 2	6.7 12	23.0 41	2.2 4	0.6 1
	60代	100.0 165	6.7 11	17.6 29	0.0 0	31.5 52	4.8 8	15.8 26	20.0 33	3.0 5	0.6 1
	70歳以上	100.0 90	2.2 2	22.2 20	3.3 3	28.9 26	3.3 3	11.1 10	15.6 14	8.9 8	4.4 4

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（現実）（性・年代別）

	サンプル数	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先している	わからない	無回答	
全体	100.0 1395	27.7 386	24.0 335	2.1 29	24.0 335	2.5 35	7.2 101	6.3 88	4.9 68	1.3 18	
性・年代別	男性計	100.0 515	39.4 203	11.3 58	2.3 12	27.2 140	3.1 16	4.5 23	6.2 32	4.9 25	1.2 6
	20代	100.0 56	46.4 26	1.8 1	7.1 4	14.3 8	8.9 5	1.8 1	1.8 1	16.1 9	1.8 1
	30代	100.0 74	50.0 37	8.1 6	1.4 1	24.3 18	2.7 2	0.0 0	5.4 4	6.8 5	1.4 1
	40代	100.0 66	53.0 35	3.0 2	1.5 1	30.3 20	4.5 3	1.5 1	4.5 3	1.5 1	0.0 0
	50代	100.0 100	44.0 44	10.0 10	2.0 2	32.0 32	2.0 2	0.0 0	8.0 8	2.0 2	0.0 0
	60代	100.0 132	35.6 47	15.9 21	0.8 1	26.5 35	1.5 2	8.3 11	7.6 10	2.3 3	1.5 2
	70歳以上	100.0 87	16.1 14	20.7 18	3.4 3	31.0 27	2.3 2	11.5 10	6.9 6	5.7 5	2.3 2
	女性計	100.0 842	20.8 175	31.6 266	2.0 17	22.7 191	2.0 17	8.9 75	6.1 51	4.8 40	1.2 10
	20代	100.0 94	29.8 28	18.1 17	3.2 3	22.3 21	5.3 5	4.3 4	2.1 2	14.9 14	0.0 0
	30代	100.0 152	25.7 39	38.8 59	1.3 2	21.1 32	2.0 3	3.3 5	3.9 6	2.0 3	2.0 3
	40代	100.0 160	21.3 34	39.4 63	0.6 1	20.0 32	1.3 2	5.6 9	8.1 13	3.8 6	0.0 0
	50代	100.0 178	28.7 51	25.8 46	0.6 1	30.3 54	0.6 1	5.6 10	6.7 12	1.7 3	0.0 0
	60代	100.0 165	12.1 20	32.1 53	2.4 4	23.6 39	3.6 6	15.8 26	7.9 13	2.4 4	0.0 0
	70歳以上	100.0 90	3.3 3	30.0 27	6.7 6	13.3 12	0.0 0	23.3 21	5.6 5	10.0 9	7.8 7

(6) 男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと

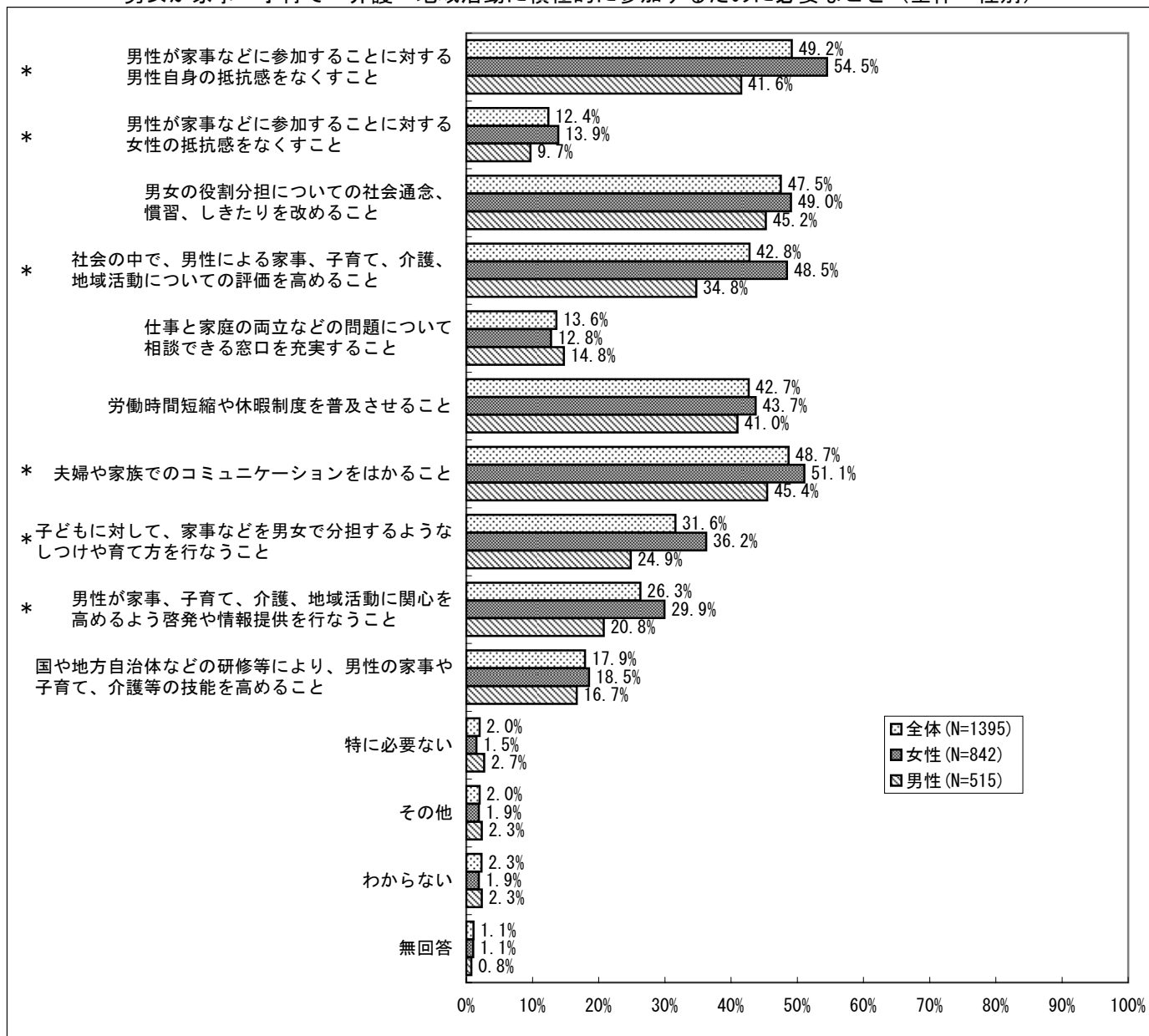
【問10】 今後、男女がともに家事や子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

～男性自身の抵抗感をなくすことや夫婦や家族でのコミュニケーションが必要との回答が多い～

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なことについてみると、全体では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（49.2%）の割合が最も高く、次いで「夫婦や家族でのコミュニケーションをはかること」（48.7%）、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」（47.5%）の順となっている。

これを性・年代別にみると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（女性：54.5%、男性：41.6%）、「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」（女性：13.9%、男性：9.7%）、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること」（女性：48.5%、男性：34.8%）、「夫婦や家族でのコミュニケーションをはかること」（女性：51.1%、男性：45.4%）、「子どもに対して、家事などを男女で分担するようなしつけや育て方を行うこと」（女性：36.2%、男性：24.9%）、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」（女性：29.9%、男性：20.8%）において有意差がみられ、すべて女性の割合が高くなっている。男女とも若い世代で「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」の割合が高くなっている。

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと（全体・性別）



*: 性別で有意差あり

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと（性・年代、性別役割分担の考え方別）

		サンプル数	自身が家事などに参加することに対する男性の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること	仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を充実すること	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	夫婦や家族でのコミュニケーションをはかること	子どもに対して、家事などを男女で分担するようなしつけや育て方を行なうこと	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行なうこと	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	特に必要ない	その他	わからない	無回答
全体		100.0	49.2	12.4	47.5	42.8	13.6	42.7	48.7	31.6	26.3	17.9	2.0	2.0	2.3	1.1
		1395	686	173	663	597	190	595	679	441	367	250	28	28	32	15
性・年代別	男性計	100.0	41.6	9.7	45.2	34.8	14.8	41.0	45.4	24.9	20.8	16.7	2.7	2.3	2.3	0.8
		515	214	50	233	179	76	211	234	128	107	86	14	12	12	4
	20代	100.0	35.7	10.7	51.8	41.1	21.4	53.6	53.6	28.6	25.0	23.2	1.8	0.0	1.8	1.8
		56	20	6	29	23	12	30	30	16	14	13	1	0	1	1
	30代	100.0	41.9	8.1	50.0	48.6	16.2	59.5	43.2	21.6	24.3	10.8	1.4	1.4	1.4	1.4
		74	31	6	37	36	12	44	32	16	18	8	1	1	1	1
	40代	100.0	40.9	7.6	39.4	40.9	13.6	53.0	36.4	21.2	30.3	22.7	4.5	1.5	0.0	1.5
		66	27	5	26	27	9	35	24	14	20	15	3	1	0	1
	50代	100.0	46.0	9.0	45.0	25.0	9.0	42.0	42.0	25.0	14.0	16.0	6.0	6.0	3.0	0.0
		100	46	9	45	25	9	42	42	25	14	16	6	6	3	0
	60代	100.0	40.2	11.4	43.2	30.3	13.6	29.5	43.2	25.0	20.5	14.4	0.0	3.0	3.0	0.8
		132	53	15	57	40	18	39	57	33	27	19	0	4	4	1
	70歳以上	100.0	42.5	10.3	44.8	32.2	18.4	24.1	56.3	27.6	16.1	17.2	3.4	0.0	3.4	0.0
		87	37	9	39	28	16	21	49	24	14	15	3	0	3	0
	女性計	100.0	54.5	13.9	49.0	48.5	12.8	43.7	51.1	36.2	29.9	18.5	1.5	1.9	1.9	1.1
		842	459	117	413	408	108	368	430	305	252	156	13	16	16	9
	20代	100.0	58.5	10.6	45.7	56.4	19.1	63.8	60.6	25.5	31.9	17.0	2.1	2.1	2.1	0.0
		94	55	10	43	53	18	60	57	24	30	16	2	2	2	0
	30代	100.0	52.6	12.5	50.7	52.0	11.8	58.6	57.9	30.3	25.7	12.5	0.0	2.0	1.3	2.0
		152	80	19	77	79	18	89	88	46	39	19	0	3	2	3
40代	100.0	56.3	15.0	53.1	55.0	12.5	49.4	41.9	34.4	33.8	18.8	2.5	4.4	0.0	0.0	
	160	90	24	85	88	20	79	67	55	54	30	4	7	0	0	
50代	100.0	57.9	11.2	55.1	50.0	11.2	37.6	53.9	38.8	33.7	19.7	1.7	1.7	0.6	0.6	
	178	103	20	98	89	20	67	96	69	60	35	3	3	1	1	
60代	100.0	53.9	17.6	45.5	44.8	15.2	35.8	48.5	43.6	30.9	25.5	0.6	0.6	2.4	0.6	
	165	89	29	75	74	25	59	80	72	51	42	1	1	4	1	
70歳以上	100.0	46.7	15.6	37.8	26.7	7.8	15.6	45.6	43.3	20.0	15.6	3.3	0.0	6.7	4.4	
	90	42	14	34	24	7	14	41	39	18	14	3	0	6	4	
性別役割分担の考え方	賛成	100.0	44.4	12.3	40.6	35.8	11.5	39.3	51.3	29.1	20.8	16.1	3.5	2.7	2.2	1.0
		626	278	77	254	224	72	246	321	182	130	101	22	17	14	6
反対	100.0	53.8	13.2	55.4	49.8	15.9	46.3	47.3	35.9	32.0	20.8	0.7	1.8	0.7	1.0	
	615	331	81	341	306	98	285	291	221	197	128	4	11	4	6	
わからない	100.0	51.4	9.4	47.8	44.2	13.8	42.8	44.2	23.2	26.1	12.3	1.4	0.0	10.1	1.4	
	138	71	13	66	61	19	59	61	32	36	17	2	0	14	2	

4 社会活動・地域活動

(1) 社会活動・地域活動への参加状況

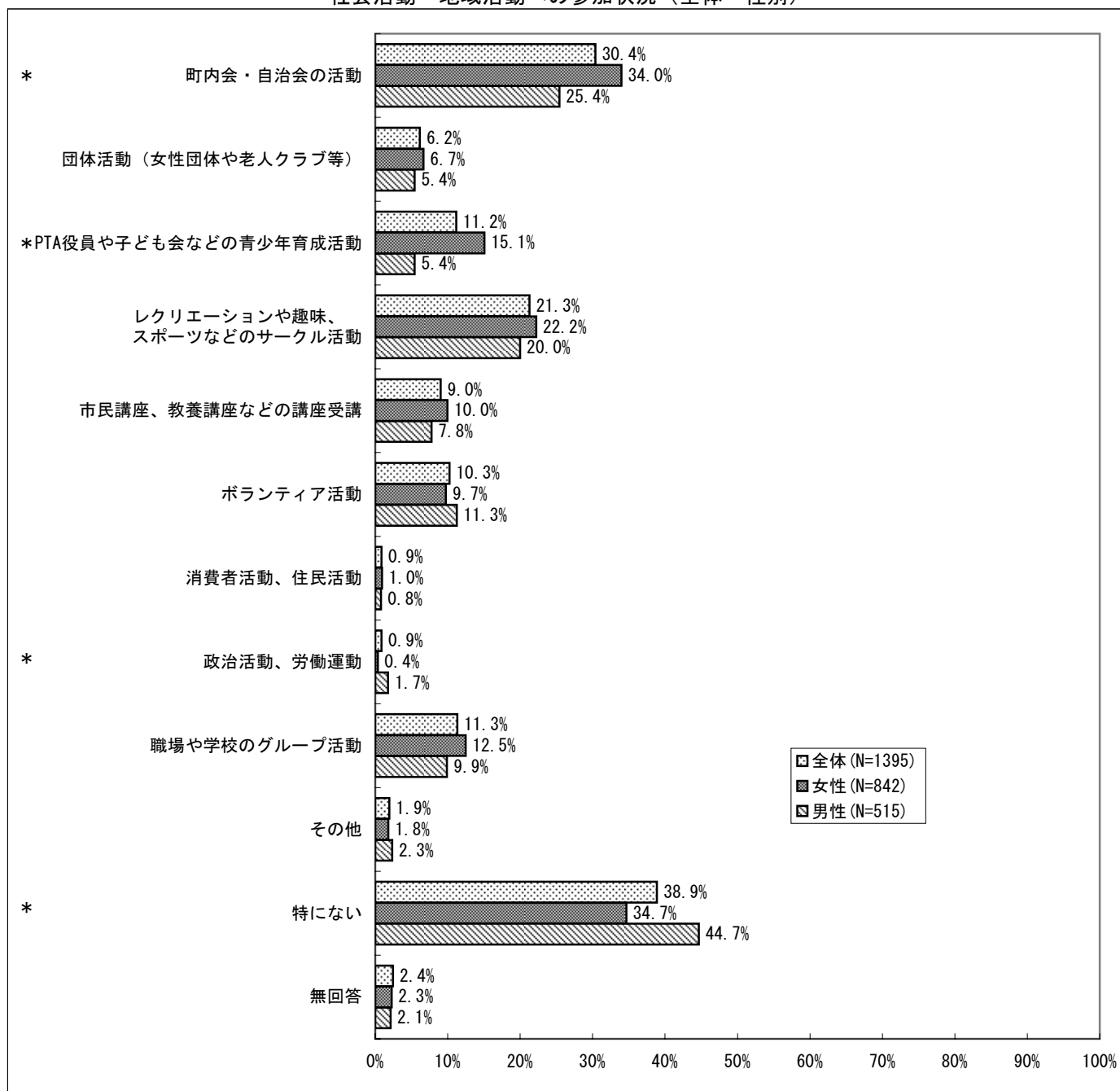
【問11】 あなたは現在、次のような活動に参加していますか。（複数回答）

～全体の4割は参加していない。一番多く参加しているのは町内会・自治会活動～

社会活動・地域活動への参加状況を見ると、全体では「特にない」（38.9%）の割合が最も高くなっているものの、参加しているものとしては「町内会・自治会の活動」（30.4%）、「レクリエーションや趣味・スポーツなどのサークル活動」（21.3%）の割合が高くなっている。

これを性別にみると、「町内会・自治会の活動」（女性：34.0%、男性：25.4%）、「PTA役員や子ども会などの青少年育成活動」（女性：15.1%、男性：5.4%）、「政治活動、労働運動」（女性：0.4%、男性：1.7%）、「特にない」（女性：34.7%、男性：44.7%）において有意差がみられ、「町内会・自治会の活動」と「PTA役員や子ども会などの青少年育成活動」では男性より女性の割合が高く、「政治活動、労働運動」と「特にない」は女性より男性が高くなっている。

社会活動・地域活動への参加状況（全体・性別）



*: 性別で有意差あり

社会活動・地域活動への参加状況（性・年代、性・配偶者の有無、性別役割分担の考え方別）

	サンプル数	町内会・自治会の活動	団体活動（女性団体や老人クラブ等）	PTA役員や子ども会などの青少年育成活動	スポーツなどのサークル活動	レクリエーションや趣味、の講座受講	市民講座、教養講座など	ボランティア活動	消費者活動、住民活動	政治活動、労働運動	職場や学校のグループ活動	その他	特にない	無回答	
全体	100.0 1395	30.4 424	6.2 86	11.2 156	21.3 297	9.0 126	10.3 143	0.9 12	0.9 12	11.3 158	1.9 27	38.9 542	2.4 34		
性・年代別	男性計	100.0 515	25.4 131	5.4 28	5.4 28	20.0 103	7.8 40	11.3 58	0.8 4	1.7 9	9.9 51	2.3 12	44.7 230	2.1 11	
	20代	100.0 56	3.6 2	1.8 1	1.8 1	33.9 19	1.8 1	14.3 8	0.0 0	0.0 0	32.1 18	0.0 0	46.4 26	0.0 0	
	30代	100.0 74	12.2 9	2.7 2	4.1 3	17.6 13	4.1 3	5.4 4	1.4 1	4.1 3	16.2 12	1.4 1	56.8 42	1.4 1	
	40代	100.0 66	27.3 18	1.5 1	13.6 9	12.1 8	3.0 2	6.1 4	1.5 1	0.0 0	12.1 8	0.0 0	50.0 33	3.0 2	
	50代	100.0 100	30.0 30	3.0 3	6.0 6	12.0 12	2.0 2	10.0 10	1.0 1	1.0 1	11.0 11	1.0 1	50.0 50	3.0 3	
	60代	100.0 132	29.5 39	5.3 7	3.8 5	18.2 24	11.4 15	13.6 18	0.8 1	3.0 4	0.8 1	3.8 5	40.9 54	3.0 4	
	70歳以上	100.0 87	37.9 33	16.1 14	4.6 4	31.0 27	19.5 17	16.1 14	0.0 0	1.1 1	1.1 1	5.7 5	28.7 25	1.1 1	
	女性計	100.0 842	34.0 286	6.7 56	15.1 127	22.2 187	10.0 84	9.7 82	1.0 8	0.4 3	12.5 105	1.8 15	34.7 292	2.3 19	
	20代	100.0 94	5.3 5	0.0 0	0.0 0	19.1 18	9.6 9	7.4 7	0.0 0	0.0 0	20.2 19	0.0 0	50.0 47	2.1 2	
	30代	100.0 152	28.9 44	1.3 2	25.7 39	13.8 21	3.9 6	2.6 4	0.7 1	0.0 0	16.4 25	0.7 1	42.1 64	2.6 4	
	40代	100.0 160	38.8 62	5.0 8	42.5 68	16.9 27	7.5 12	9.4 15	0.6 1	0.6 1	20.0 32	1.9 3	25.6 41	1.9 3	
	50代	100.0 178	39.3 70	5.6 10	8.4 15	26.4 47	11.2 20	9.6 17	0.6 1	1.1 2	12.9 23	2.8 5	32.6 58	0.6 1	
	60代	100.0 165	43.0 71	12.1 20	2.4 4	31.5 52	16.4 27	18.8 31	2.4 4	0.0 0	3.0 5	1.8 3	27.3 45	2.4 4	
	70歳以上	100.0 90	37.8 34	17.8 16	1.1 1	23.3 21	11.1 10	8.9 8	1.1 1	0.0 0	1.1 1	3.3 3	40.0 36	4.4 4	
	性・配偶者の有無別	男性計	100.0 515	25.4 131	5.4 28	5.4 28	20.0 103	7.8 40	11.3 58	0.8 4	1.7 9	9.9 51	2.3 12	44.7 230	2.1 11
		結婚している	100.0 393	30.3 119	6.1 24	6.6 26	19.6 77	8.7 34	11.5 45	0.8 3	2.0 8	7.1 28	2.3 9	42.7 168	1.5 6
		結婚していない	100.0 112	8.0 9	1.8 2	1.8 2	21.4 24	4.5 5	10.7 12	0.9 1	0.9 1	20.5 23	1.8 2	50.0 56	4.5 5
		女性計	100.0 842	34.0 286	6.7 56	15.1 127	22.2 187	10.0 84	9.7 82	1.0 8	0.4 3	12.5 105	1.8 15	34.7 292	2.3 19
		結婚している	100.0 589	40.6 239	7.1 42	18.7 110	23.1 136	10.4 61	10.0 59	1.2 7	0.2 1	12.4 73	2.0 12	30.2 178	1.5 9
		結婚していない	100.0 243	17.3 42	5.3 13	6.2 15	19.8 48	9.1 22	9.1 22	0.4 1	0.8 2	13.2 32	1.2 3	46.5 113	2.9 7
性別役割分担の考え方	賛成	100.0 626	33.1 207	7.8 49	8.9 56	20.8 130	10.2 64	11.7 73	0.5 3	1.0 6	8.1 51	2.1 13	38.2 239	2.4 15	
	反対	100.0 615	28.9 178	5.2 32	14.1 87	23.7 146	8.9 55	9.9 61	1.1 7	0.8 5	14.8 91	2.1 13	37.4 230	2.1 13	
	わからない	100.0 138	26.1 36	3.6 5	8.7 12	13.8 19	4.3 6	6.5 9	0.7 1	0.7 1	10.1 14	0.7 1	47.8 66	2.9 4	

(2) 女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと

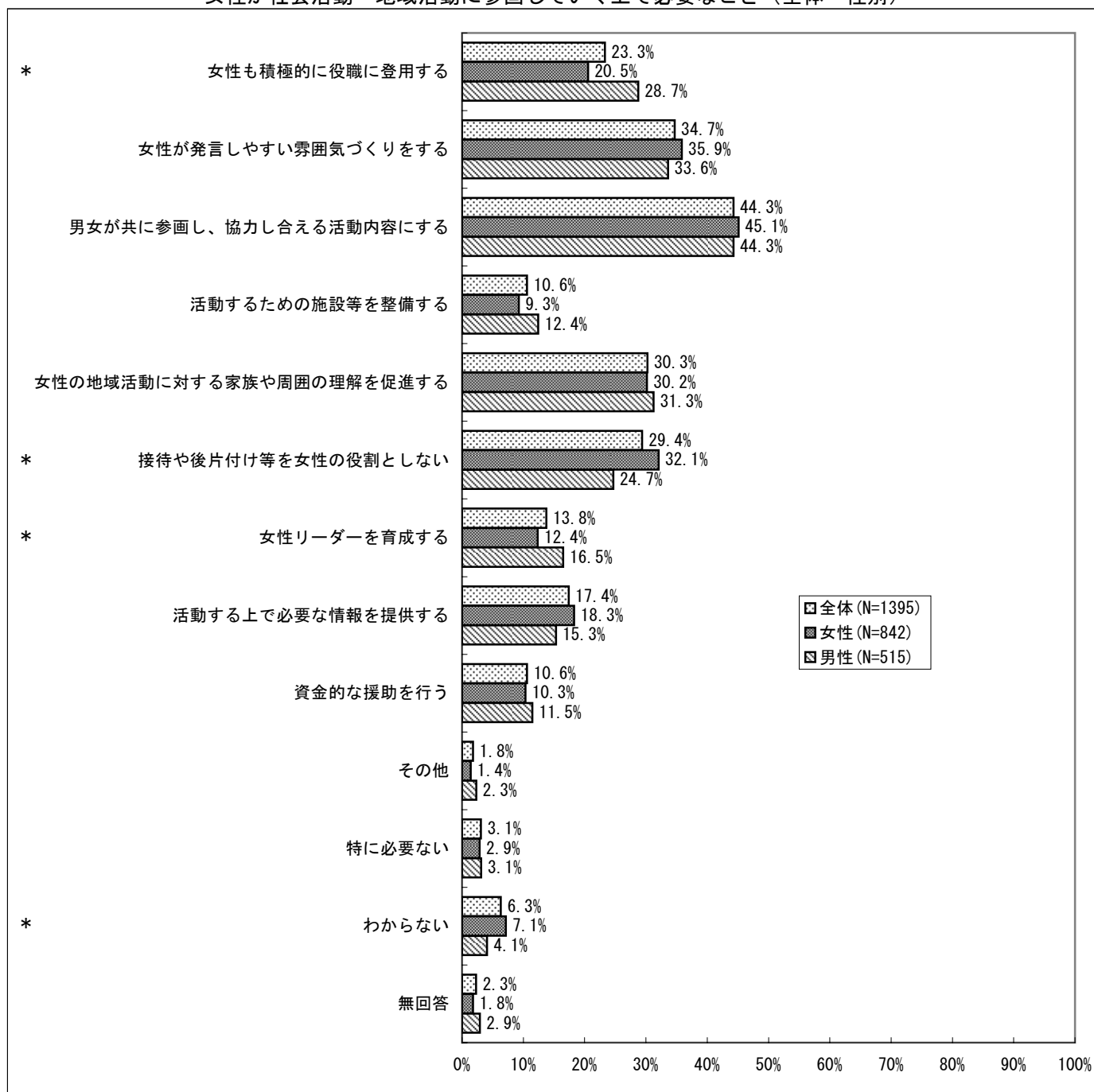
【問12】 特に、女性が社会活動・地域活動に参画していく上ではどのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

～「男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする」が最も多い～

女性が社会活動・地域活動等に参画していく上で必要なことについてみると、全体では「男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする」（44.3%）の割合が最も高く、「女性が発言しやすい雰囲気づくりをする」（34.7%）、「女性の地域活動に対する家族や周囲の理解を促進する」（30.3%）が続いている。

これを性別に見ると、「女性も積極的に役職に登用する」（女性：20.5%、男性：28.7%）、「接待や後片付け等を女性の役割としない」（女性：32.1%、男性：24.7%）、「女性リーダーを育成する」（女性：12.4%、男性：16.5%）において有意差がみられ、「接待や後片付け等を女性の役割としない」では男性より女性の割合が高く、「女性も積極的に役職に登用する」と「女性リーダーを育成する」では女性より男性の割合が高くなっている。

女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと（全体・性別）



*: 性別で有意差あり

女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと（性・年代別）

		サンプル数	女性も積極的に役職に登用する	女性が発言しやすい雰囲気づくりをする	男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする	活動するための施設等を整備する	女性や周囲の地域活動に対する家族の理解を促進する	接待や後片付け等を女性の役割としない	女性リーダーを育成する	活動する上で必要な情報を提供する	資金的な援助を行う	その他	特に必要ない	わからない	無回答
全体		100.0	23.3	34.7	44.3	10.6	30.3	29.4	13.8	17.4	10.6	1.8	3.1	6.3	2.3
		1395	325	484	618	148	422	410	192	243	148	25	43	88	32
性・年代別	男性計	100.0	28.7	33.6	44.3	12.4	31.3	24.7	16.5	15.3	11.5	2.3	3.1	4.1	2.9
		515	148	173	228	64	161	127	85	79	59	12	16	21	15
	20代	100.0	35.7	41.1	51.8	5.4	28.6	30.4	14.3	17.9	10.7	1.8	3.6	1.8	1.8
		56	20	23	29	3	16	17	8	10	6	1	2	1	1
	30代	100.0	25.7	40.5	48.6	8.1	21.6	24.3	20.3	20.3	16.2	6.8	4.1	4.1	0.0
		74	19	30	36	6	16	18	15	15	12	5	3	3	0
	40代	100.0	25.8	33.3	40.9	13.6	22.7	21.2	22.7	9.1	15.2	1.5	4.5	3.0	3.0
		66	17	22	27	9	15	14	15	6	10	1	3	2	2
	50代	100.0	23.0	30.0	43.0	13.0	37.0	22.0	17.0	18.0	10.0	1.0	3.0	6.0	4.0
		100	23	30	43	13	37	22	17	18	10	1	3	6	4
	60代	100.0	28.0	27.3	41.7	15.2	34.8	27.3	12.1	17.4	8.3	2.3	0.8	5.3	3.8
		132	37	36	55	20	46	36	16	23	11	3	1	7	5
	70歳以上	100.0	36.8	36.8	43.7	14.9	35.6	23.0	16.1	8.0	11.5	1.1	4.6	2.3	3.4
		87	32	32	38	13	31	20	14	7	10	1	4	2	3
	女性計	100.0	20.5	35.9	45.1	9.3	30.2	32.1	12.4	18.3	10.3	1.4	2.9	7.1	1.8
		842	173	302	380	78	254	270	104	154	87	12	24	60	15
	20代	100.0	23.4	37.2	35.1	9.6	24.5	38.3	11.7	14.9	9.6	1.1	3.2	8.5	1.1
		94	22	35	33	9	23	36	11	14	9	1	3	8	1
	30代	100.0	21.7	32.9	38.2	7.2	28.3	42.1	13.8	17.8	8.6	2.0	3.3	5.3	0.7
		152	33	50	58	11	43	64	21	27	13	3	5	8	1
40代	100.0	21.3	35.0	45.0	8.1	33.8	33.1	11.9	13.8	14.4	2.5	3.1	5.6	0.6	
	160	34	56	72	13	54	53	19	22	23	4	5	9	1	
50代	100.0	16.9	36.0	51.7	11.8	32.0	32.0	11.8	21.3	9.6	1.7	2.2	6.7	1.1	
	178	30	64	92	21	57	57	21	38	17	3	4	12	2	
60代	100.0	18.8	37.6	47.3	9.7	35.2	26.1	13.3	23.0	10.3	0.6	3.0	7.3	2.4	
	165	31	62	78	16	58	43	22	38	17	1	5	12	4	
70歳以上	100.0	25.6	38.9	51.1	8.9	20.0	18.9	11.1	16.7	8.9	0.0	2.2	12.2	4.4	
	90	23	35	46	8	18	17	10	15	8	0	2	11	4	

5 結婚について

(1) 結婚についての考え

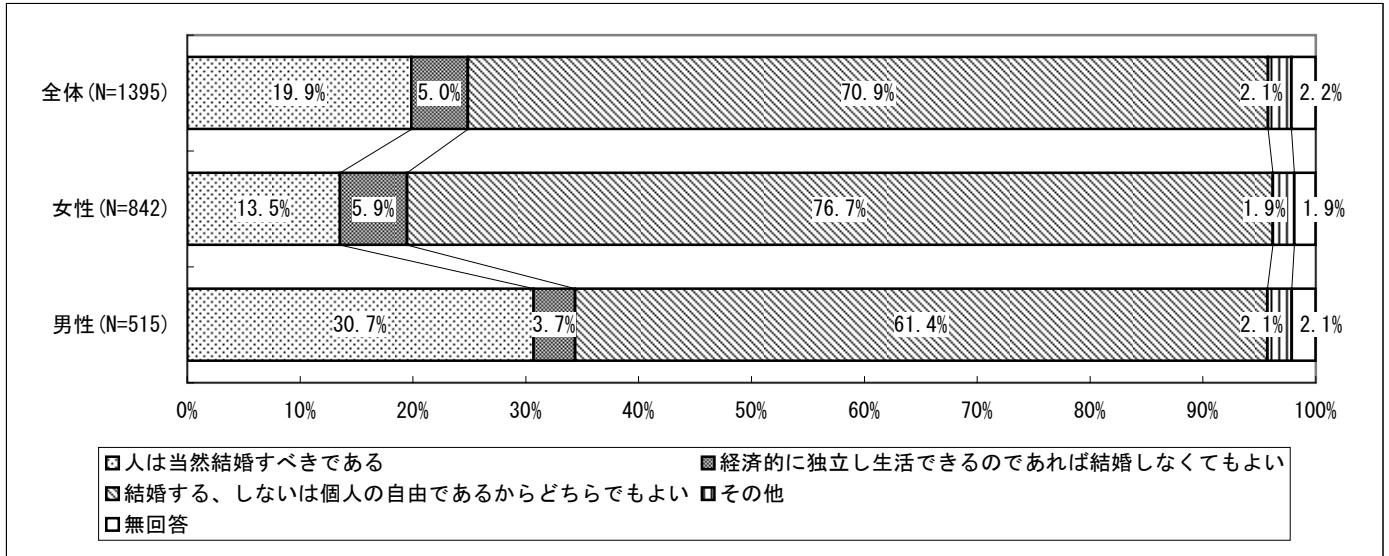
【問13】 結婚についてのあなたの考えに近いものはどれですか。

～結婚は個人の自由とする考え方が7割～

結婚についての考えをみると、全体では「結婚する、しないは個人の自由であるからどちらでもよい」(70.9%)の割合が最も高くなっている。

これを性別にみると、「人は当然結婚すべきである」(女性：13.5%、男性：30.7%)において男性の割合が女性の割合より高くなっており、「結婚する、しないは個人の自由であるからどちらでもよい」(女性：76.7%、男性：61.4%)の割合が女性の割合が男性の割合より高くなっている。

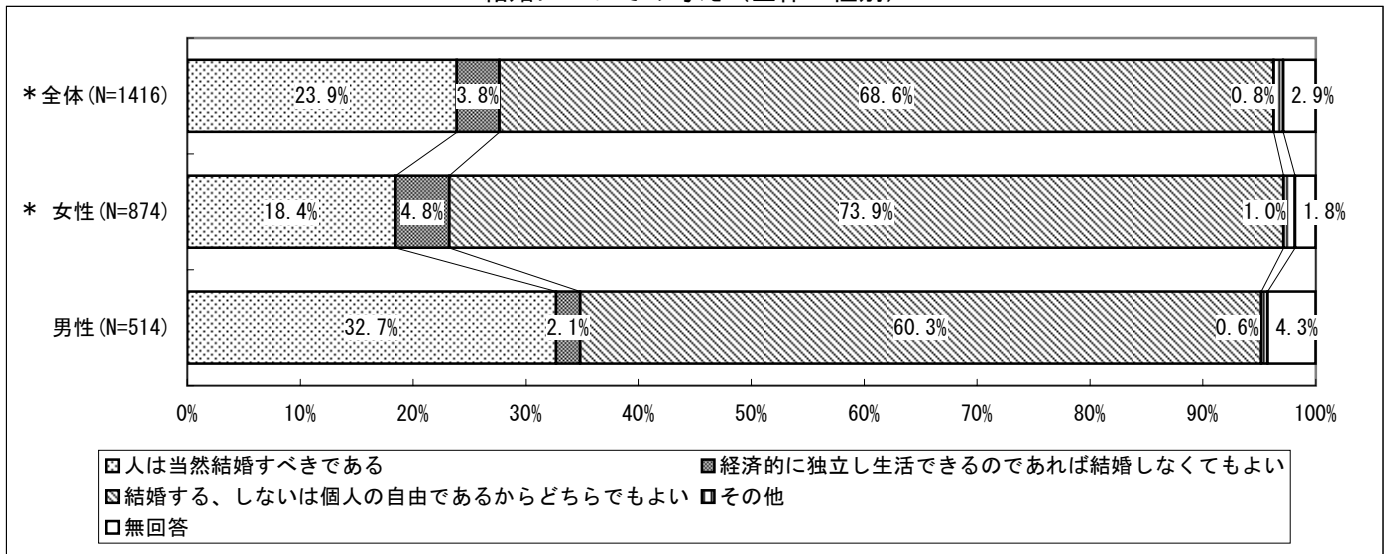
結婚についての考え (全体・性別)



【前回調査】

前回調査と比較すると、全体と女性において今回調査との有意差がみられ、いずれも「人は当然結婚すべきである」(全体・今回：19.9%、前回：23.9%) (女性・今回：13.5%、前回：18.4%)の割合が減少している。

結婚についての考え (全体・性別)

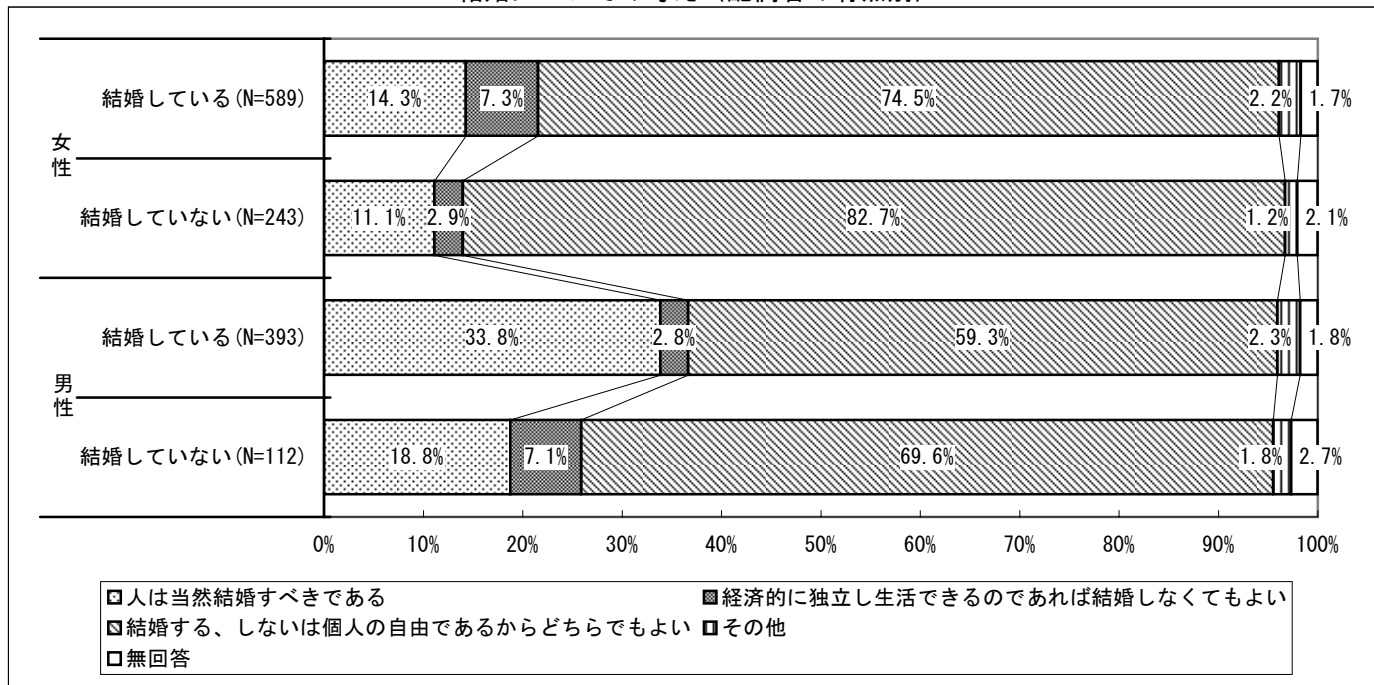


*: 今回調査と有意差あり

配偶者の有無別では、性別に関係なく「人は当然結婚すべきである」の割合は「結婚している」（女性：14.3%、男性：33.8%）が「結婚していない」（女性：11.1%、男性：18.8%）より高く、「結婚する、しないは個人の自由であるからどちらでもよい」の割合は「結婚していない」（女性：82.7%、男性：69.6%）が「結婚している」（女性：74.5%、男性：59.3%）より高くなっている。

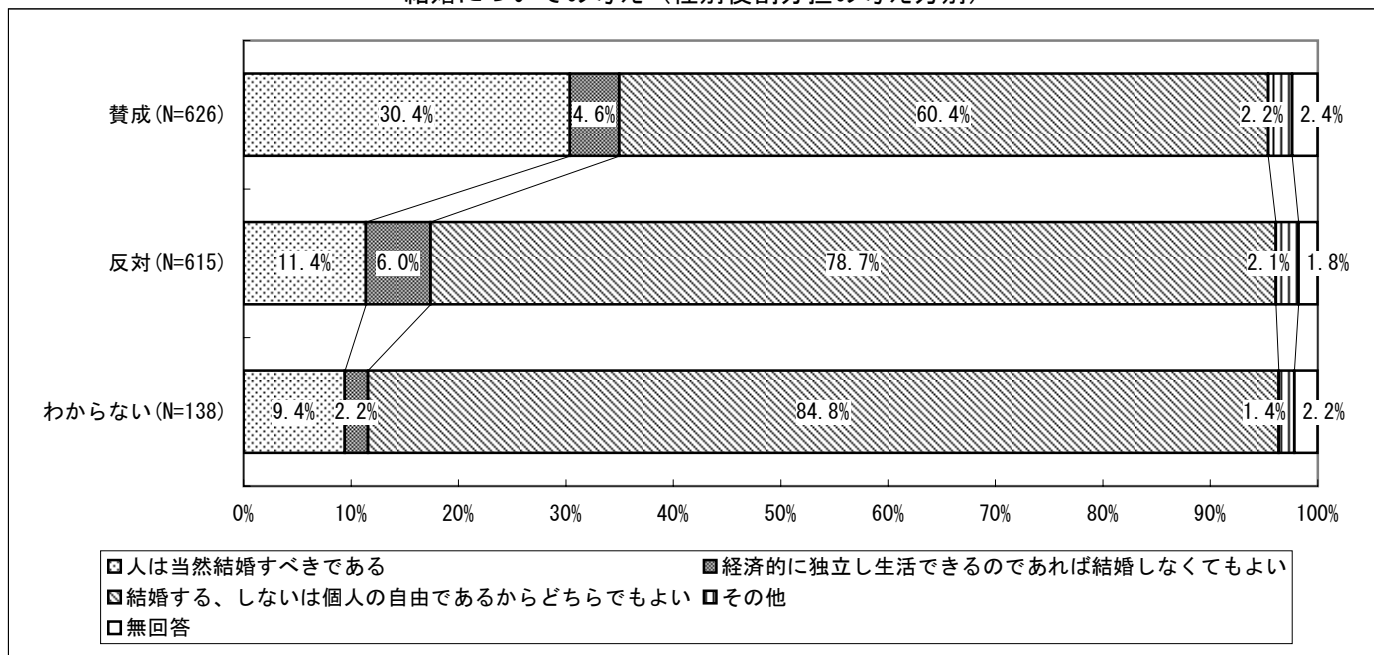
また、「経済的に独立し生活できるのであれば結婚しなくてもよい」の割合は、男性は「結婚していない」（7.1%）が「結婚している」（2.8%）より高く、女性は「結婚している」（7.3%）が「結婚していない」（2.9%）より高くなっている。

結婚についての考え（配偶者の有無別）



性別役割分担の考え方別では、『賛成』※は『反対』※、「わからない」と比べ「人は当然結婚すべきである」（『賛成』：30.4%、『反対』：11.4%、「わからない」：9.4%）の割合が高く、「結婚する、しないは個人の自由であるからどちらでもよい」（『賛成』：60.4%、『反対』：78.7%、「わからない」：84.8%）が低くなっている。

結婚についての考え（性別役割分担の考え方別）



※ 『賛成』『反対』については、18ページの※を参照。

結婚についての考え（性・年代、性・配偶者の有無、性別役割分担の考え方別）

	サンプル数	人は当然結婚すべきである	経済的に独立しなくてもよければ結婚しない	個人的自由であるかは関係ない	その他	無回答		
全体	100.0 1395	19.9 277	5.0 70	70.9 989	2.1 29	2.2 30		
性・年代別	男性計	100.0 515	30.7 158	3.7 19	61.4 316	2.1 11	2.1 11	
	20代	100.0 56	14.3 8	7.1 4	78.6 44	0.0 0	0.0 0	
	30代	100.0 74	10.8 8	0.0 0	86.5 64	2.7 2	0.0 0	
	40代	100.0 66	22.7 15	6.1 4	66.7 44	1.5 1	3.0 2	
	50代	100.0 100	33.0 33	5.0 5	57.0 57	2.0 2	3.0 3	
	60代	100.0 132	39.4 52	1.5 2	53.8 71	2.3 3	3.0 4	
	70歳以上	100.0 87	48.3 42	4.6 4	41.4 36	3.4 3	2.3 2	
	女性計	100.0 842	13.5 114	5.9 50	76.7 646	1.9 16	1.9 16	
	20代	100.0 94	6.4 6	1.1 1	90.4 85	1.1 1	1.1 1	
	30代	100.0 152	3.9 6	2.0 3	93.4 142	0.0 0	0.7 1	
	40代	100.0 160	6.9 11	8.8 14	79.4 127	4.4 7	0.6 1	
	50代	100.0 178	14.0 25	6.7 12	75.3 134	2.8 5	1.1 2	
	60代	100.0 165	24.8 41	9.1 15	61.2 101	1.2 2	3.6 6	
	70歳以上	100.0 90	26.7 24	5.6 5	62.2 56	1.1 1	4.4 4	
	性・配偶者の有無別	男性計	100.0 515	30.7 158	3.7 19	61.4 316	2.1 11	2.1 11
		結婚している	100.0 393	33.8 133	2.8 11	59.3 233	2.3 9	1.8 7
		結婚していない	100.0 112	18.8 21	7.1 8	69.6 78	1.8 2	2.7 3
		女性計	100.0 842	13.5 114	5.9 50	76.7 646	1.9 16	1.9 16
		結婚している	100.0 589	14.3 84	7.3 43	74.5 439	2.2 13	1.7 10
		結婚していない	100.0 243	11.1 27	2.9 7	82.7 201	1.2 3	2.1 5
性別役割分担の考え方	賛成	100.0 626	30.4 190	4.6 29	60.4 378	2.2 14	2.4 15	
	反対	100.0 615	11.4 70	6.0 37	78.7 484	2.1 13	1.8 11	
	わからない	100.0 138	9.4 13	2.2 3	84.8 117	1.4 2	2.2 3	

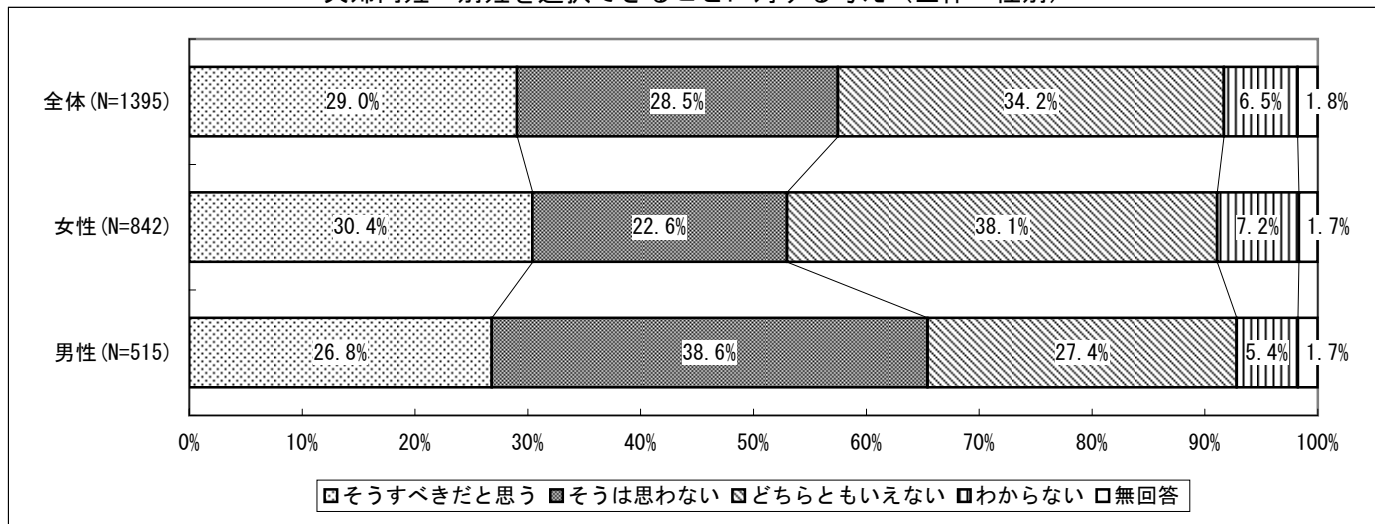
(2) 夫婦同姓・別姓を選択できることに対する考え

【問14】 現在の法律では、夫または妻のどちらかの姓を選び、夫婦は同じ姓を名乗るようになっていますが、「夫婦は同じ姓を名乗る」か「別々の姓を名乗る」かを選択できるようにすることについてどう思いますか。

～「賛成」「反対」「どちらともいえない」がほぼ同数～

夫婦同姓・別姓を選択することに対する考えについてみると、全体では「そうすべきだと思う」(29.0%)、「そうは思わない」(28.5%)、「どちらともいえない」(34.2%)となっている。
これを性別にみると、「そうは思わない」(女性：22.6%、男性：38.6%)の割合は男性が女性より高く、「どちらともいえない」(女性：38.1%、男性：27.4%)は女性が男性より高くなっている。
配偶者の有無による有意差はみられない。

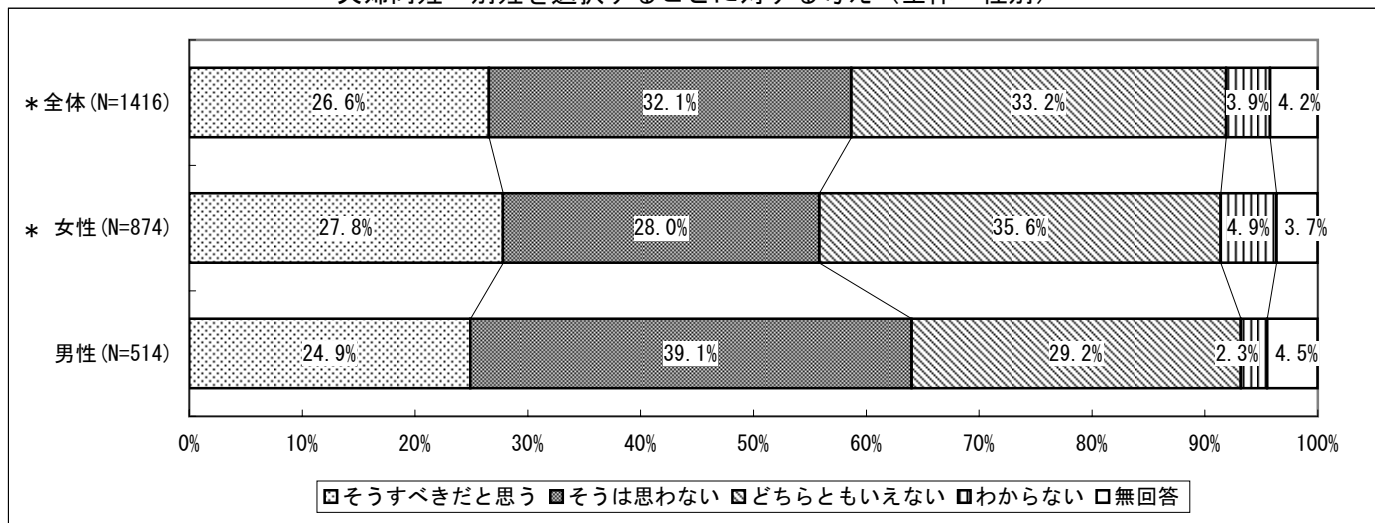
夫婦同姓・別姓を選択できることに対する考え（全体・性別）



【前回調査】

前回調査と比較すると、全体と女性について有意差がみられ、いずれも「そうすべきだと思う」(全体・今回：29.0%、前回：26.6%) (女性・今回：30.4%、前回：27.8%)の割合が増加し、「そうは思わない」(全体・今回：28.5%、前回：32.1%) (女性・今回：22.6%、前回：28.0%)が減少している。

夫婦同姓・別姓を選択することに対する考え（全体・性別）



*: 今回調査と有意差あり

夫婦同姓・別姓を選択できることに対する考え（性・年代、性・配偶者の有無別）

		サンプル数	うそうすべきだと思	そうは思わない	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体		100.0 1395	29.0 405	28.5 397	34.2 477	6.5 91	1.8 25	
性・年代別	男性計	100.0 515	26.8 138	38.6 199	27.4 141	5.4 28	1.7 9	
	20代	100.0 56	30.4 17	35.7 20	30.4 17	3.6 2	0.0 0	
	30代	100.0 74	14.9 11	37.8 28	41.9 31	5.4 4	0.0 0	
	40代	100.0 66	28.8 19	31.8 21	31.8 21	6.1 4	1.5 1	
	50代	100.0 100	29.0 29	34.0 34	30.0 30	3.0 3	4.0 4	
	60代	100.0 132	29.5 39	40.9 54	18.9 25	9.1 12	1.5 2	
	70歳以上	100.0 87	26.4 23	48.3 42	19.5 17	3.4 3	2.3 2	
	女性計	100.0 842	30.4 256	22.6 190	38.1 321	7.2 61	1.7 14	
	20代	100.0 94	20.2 19	21.3 20	48.9 46	8.5 8	1.1 1	
	30代	100.0 152	27.6 42	21.7 33	42.8 65	7.2 11	0.7 1	
	40代	100.0 160	29.4 47	16.9 27	45.6 73	7.5 12	0.6 1	
	50代	100.0 178	33.1 59	26.4 47	32.6 58	7.9 14	0.0 0	
	60代	100.0 165	30.3 50	29.7 49	30.3 50	6.1 10	3.6 6	
	70歳以上	100.0 90	42.2 38	15.6 14	31.1 28	5.6 5	5.6 5	
	性・配偶者の有無別	男性計	100.0 515	26.8 138	38.6 199	27.4 141	5.4 28	1.7 9
		結婚している	100.0 393	25.7 101	39.2 154	27.7 109	5.3 21	2.0 8
		結婚していない	100.0 112	29.5 33	35.7 40	28.6 32	5.4 6	0.9 1
		女性計	100.0 842	30.4 256	22.6 190	38.1 321	7.2 61	1.7 14
		結婚している	100.0 589	30.9 182	23.8 140	37.5 221	6.5 38	1.4 8
結婚していない		100.0 243	29.2 71	20.2 49	40.7 99	7.8 19	2.1 5	

6 家庭での高齢者介護について

(1) 家庭での高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え

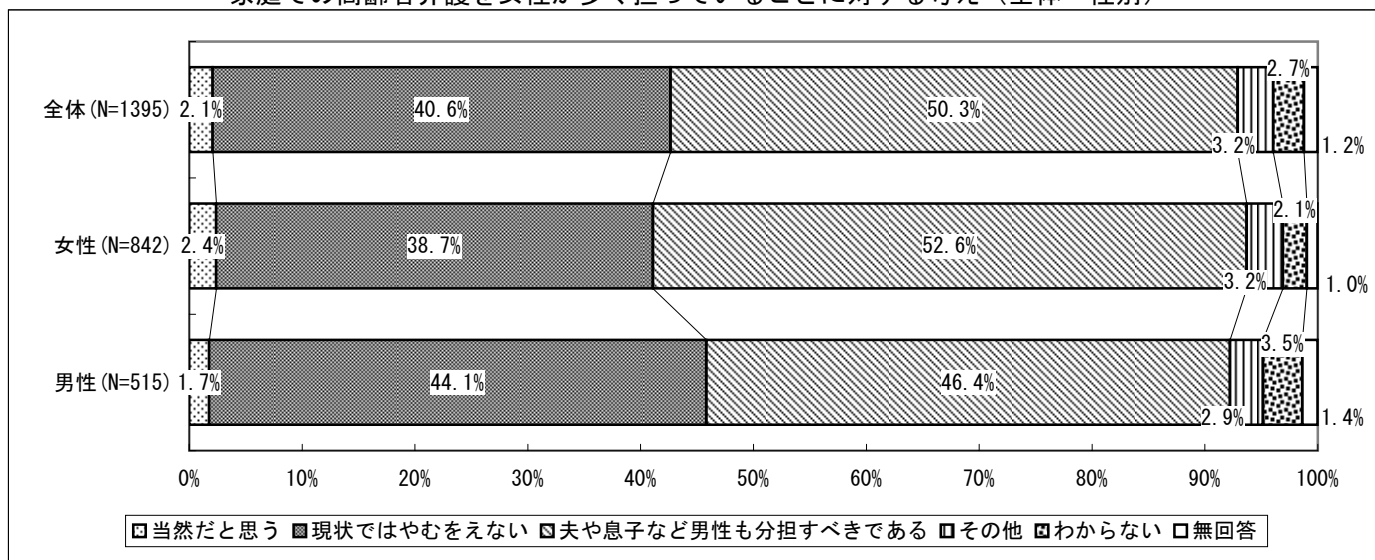
【問15】 現在、家庭での高齢者介護は、多くの場合女性が担っていますが、これについてどう思いますか。

～男性も分担すべきと考える人が5割～

家庭での高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考えをみると、全体では「夫や息子など男性も分担すべきである」が50.3%、「現状ではやむをえない」が40.6%となっており、この2項目で90.9%を占めている。

性別による、有意差はみられない。

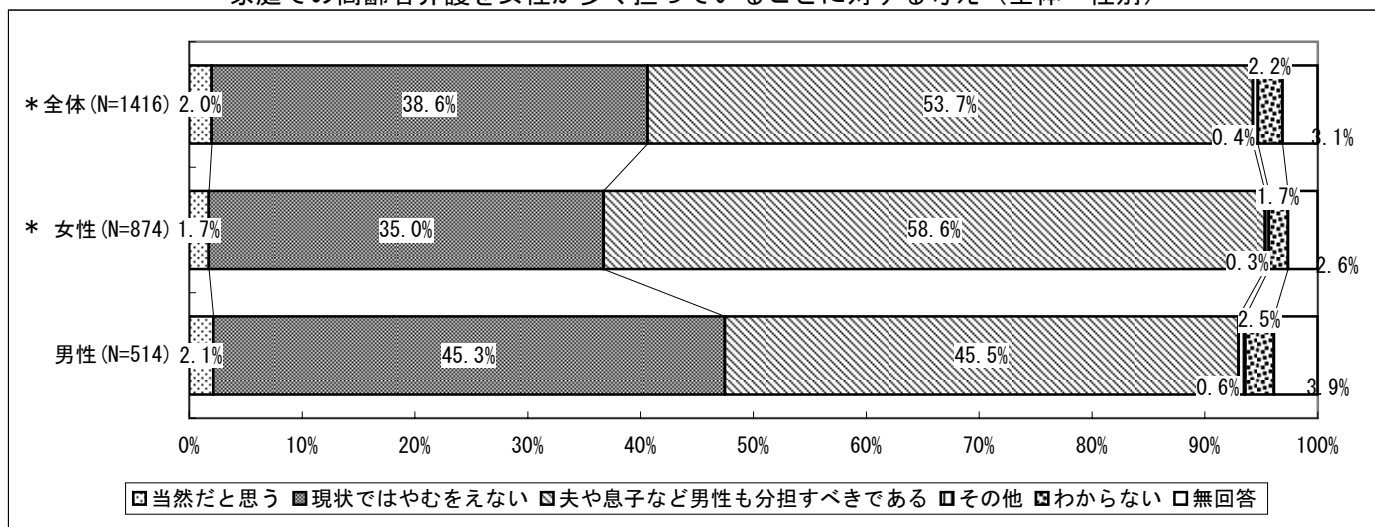
家庭での高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え（全体・性別）



【前回調査】

前回調査と比較すると、全体と女性に有意差がみられ、いずれも「夫や息子など男性も分担すべきである」（全体・今回：50.3%、前回：53.7%）（女性・今回：52.6%、前回：58.6%）の割合が減少し、「現状ではやむをえない」（全体・今回：40.6%、前回：38.6%）（女性・今回：38.7%、前回：35.0%）と「その他」（全体・今回：3.2%、前回：0.4%）（女性・今回：3.2%、前回：0.3%）が増加している。

家庭での高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え（全体・性別）



*: 今回調査と有意差あり

家庭での高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え（性・年代、性・配偶者の有無別）

	サンプル数	当然だと思う	現状ではやむを得ない	も夫や息子など男性も分担すべきである	その他	わからない	無回答		
全体	100.0 1395	2.1 29	40.6 566	50.3 701	3.2 44	2.7 38	1.2 17		
性・年代別	男性計	100.0 515	1.7 9	44.1 227	46.4 239	2.9 15	3.5 18	1.4 7	
	20代	100.0 56	0.0 0	41.1 23	50.0 28	1.8 1	7.1 4	0.0 0	
	30代	100.0 74	0.0 0	41.9 31	50.0 37	4.1 3	4.1 3	0.0 0	
	40代	100.0 66	3.0 2	50.0 33	39.4 26	4.5 3	1.5 1	1.5 1	
	50代	100.0 100	1.0 1	52.0 52	36.0 36	6.0 6	3.0 3	2.0 2	
	60代	100.0 132	1.5 2	41.7 55	50.8 67	1.5 2	3.0 4	1.5 2	
	70歳以上	100.0 87	4.6 4	37.9 33	51.7 45	0.0 0	3.4 3	2.3 2	
	女性計	100.0 842	2.4 20	38.7 326	52.6 443	3.2 27	2.1 18	1.0 8	
	20代	100.0 94	1.1 1	33.0 31	60.6 57	0.0 0	3.2 3	2.1 2	
	30代	100.0 152	2.0 3	30.3 46	63.2 96	2.0 3	2.0 3	0.7 1	
	40代	100.0 160	0.6 1	38.8 62	50.6 81	6.9 11	2.5 4	0.6 1	
	50代	100.0 178	1.7 3	39.3 70	55.1 98	3.4 6	0.6 1	0.0 0	
	60代	100.0 165	3.0 5	46.7 77	44.8 74	3.0 5	1.2 2	1.2 2	
	70歳以上	100.0 90	7.8 7	44.4 40	40.0 36	2.2 2	3.3 3	2.2 2	
	性・配偶者の有無別	男性計	100.0 515	1.7 9	44.1 227	46.4 239	2.9 15	3.5 18	1.4 7
		結婚している	100.0 393	1.8 7	43.3 170	47.6 187	3.6 14	2.5 10	1.3 5
		結婚していない	100.0 112	1.8 2	48.2 54	42.9 48	0.0 0	6.3 7	0.9 1
		女性計	100.0 842	2.4 20	38.7 326	52.6 443	3.2 27	2.1 18	1.0 8
		結婚している	100.0 589	2.4 14	39.7 234	51.4 303	4.2 25	1.5 9	0.7 4
		結婚していない	100.0 243	2.1 5	35.4 86	57.2 139	0.8 2	2.9 7	1.6 4

(2) 高齢者介護について今後必要なこと

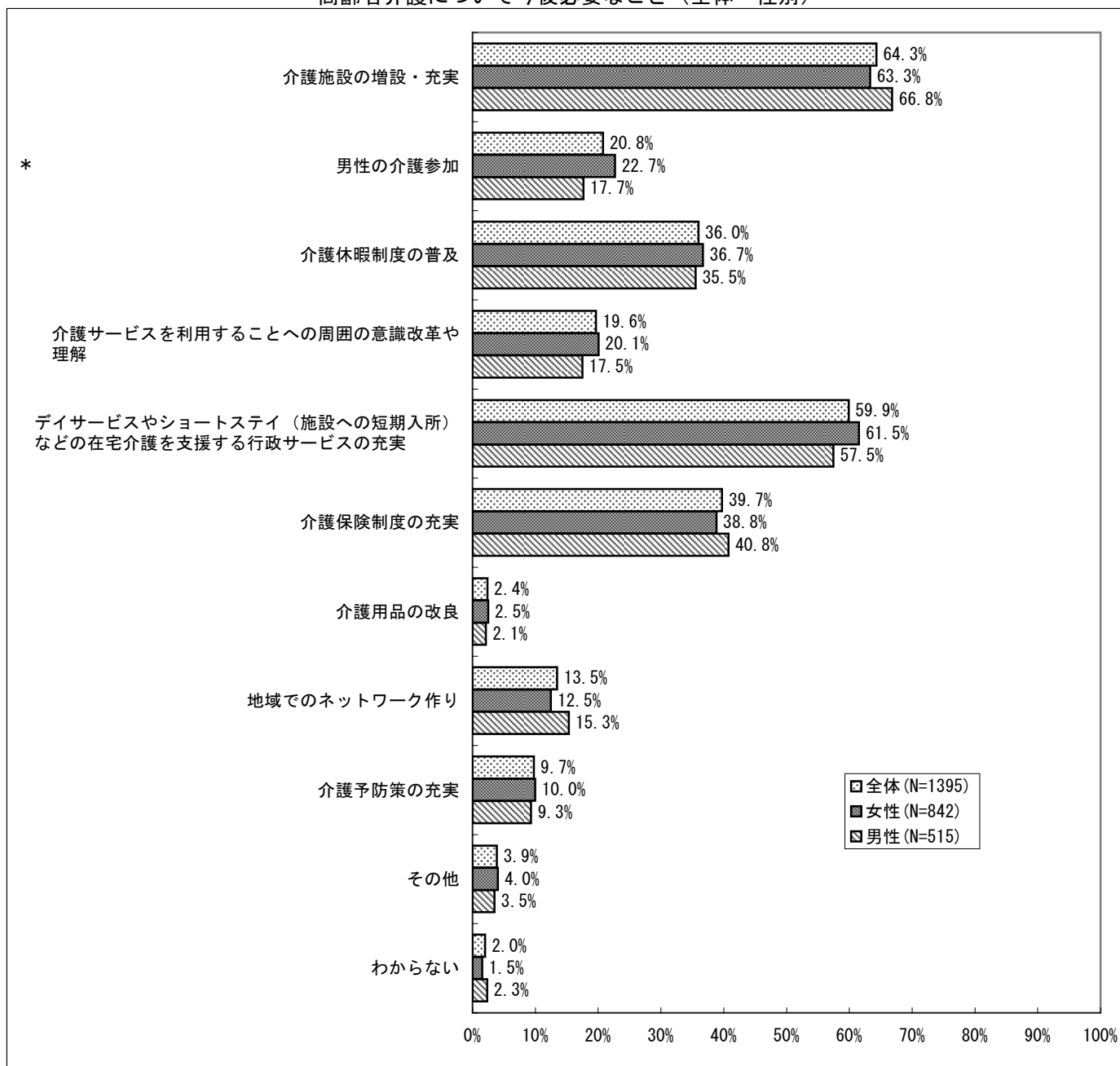
【問16】 高齢者介護について今後どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

～介護施設の増設・充実や、デイサービスなどの行政サービスの充実が求められている～

高齢者介護について今後必要なことについてみると、全体では「介護施設の増設・充実」（64.3%）の割合が最も高く、「デイサービスやショートステイ（施設への短期入所）などの在宅介護を支援する行政サービスの充実」（59.9%）が続いている。

これを性別にみると、「男性の介護参加」（女性：22.7%、男性：17.7%）において女性の割合が男性より高くなっている。

高齢者介護について今後必要なこと（全体・性別）



*: 性別で有意差あり

高齢者介護について今後必要なこと（性・年代別）

		サンプル数	介護施設の増設・充実	男性の介護参加	介護休暇制度の普及	介護サービスや理解	介護サービスを利用することへの周囲の意識	短期入所（サービス）の充実	デイサービスやショートステイ（施設への行政）	介護保険制度の充実	介護用品の改良	地域でのネットワーク作り	介護予防策の充実	その他	わからない	無回答
全体		100.0	64.3	20.8	36.0	19.6	59.9	39.7	2.4	13.5	9.7	3.9	2.0	1.1		
		1395	897	290	502	274	836	554	33	188	136	54	28	16		
性・年代別	男性計	100.0	66.8	17.7	35.5	17.5	57.5	40.8	2.1	15.3	9.3	3.5	2.3	1.4		
		515	344	91	183	90	296	210	11	79	48	18	12	7		
	20代	100.0	58.9	33.9	44.6	19.6	46.4	30.4	3.6	32.1	7.1	3.6	1.8	1.8		
		56	33	19	25	11	26	17	2	18	4	2	1	1		
	30代	100.0	52.7	21.6	58.1	13.5	44.6	40.5	4.1	18.9	12.2	5.4	2.7	0.0		
		74	39	16	43	10	33	30	3	14	9	4	2	0		
	40代	100.0	62.1	10.6	51.5	27.3	57.6	36.4	1.5	15.2	6.1	3.0	3.0	1.5		
		66	41	7	34	18	38	24	1	10	4	2	2	1		
	50代	100.0	70.0	13.0	35.0	15.0	68.0	44.0	2.0	9.0	13.0	4.0	1.0	2.0		
		100	70	13	35	15	68	44	2	9	13	4	1	2		
	60代	100.0	68.2	15.9	17.4	18.2	64.4	41.7	0.0	15.2	8.3	3.0	3.0	2.3		
		132	90	21	23	24	85	55	0	20	11	4	4	3		
	70歳以上	100.0	81.6	17.2	26.4	13.8	52.9	46.0	3.4	9.2	8.0	2.3	2.3	0.0		
		87	71	15	23	12	46	40	3	8	7	2	2	0		
	女性計	100.0	63.3	22.7	36.7	20.1	61.5	38.8	2.5	12.5	10.0	4.0	1.5	0.8		
		842	533	191	309	169	518	327	21	105	84	34	13	7		
	20代	100.0	59.6	29.8	54.3	18.1	54.3	40.4	1.1	13.8	11.7	5.3	3.2	1.1		
		94	56	28	51	17	51	38	1	13	11	5	3	1		
	30代	100.0	59.2	30.3	42.1	20.4	54.6	38.2	1.3	13.2	9.2	3.9	1.3	0.7		
		152	90	46	64	31	83	58	2	20	14	6	2	1		
40代	100.0	64.4	17.5	39.4	20.6	63.1	35.0	1.9	14.4	11.3	6.3	1.3	0.6			
	160	103	28	63	33	101	56	3	23	18	10	2	1			
50代	100.0	64.0	21.3	35.4	24.7	64.6	40.4	3.4	9.0	10.1	5.1	0.6	0.0			
	178	114	38	63	44	115	72	6	16	18	9	1	0			
60代	100.0	66.7	21.2	30.9	17.6	63.6	37.6	2.4	13.3	7.3	1.8	2.4	1.2			
	165	110	35	51	29	105	62	4	22	12	3	4	2			
70歳以上	100.0	66.7	17.8	18.9	16.7	70.0	45.6	5.6	12.2	12.2	1.1	1.1	2.2			
	90	60	16	17	15	63	41	5	11	11	1	1	2			

7 就労について

(1) (結婚、子育てを踏まえた) 女性の仕事に対する考え

【問17】 女性の仕事についてのあなたの考えをおたずねします。あなたが女性の場合はあなた自身について、男性の場合はあなたのパートナー（いない場合はいと仮定して）についてお答えください。

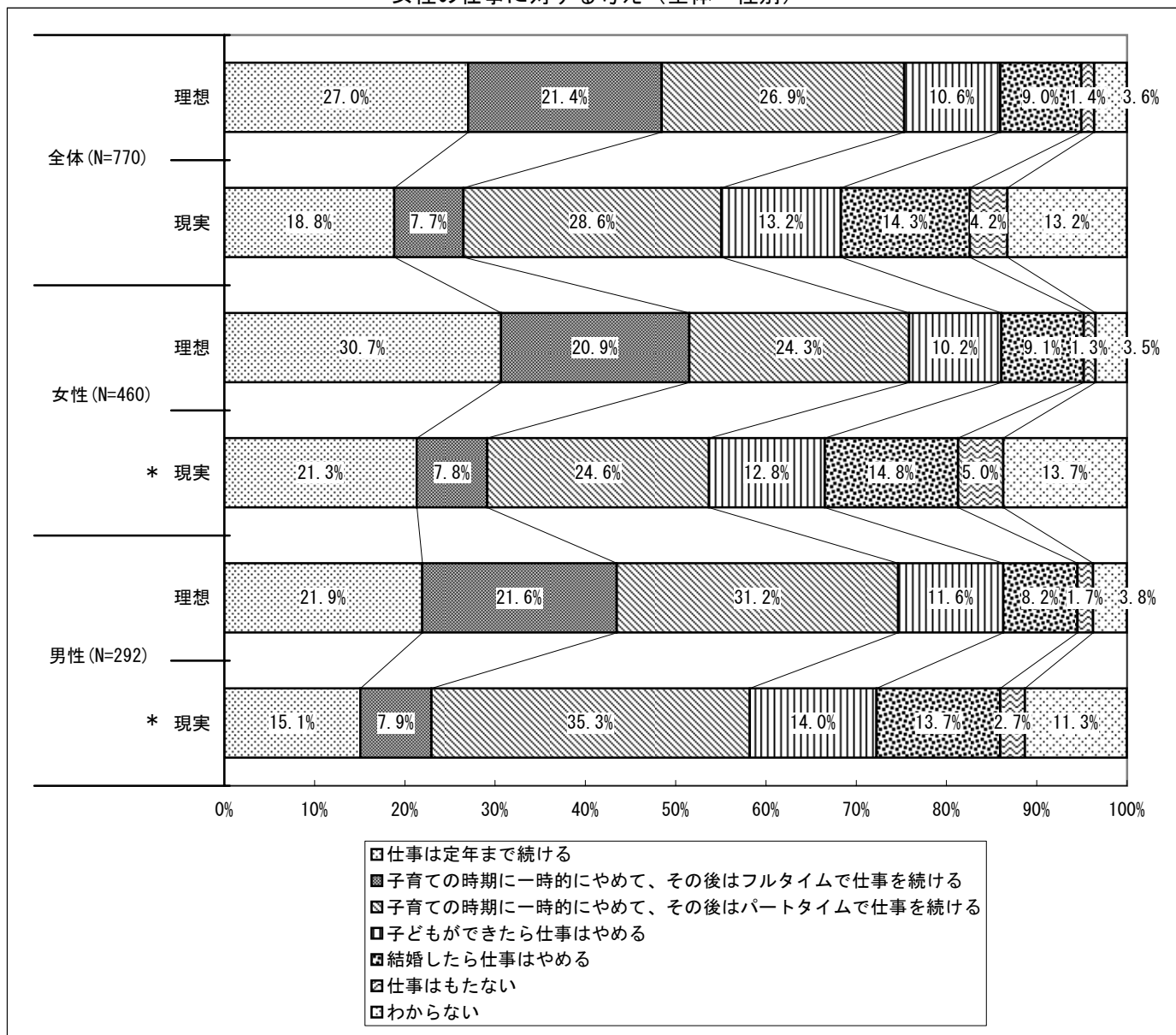
～女性が仕事を続けることには8割の人が肯定的～

女性の仕事に対する考えについてみると、理想は全体では「仕事は定年まで続ける」（27.0%）と「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」（26.9%）がほぼ同率となっている。性別による有意差はみられない。

現実には、全体では「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」（28.6%）の割合が最も高くなっている。

理想とする働き方では、全体で「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」と答えた割合が21.4%あるものの、現実には実現できているのは7.7%にとどまっている。

女性の仕事に対する考え（全体・性別）



*: 性別で有意差あり

女性の仕事に対する考え（性・年代別）

		①自分の理想						
		仕事は定年まで続ける	子育ての時期はフルタイムで仕事を続ける	子育ての時期はパートタイムで仕事を続ける	子どもができたから仕事はやめる	結婚したら仕事はやめる	仕事はもたない	わからない
全体	100.0	27.0	21.4	26.9	10.6	9.0	1.4	3.6
	770	208	165	207	82	69	11	28
男性計	100.0	21.9	21.6	31.2	11.6	8.2	1.7	3.8
	292	64	63	91	34	24	5	11
20代	100.0	16.2	32.4	27.0	5.4	5.4	0.0	13.5
	37	6	12	10	2	2	0	5
30代	100.0	18.6	20.3	35.6	13.6	6.8	1.7	3.4
	59	11	12	21	8	4	1	2
40代	100.0	15.2	13.0	43.5	10.9	6.5	4.3	6.5
	46	7	6	20	5	3	2	3
50代	100.0	27.7	16.9	24.6	16.9	12.3	1.5	0.0
	65	18	11	16	11	8	1	0
60代	100.0	22.8	22.8	33.3	8.8	10.5	1.8	0.0
	57	13	13	19	5	6	1	0
70歳以上	100.0	32.1	32.1	17.9	10.7	3.6	0.0	3.6
	28	9	9	5	3	1	0	1
女性計	100.0	30.7	20.9	24.3	10.2	9.1	1.3	3.5
	460	141	96	112	47	42	6	16
20代	100.0	16.9	15.4	33.8	12.3	15.4	1.5	4.6
	65	11	10	22	8	10	1	3
30代	100.0	21.8	20.9	31.8	12.7	8.2	0.0	4.5
	110	24	23	35	14	9	0	5
40代	100.0	40.6	17.9	22.6	5.7	7.5	1.9	3.8
	106	43	19	24	6	8	2	4
50代	100.0	37.0	23.0	19.0	11.0	7.0	3.0	0.0
	100	37	23	19	11	7	3	0
60代	100.0	33.9	27.4	14.5	9.7	12.9	0.0	1.6
	62	21	17	9	6	8	0	1
70歳以上	100.0	29.4	23.5	17.6	11.8	0.0	0.0	17.6
	17	5	4	3	2	0	0	3

		②現実						
		仕事は定年まで続ける	子育ての時期に一時的中断して、その後フルタイムで仕事を続ける	子育ての時期にパートタイムで仕事を続ける	子どもができたから仕事はやめる	結婚したら仕事はやめる	仕事はもたない	わからない
全体	サンプル数	100.0	7.7	28.6	13.2	14.3	4.2	13.2
		770	145	59	220	102	110	102
男性計	サンプル数	100.0	7.9	35.3	14.0	13.7	2.7	11.3
		292	44	23	103	41	40	33
20代	サンプル数	100.0	8.1	37.8	13.5	2.7	0.0	24.3
		37	5	14	5	1	0	9
30代	サンプル数	100.0	11.9	37.3	10.2	8.5	3.4	22.0
		59	4	22	6	5	2	13
40代	サンプル数	100.0	6.5	43.5	13.0	15.2	4.3	8.7
		46	4	20	6	7	2	4
50代	サンプル数	100.0	6.2	36.9	10.8	13.8	3.1	4.6
		65	16	24	7	9	2	3
60代	サンプル数	100.0	7.0	31.6	17.5	26.3	1.8	1.8
		57	8	18	10	15	1	1
70歳以上	サンプル数	100.0	7.1	17.9	25.0	10.7	3.6	10.7
		28	7	5	7	3	1	3
女性計	サンプル数	100.0	7.8	24.6	12.8	14.8	5.0	13.7
		460	98	113	59	68	23	63
20代	サンプル数	100.0	4.6	29.2	4.6	9.2	6.2	33.8
		65	8	19	3	6	4	22
30代	サンプル数	100.0	10.0	19.1	16.4	17.3	2.7	15.5
		110	21	21	18	19	3	17
40代	サンプル数	100.0	8.5	32.1	13.2	7.5	3.8	13.2
		106	23	34	14	8	4	14
50代	サンプル数	100.0	6.0	26.0	8.0	20.0	8.0	1.0
		100	31	26	8	20	8	1
60代	サンプル数	100.0	8.1	21.0	17.7	21.0	4.8	8.1
		62	12	13	11	13	3	5
70歳以上	サンプル数	100.0	11.8	0.0	29.4	11.8	5.9	23.5
		17	3	0	5	2	1	4

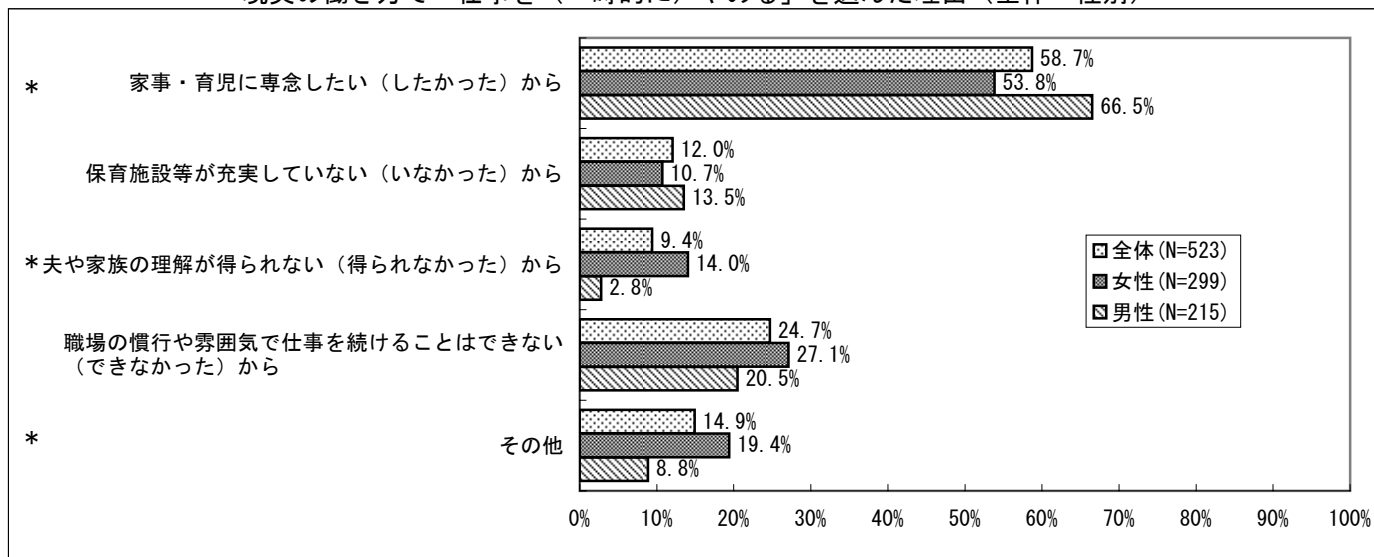
(2) 現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」を選んだ理由

【問18】 問17の「②現実」で、2～6を選んだ方におたずねします。その理由は何ですか。（複数回答）

～家事・育児に専念したい（したかった）が6割。職場の慣行などによる退職は2割～

現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」を選んだ理由についてみると、全体では「家事・育児に専念したい（したかった）から」（58.7%）の割合が最も高く、「職場の慣行や雰囲気の仕事は続けることはできない（できなかった）から」（24.7%）、「保育施設等が充実していない（いなかった）から」（12.0%）となっている。

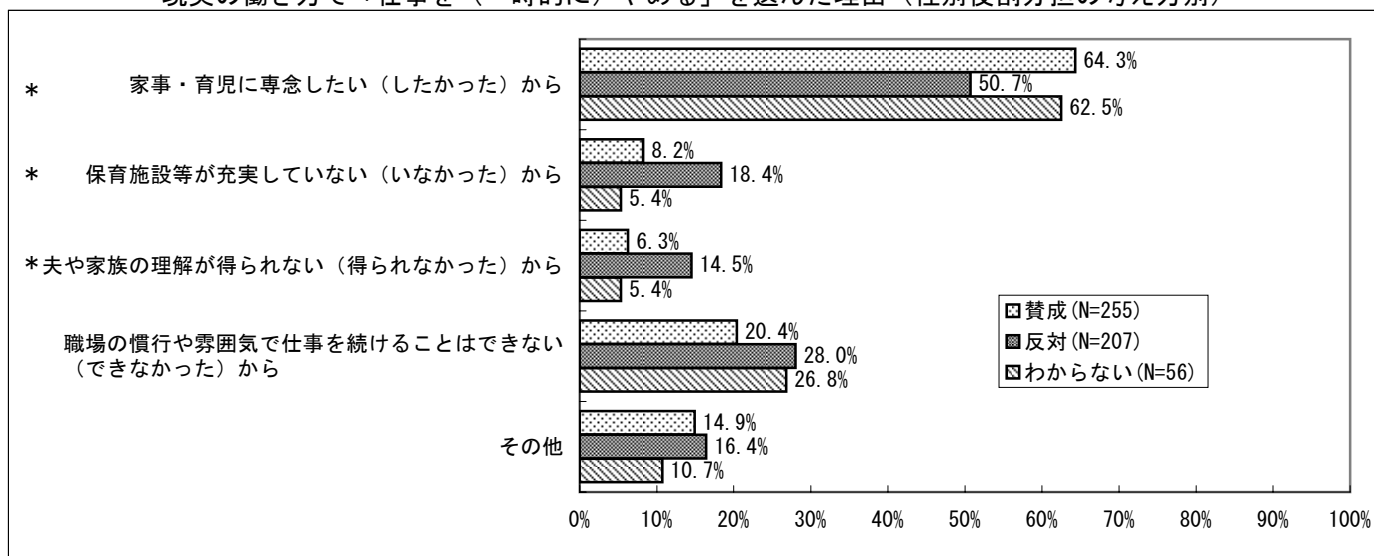
現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」を選んだ理由（全体・性別）



*:性別で有意差あり

性別役割分担の考え方別では、「家事・育児に専念したい（したかった）から」（『賛成』：64.3%、『反対』：50.7%、「わからない」：62.5%）※については『反対』の割合が低く、「保育施設等が充実していない（いなかった）から」（『賛成』：8.2%、『反対』：18.4%、「わからない」：5.4%）と「夫や家族の理解が得られない（得られなかった）から」（『賛成』：6.3%、『反対』：14.5%、「わからない」：5.4%）において、『反対』の割合が高くなっている。

現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」を選んだ理由（性別役割分担の考え方別）



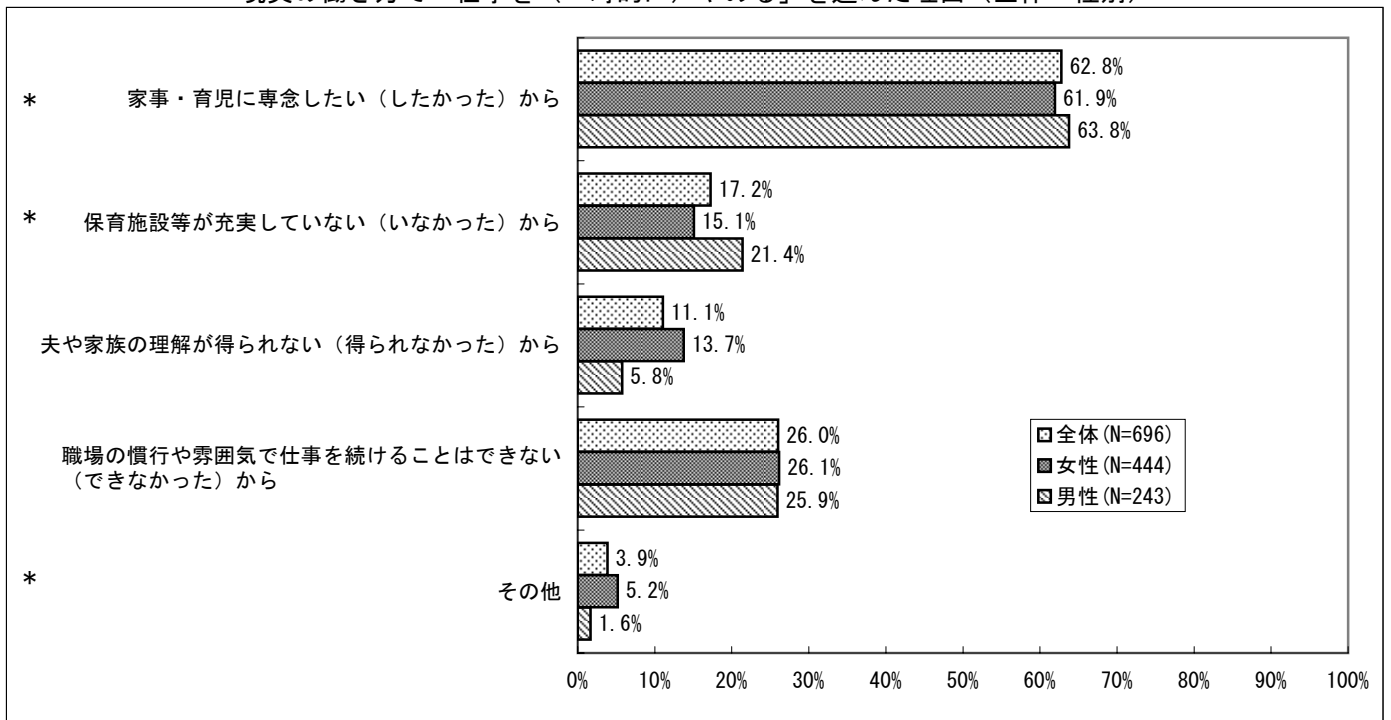
*:項目間で有意差あり

※ 『賛成』『反対』については、18ページの※を参照。

【前回調査】

前回調査と比較すると、「家事・育児に専念したい（したかった）から」（今回：58.7%、前回：62.8%）と「保育施設等が充実していない（いなかった）から」（今回：12.0%、前回：17.2%）の割合が減少している。

現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」を選んだ理由（全体・性別）



*: 今回調査と有意差あり

現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」を選んだ理由（性・年代、性別役割分担の考え方別）

		サンプル数	家事・育児に専念した（かた）	保育施設等が充実しない（た）	家族の理解が得られない（から）	職場の慣行や雰囲気（は）	その他	無回答	
全体		100.0 523	58.7 307	12.0 63	9.4 49	24.7 129	14.9 78	1.9 10	
性・年代別	男性計	100.0 215	66.5 143	13.5 29	2.8 6	20.5 44	8.8 19	2.3 5	
	20代	100.0 23	52.2 12	17.4 4	4.3 1	43.5 10	13.0 3	13.0 3	
	30代	100.0 42	61.9 26	9.5 4	2.4 1	21.4 9	16.7 7	16.7 7	
	40代	100.0 38	65.8 25	10.5 4	2.6 1	21.1 8	5.3 2	5.3 2	
	50代	100.0 46	73.9 34	8.7 4	0.0 0	13.0 6	10.9 5	10.9 5	
	60代	100.0 48	70.8 34	16.7 8	6.3 3	18.8 9	2.1 1	2.1 1	
	70歳以上	100.0 18	66.7 12	27.8 5	0.0 0	11.1 2	5.6 1	5.6 1	
	女性計	100.0 299	53.8 161	10.7 32	14.0 42	27.1 81	19.4 58	1.3 4	
	20代	100.0 35	68.6 24	0.0 0	14.3 5	25.7 9	25.7 9	25.7 9	
	30代	100.0 72	54.2 39	11.1 8	9.7 7	29.2 21	23.6 17	23.6 17	
	40代	100.0 69	46.4 32	7.2 5	14.5 10	33.3 23	23.2 16	23.2 16	
	50代	100.0 68	60.3 41	11.8 8	11.8 8	26.5 18	11.8 8	11.8 8	
	60代	100.0 45	37.8 17	20.0 9	26.7 12	17.8 8	17.8 8	17.8 8	
	70歳以上	100.0 10	80.0 8	20.0 2	0.0 0	20.0 2	0.0 0	0.0 0	
	性別役割分担の考え方	賛成	100.0 255	64.3 164	8.2 21	6.3 16	20.4 52	14.9 38	2.0 5
		反対	100.0 207	50.7 105	18.4 38	14.5 30	28.0 58	16.4 34	1.9 4
		わからない	100.0 56	62.5 35	5.4 3	5.4 3	26.8 15	10.7 6	1.8 1

(3) 職場での男女格差の有無

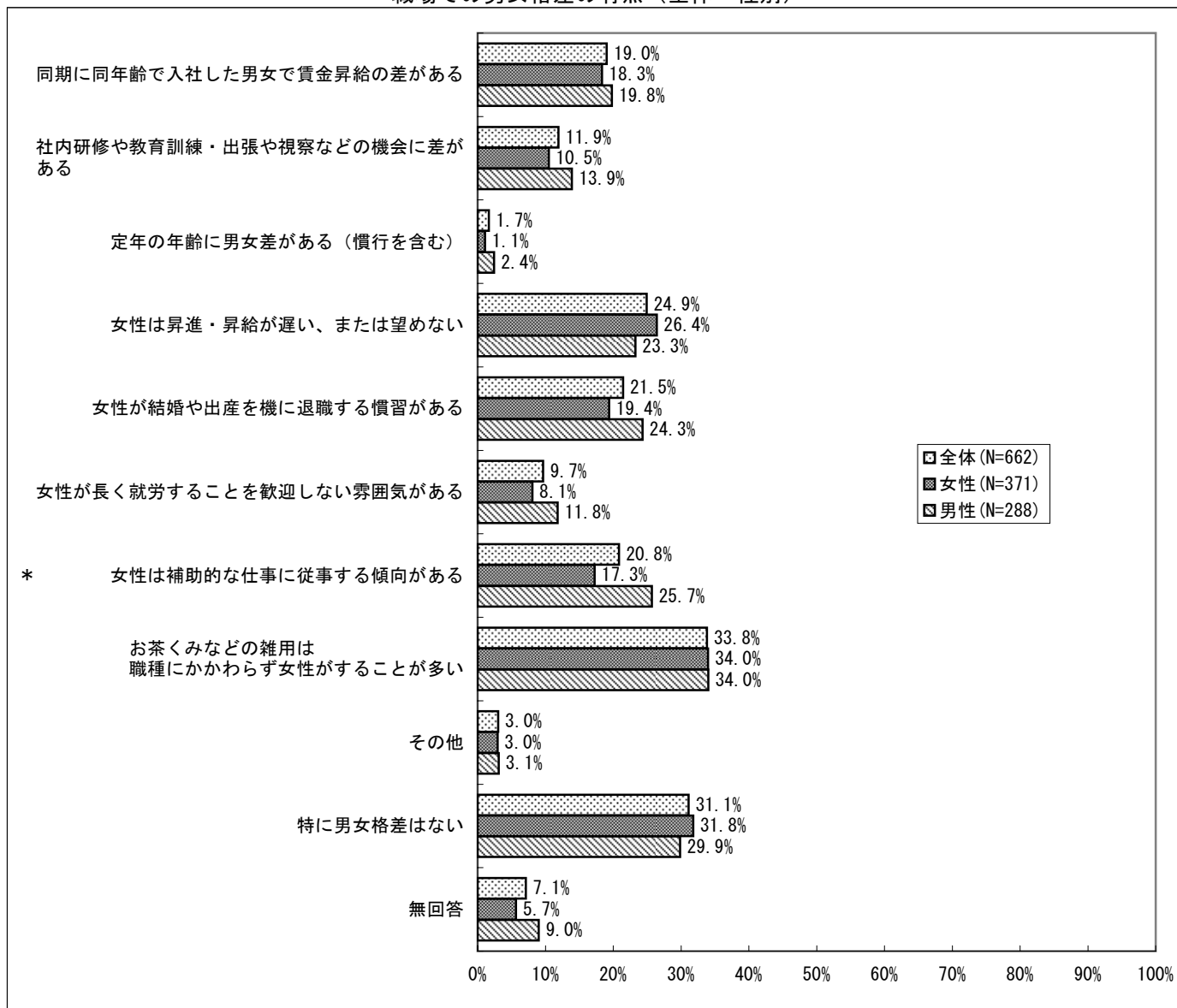
【問19】 働いている方（パートタイマー、派遣、アルバイトをしている学生も含む）におたずねします。あなたの職場で現在次のような男女格差がありますか。該当するものに○をつけてください。（複数回答）

～「お茶くみなどの雑用を女性がすることが多い」と答えた割合は3割～

職場での男女格差の有無についてみると、全体では「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」（33.8%）の割合が最も高く、次いで「特に男女格差はない」（31.1%）、「女性は昇進・昇給が遅い、または望めない」（24.9%）となっている。

これを性別にみると、「女性は補助的な仕事に従事する傾向がある」（女性：17.3%、男性：25.7%）において女性より男性の割合が高くなっている。

職場での男女格差の有無（全体・性別）

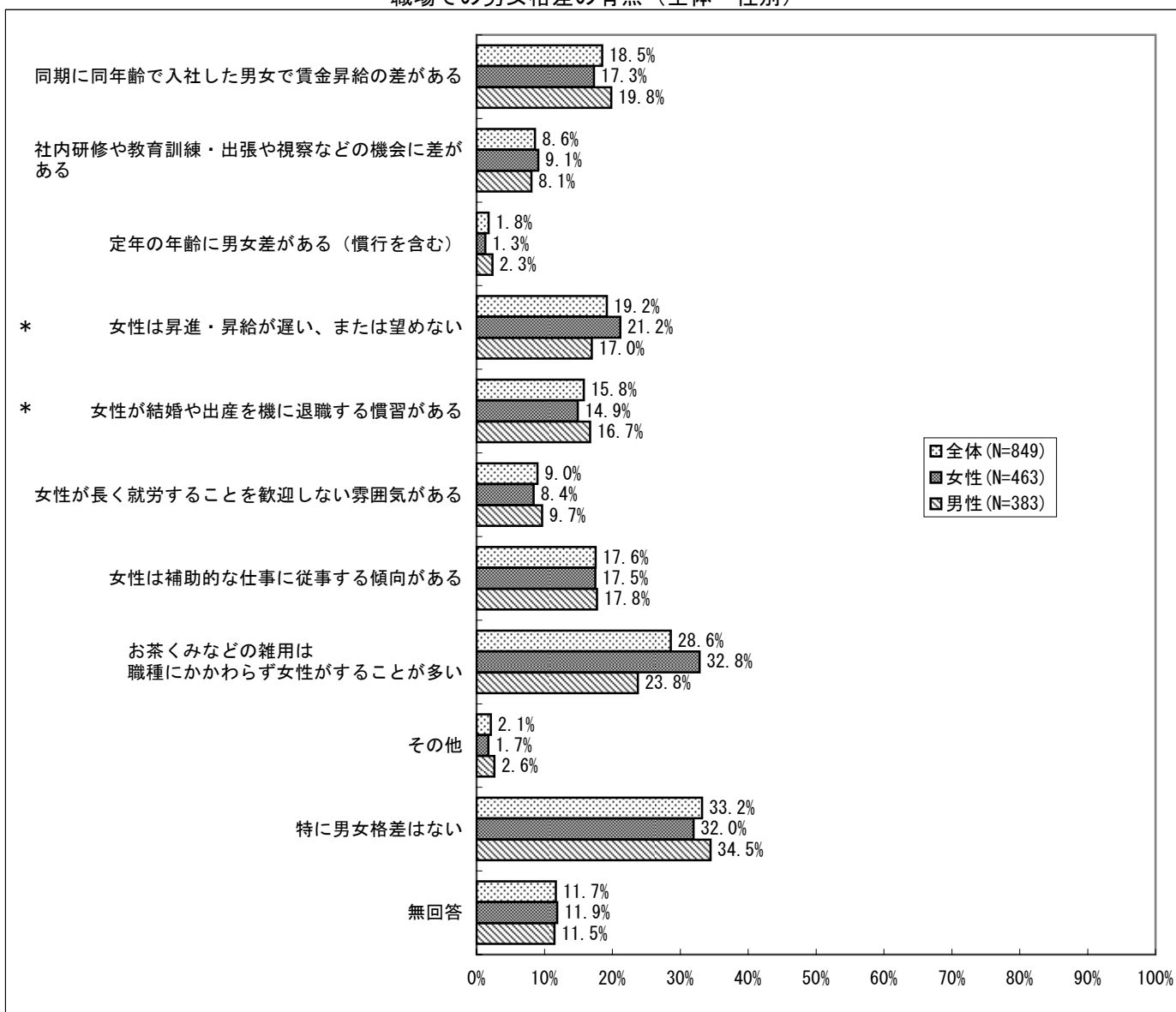


*: 性別で有意差あり

【前回調査】

前回調査と比較すると、「女性は昇進・昇給が遅い、または望めない」（今回：24.9%、前回：19.2%）と「女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある」（今回：21.5%、前回：15.8%）の割合が、いずれも前回より今回の方が増加している。

職場での男女格差の有無（全体・性別）



*: 今回調査と有意差あり

職場での男女格差の有無（性・年代別）

		サンプル数	昇給の差がある	同期に同年齢で入社した男女で賃金の差がある	社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある	定年の年齢に男女差がある（慣行を含む）	女性には昇進・昇給が遅い、または望めない	女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある	女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある	女性には補助的な仕事に従事する傾向がある	お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い	その他	特に男女格差はない	無回答
全体		100.0 662	19.0 126	11.9 79	1.7 11	24.9 165	21.5 142	9.7 64	20.8 138	33.8 224	3.0 20	31.1 206	7.1 47	
性・年代別	男性計	100.0 288	19.8 57	13.9 40	2.4 7	23.3 67	24.3 70	11.8 34	25.7 74	34.0 98	3.1 9	29.9 86	9.0 26	
	20代	100.0 33	12.1 4	6.1 2	0.0 0	18.2 6	42.4 14	15.2 5	30.3 10	45.5 15	0.0 0	27.3 9	3.0 1	
	30代	100.0 61	19.7 12	19.7 12	1.6 1	14.8 9	23.0 14	9.8 6	31.1 19	44.3 27	8.2 5	23.0 14	8.2 5	
	40代	100.0 60	23.3 14	15.0 9	0.0 0	25.0 15	23.3 14	10.0 6	20.0 12	28.3 17	0.0 0	31.7 19	11.7 7	
	50代	100.0 74	20.3 15	16.2 12	4.1 3	31.1 23	25.7 19	16.2 12	31.1 23	28.4 21	2.7 2	31.1 23	4.1 3	
	60代	100.0 53	18.9 10	9.4 5	5.7 3	24.5 13	17.0 9	9.4 5	15.1 8	28.3 15	3.8 2	37.7 20	13.2 7	
	70歳以上	100.0 7	28.6 2	0.0 0	0.0 0	14.3 1	0.0 0	0.0 0	28.6 2	42.9 3	0.0 0	14.3 1	42.9 3	
	女性計	100.0 371	18.3 68	10.5 39	1.1 4	26.4 98	19.4 72	8.1 30	17.3 64	34.0 126	3.0 11	31.8 118	5.7 21	
	20代	100.0 57	12.3 7	3.5 2	1.8 1	24.6 14	29.8 17	5.3 3	15.8 9	35.1 20	3.5 2	33.3 19	3.5 2	
	30代	100.0 88	17.0 15	12.5 11	0.0 0	27.3 24	27.3 24	11.4 10	21.6 19	42.0 37	1.1 1	27.3 24	4.5 4	
	40代	100.0 88	14.8 13	6.8 6	0.0 0	28.4 25	12.5 11	8.0 7	11.4 10	31.8 28	4.5 4	35.2 31	3.4 3	
	50代	100.0 96	27.1 26	16.7 16	2.1 2	31.3 30	16.7 16	8.3 8	21.9 21	28.1 27	4.2 4	28.1 27	6.3 6	
	60代	100.0 35	14.3 5	5.7 2	2.9 1	14.3 5	8.6 3	2.9 1	14.3 5	37.1 13	0.0 0	42.9 15	11.4 4	
	70歳以上	100.0 7	28.6 2	28.6 2	0.0 0	0.0 0	14.3 1	14.3 1	0.0 0	14.3 1	0.0 0	28.6 2	28.6 2	

(4) 社会全体としての女性の働きやすさに対する考え

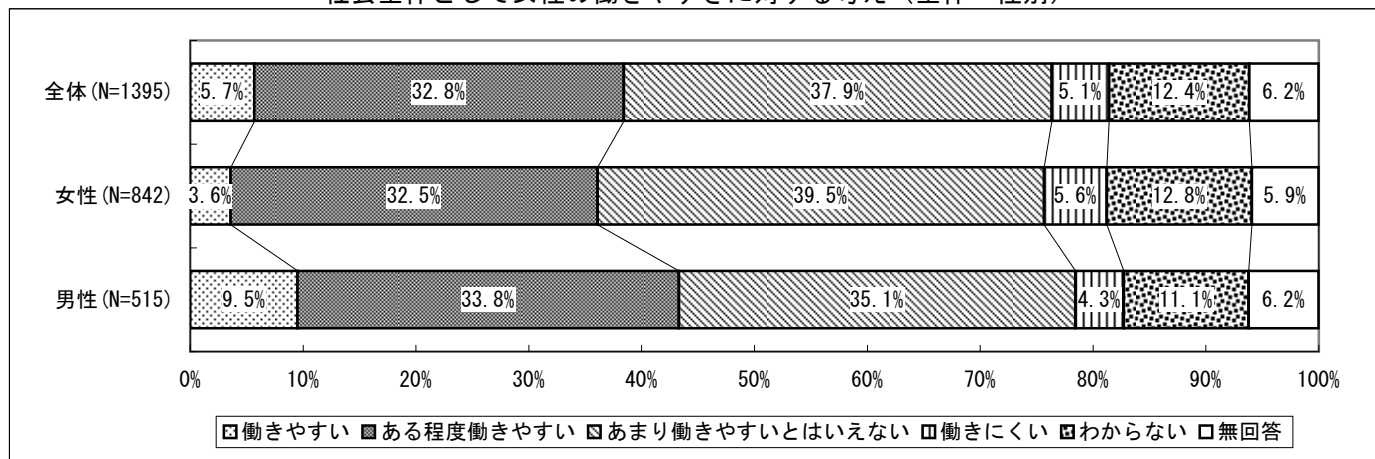
【問20】 社会全体として女性が働きやすい状況にあると思いますか。

～「あまり働きやすいとはいえない」と4割の人が回答～

社会全体として女性の働きやすさに対する考えについてみると、全体では「あまり働きやすいとはいえない」が37.9%、「ある程度働きやすい」が32.8%となっている。

これを性別にみると、「働きやすい」と回答した男性の割合（9.5%）が女性の割合（3.6%）より高くなっている。

社会全体として女性の働きやすさに対する考え（全体・性別）



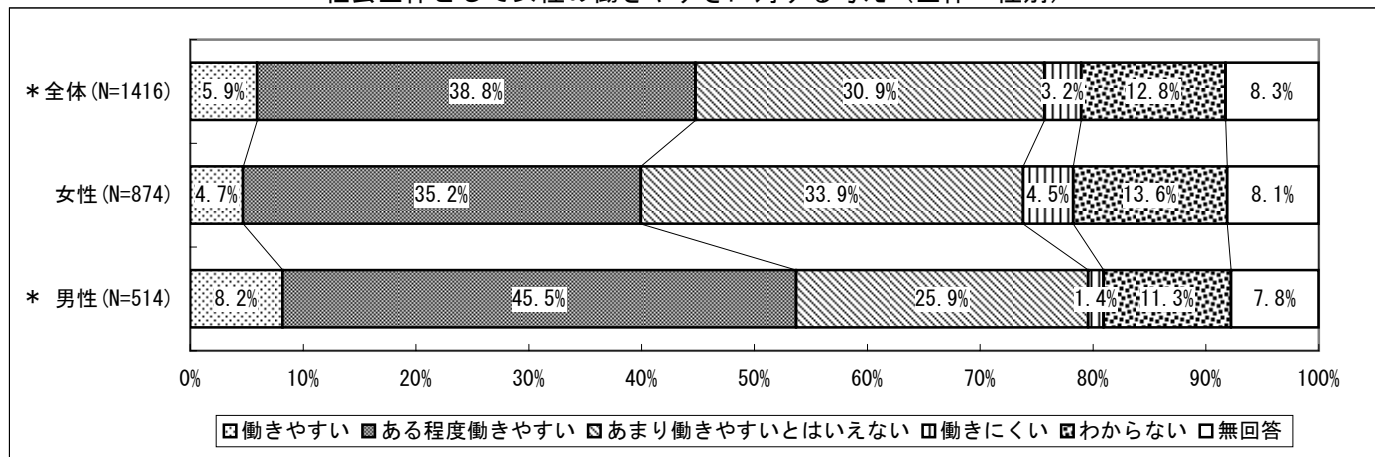
性別役割分担の考え方別では、『賛成』※は『反対』※より「働きやすい」（『賛成』：7.2%、『反対』：4.4%、「わからない」：4.3%）の割合が高く、「あまり働きやすいとはいえない」（『賛成』：35.3%、『反対』：42.8%、「わからない」：30.4%）の割合が低くなっている。

性・配偶者の有無別では、「あまり働きやすいとはいえない」について「結婚している」（男性：39.4%、女性：42.4%）の割合が「結婚していない」（男性：21.4%、女性：34.2%）より高くなっている。

【前回調査】

前回調査と比較すると、「ある程度働きやすい」について全体（今回：32.8%、前回：38.8%）と男性（今回：33.8%、前回：45.5%）の割合が減少し、「あまり働きやすいとはいえない」について男性（今回：35.1%、前回：25.9%）の割合が増加している。

社会全体として女性の働きやすさに対する考え（全体・性別）



*: 今回調査と有意差あり

※ 『賛成』『反対』については、18ページの※を参照。

社会全体として女性の働きやすさに対する考え（性・年代、配偶者の有無、性別役割分担の考え方別）

	サンプル数	働きやすい	あるいは程度働きやすい	あまり働けない	働きにくい	わからない	無回答	
全体	100.0	5.7	32.8	37.9	5.1	12.4	6.2	
	1395	79	457	529	71	173	86	
性・年代別	男性計	100.0	9.5	33.8	35.1	4.3	11.1	6.2
		515	49	174	181	22	57	32
	20代	100.0	5.4	39.3	30.4	5.4	16.1	3.6
		56	3	22	17	3	9	2
	30代	100.0	12.2	23.0	39.2	8.1	16.2	1.4
		74	9	17	29	6	12	1
	40代	100.0	10.6	31.8	39.4	4.5	9.1	4.5
		66	7	21	26	3	6	3
	50代	100.0	14.0	35.0	37.0	4.0	9.0	1.0
		100	14	35	37	4	9	1
	60代	100.0	9.1	34.8	36.4	3.8	8.3	7.6
		132	12	46	48	5	11	10
	70歳以上	100.0	4.6	37.9	27.6	1.1	11.5	17.2
		87	4	33	24	1	10	15
	女性計	100.0	3.6	32.5	39.5	5.6	12.8	5.9
		842	30	274	333	47	108	50
	20代	100.0	1.1	35.1	41.5	6.4	16.0	0.0
		94	1	33	39	6	15	0
	30代	100.0	2.0	27.0	51.3	9.9	7.9	2.0
		152	3	41	78	15	12	3
40代	100.0	5.0	28.1	45.0	10.0	10.0	1.9	
	160	8	45	72	16	16	3	
50代	100.0	6.2	36.0	40.4	2.8	10.7	3.9	
	178	11	64	72	5	19	7	
60代	100.0	3.0	37.6	34.5	2.4	12.7	9.7	
	165	5	62	57	4	21	16	
70歳以上	100.0	2.2	32.2	16.7	1.1	26.7	21.1	
	90	2	29	15	1	24	19	
性・配偶者の有無別	男性計	100.0	9.5	33.8	35.1	4.3	11.1	6.2
		515	49	174	181	22	57	32
結婚している	100.0	9.2	32.1	39.4	4.3	9.4	5.6	
	393	36	126	155	17	37	22	
結婚していない	100.0	11.6	38.4	21.4	4.5	17.9	6.3	
	112	13	43	24	5	20	7	
女性計	100.0	3.6	32.5	39.5	5.6	12.8	5.9	
	842	30	274	333	47	108	50	
結婚している	100.0	3.6	30.1	42.4	6.1	11.4	6.5	
	589	21	177	250	36	67	38	
結婚していない	100.0	3.3	38.7	34.2	4.1	16.0	3.7	
	243	8	94	83	10	39	9	
性別役割分担の考え方	賛成	100.0	7.2	33.9	35.3	4.0	12.0	7.7
		626	45	212	221	25	75	48
	反対	100.0	4.4	33.7	42.8	6.2	8.3	4.7
		615	27	207	263	38	51	29
わからない	100.0	4.3	25.4	30.4	5.8	31.2	2.9	
	138	6	35	42	8	43	4	

(5) 女性が働きにくいと思う理由

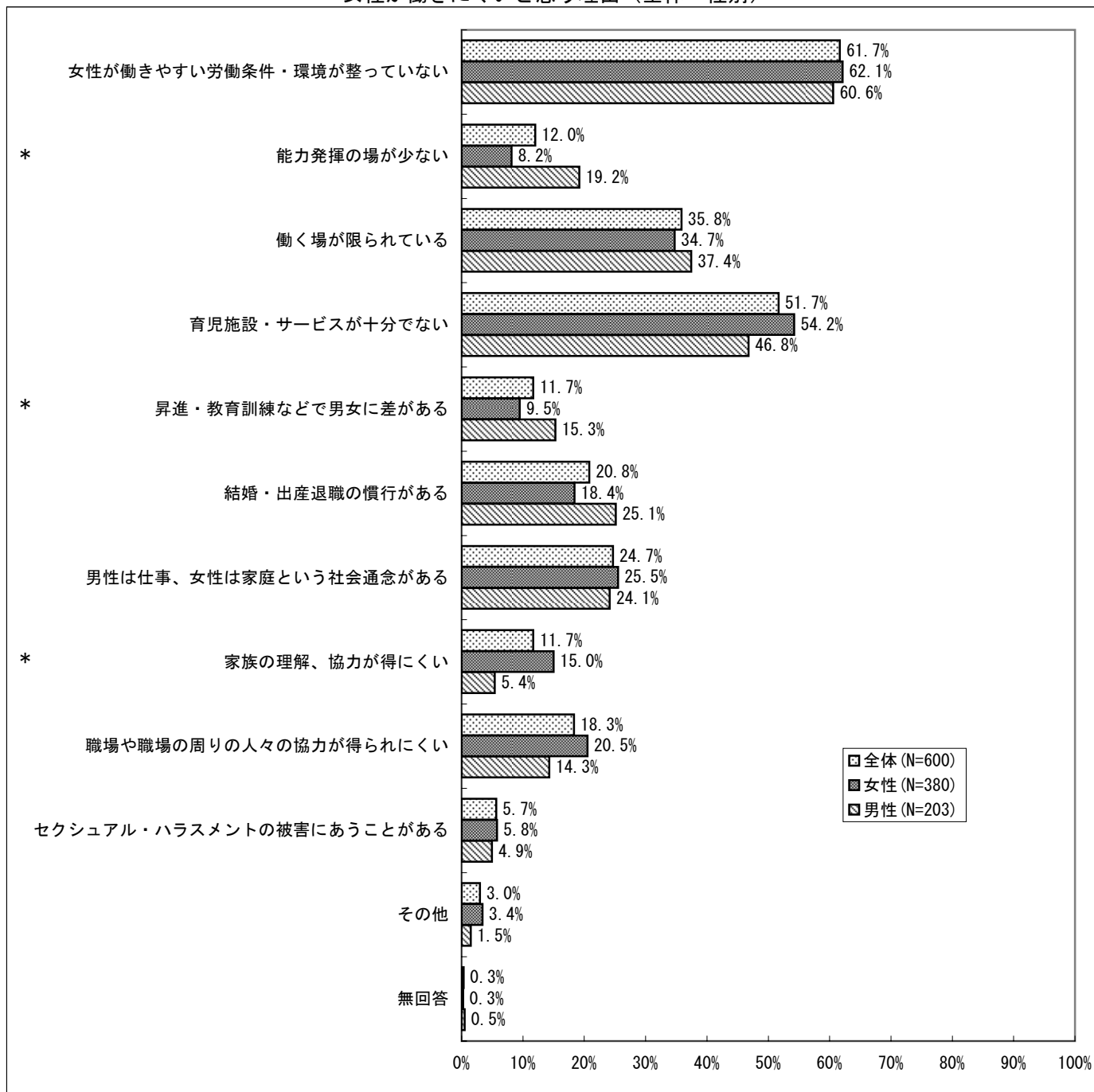
【問21】 問20で「あまり働きやすいとはいえない」「働きにくい」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。（複数回答）

～「労働条件・環境が整っていない」、「育児施設・サービスが充分でない」との回答が多い～

女性が働きにくいと思う理由についてみると、全体では「女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない」（61.7%）の割合が最も高く、次いで「育児施設・サービスが十分でない」（51.7%）、「働く場が限られている」（35.8%）となっている。

これを性別にみると、「能力発揮の場が少ない」（女性：8.2%、男性：19.2%）と「昇進・教育訓練などで男女に差がある」（女性：9.5%、男性：15.3%）において男性の割合が女性より高く、「家族の理解、協力が得にくい」（女性：15.0%、男性：5.4%）は、女性の割合が男性より高くなっている。

女性が働きにくいと思う理由（全体・性別）

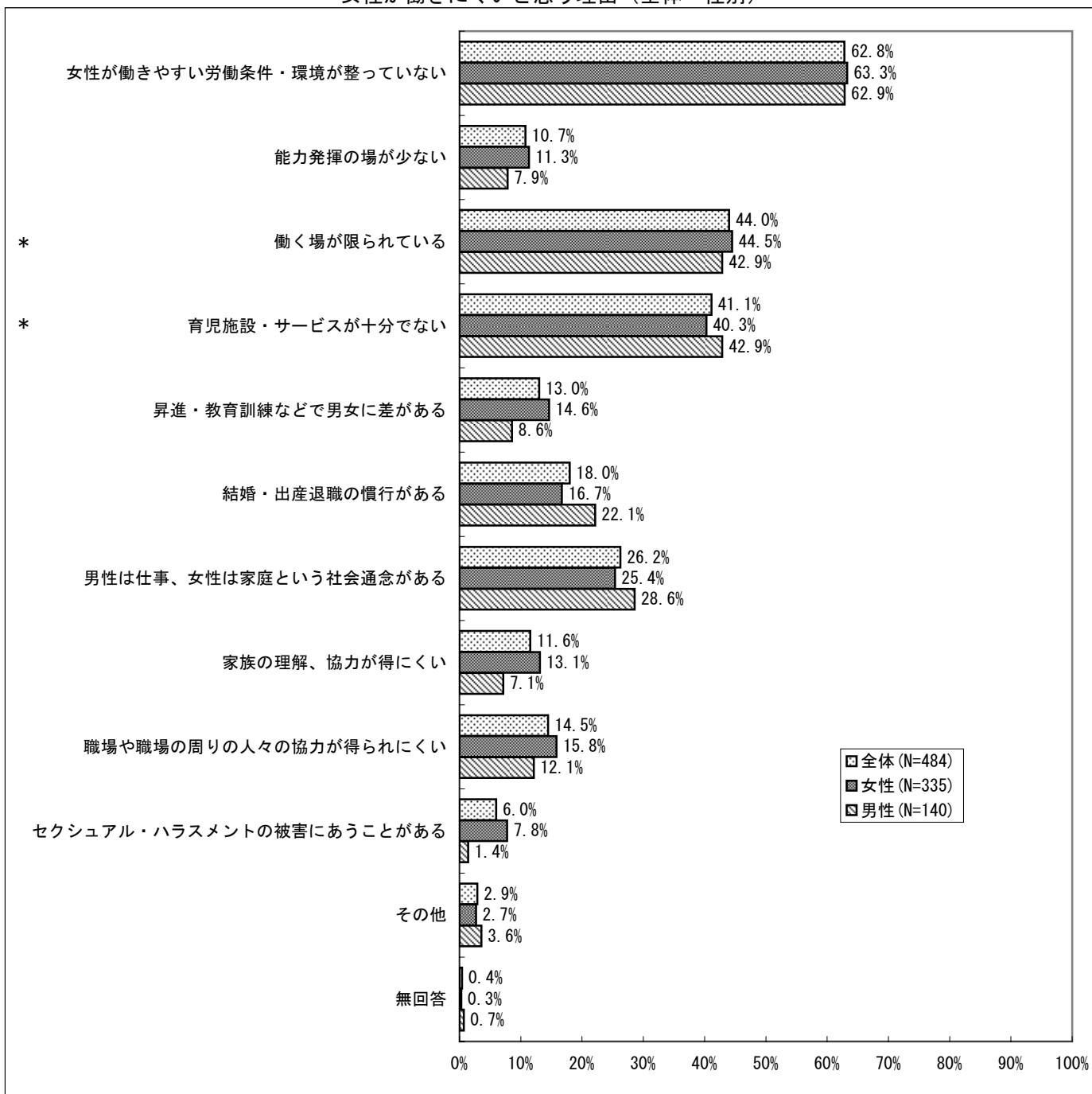


*: 性別で有意差あり

【前回調査】

前回調査と比較すると、「働く場が限られている」（今回：35.8%、前回：44.0%）の割合が前回より減少し、「育児施設・サービスが十分でない」（今回：51.7%、前回：41.1%）の割合が前回より増加している。

女性が働きにくいと思う理由（全体・性別）



*: 今回調査と有意差あり

女性が働きにくいと思う理由（性・年代、性別役割分担の考え方別）

		サンプル数	女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない	能力発揮の場が少ない	働く場が限られている	育児施設・サービスが十分でない	昇進・教育訓練などで男女に差がある	結婚・出産退職の慣行がある	男性は仕事、女性は家庭という社会通念がある	家族の理解、協力が得にくい	職場や職場の周りの人々の協力が得られにくい	セクシュアル・ハラスメントの被害にあうことがある	その他	無回答
全体		100.0	61.7	12.0	35.8	51.7	11.7	20.8	24.7	11.7	18.3	5.7	3.0	0.3
		600	370	72	215	310	70	125	148	70	110	34	18	2
性・年代別	男性計	100.0	60.6	19.2	37.4	46.8	15.3	25.1	24.1	5.4	14.3	4.9	1.5	0.5
		203	123	39	76	95	31	51	49	11	29	10	3	1
	20代	100.0	55.0	15.0	40.0	40.0	20.0	35.0	40.0	5.0	25.0	10.0	0.0	0.0
		20	11	3	8	8	4	7	8	1	5	2	0	0
	30代	100.0	74.3	22.9	22.9	57.1	5.7	31.4	25.7	5.7	20.0	8.6	2.9	0.0
		35	26	8	8	20	2	11	9	2	7	3	1	0
	40代	100.0	58.6	10.3	24.1	55.2	10.3	20.7	20.7	3.4	17.2	3.4	0.0	0.0
		29	17	3	7	16	3	6	6	1	5	1	0	0
	50代	100.0	58.5	17.1	34.1	39.0	24.4	34.1	22.0	9.8	12.2	2.4	2.4	0.0
		41	24	7	14	16	10	14	9	4	5	1	1	0
	60代	100.0	60.4	20.8	49.1	45.3	13.2	20.8	20.8	3.8	11.3	3.8	1.9	0.0
		53	32	11	26	24	7	11	11	2	6	2	1	0
	70歳以上	100.0	52.0	28.0	52.0	44.0	20.0	8.0	24.0	4.0	4.0	4.0	0.0	4.0
		25	13	7	13	11	5	2	6	1	1	1	0	1
	女性計	100.0	62.1	8.2	34.7	54.2	9.5	18.4	25.5	15.0	20.5	5.8	3.4	0.3
		380	236	31	132	206	36	70	97	57	78	22	13	1
	20代	100.0	51.1	11.1	31.1	44.4	8.9	33.3	40.0	11.1	17.8	11.1	0.0	0.0
		45	23	5	14	20	4	15	18	5	8	5	0	0
30代	100.0	64.5	3.2	26.9	68.8	5.4	23.7	25.8	11.8	24.7	5.4	4.3	0.0	
	93	60	3	25	64	5	22	24	11	23	5	4	0	
40代	100.0	70.5	6.8	31.8	51.1	9.1	13.6	21.6	15.9	23.9	4.5	6.8	1.1	
	88	62	6	28	45	8	12	19	14	21	4	6	1	
50代	100.0	59.7	11.7	45.5	49.4	11.7	11.7	19.5	23.4	15.6	6.5	3.9	0.0	
	77	46	9	35	38	9	9	15	18	12	5	3	0	
60代	100.0	59.0	13.1	34.4	52.5	13.1	14.8	26.2	13.1	18.0	3.3	0.0	0.0	
	61	36	8	21	32	8	9	16	8	11	2	0	0	
70歳以上	100.0	56.3	0.0	56.3	43.8	12.5	18.8	31.3	6.3	18.8	6.3	0.0	0.0	
	16	9	0	9	7	2	3	5	1	3	1	0	0	
性別役割分担の考え方	賛成	100.0	55.3	10.6	39.0	51.6	11.4	24.8	20.7	11.8	15.9	6.9	2.4	0.4
		246	136	26	96	127	28	61	51	29	39	17	6	1
	反対	100.0	66.4	13.6	32.6	51.8	13.0	15.6	27.9	13.0	20.9	4.7	3.0	0.3
		301	200	41	98	156	39	47	84	39	63	14	9	1
わからない	100.0	64.0	10.0	38.0	52.0	6.0	32.0	24.0	4.0	16.0	6.0	6.0	0.0	
	50	32	5	19	26	3	16	12	2	8	3	3	0	

8 教育について

(1) 子どもの育て方についての考え

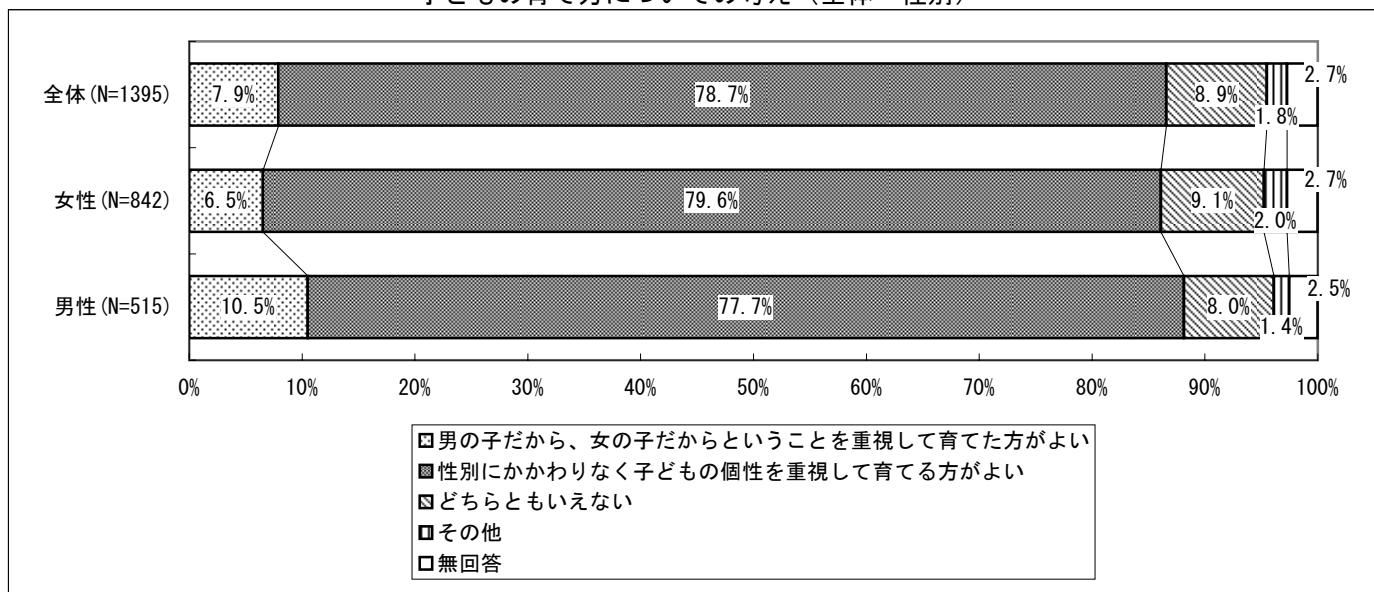
【問22】 子どもの育て方についての考えをおたずねします。

～8割の人が「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」と考えている～

子どもの育て方についての考えについてみると、全体では「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」が78.7%を占めている。

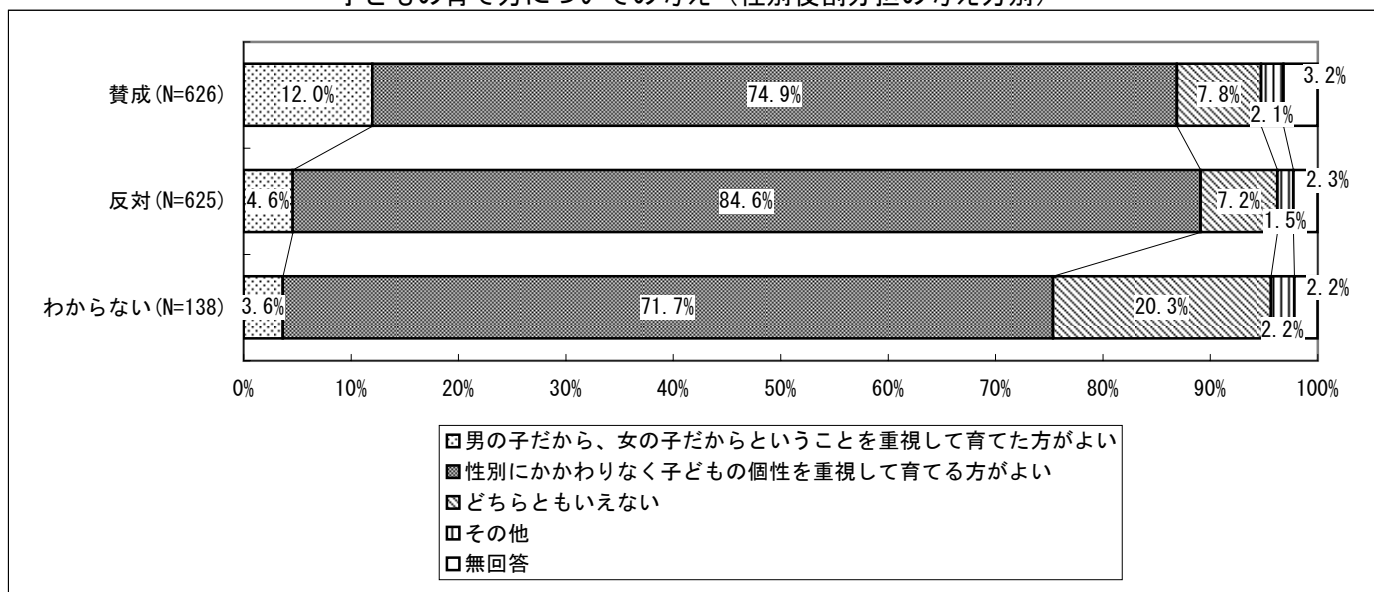
性別での有意差はみられない。

子どもの育て方についての考え（全体・性別）



性別役割分担の考え方別では、「男の子だから、女の子だからということを重視して育てた方がよい」（『賛成』：12.0%、『反対』：4.6%、「わからない」：3.6%）※は『賛成』の割合が高く、「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」（『賛成』：74.9%、『反対』：84.6%、「わからない」：71.7%）は『反対』の割合が高い。「どちらともいえない」（『賛成』：7.8%、『反対』：7.2%、「わからない」：20.3%）は「わからない」の割合が高くなっている。

子どもの育て方についての考え（性別役割分担の考え方別）

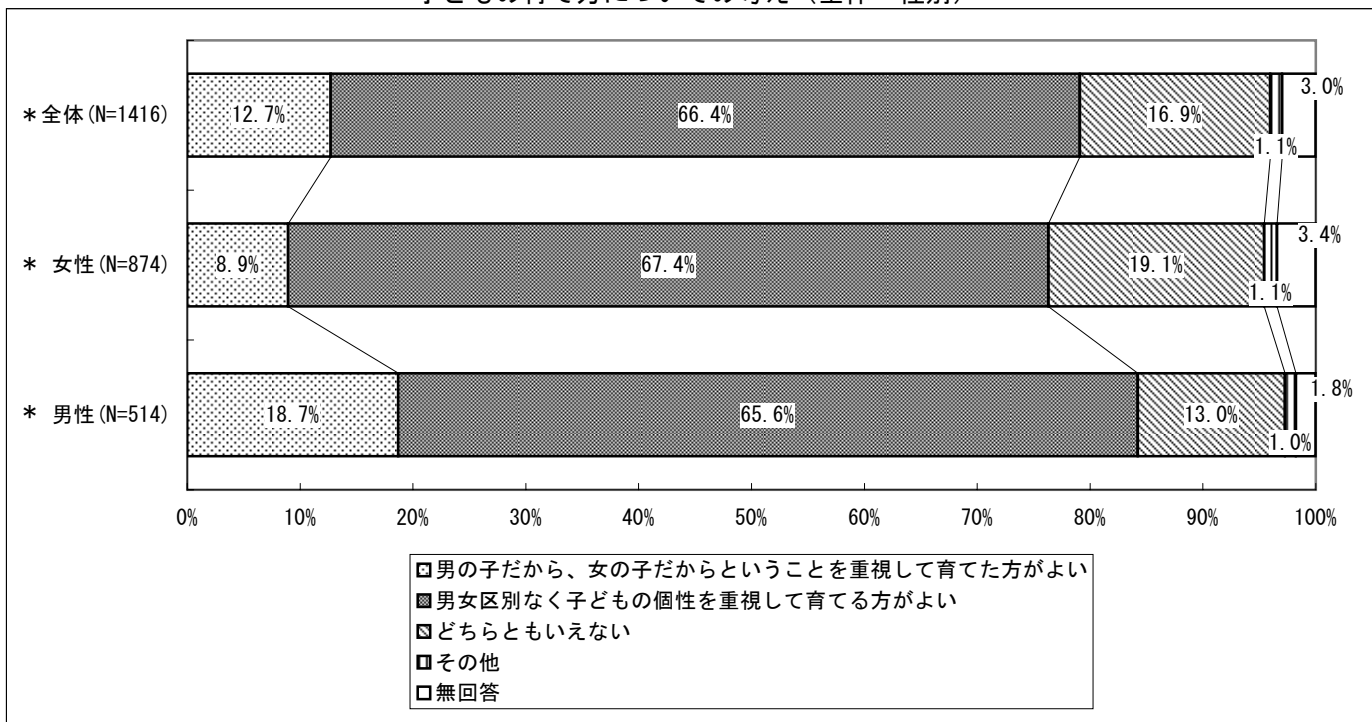


※ 『賛成』『反対』については、18ページの※を参照。

【前回調査】

前回調査と比較すると、「男の子だから、女の子だからということ重視して育てた方がよい」（全体・今回：7.9%、前回：12.7%）（女性・今回6.5%、前回：8.9%）（男性・今回：10.5%、前回：18.7%）と「どちらともいえない」（全体・今回：8.9%、前回：16.9%）（女性・今回：9.1%、前回：19.1%）（男性・今回：8.0%、前回：13.0%）の割合が減少し、「男女区別なく子どもの個性を重視して育てる方がよい」（全体・今回：78.7%、前回：66.4%）（女性・今回：79.6%、前回：67.4%）（男性・今回：77.7%、前回：65.6%）の割合が増加している。

子どもの育て方についての考え（全体・性別）



*: 今回調査と有意差あり

子どもの育て方についての考え（性・年代、性別役割分担の考え方別）

		サンプル数	男の子を重視する （父親が子育ての中心）	性別別にも関わらず （父親も子育てに関与）	どちらともいえない	その他	無回答	
全体		100.0 1395	7.9 110	78.7 1098	8.9 124	1.8 25	2.7 38	
性・年代別	男性計	100.0 515	10.5 54	77.7 400	8.0 41	1.4 7	2.5 13	
	20代	100.0 56	14.3 8	73.2 41	12.5 7	0.0 0	0.0 0	
	30代	100.0 74	9.5 7	71.6 53	12.2 9	6.8 5	0.0 0	
	40代	100.0 66	19.7 13	74.2 49	6.1 4	0.0 0	0.0 0	
	50代	100.0 100	5.0 5	81.0 81	10.0 10	2.0 2	2.0 2	
	60代	100.0 132	9.1 12	81.8 108	4.5 6	0.0 0	4.5 6	
	70歳以上	100.0 87	10.3 9	78.2 68	5.7 5	0.0 0	5.7 5	
	女性計	100.0 842	6.5 55	79.6 670	9.1 77	2.0 17	2.7 23	
	20代	100.0 94	2.1 2	89.4 84	5.3 5	3.2 3	0.0 0	
	30代	100.0 152	5.3 8	85.5 130	7.2 11	2.0 3	0.0 0	
	40代	100.0 160	5.0 8	77.5 124	12.5 20	4.4 7	0.6 1	
	50代	100.0 178	6.7 12	76.4 136	12.4 22	1.7 3	2.8 5	
	60代	100.0 165	12.1 20	77.0 127	6.1 10	0.6 1	4.2 7	
	70歳以上	100.0 90	5.6 5	75.6 68	8.9 8	0.0 0	10.0 9	
	性別役割分担の考え方	賛成	100.0 626	12.0 75	74.9 469	7.8 49	2.1 13	3.2 20
		反対	100.0 615	4.6 28	84.6 520	7.2 44	1.5 9	2.3 14
		わからない	100.0 138	3.6 5	71.7 99	20.3 28	2.2 3	2.2 3

(2) 男女共同参画を実現するために学校教育の現場で必要なこと

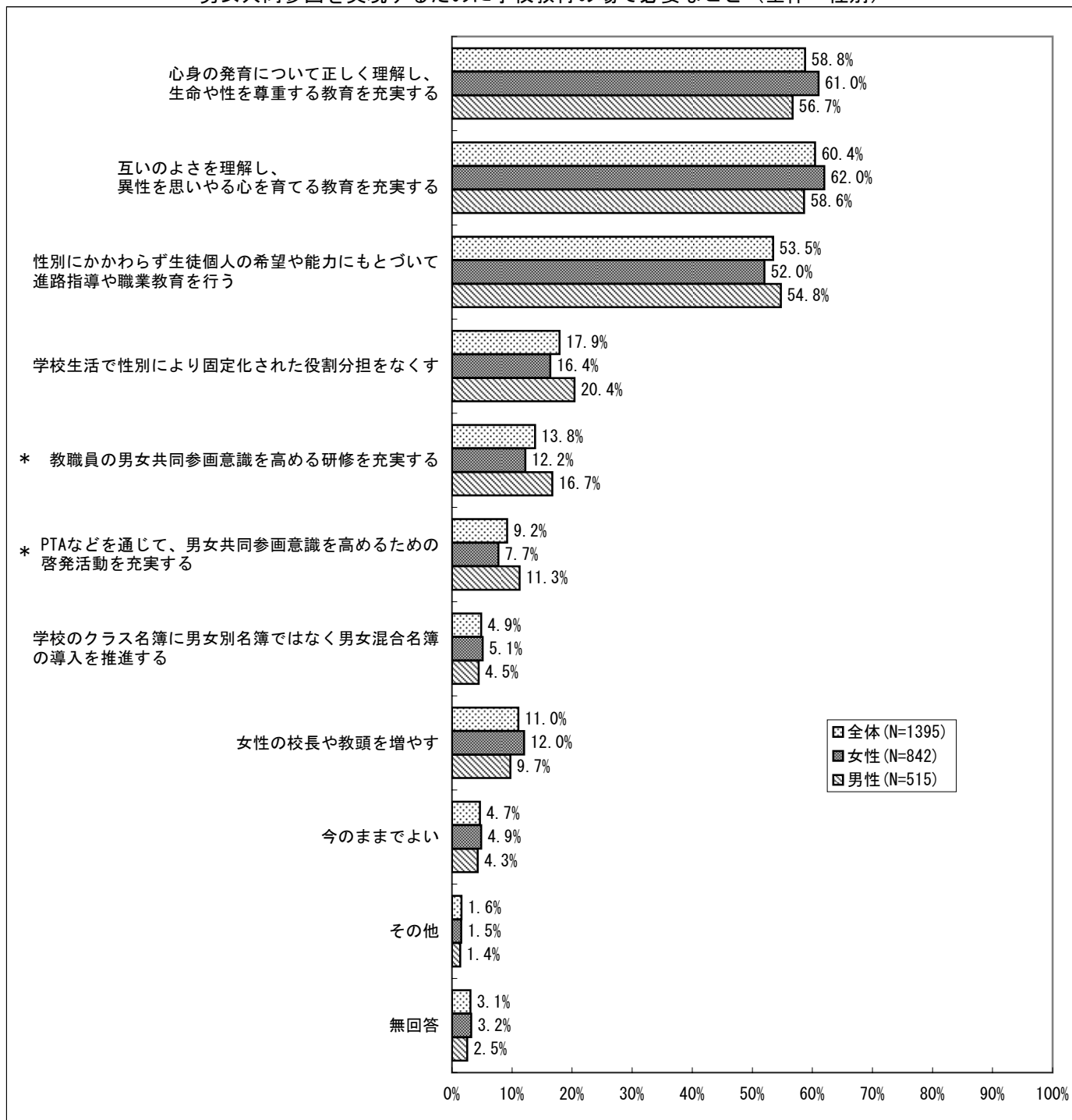
【問23】 男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。（複数回答）

～異性への思いやりや、生命や性を尊重する教育の充実を望む人が多い～

男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なことについてみると、全体では「互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」（60.4%）の割合が最も高く、次いで「心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する」（58.8%）、「性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う」（53.5%）となっている。

これを性別にみると、「教職員の男女共同参画意識を高める研修を充実する」（女性：12.2%、男性：16.7%）と「PTAなどを通じて、男女共同参画意識を高めるための啓発活動を充実する」（女性：7.7%、男性：11.3%）において、男性の割合が女性より高くなっている。

男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと（全体・性別）



*: 性別で有意差あり

男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと（性・年代別）

		サンプル数	生命や性の尊重を重視する教育を充実する	身の発育について正しく理解し、心の育てる教育を充実する	互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する	性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う	性別にかかわらず生徒個人の希望や役割分担をなくす	学校生活で性別により固定化された役割を担う	研修員の男女共同参画意識を高める	PTAなどを通じて、男女共同参画意識を高めるための啓発活動を充実する	学校のクラス名簿に男女別名簿を導入を推進する	女性の校長や教頭を増やす	今のままでよい	その他	無回答
全体		100.0	58.8	60.4	53.5	17.9	13.8	9.2	4.9	11.0	4.7	1.6	3.1		
		1395	820	843	746	250	193	128	68	154	65	22	43		
性・年代別	男性計	100.0	56.7	58.6	54.8	20.4	16.7	11.3	4.5	9.7	4.3	1.4	2.5		
		515	292	302	282	105	86	58	23	50	22	7	13		
	20代	100.0	53.6	57.1	62.5	23.2	16.1	10.7	10.7	12.5	5.4	1.8	0.0		
		56	30	32	35	13	9	6	6	7	3	1	0		
	30代	100.0	56.8	60.8	45.9	21.6	13.5	5.4	6.8	14.9	6.8	2.7	0.0		
		74	42	45	34	16	10	4	5	11	5	2	0		
	40代	100.0	50.0	59.1	54.5	21.2	15.2	6.1	7.6	10.6	4.5	3.0	1.5		
		66	33	39	36	14	10	4	5	7	3	2	1		
	50代	100.0	62.0	59.0	45.0	26.0	21.0	12.0	2.0	5.0	5.0	1.0	2.0		
		100	62	59	45	26	21	12	2	5	5	1	2		
	60代	100.0	52.3	59.1	59.1	17.4	16.7	14.4	3.8	11.4	2.3	0.8	3.8		
		132	69	78	78	23	22	19	5	15	3	1	5		
	70歳以上	100.0	64.4	56.3	62.1	14.9	16.1	14.9	0.0	5.7	3.4	0.0	5.7		
		87	56	49	54	13	14	13	0	5	3	0	5		
	女性計	100.0	61.0	62.0	52.0	16.4	12.2	7.7	5.1	12.0	4.9	1.5	3.2		
		842	514	522	438	138	103	65	43	101	41	13	27		
	20代	100.0	61.7	64.9	47.9	26.6	4.3	6.4	12.8	13.8	2.1	1.1	1.1		
		94	58	61	45	25	4	6	12	13	2	1	1		
	30代	100.0	55.9	71.7	50.7	21.1	9.2	6.6	4.6	17.1	4.6	1.3	0.0		
		152	85	109	77	32	14	10	7	26	7	2	0		
40代	100.0	63.8	67.5	47.5	13.1	10.6	6.3	3.8	11.9	2.5	4.4	0.6			
	160	102	108	76	21	17	10	6	19	4	7	1			
50代	100.0	65.7	62.4	57.9	13.5	14.6	9.0	3.9	8.4	4.5	0.6	2.8			
	178	117	111	103	24	26	16	7	15	8	1	5			
60代	100.0	60.6	53.3	52.1	16.4	18.8	10.9	4.2	9.1	7.9	0.6	4.8			
	165	100	88	86	27	31	18	7	15	13	1	8			
70歳以上	100.0	56.7	50.0	56.7	10.0	12.2	5.6	4.4	14.4	7.8	1.1	11.1			
	90	51	45	51	9	11	5	4	13	7	1	10			

9 女性の政策参画について

(1) 方針・政策を決める際の女性の意見の反映度

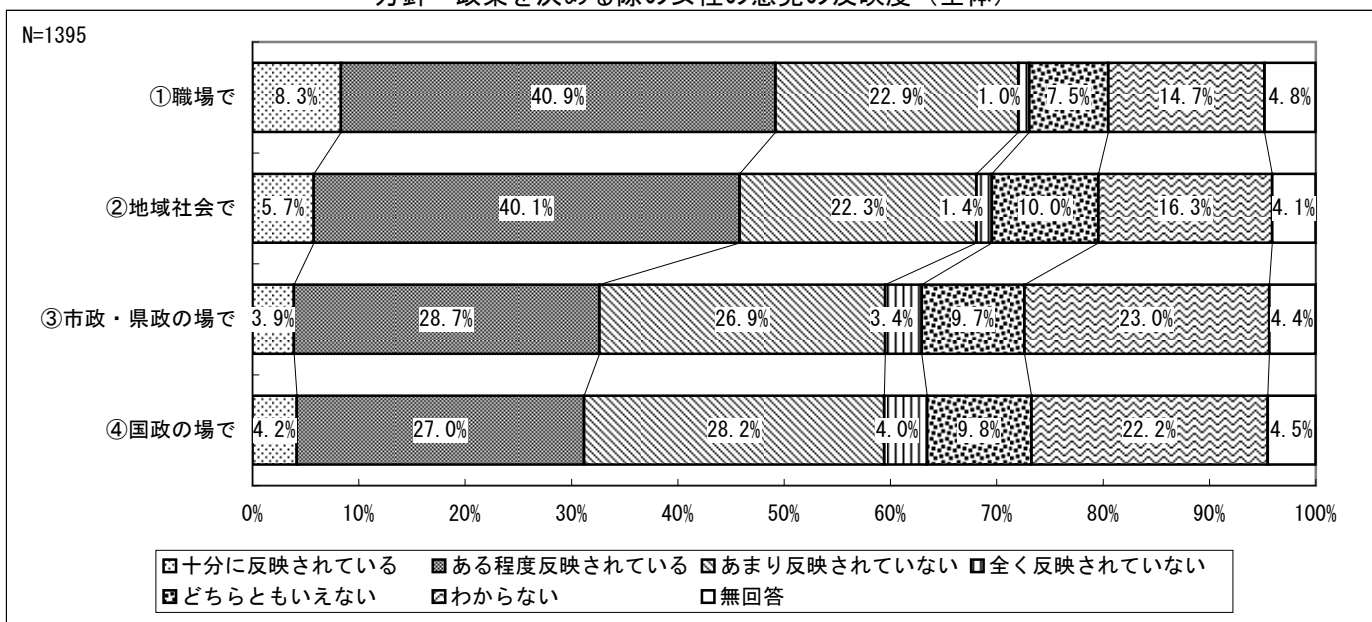
【問24】 次の①～④の各分野でその方針や政策を決めるとき、女性の意見はどの程度反映されていると思いますか。

～職場や地域社会では意見の反映度が高く、国政の場では低い～

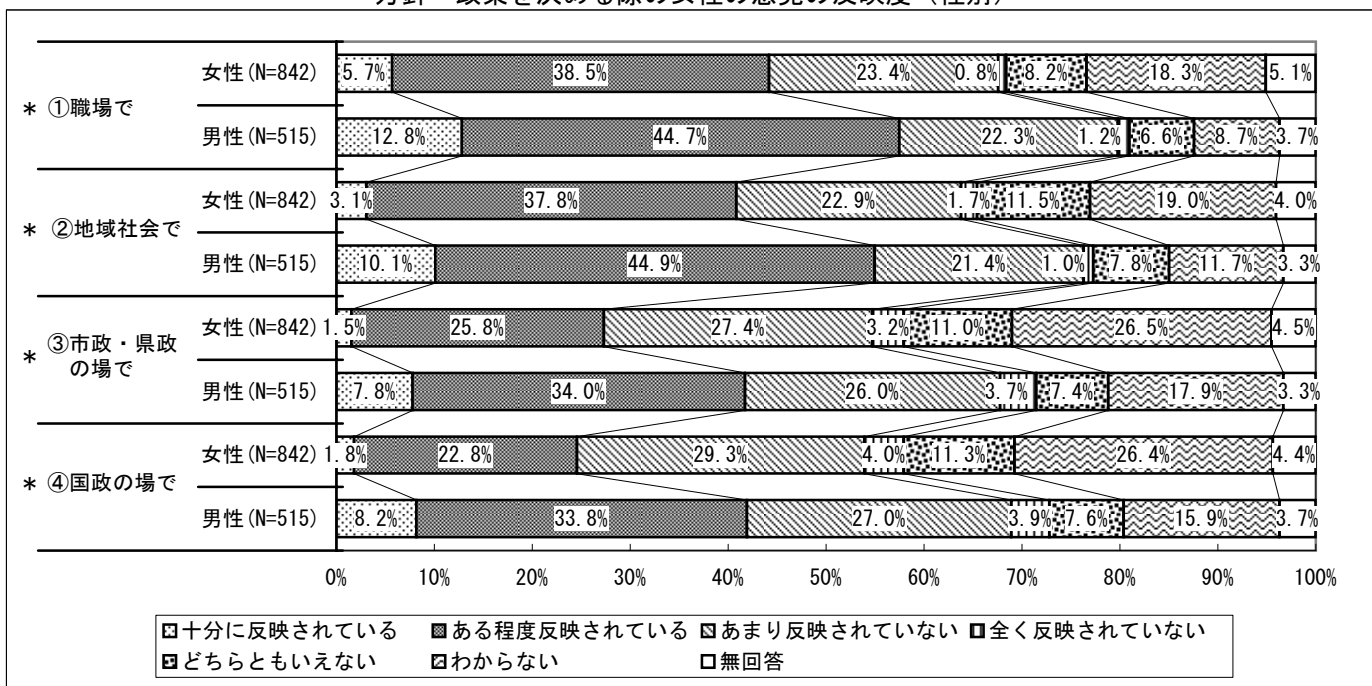
方針・政策を決める際の女性の意見の反映度についてみると、全体では「④国政の場」以外の項目で『反映されていると感じている人』（「十分に反映されている」＋「ある程度反映されている」）（①職場で：49.2%、②地域社会で：45.8%、③市政・県政の場で：32.6%）が『反映されていないと感じる人』（「あまり反映されていない」＋「全く反映されていない」）（①職場で：23.9%、②地域社会で：23.7%、③市政・県政の場で：30.3%）を上回っている。

これを性別にみると、すべての項目において『反映されていると感じる人』の割合は、男性が女性を上回っている。

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（全体）



方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（性別）

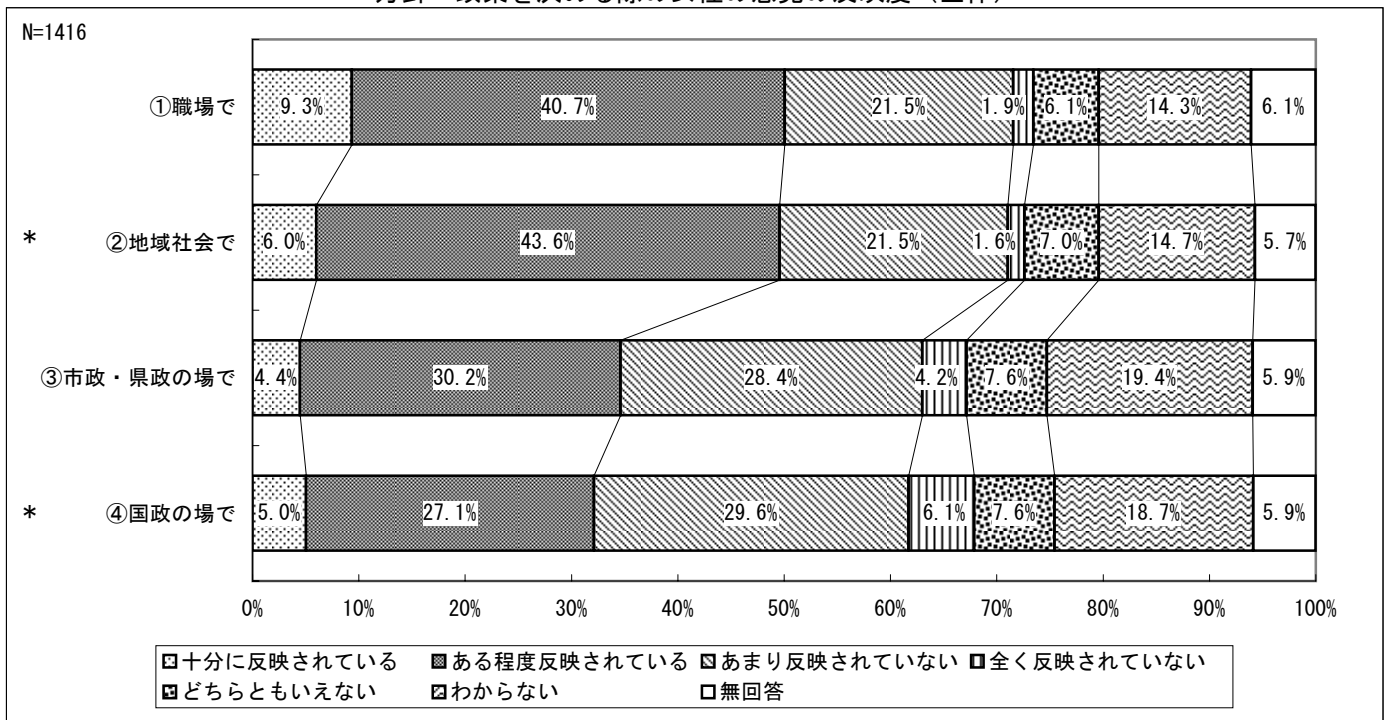


*: 性別で有意差あり

【前回調査】

前回調査と比較すると、「②地域社会で」において「どちらともいえない」（今回：10.0%、前回：7.0%）の割合が増加し、「④国政の場で」において「全く反映されていない」（今回：4.0%、前回：6.1%）の割合が減少している。

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（全体）



*: 今回調査と有意差あり

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（性・年代、性別役割分担の考え方別）

		①職場で							②地域社会で							
		十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	無回答	十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体	サンプル数	100.0	8.3	40.9	22.9	1.0	7.5	14.7	4.8	5.7	40.1	22.3	1.4	10.0	16.3	4.1
		1395	116	570	319	14	104	205	67	80	559	311	20	140	228	57
性・年代別	男性計	100.0	12.8	44.7	22.3	1.2	6.6	8.7	3.7	10.1	44.9	21.4	1.0	7.8	11.7	3.3
		515	66	230	115	6	34	45	19	52	231	110	5	40	60	17
	20代	100.0	12.5	39.3	14.3	0.0	17.9	16.1	0.0	3.6	41.1	17.9	1.8	19.6	16.1	0.0
		56	7	22	8	0	10	9	0	2	23	10	1	11	9	0
	30代	100.0	10.8	43.2	24.3	1.4	8.1	12.2	0.0	13.5	28.4	21.6	0.0	8.1	27.0	1.4
		74	8	32	18	1	6	9	0	10	21	16	0	6	20	1
	40代	100.0	27.3	43.9	16.7	4.5	6.1	1.5	0.0	15.2	47.0	22.7	1.5	9.1	4.5	0.0
		66	18	29	11	3	4	1	0	10	31	15	1	6	3	0
	50代	100.0	16.0	38.0	34.0	0.0	5.0	6.0	1.0	13.0	42.0	27.0	1.0	7.0	9.0	1.0
		100	16	38	34	0	5	6	1	13	42	27	1	7	9	1
	60代	100.0	9.8	51.5	22.0	0.8	5.3	5.3	5.3	6.8	53.0	22.0	0.0	6.8	8.3	3.0
		132	13	68	29	1	7	7	7	9	70	29	0	9	11	4
	70歳以上	100.0	4.6	47.1	17.2	1.1	2.3	14.9	12.6	9.2	50.6	14.9	2.3	1.1	9.2	12.6
		87	4	41	15	1	2	13	11	8	44	13	2	1	8	11
	女性計	100.0	5.7	38.5	23.4	0.8	8.2	18.3	5.1	3.1	37.8	22.9	1.7	11.5	19.0	4.0
		842	48	324	197	7	69	154	43	26	318	193	14	97	160	34
	20代	100.0	9.6	41.5	23.4	0.0	4.3	21.3	0.0	2.1	36.2	23.4	1.1	10.6	26.6	0.0
		94	9	39	22	0	4	20	0	2	34	22	1	10	25	0
	30代	100.0	3.9	46.7	27.6	2.0	3.9	15.8	0.0	3.3	34.9	19.7	3.9	11.2	27.0	0.0
		152	6	71	42	3	6	24	0	5	53	30	6	17	41	0
40代	100.0	8.8	37.5	25.6	1.3	11.3	15.0	0.6	3.1	40.6	27.5	1.9	12.5	13.8	0.6	
	160	14	60	41	2	18	24	1	5	65	44	3	20	22	1	
50代	100.0	6.2	38.8	25.3	0.6	12.9	12.9	3.4	2.2	38.8	27.5	1.7	12.4	15.2	2.2	
	178	11	69	45	1	23	23	6	4	69	49	3	22	27	4	
60代	100.0	4.2	35.2	20.0	0.6	7.3	23.0	9.7	4.2	40.0	21.2	0.6	12.1	13.3	8.5	
	165	7	58	33	1	12	38	16	7	66	35	1	20	22	14	
70歳以上	100.0	1.1	30.0	14.4	0.0	6.7	26.7	21.1	3.3	34.4	14.4	0.0	8.9	23.3	15.6	
	90	1	27	13	0	6	24	19	3	31	13	0	8	21	14	
性別役割分担の考え方	賛成	100.0	8.6	41.5	20.8	0.5	7.0	15.5	6.1	8.3	42.0	17.7	1.0	9.4	16.5	5.1
		626	54	260	130	3	44	97	38	52	263	111	6	59	103	32
	反対	100.0	9.1	42.4	26.0	1.6	6.5	10.6	3.7	3.9	39.7	27.6	2.1	9.6	14.1	2.9
		615	56	261	160	10	40	65	23	24	244	170	13	59	87	18
わからない	100.0	3.6	32.6	20.3	0.7	12.3	28.3	2.2	2.9	31.9	21.0	0.7	15.9	24.6	2.9	
	138	5	45	28	1	17	39	3	4	44	29	1	22	34	4	

		③市政・県政の場で							④国政の場で								
	サンプル数	十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	無回答	十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	無回答		
全体	100.0 1395	3.9 54	28.7 401	26.9 375	3.4 48	9.7 135	23.0 321	4.4 61	4.2 58	27.0 377	28.2 394	4.0 56	9.8 137	22.2 310	4.5 63		
性・年代別	男性計	100.0 515	7.8 40	34.0 175	26.0 134	3.7 19	7.4 38	17.9 92	3.3 17	8.2 42	33.8 174	27.0 139	3.9 20	7.6 39	15.9 82	3.7 19	
	20代	100.0 56	3.6 2	21.4 12	28.6 16	8.9 5	17.9 10	19.6 11	0.0 0	3.6 2	23.2 13	26.8 15	10.7 6	17.9 10	17.9 10	0.0 0	
	30代	100.0 74	4.1 3	32.4 24	21.6 16	6.8 5	5.4 4	28.4 21	1.4 1	6.8 5	29.7 22	25.7 19	5.4 4	6.8 5	24.3 18	1.4 1	
	40代	100.0 66	9.1 6	34.8 23	33.3 22	3.0 2	6.1 4	13.6 9	0.0 0	10.6 7	39.4 26	28.8 19	3.0 2	7.6 5	9.1 6	1.5 1	
	50代	100.0 100	13.0 13	35.0 35	27.0 27	4.0 4	5.0 5	15.0 15	1.0 1	11.0 11	36.0 36	29.0 29	5.0 5	5.0 5	13.0 13	1.0 1	
	60代	100.0 132	9.1 12	35.6 47	29.5 39	0.0 0	7.6 10	15.2 20	3.0 4	9.1 12	31.8 42	33.3 44	0.8 1	7.6 10	14.4 19	3.0 4	
	70歳以上	100.0 87	4.6 4	39.1 34	16.1 14	3.4 3	5.7 5	18.4 16	12.6 11	5.7 5	40.2 35	14.9 13	2.3 2	4.6 4	18.4 16	13.8 12	
	女性計	100.0 842	1.5 13	25.8 217	27.4 231	3.2 27	11.0 93	26.5 223	4.5 38	1.8 15	22.8 192	29.3 247	4.0 34	11.3 95	26.4 222	4.4 37	
	20代	100.0 94	0.0 0	17.0 16	27.7 26	3.2 3	16.0 15	36.2 34	0.0 0	0.0 0	16.0 15	27.7 26	4.3 4	16.0 15	36.2 34	0.0 0	
	30代	100.0 152	0.0 0	19.1 29	36.2 55	5.3 8	11.2 17	28.3 43	0.0 0	0.0 0	16.4 25	38.2 58	5.9 9	12.5 19	27.0 41	0.0 0	
	40代	100.0 160	1.3 2	25.0 40	30.6 49	6.9 11	12.5 20	23.1 37	0.6 1	1.9 3	21.3 34	33.1 53	6.3 10	13.8 22	23.1 37	0.6 1	
	50代	100.0 178	1.1 2	30.3 54	29.8 53	1.1 2	10.7 19	24.2 43	2.8 5	1.1 2	25.8 46	33.7 60	2.8 5	10.7 19	23.6 42	2.2 4	
	60代	100.0 165	3.0 5	31.5 52	22.4 37	1.8 3	9.7 16	23.6 39	7.9 13	3.0 5	30.9 51	21.8 36	3.0 5	9.1 15	23.6 39	8.5 14	
	70歳以上	100.0 90	4.4 4	28.9 26	12.2 11	0.0 0	6.7 6	27.8 25	20.0 18	5.6 5	23.3 21	15.6 14	0.0 0	5.6 5	31.1 28	18.9 17	
	性別役割分担の考え方	賛成	100.0 626	5.3 33	32.9 206	22.8 143	2.2 14	9.3 58	22.4 140	5.1 32	5.9 37	29.9 187	24.8 155	3.0 19	9.7 61	21.6 135	5.1 32
		反対	100.0 615	2.6 16	26.7 164	32.7 201	4.7 29	8.6 53	21.3 131	3.4 21	2.6 16	25.7 158	33.7 207	4.9 30	8.6 53	20.7 127	3.9 24
		わからない	100.0 138	2.2 3	21.0 29	20.3 28	3.6 5	15.9 22	33.3 46	3.6 5	2.9 4	21.7 30	21.0 29	5.1 7	15.9 22	30.4 42	2.9 4

(2) 政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由

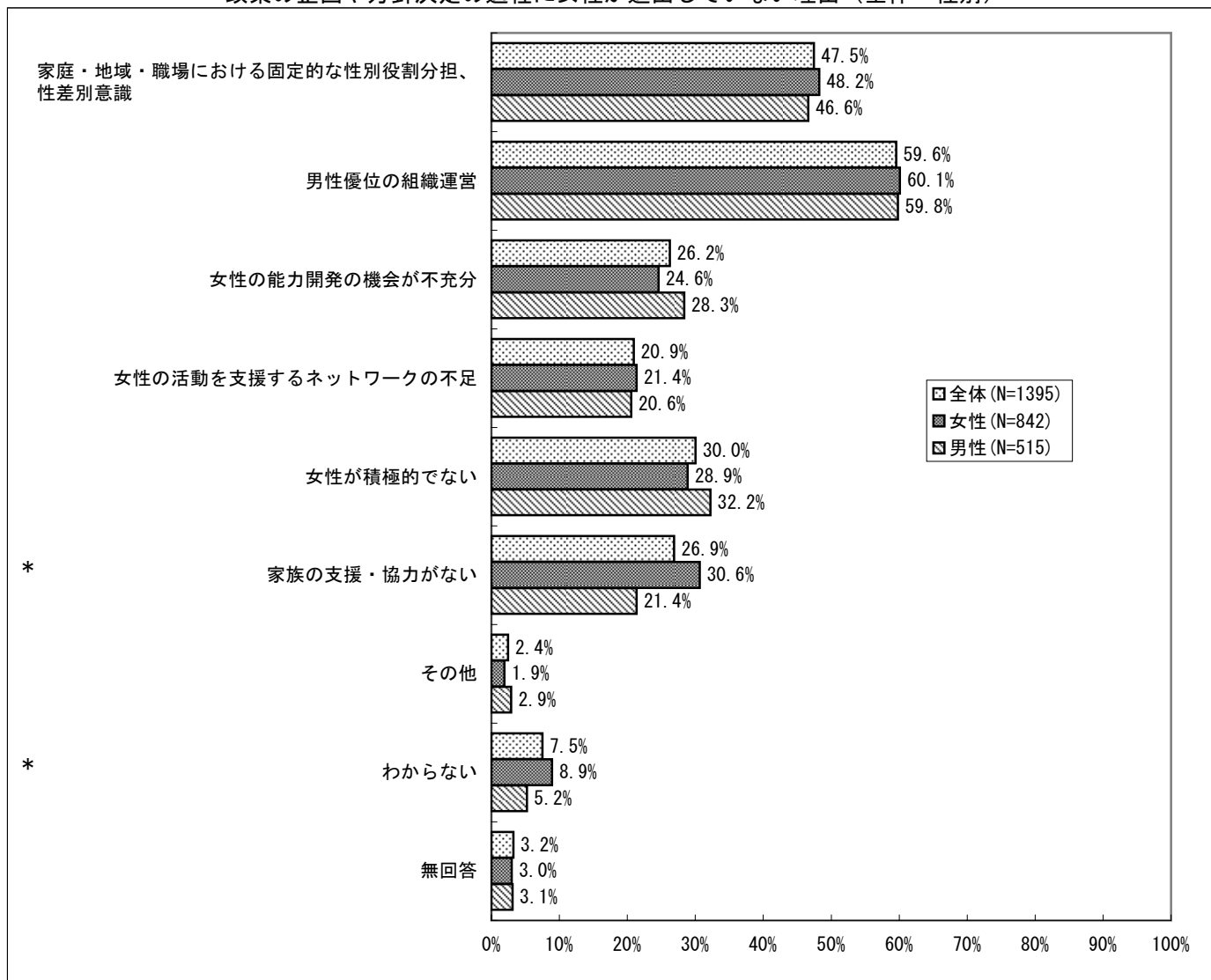
【問25】 現在わが国の、政策や方針決定過程への女性の参画状況は先進国の中で特に低くなっています。政策の企画や方針決定の過程に、女性が進出していない理由は何だと思えますか。（複数回答）

～男性優位の組織運営と6割が回答～

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由についてみると、全体では「男性優位の組織運営」（59.6%）の割合が最も高く、次いで「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」（47.5%）となっている。

これを性別にみると、「家族の支援・協力が無い」において、女性（30.6%）の割合が男性（21.4%）より高くなっている。

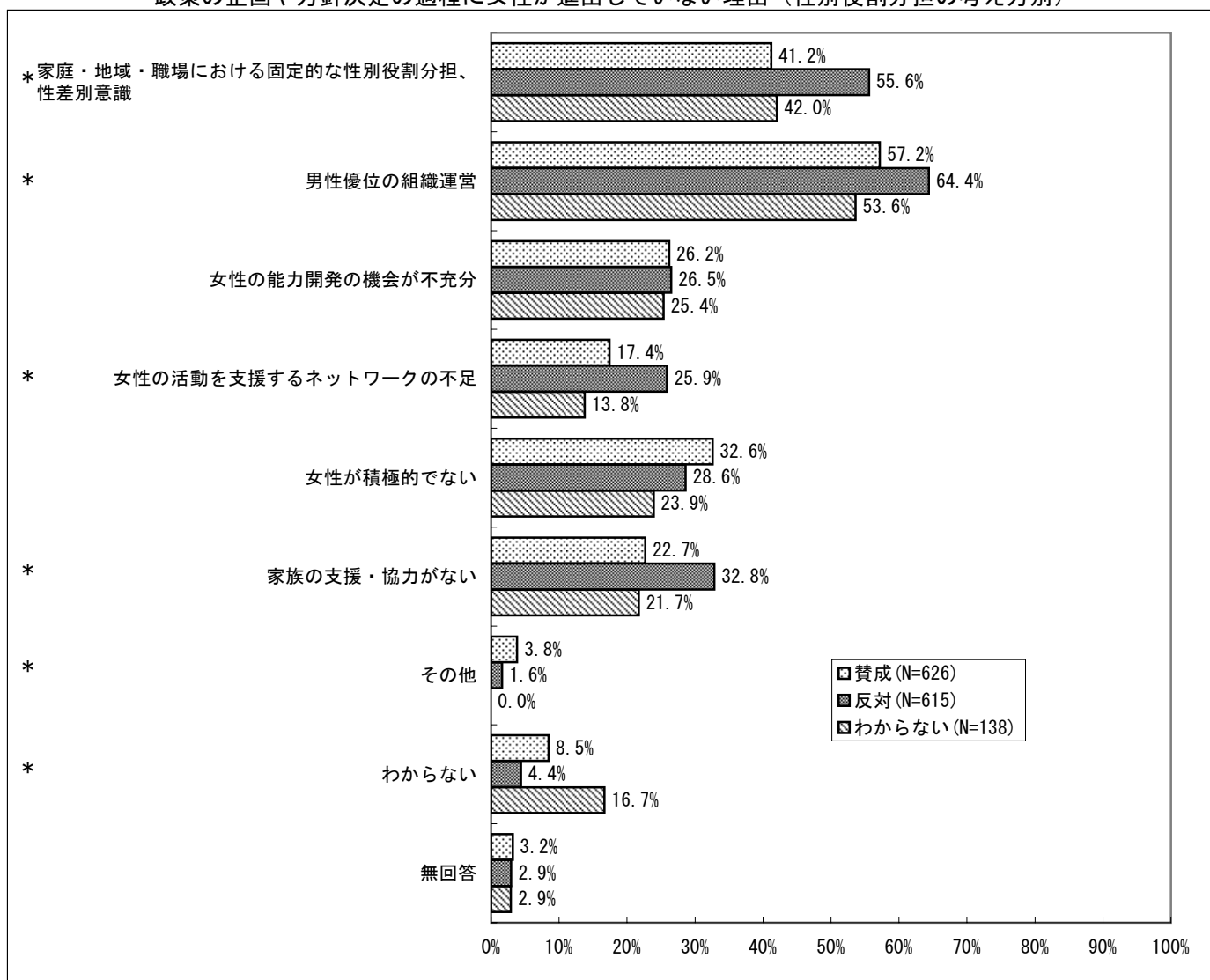
政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由（全体・性別）



*:性別で有意差あり

性別役割分担の考え方別では、「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」（『賛成』：41.2%、『反対』：55.6%、「わからない」：42.0%）※、「男性優位の組織運営」（『賛成』：57.2%、『反対』：64.4%、「わからない」：53.6%）、「女性の活動を支援するネットワークの不足」（『賛成』：17.4%、『反対』：25.9%、「わからない」：13.8%）、「家族の支援・協力が無い」（『賛成』：22.7%、『反対』：32.8%、「わからない」：21.7%）において、『反対』の割合が『賛成』及び「わからない」より高くなっている。

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由（性別役割分担の考え方別）



*: 項目間で有意差あり

※ 『賛成』『反対』については、18ページの※を参照。

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由（性・年代、性別役割分担の考え方別）

		サンプル数	な家庭 性別・ 役割分 担、職 場にお ける固 定的 意識	男性 優位 の組 織運 営	女性 の能 力開 発の 機会 が不 充分	ク女 性の 不足	女性 の活 動を 支援 する ネッ トワ ー	女性 が積 極的 でない	家 族の 支援 ・協 力が ない	そ の他	わ から ない	無 回 答
全体		100.0 1395	47.5 662	59.6 831	26.2 366	20.9 292	30.0 419	26.9 375	2.4 34	7.5 105	3.2 45	
性・ 年代別	男性計	100.0 515	46.6 240	59.8 308	28.3 146	20.6 106	32.2 166	21.4 110	2.9 15	5.2 27	3.1 16	
		20代	100.0 56	57.1 32	58.9 33	25.0 14	32.1 18	23.2 13	19.6 11	1.8 1	3.6 2	0.0 0
	30代	100.0 74	55.4 41	58.1 43	16.2 12	13.5 10	23.0 17	23.0 17	5.4 4	9.5 7	0.0 0	
		40代	100.0 66	42.4 28	60.6 40	22.7 15	16.7 11	33.3 22	24.2 16	3.0 2	6.1 4	1.5 1
	50代	100.0 100	49.0 49	60.0 60	27.0 27	15.0 15	36.0 36	24.0 24	5.0 5	5.0 5	3.0 3	
		60代	100.0 132	43.9 58	59.8 79	34.1 45	22.7 30	34.1 45	23.5 31	1.5 2	5.3 7	3.8 5
	70歳以上	100.0 87	36.8 32	60.9 53	37.9 33	25.3 22	37.9 33	12.6 11	1.1 1	2.3 2	8.0 7	
		女性計	100.0 842	48.2 406	60.1 506	24.6 207	21.4 180	28.9 243	30.6 258	1.9 16	8.9 75	3.0 25
	20代	100.0 94	61.7 58	61.7 58	19.1 18	24.5 23	25.5 24	28.7 27	3.2 3	6.4 6	1.1 1	
		30代	100.0 152	63.2 96	68.4 104	17.8 27	19.1 29	26.3 40	30.3 46	0.7 1	4.6 7	0.0 0
	40代	100.0 160	48.1 77	65.0 104	19.4 31	20.0 32	20.6 33	38.8 62	3.8 6	6.9 11	1.3 2	
		50代	100.0 178	48.9 87	57.9 103	31.5 56	18.5 33	34.3 61	32.0 57	1.7 3	7.3 13	2.8 5
	60代	100.0 165	38.2 63	58.8 97	29.1 48	25.5 42	33.9 56	27.3 45	1.2 2	13.9 23	4.8 8	
		70歳以上	100.0 90	27.8 25	44.4 40	28.9 26	23.3 21	31.1 28	23.3 21	1.1 1	16.7 15	7.8 7
	性別 役割 分担 の考 え方	賛成	100.0 626	41.2 258	57.2 358	26.2 164	17.4 109	32.6 204	22.7 142	3.8 24	8.5 53	3.2 20
			反対	100.0 615	55.6 342	64.4 396	26.5 163	25.9 159	28.6 176	32.8 202	1.6 10	4.4 27
		わからない	100.0 138	42.0 58	53.6 74	25.4 35	13.8 19	23.9 33	21.7 30	0.0 0	16.7 23	2.9 4

(3) 女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること

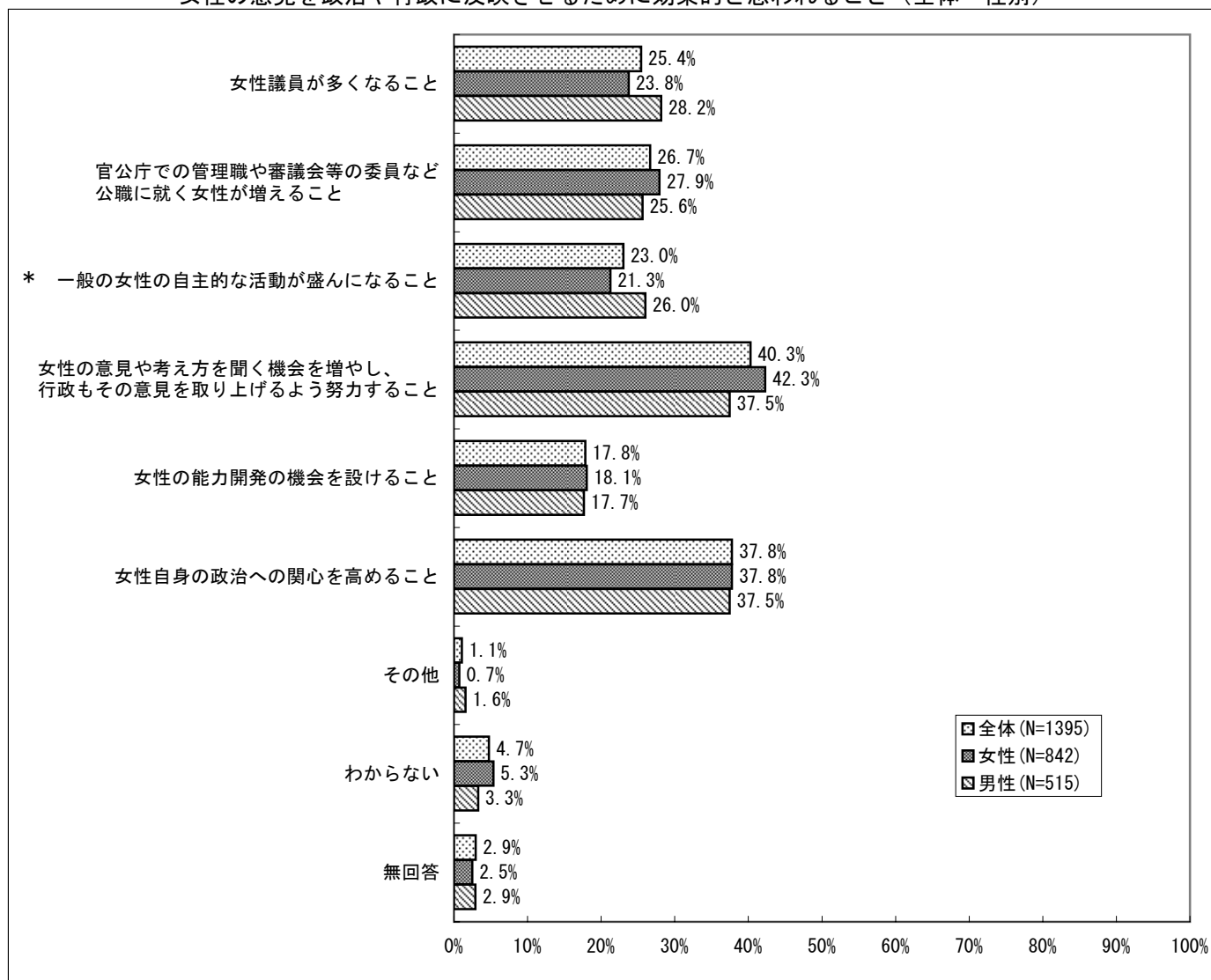
【問26】 女性の意見を政治や行政に十分反映させるためには、どのようなことが最も効果があると思いますか。（複数回答）

～多いのは女性の意見を聞く機会を増やすことや、女性が政治への関心を高めること～

女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われることについてみると、全体では「女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること」（40.3%）の割合が最も高く、次いで「女性自身の政治への関心を高めること」（37.8%）となっている。

これを性別にみると、「一般の女性の自主的な活動が盛んになること」（女性：21.3%、男性：26.0%）において男性の割合が女性より高くなっている。

女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること（全体・性別）



*:性別で有意差あり

女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること（性・年代、性別役割分担の考え方別）

	サンプル数	女性議員が多くなること	と 員 など 公 職 に 就 く 女 性 が 増 える こ と	官 庁 の 管 理 職 や 審 議 会 等 の 委 任 に な る こ と	一 般 の 女 性 の 自 主 的 な 活 動 が 盛 ん に な る こ と	増 や し 、 行 政 も そ の 意 見 を 取 り 上 げ る よ う な 努 力 す る こ と	女 性 の 意 見 や 考 え 方 を 聞 く 機 会 を 設 け る こ と	女 性 の 能 力 開 発 の 機 会 を 設 け る こ と	女 性 自 身 の 政 治 へ の 関 心 を 高 め る こ と	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	100.0	25.4	26.7	23.0	40.3	17.8	37.8	1.1	4.7	2.9		
	1395	355	372	321	562	249	527	15	66	41		
男性計	100.0	28.2	25.6	26.0	37.5	17.7	37.5	1.6	3.3	2.9		
	515	145	132	134	193	91	193	8	17	15		
20代	100.0	35.7	21.4	30.4	41.1	14.3	28.6	1.8	5.4	1.8		
	56	20	12	17	23	8	16	1	3	1		
30代	100.0	29.7	28.4	20.3	41.9	9.5	31.1	1.4	4.1	0.0		
	74	22	21	15	31	7	23	1	3	0		
40代	100.0	31.8	25.8	25.8	28.8	19.7	37.9	3.0	3.0	1.5		
	66	21	17	17	19	13	25	2	2	1		
50代	100.0	27.0	30.0	23.0	34.0	23.0	35.0	4.0	4.0	2.0		
	100	27	30	23	34	23	35	4	4	2		
60代	100.0	26.5	26.5	25.8	40.9	15.9	47.7	0.0	2.3	1.5		
	132	35	35	34	54	21	63	0	3	2		
70歳以上	100.0	23.0	19.5	32.2	36.8	21.8	35.6	0.0	2.3	10.3		
	87	20	17	28	32	19	31	0	2	9		
女性計	100.0	23.8	27.9	21.3	42.3	18.1	37.8	0.7	5.3	2.5		
	842	200	235	179	356	152	318	6	45	21		
20代	100.0	28.7	28.7	19.1	29.8	17.0	29.8	2.1	10.6	1.1		
	94	27	27	18	28	16	28	2	10	1		
30代	100.0	23.0	29.6	21.1	50.7	18.4	27.6	0.0	4.6	0.7		
	152	35	45	32	77	28	42	0	7	1		
40代	100.0	28.1	31.9	16.3	45.0	13.1	39.4	1.9	3.1	0.6		
	160	45	51	26	72	21	63	3	5	1		
50代	100.0	25.3	25.8	25.8	41.0	24.7	39.3	0.0	2.2	2.8		
	178	45	46	46	73	44	70	0	4	5		
60代	100.0	19.4	28.5	21.8	43.6	16.4	44.8	0.6	6.7	3.0		
	165	32	47	36	72	27	74	1	11	5		
70歳以上	100.0	17.8	21.1	22.2	37.8	17.8	44.4	0.0	8.9	6.7		
	90	16	19	20	34	16	40	0	8	6		
賛成	100.0	22.5	23.0	23.5	37.2	16.9	41.2	1.4	5.6	2.9		
	626	141	144	147	233	106	258	9	35	18		
反対	100.0	28.3	30.9	22.3	45.0	19.5	35.9	0.8	2.0	2.6		
	615	174	190	137	277	120	221	5	12	16		
わからない	100.0	24.6	26.8	23.9	35.5	15.2	29.7	0.7	13.0	2.9		
	138	34	37	33	49	21	41	1	18	4		

10 人権・暴力について

(1) ドメスティック・バイオレンスに対する考え方

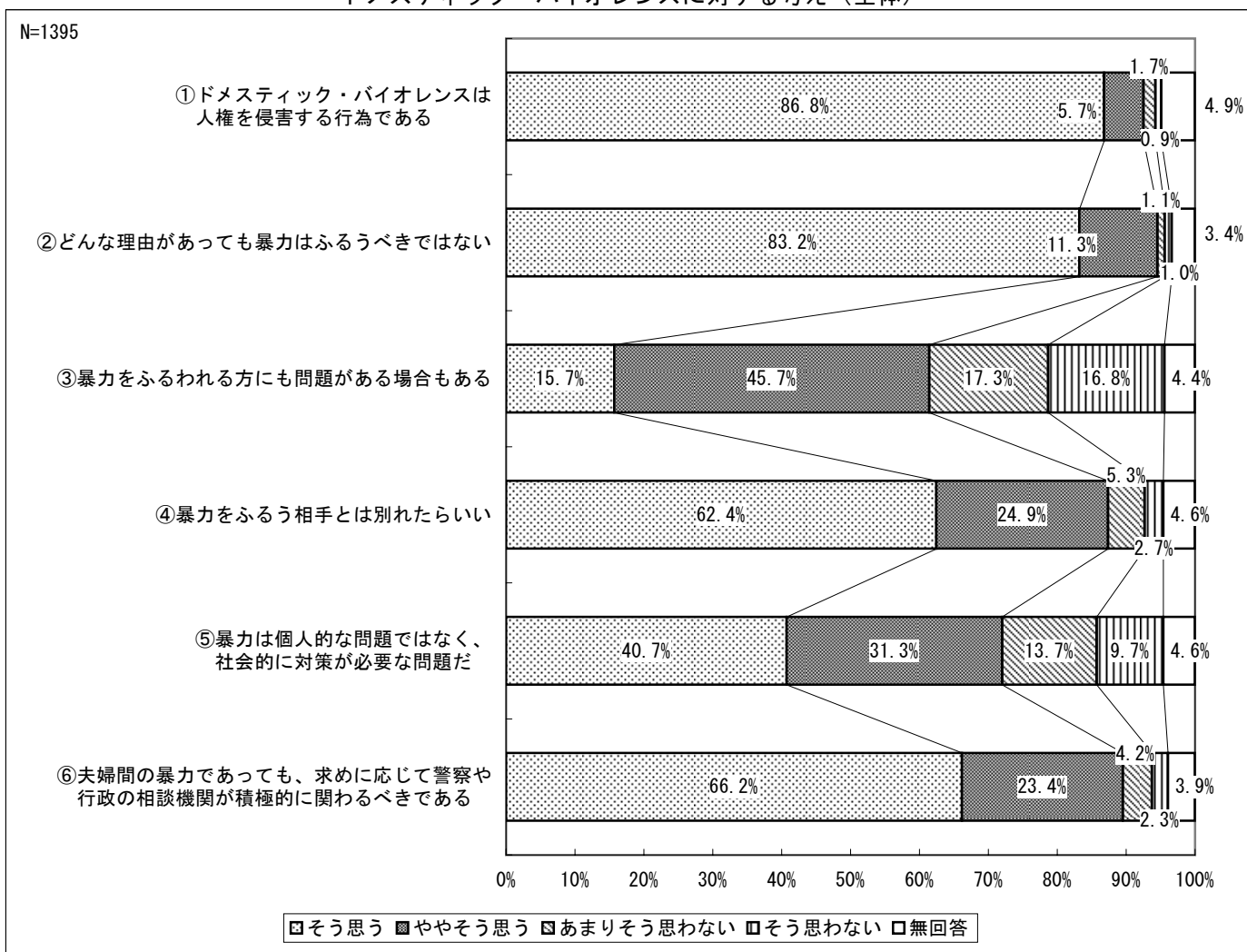
【問27】 配偶者等からの暴力（身体的、精神的、経済的、性的）は、多くの場合女性が被害者となっています。このような配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたはどのようにお考えですか。

～理由を問わず暴力は認められないと9割の人が認識～

ドメスティック・バイオレンスに対する考えについてみると、全体では「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は「②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」（94.5%）が最も高くなっている。

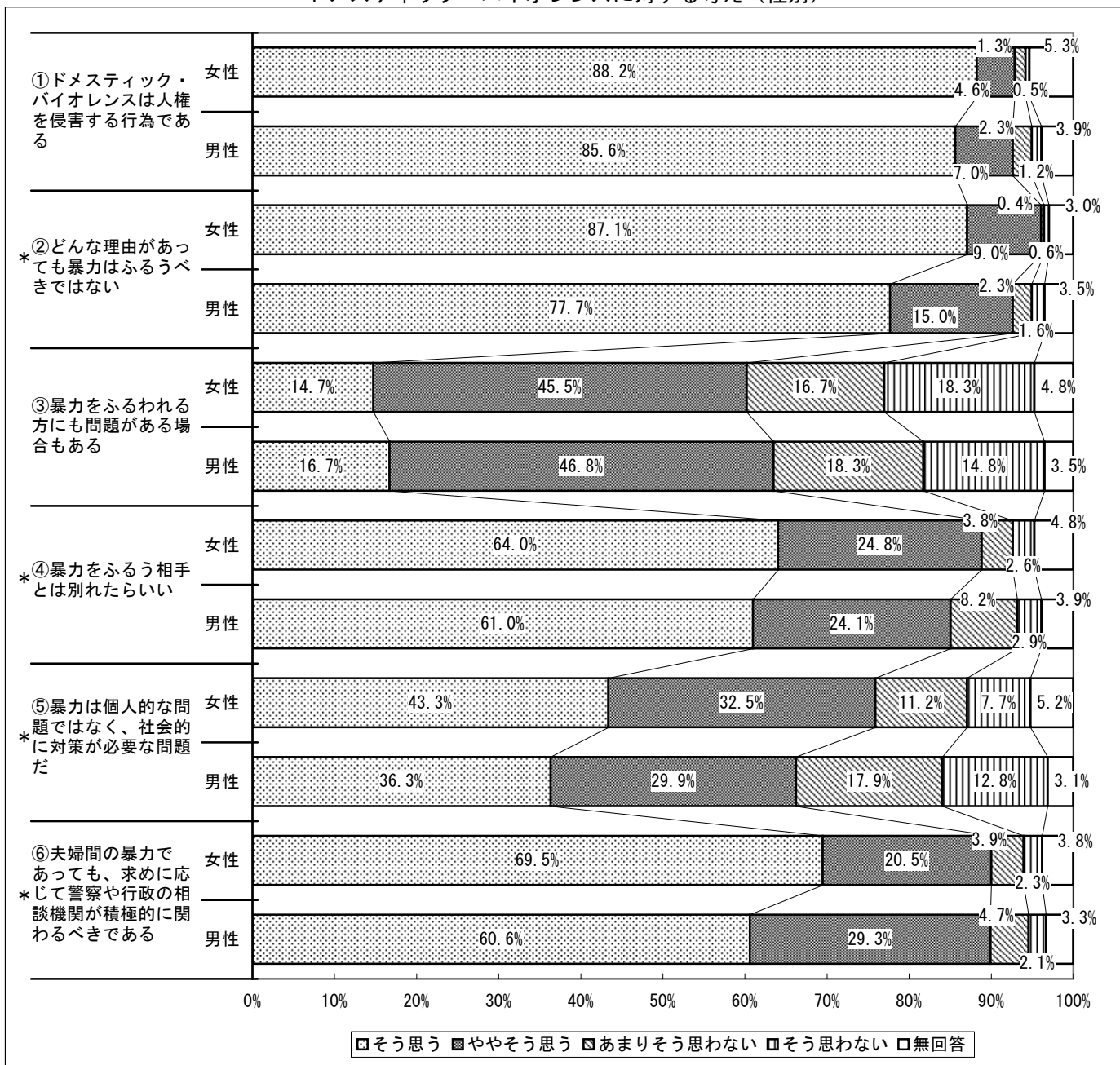
一方、「暴力をふるわれる方にも問題がある場合もある」においては、6割が「そう思う」「ややそう思う」（61.4%）と考えており、「夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである」については9割が「そう思う」「ややそう思う」（89.6%）と考えている。

ドメスティック・バイオレンスに対する考え（全体）



これを性別にみると、「②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」において「ややそう思う」（女性：9.0%、男性：15.0%）と「あまりそう思わない」（女性：0.4%、男性：2.3%）は男性の割合が女性より高くなっている。「④暴力をふるう相手とは別れたらいい」において「あまりそう思わない」（女性：3.8%、男性：8.2%）の男性の割合が女性より高くなっている。「⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ」において「あまりそう思わない」（女性：11.2%、男性：17.9%）と「そう思わない」（女性：7.7%、男性：12.8%）の男性の割合が高くなっている。「⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである」において「ややそう思う」（女性：20.5%、男性：29.3%）の男性の割合が高くなっている。

ドメスティック・バイオレンスに対する考え（性別）



*:性別で有意差あり

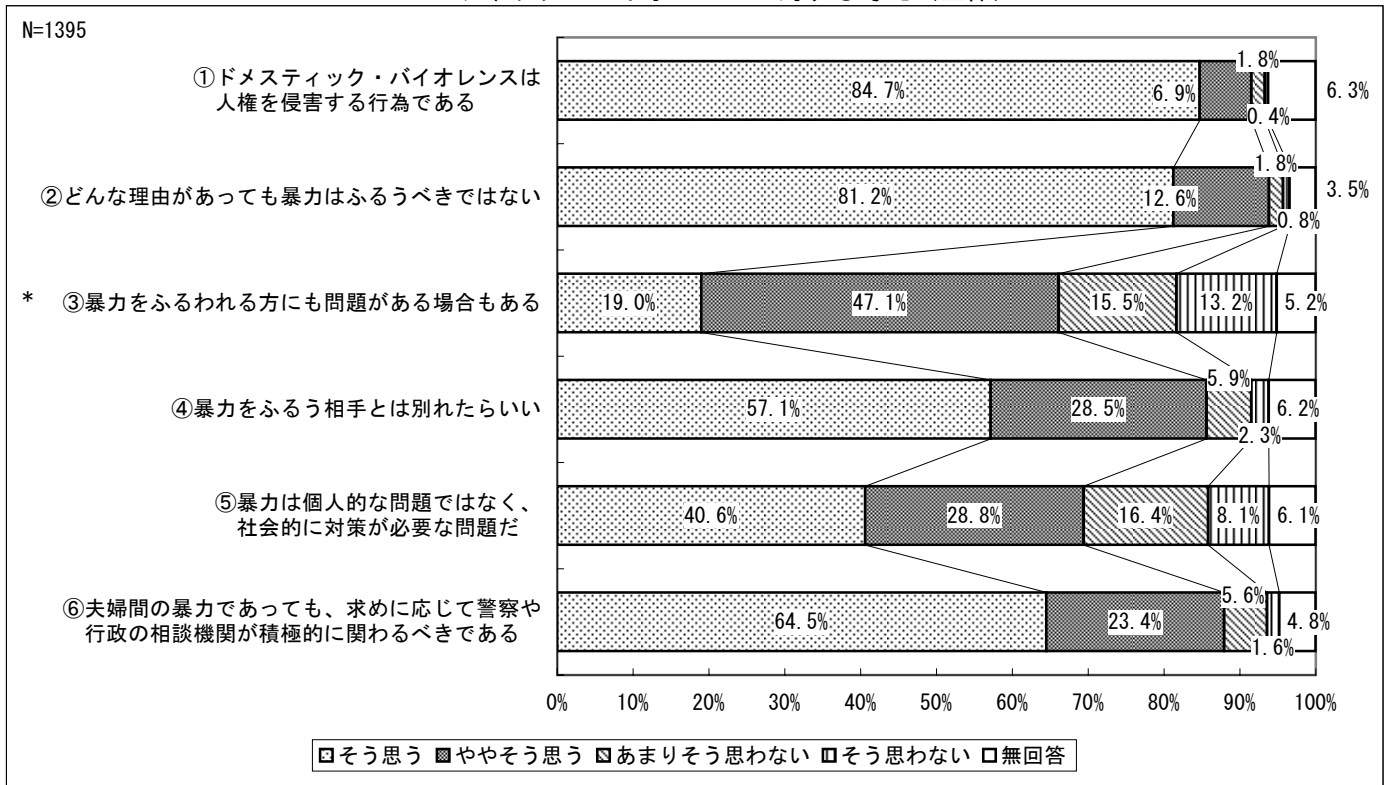
性別役割分担の考え方で「そう思う」について比較すると、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」において『賛成』（18.8%）※の割合が高く、「⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ」において『賛成』（33.4%）の割合が低く『反対』（48.6%）の割合が高くなっている。

※ 『賛成』『反対』については、18ページの※を参照。

【前回調査】

前回調査と比較すると、「③暴力をふるわれる方にも問題がある場合もある」において「そう思う」（今回：15.7%、前回：19.0%）の割合が減少し、「そう思わない」（今回：16.8%、前回：13.2%）の割合が増加している。

ドメスティック・バイオレンスに対する考え（全体）



*: 今回調査と有意差あり

ドメスティック・バイオレンスに対する考え（性・年代、性別役割分担の考え方別）

	サンプル数	①ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である					②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない					
		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	
全体	100.0 1395	86.8 1211	5.7 80	1.7 24	0.9 12	4.9 68	83.2 1161	11.3 158	1.1 15	1.0 14	3.4 47	
性別	男性	100.0 515	85.6 441	7.0 36	2.3 12	1.2 6	3.9 20	77.7 400	15.0 77	2.3 12	1.6 8	3.5 18
	女性	100.0 842	88.2 743	4.6 39	1.3 11	0.5 4	5.3 45	87.1 733	9.0 76	0.4 3	0.6 5	3.0 25
性別役割分担の考え方	賛成	100.0 626	84.5 529	6.5 41	1.8 11	1.0 6	6.2 39	80.2 502	13.1 82	1.1 7	1.4 9	4.2 26
	反対	100.0 615	90.4 556	4.1 25	2.0 12	0.2 1	3.4 21	86.8 534	9.8 60	1.1 7	0.0 0	2.3 14
		わからない	100.0 138	81.9 113	10.1 14	0.7 1	2.9 4	4.3 6	82.6 114	10.1 14	0.7 1	2.9 4

		③暴力をふるわれる方にも問題がある場合もある					④暴力をふるう相手とは別れたらいい					
		サンプル数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
全体		100.0	15.7	45.7	17.3	16.8	4.4	62.4	24.9	5.3	2.7	4.6
		1395	219	638	241	235	62	871	348	74	38	64
性別	男性	100.0	16.7	46.8	18.3	14.8	3.5	61.0	24.1	8.2	2.9	3.9
		515	86	241	94	76	18	314	124	42	15	20
性別	女性	100.0	14.7	45.5	16.7	18.3	4.8	64.0	24.8	3.8	2.6	4.8
		842	124	383	141	154	40	539	209	32	22	40
性別役割分担の考え方	賛成	100.0	18.8	46.5	15.0	14.2	5.4	59.1	26.7	7.0	1.9	5.3
		626	118	291	94	89	34	370	167	44	12	33
性別役割分担の考え方	反対	100.0	12.8	45.0	18.7	20.3	3.1	67.2	22.0	4.2	2.9	3.7
		615	79	277	115	125	19	413	135	26	18	23
性別役割分担の考え方	わからない	100.0	11.6	45.7	23.2	14.5	5.1	56.5	31.2	2.9	5.1	4.3
		138	16	63	32	20	7	78	43	4	7	6

		⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ					⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである					
		サンプル数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
全体		100.0	40.7	31.3	13.7	9.7	4.6	66.2	23.4	4.2	2.3	3.9
		1395	568	437	191	135	64	923	326	59	32	55
性別	男性	100.0	36.3	29.9	17.9	12.8	3.1	60.6	29.3	4.7	2.1	3.3
		515	187	154	92	66	16	312	151	24	11	17
性別	女性	100.0	43.3	32.5	11.2	7.7	5.2	69.5	20.5	3.9	2.3	3.8
		842	365	274	94	65	44	585	173	33	19	32
性別役割分担の考え方	賛成	100.0	33.4	35.3	15.3	10.5	5.4	61.0	26.8	5.4	2.2	4.5
		626	209	221	96	66	34	382	168	34	14	28
性別役割分担の考え方	反対	100.0	48.6	26.0	13.8	8.3	3.3	73.5	18.0	3.4	2.3	2.8
		615	299	160	85	51	20	452	111	21	14	17
性別役割分担の考え方	わからない	100.0	41.3	37.0	6.5	10.1	5.1	58.7	29.7	2.9	2.9	5.8
		138	57	51	9	14	7	81	41	4	4	8

(2) 現在または過去における配偶者の有無

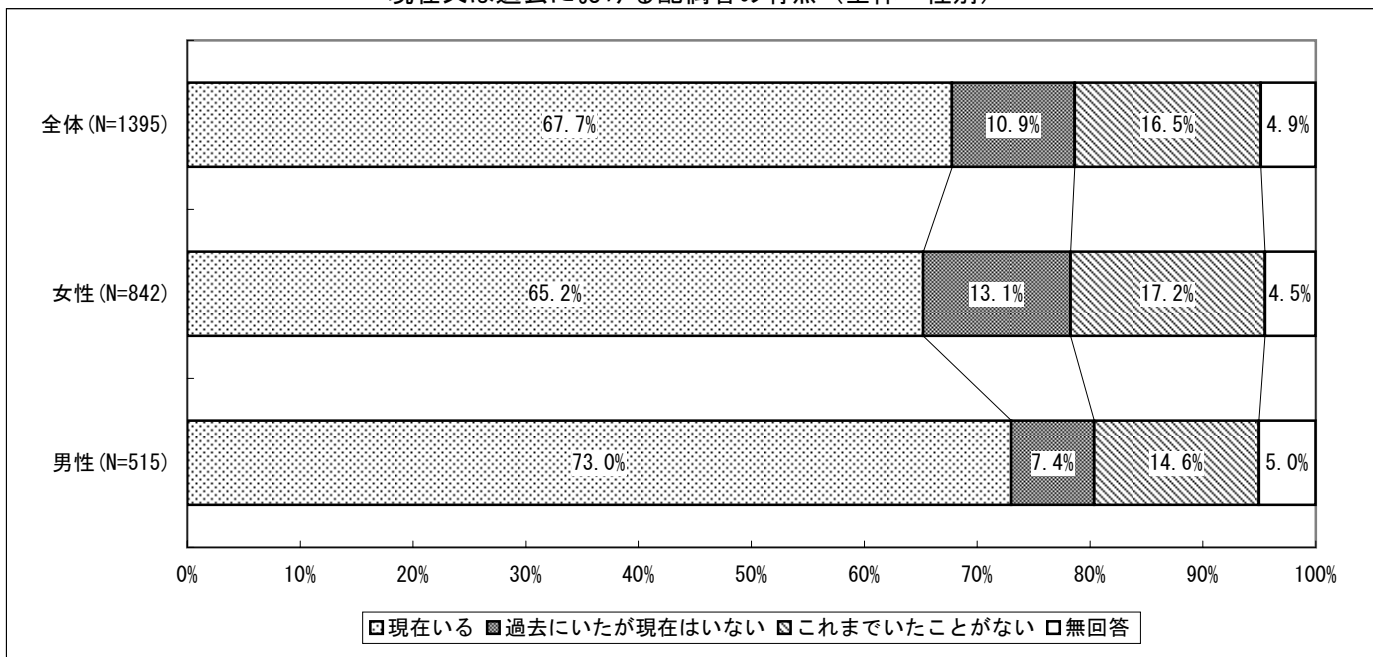
【問28】 あなたは、現在または過去に配偶者（結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む）がいましたか。

現在又は過去における配偶者の有無についてみると、全体では「現在いる」が67.7%、「過去にいたが現在はいない」が10.9%、「これまでいたことがない」が16.5%となっている。

これを性別にみると、「過去にいたが現在はいない」男性の割合（7.4%）が女性（13.1%）より低くなっている。

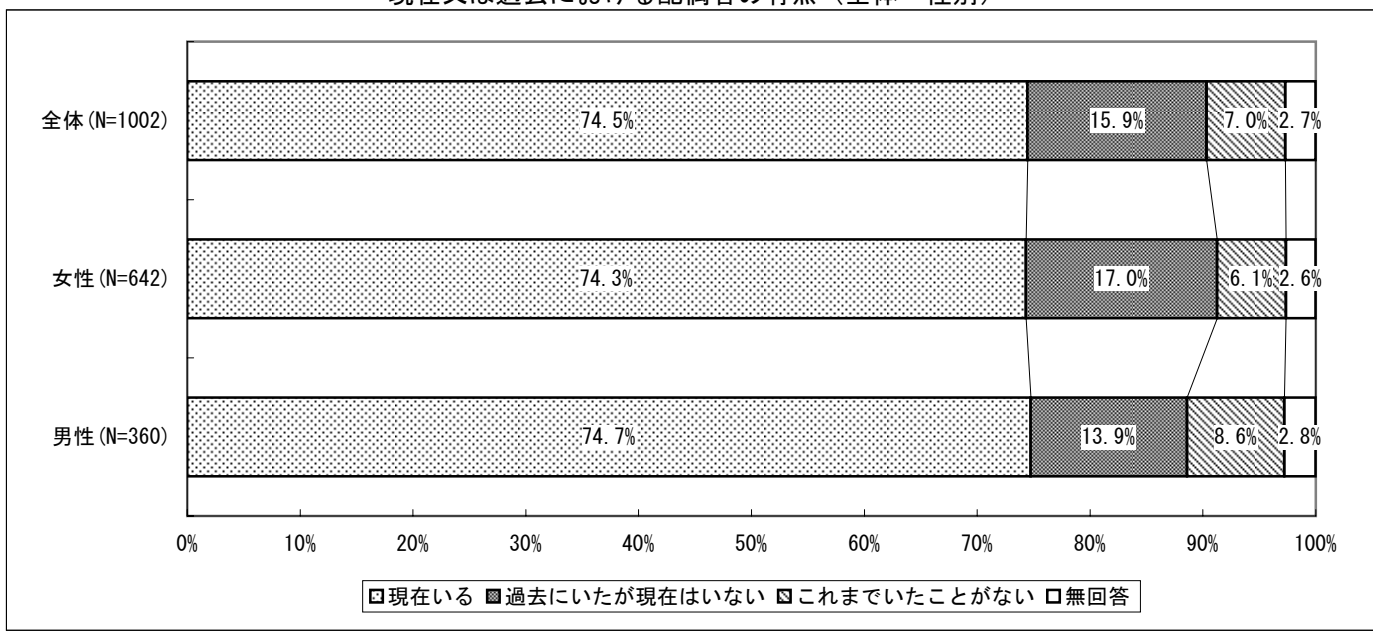
※ 平成19年度に実施したDV調査（夫婦やパートナーとの日常生活についてのアンケート）結果は、男女比・年齢構成が異なるため参考数値。

現在又は過去における配偶者の有無（全体・性別）



【参考：H19年度DV調査】

現在又は過去における配偶者の有無（全体・性別）



現在又は過去における配偶者の有無（性・年代別）

		サンプル数	現在 いる	過去に いたが 現在は ない	これまで いたこと がない	無回 答
全体		100.0 1395	67.7 945	10.9 152	16.5 230	4.9 68
性・ 年代別	男性計	100.0 515	73.0 376	7.4 38	14.6 75	5.0 26
	20代	100.0 56	14.3 8	5.4 3	75.0 42	5.4 3
	30代	100.0 74	68.9 51	9.5 7	21.6 16	0.0 0
	40代	100.0 66	86.4 57	4.5 3	6.1 4	3.0 2
	50代	100.0 100	83.0 83	7.0 7	4.0 4	6.0 6
	60代	100.0 132	79.5 105	10.6 14	5.3 7	4.5 6
	70歳以上	100.0 87	82.8 72	4.6 4	2.3 2	10.3 9
	女性計	100.0 842	65.2 549	13.1 110	17.2 145	4.5 38
	20代	100.0 94	28.7 27	4.3 4	66.0 62	1.1 1
	30代	100.0 152	69.7 106	7.9 12	21.1 32	1.3 2
	40代	100.0 160	72.5 116	13.8 22	11.9 19	1.9 3
	50代	100.0 178	73.6 131	15.7 28	8.4 15	2.2 4
	60代	100.0 165	73.9 122	12.7 21	4.2 7	9.1 15
	70歳以上	100.0 90	51.1 46	25.6 23	11.1 10	12.2 11

(3) 配偶者からのDVの被害経験の有無
 (4) 配偶者からのDVにより命の危険を感じたことの有無

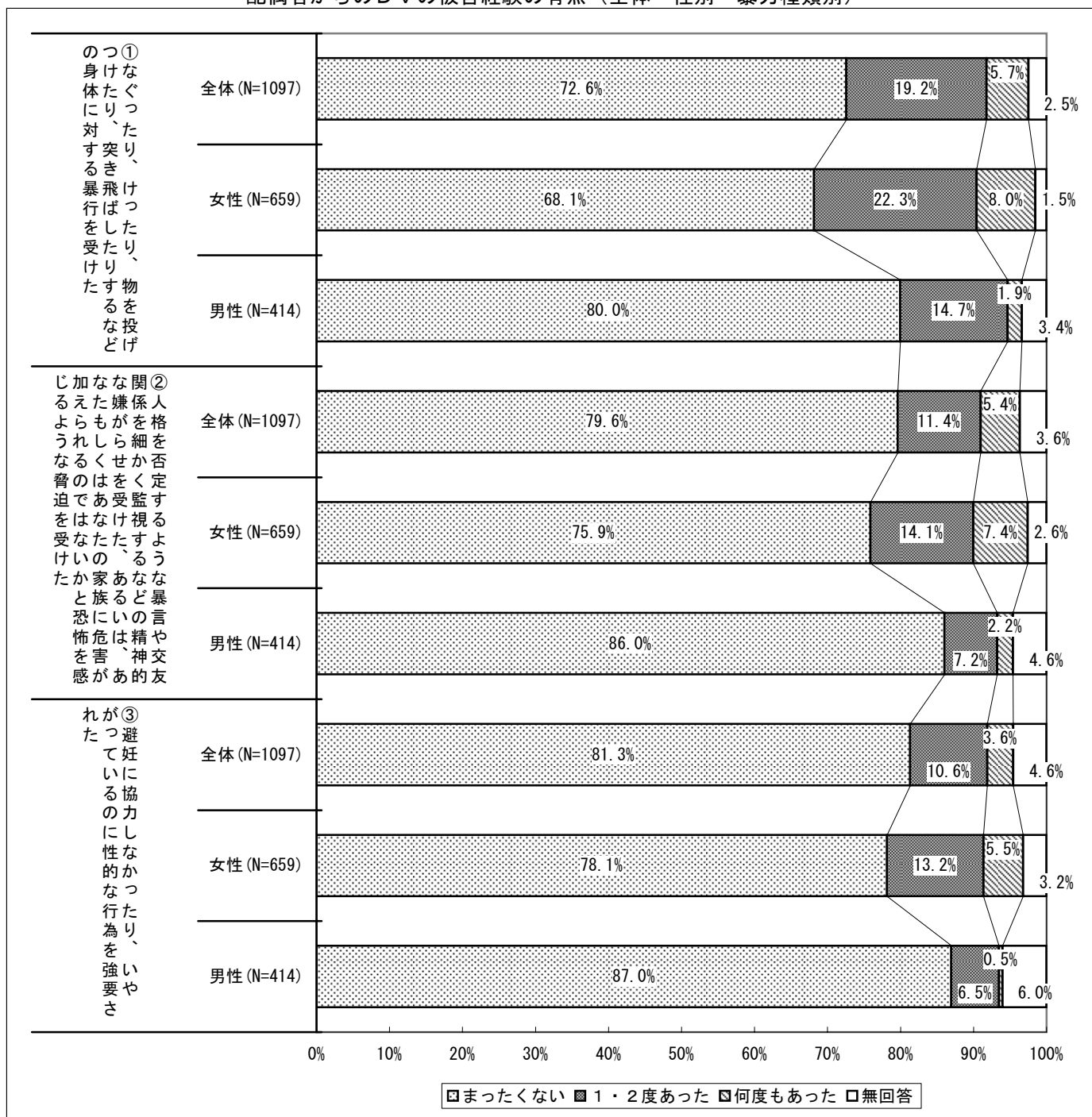
【問29】 問28で「現在いる」「過去にいたが現在はいない」と答えた方におたずねします。

～配偶者からの身体的暴力が「何度もあった」人は女性の13人に1人～

(1) これまでに、あなたの配偶者（結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む）から次の①～③のようなことをされたことがありますか。

配偶者からのDVの被害経験の有無についてみると、全体では「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」において「1・2度あった」（19.2%）、「何どもあった」（5.7%）の割合が最も高くなっている。
 これを性別にみると、①②③すべてにおいて「1・2度あった」「何どもあった」の割合は女性の方が男性より高くなっており、特に「何どもあった」の男女差が大きくなっている。

配偶者からのDVの被害経験の有無（全体・性別・暴力種類別）



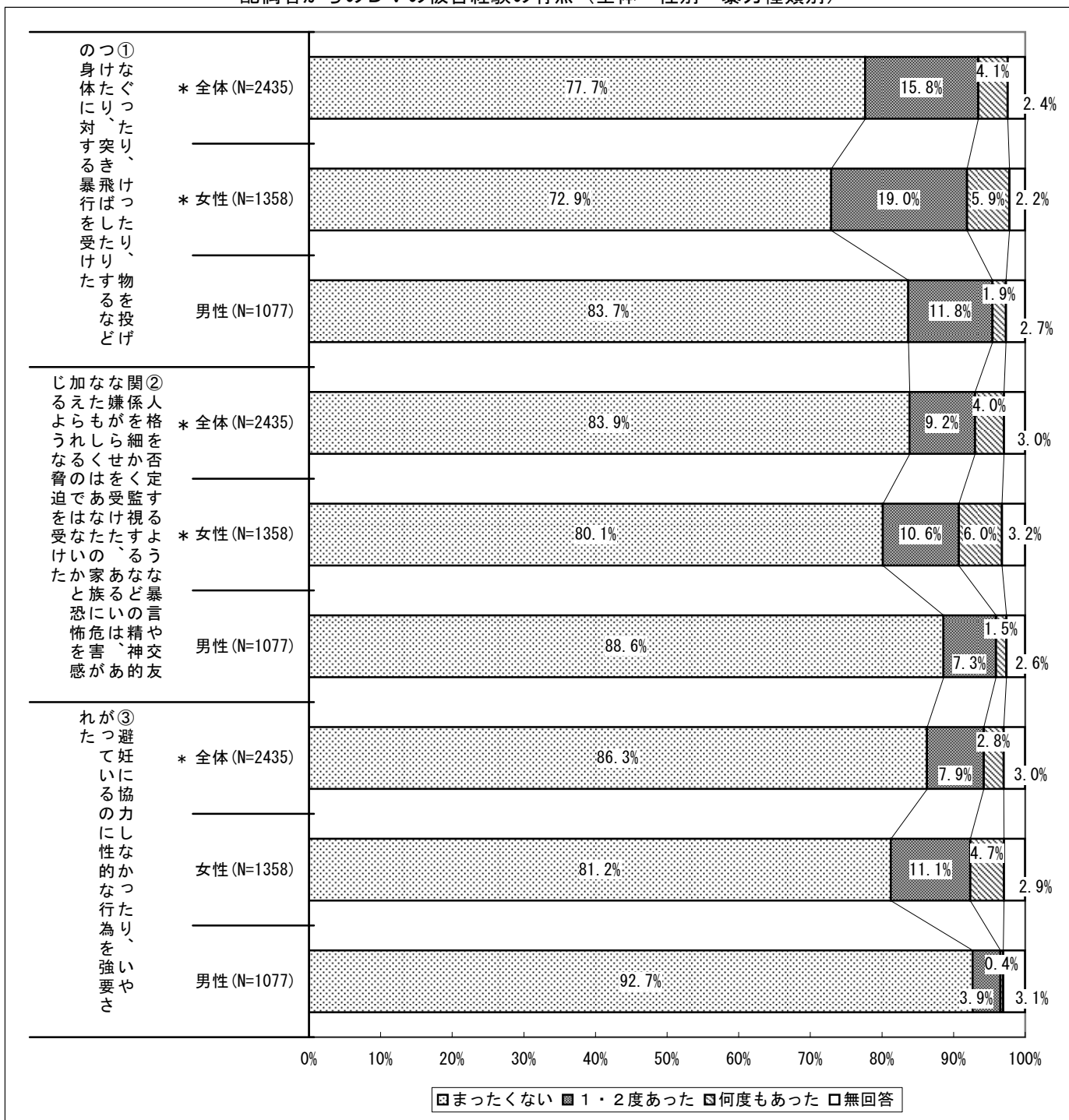
【内閣府DV調査】

これを内閣府DV調査と比較すると、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」では「1・2度あった」（全体・鹿児島市：19.2%、内閣府：15.8%）と「何度もあった」（全体・鹿児島市：5.7%、内閣府：4.1%）の割合が内閣府DV調査より高くなっている。

「②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」では「1・2度あった」（全体・鹿児島市：11.4%、内閣府：9.2%）（女性・鹿児島市：14.1%、内閣府：10.6%）の割合が内閣府DV調査より高くなっている。

「③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された」では「1・2度あった」において（全体・鹿児島市：10.6%、内閣府：7.9%）の割合が内閣府DV調査より高くなっている。

配偶者からのDVの被害経験の有無（全体・性別・暴力種類別）



*: 鹿児島市調査と有意差あり

配偶者からのDVの被害経験の有無（性・年代別）

		①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた				②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた				③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された				
		まったく ない	1・2 度あつた	何 度もあつた	無 回 答	まったく ない	1・2 度あつた	何 度もあつた	無 回 答	まったく ない	1・2 度あつた	何 度もあつた	無 回 答	
全体	サンプル数	100.0	72.6	19.2	5.7	2.5	79.6	11.4	5.4	3.6	81.3	10.6	3.6	4.6
		1097	796	211	63	27	873	125	59	40	892	116	39	50
性・年代別	男性計	100.0	80.0	14.7	1.9	3.4	86.0	7.2	2.2	4.6	87.0	6.5	0.5	6.0
		414	331	61	8	14	356	30	9	19	360	27	2	25
	20代	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		11	11	0	0	0	11	0	0	0	11	0	0	0
	30代	100.0	82.8	15.5	1.7	0.0	87.9	8.6	3.4	0.0	94.8	5.2	0.0	0.0
		58	48	9	1	0	51	5	2	0	55	3	0	0
	40代	100.0	81.7	16.7	1.7	0.0	90.0	8.3	0.0	1.7	86.7	11.7	0.0	1.7
		60	49	10	1	0	54	5	0	1	52	7	0	1
	50代	100.0	76.7	20.0	3.3	0.0	88.9	5.6	5.6	0.0	96.7	0.0	2.2	1.1
		90	69	18	3	0	80	5	5	0	87	0	2	1
	60代	100.0	75.6	15.1	1.7	7.6	82.4	9.2	0.8	7.6	79.0	10.9	0.0	10.1
		119	90	18	2	9	98	11	1	9	94	13	0	12
	70歳以上	100.0	84.2	7.9	1.3	6.6	81.6	5.3	1.3	11.8	80.3	5.3	0.0	14.5
		76	64	6	1	5	62	4	1	9	61	4	0	11
	女性計	100.0	68.1	22.3	8.0	1.5	75.9	14.1	7.4	2.6	78.1	13.2	5.5	3.2
		659	449	147	53	10	500	93	49	17	515	87	36	21
	20代	100.0	80.6	12.9	6.5	0.0	83.9	6.5	6.5	3.2	80.6	16.1	3.2	0.0
		31	25	4	2	0	26	2	2	1	25	5	1	0
	30代	100.0	72.0	21.2	6.8	0.0	79.7	10.2	10.2	0.0	85.6	8.5	5.1	0.8
		118	85	25	8	0	94	12	12	0	101	10	6	1
40代	100.0	76.8	12.3	10.9	0.0	80.4	10.9	8.7	0.0	82.6	11.6	5.8	0.0	
	138	106	17	15	0	111	15	12	0	114	16	8	0	
50代	100.0	67.3	25.2	5.0	2.5	75.5	15.1	7.5	1.9	78.0	13.8	5.7	2.5	
	159	107	40	8	4	120	24	12	3	124	22	9	4	
60代	100.0	54.5	32.9	11.9	0.7	68.5	23.1	5.6	2.8	67.1	21.7	7.7	3.5	
	143	78	47	17	1	98	33	8	4	96	31	11	5	
70歳以上	100.0	68.1	20.3	4.3	7.2	72.5	10.1	4.3	13.0	78.3	4.3	1.4	15.9	
	69	47	14	3	5	50	7	3	9	54	3	1	11	

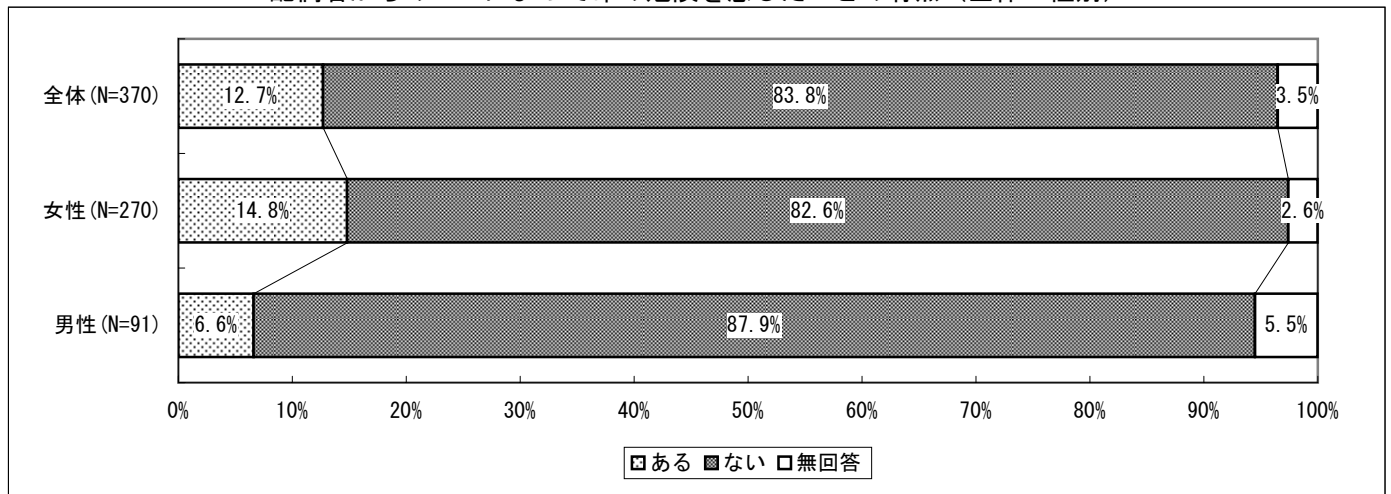
※ DV被害の重複状況

								計
重複 状況	①身体的暴力	●			●	●	●	274
	②精神的暴力		●		●	●	●	184
	③性的暴力			●	●	●	●	155
	サンプル数	111	40	36	61	36	17	66

(2) その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。

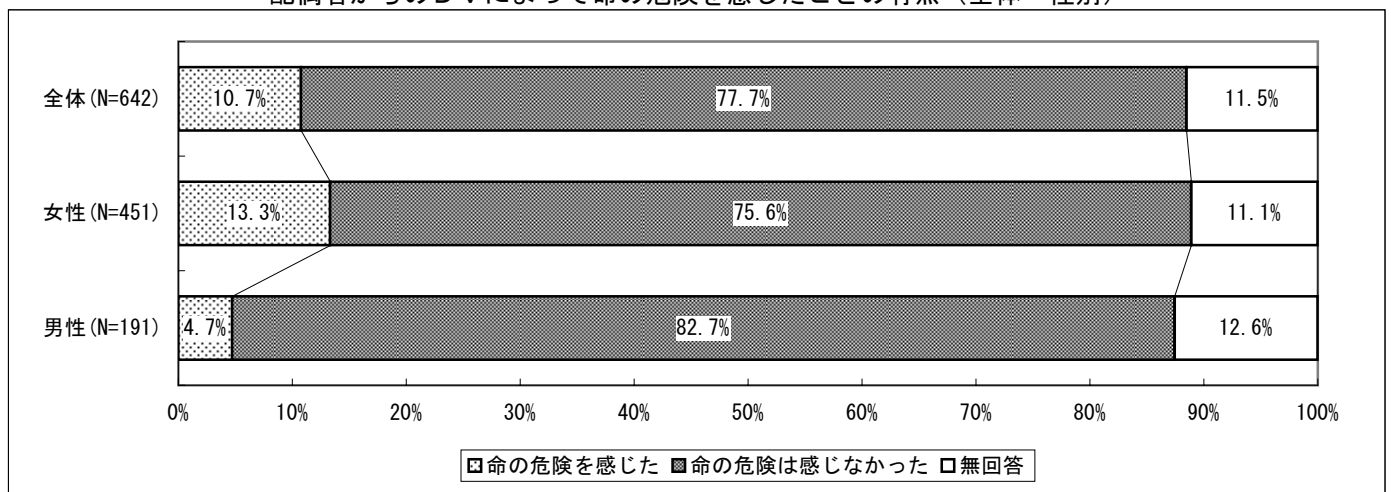
配偶者からのDVによって命の危険を感じたことの有無についてみると、全体では「ある」が12.7%、「ない」が83.8%となっている。性別による有意差はみられない。

配偶者からのDVによって命の危険を感じたことの有無（全体・性別）



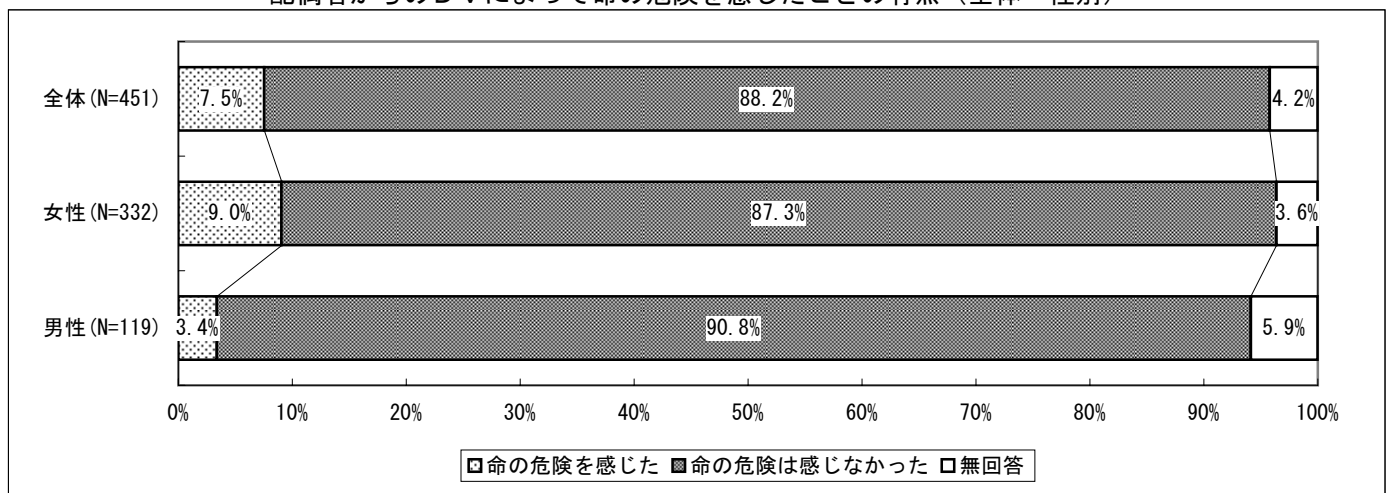
【参考：内閣府DV調査】

配偶者からのDVによって命の危険を感じたことの有無（全体・性別）



【参考：H19年度DV調査】

配偶者からのDVによって命の危険を感じたことの有無（全体・性別）



配偶者からのDVによって命の危険を感じたことの有無（性・年代別）

		全体				①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた			
		サンプル数	ある	ない	無回答	サンプル数	ある	ない	無回答
全体		100.0	12.7	83.8	3.5	100.0	16.1	81.8	2.2
		370	47	310	13	274	44	224	6
男性計		100.0	6.6	87.9	5.5	100.0	8.7	88.4	2.9
		91	6	80	5	69	6	61	2
20代		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		0	0	0	0	0	0	0	0
30代		100.0	16.7	83.3	0.0	100.0	20.0	80.0	0.0
		12	2	10	0	10	2	8	0
40代		100.0	7.7	92.3	0.0	100.0	9.1	90.9	0.0
		13	1	12	0	11	1	10	0
50代		100.0	4.2	91.7	4.2	100.0	4.8	95.2	0.0
		24	1	22	1	21	1	20	0
60代		100.0	3.1	87.5	9.4	100.0	5.0	90.0	5.0
		32	1	28	3	20	1	18	1
70歳以上		100.0	10.0	80.0	10.0	100.0	14.3	71.4	14.3
		10	1	8	1	7	1	5	1
女性計		100.0	14.8	82.6	2.6	100.0	18.2	80.3	1.5
		270	40	223	7	203	37	163	3
20代		100.0	27.3	72.7	0.0	100.0	33.3	66.7	0.0
		11	3	8	0	6	2	4	0
30代		100.0	20.5	79.5	0.0	100.0	24.2	75.8	0.0
		39	8	31	0	33	8	25	0
40代		100.0	15.6	82.2	2.2	100.0	21.9	78.1	0.0
		45	7	37	1	32	7	25	0
50代		100.0	17.9	79.1	3.0	100.0	20.8	79.2	0.0
		67	12	53	2	48	10	38	0
60代		100.0	11.0	85.4	3.7	100.0	14.1	82.8	3.1
		82	9	70	3	64	9	53	2
70歳以上		100.0	4.3	91.3	4.3	100.0	5.9	88.2	5.9
		23	1	21	1	17	1	15	1

		②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた				③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された			
		サンプル数	ある	ない	無回答	サンプル数	ある	ない	無回答
全体		100.0	21.7	74.5	3.8	100.0	16.8	81.9	1.3
		184	40	137	7	155	26	127	2
性・年代別	男性計	100.0	12.8	79.5	7.7	100.0	13.8	86.2	0.0
		39	5	31	3	29	4	25	0
	20代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		0	0	0	0	0	0	0	0
	30代	100.0	14.3	85.7	0.0	100.0	33.3	66.7	0.0
		7	1	6	0	3	1	2	0
	40代	100.0	20.0	80.0	0.0	100.0	14.3	85.7	0.0
		5	1	4	0	7	1	6	0
	50代	100.0	10.0	80.0	10.0	100.0	0.0	100.0	0.0
		10	1	8	1	2	0	2	0
	60代	100.0	8.3	75.0	16.7	100.0	7.7	92.3	0.0
		12	1	9	2	13	1	12	0
	70歳以上	100.0	20.0	80.0	0.0	100.0	25.0	75.0	0.0
		5	1	4	0	4	1	3	0
	女性計	100.0	23.9	73.2	2.8	100.0	17.1	81.3	1.6
		142	34	104	4	123	21	100	2
	20代	100.0	66.7	33.3	0.0	100.0	16.7	83.3	0.0
		6	4	2	0	6	1	5	0
	30代	100.0	29.2	70.8	0.0	100.0	31.3	68.8	0.0
		24	7	17	0	16	5	11	0
40代	100.0	25.9	74.1	0.0	100.0	12.5	83.3	4.2	
	27	7	20	0	24	3	20	1	
50代	100.0	27.8	66.7	5.6	100.0	16.1	83.9	0.0	
	36	10	24	2	31	5	26	0	
60代	100.0	19.5	75.6	4.9	100.0	16.7	81.0	2.4	
	41	8	31	2	42	7	34	1	
70歳以上	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	
	10	0	10	0	2	0	2	0	

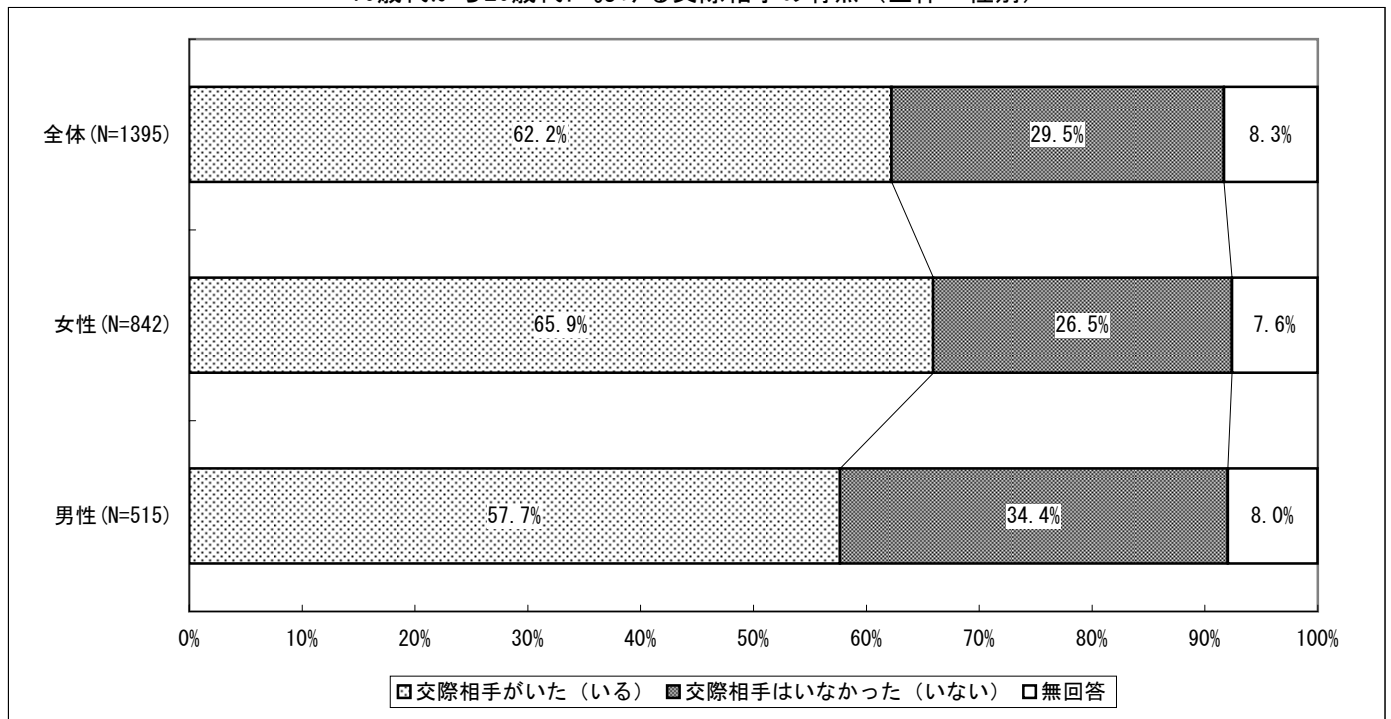
(5) 10歳代から20歳代における交際相手の有無

【問30】 あなたの10歳代から20歳代の経験についてお聞きします。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。あなたは、その当時、交際相手がいまいたか。

10歳代から20歳代における交際相手の有無についてみると、全体では「交際相手があった（いる）」が62.2%、「交際相手はいなかった（いない）」が29.5%となっている。

これを性別にみると、「交際相手はいなかった（いない）」において男性（34.4%）の割合が女性（26.5%）より高くなっている。

10歳代から20歳代における交際相手の有無（全体・性別）



10歳代から20歳代における交際相手の有無（性・年代別）

		サンプル数	交際相手がい た（いる）	交際相手は ない（い なかつた）	無 回 答
全体		100.0 1395	62.2 868	29.5 411	8.3 116
性・ 年代別	男性計	100.0 515	57.7 297	34.4 177	8.0 41
	20代	100.0 56	62.5 35	32.1 18	5.4 3
	30代	100.0 74	70.3 52	27.0 20	2.7 2
	40代	100.0 66	75.8 50	24.2 16	0.0 0
	50代	100.0 100	63.0 63	28.0 28	9.0 9
	60代	100.0 132	49.2 65	42.4 56	8.3 11
	70歳以上	100.0 87	36.8 32	44.8 39	18.4 16
	女性計	100.0 842	65.9 555	26.5 223	7.6 64
	20代	100.0 94	71.3 67	26.6 25	2.1 2
	30代	100.0 152	88.8 135	9.2 14	2.0 3
	40代	100.0 160	81.9 131	11.3 18	6.9 11
	50代	100.0 178	64.6 115	28.7 51	6.7 12
	60代	100.0 165	47.9 79	40.6 67	11.5 19
	70歳以上	100.0 90	31.1 28	52.2 47	16.7 15

(6) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無
 (7) 交際相手からのDVにより命の危険を感じたことがあるかの有無

【問31】 問30で「交際相手がいた（いる）」と答えた方におたずねします。

～交際相手からの暴力は、性的暴力の割合が高い～

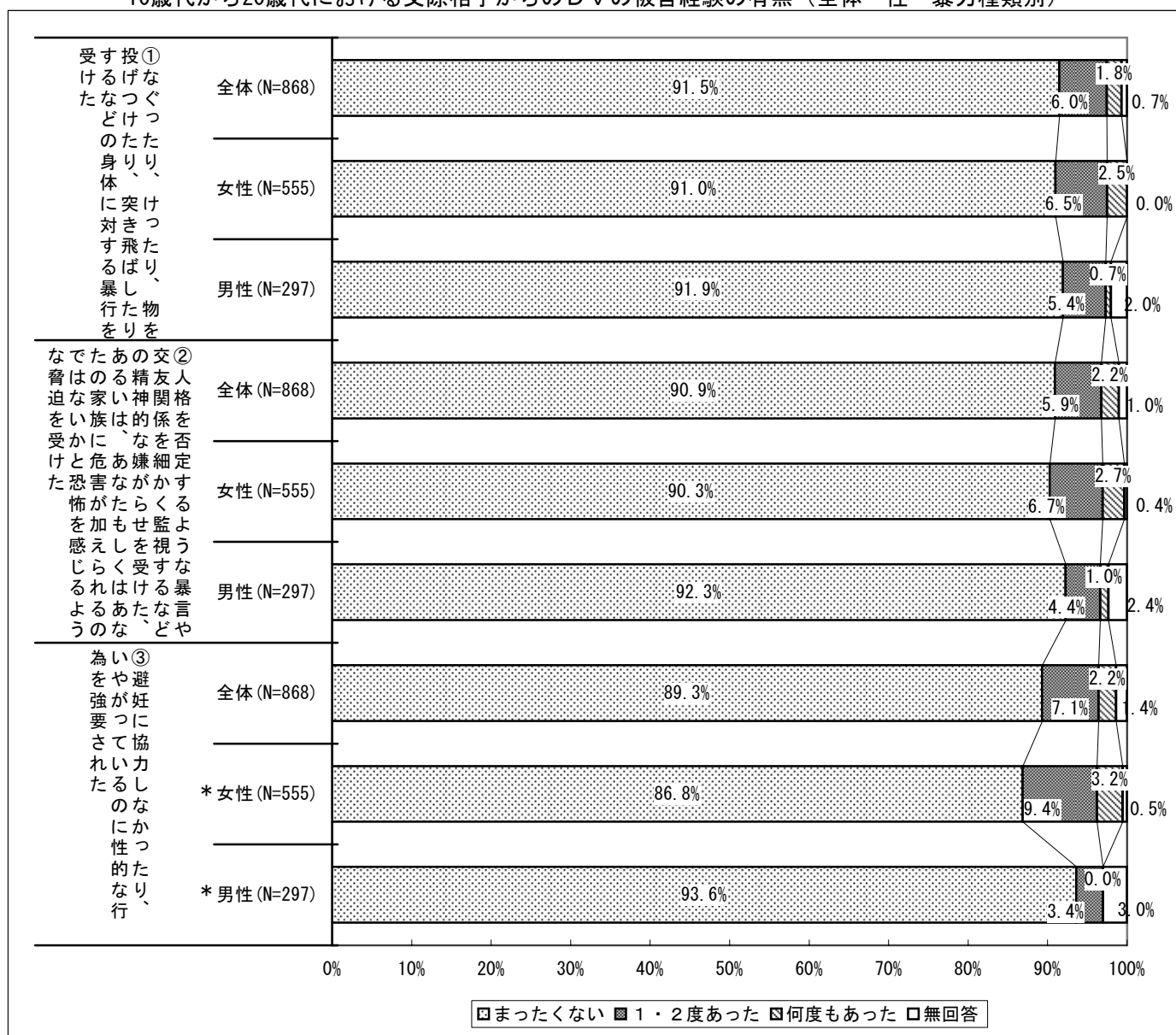
(1) あなたは、10歳代または20歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次の①～③のようなことをされたことがありますか。

10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無についてみると、全体では「③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された」において「1・2度あった」(7.1%)、「何度もあった」(2.2%)の割合が最も高くなっている。

これを性別にみると、①②については性別による有意差はみられないが、「③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された」において「1・2度あった」(女性：9.4%、男性：3.4%)、「何度もあった」(女性：3.2%、男性：0.0%)の女性の割合が男性より高くなっている。

問29(1)と比較すると、「1・2度あった」と「何度もあった」の割合は低く「まったくない」の割合は高い。特に「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」における「1・2度あった」(問29(1)：19.2%、問31(1)：6.0%)と「何度もあった」(問29(1)：5.7%、問31(1)：1.8%)の差が大きくなっている。

10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無（全体・性・暴力種類別）



*: 性別で有意差あり

10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無（性・年代別）

		①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた				②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた				③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された				
		まったく ない	1・2 度あつた	何 度もあつた	無 回 答	まったく ない	1・2 度あつた	何 度もあつた	無 回 答	まったく ない	1・2 度あつた	何 度もあつた	無 回 答	
性・年代別	サンプル数	①				②				③				
		全体	100.0 868	91.5 794	6.0 52	1.8 16	0.7 6	90.9 789	5.9 51	2.2 19	1.0 9	89.3 775	7.1 62	2.2 19
性・年代別	男性計	100.0 297	91.9 273	5.4 16	0.7 2	2.0 6	92.3 274	4.4 13	1.0 3	2.4 7	93.6 278	3.4 10	0.0 0	3.0 9
	20代	100.0 35	97.1 34	2.9 1	0.0 0	0.0 0	97.1 34	2.9 1	0.0 0	0.0 0	97.1 34	2.9 1	0.0 0	0.0 0
	30代	100.0 52	82.7 43	13.5 7	3.8 2	0.0 0	84.6 44	9.6 5	5.8 3	0.0 0	100.0 52	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	40代	100.0 50	96.0 48	2.0 1	0.0 0	2.0 1	94.0 47	4.0 2	0.0 0	2.0 1	96.0 48	2.0 1	0.0 0	2.0 1
	50代	100.0 63	96.8 61	1.6 1	0.0 0	1.6 1	95.2 60	3.2 2	0.0 0	1.6 1	98.4 62	0.0 0	0.0 0	1.6 1
	60代	100.0 65	84.6 55	9.2 6	0.0 0	6.2 4	87.7 57	4.6 3	0.0 0	7.7 5	80.0 52	10.8 7	0.0 0	9.2 6
	70歳以上	100.0 32	100.0 32	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 32	0.0 0	0.0 0	0.0 0	93.8 30	3.1 1	0.0 0	3.1 1
	女性計	100.0 555	91.0 505	6.5 36	2.5 14	0.0 0	90.3 501	6.7 37	2.7 15	0.4 2	86.8 482	9.4 52	3.2 18	0.5 3
	20代	100.0 67	86.6 58	11.9 8	1.5 1	0.0 0	83.6 56	13.4 9	3.0 2	0.0 0	74.6 50	19.4 13	6.0 4	0.0 0
	30代	100.0 135	86.7 117	11.1 15	2.2 3	0.0 0	85.9 116	8.9 12	5.2 7	0.0 0	88.1 119	6.7 9	5.2 7	0.0 0
	40代	100.0 131	93.9 123	3.1 4	3.1 4	0.0 0	91.6 120	6.1 8	2.3 3	0.0 0	86.3 113	12.2 16	1.5 2	0.0 0
	50代	100.0 115	94.8 109	3.5 4	1.7 2	0.0 0	95.7 110	2.6 3	1.7 2	0.0 0	93.9 108	4.3 5	1.7 2	0.0 0
	60代	100.0 79	91.1 72	5.1 4	3.8 3	0.0 0	92.4 73	5.1 4	1.3 1	1.3 1	86.1 68	8.9 7	2.5 2	2.5 2
	70歳以上	100.0 28	92.9 26	3.6 1	3.6 1	0.0 0	92.9 26	3.6 1	0.0 0	3.6 1	85.7 24	7.1 2	3.6 1	3.6 1

※ DV被害の重複状況

	①身体的暴力	②精神的暴力	③性的暴力	計
重複状況	●		●	68
		●	●	70
			●	81
サンプル数	21	14	44	23
			4	13
				20
				139

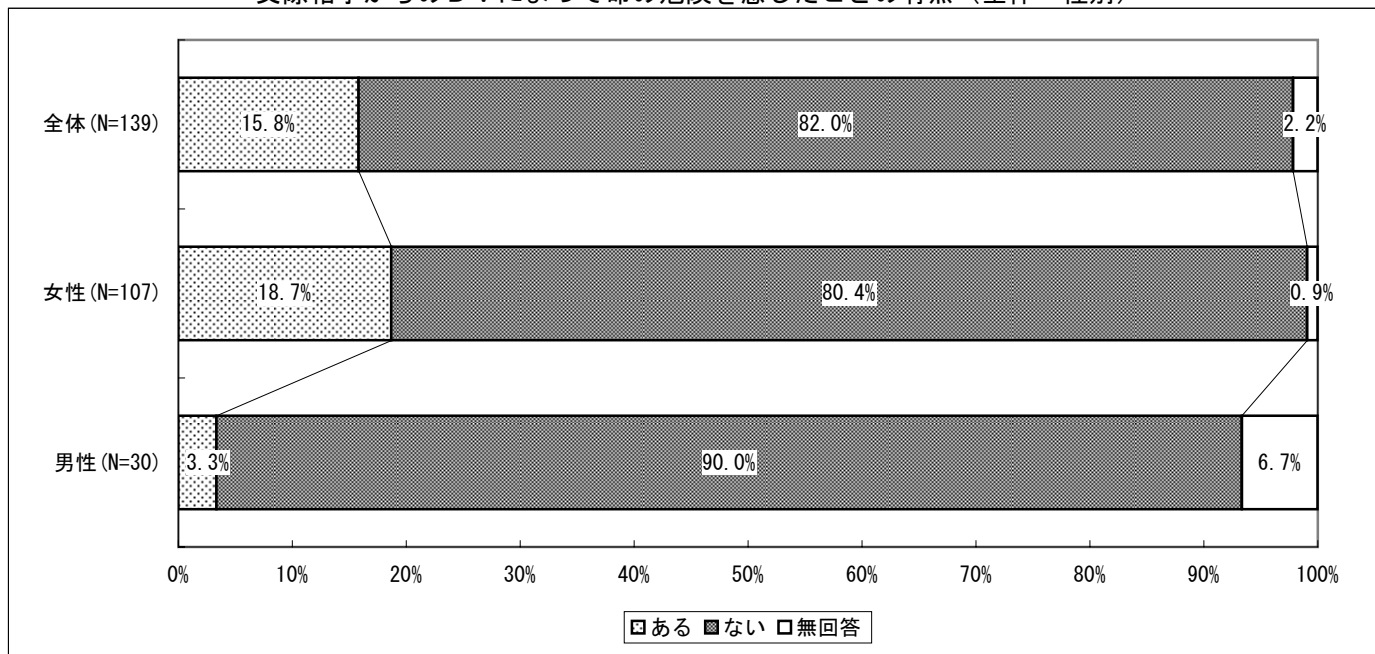
(2) その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。

交際相手からのDVによって命の危険を感じたことの有無についてみると、全体では「ある」が15.8%、「ない」が82.0%となっている。

これを性別にみると、「ある」において女性（18.7%）の割合が男性（3.3%）より高くなっている。

問29(2)との有意差はみられない。

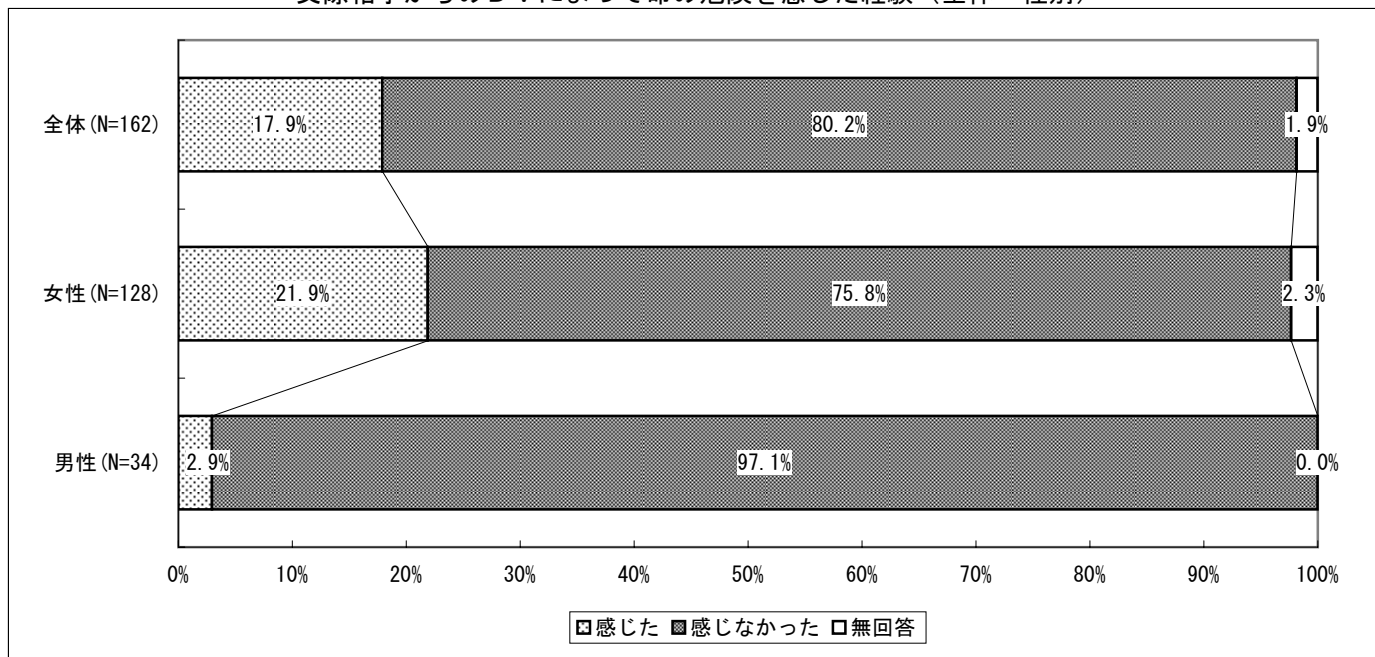
交際相手からのDVによって命の危険を感じたことの有無（全体・性別）



【内閣府DV調査】

交際相手からのDVによって命の危険を感じたことの有無について、内閣府DV調査との有意差はみられない。

交際相手からのDVによって命の危険を感じた経験（全体・性別）



交際相手からのDVによって命の危険を感じた経験（性・年代別）

		全体			
		サンプル数	ある	ない	無回答
全体		100.0	15.8	82.0	2.2
		139	22	114	3
性・年代別	男性計	100.0	3.3	90.0	6.7
		30	1	27	2
	20代	100.0	0.0	100.0	0.0
		2	0	2	0
	30代	100.0	0.0	90.0	10.0
		10	0	9	1
	40代	100.0	0.0	100.0	0.0
		3	0	3	0
	50代	100.0	33.3	66.7	0.0
		3	1	2	0
	60代	100.0	0.0	90.9	9.1
		11	0	10	1
	70歳以上	100.0	0.0	100.0	0.0
		1	0	1	0
	女性計	100.0	18.7	80.4	0.9
		107	20	86	1
	20代	100.0	16.7	83.3	0.0
		24	4	20	0
	30代	100.0	8.8	91.2	0.0
		34	3	31	0
40代	100.0	21.7	73.9	4.3	
	23	5	17	1	
50代	100.0	33.3	66.7	0.0	
	9	3	6	0	
60代	100.0	25.0	75.0	0.0	
	12	3	9	0	
70歳以上	100.0	40.0	60.0	0.0	
	5	2	3	0	

(8) DVにあった際の相談の有無

問29または問31で「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方におたずねします。

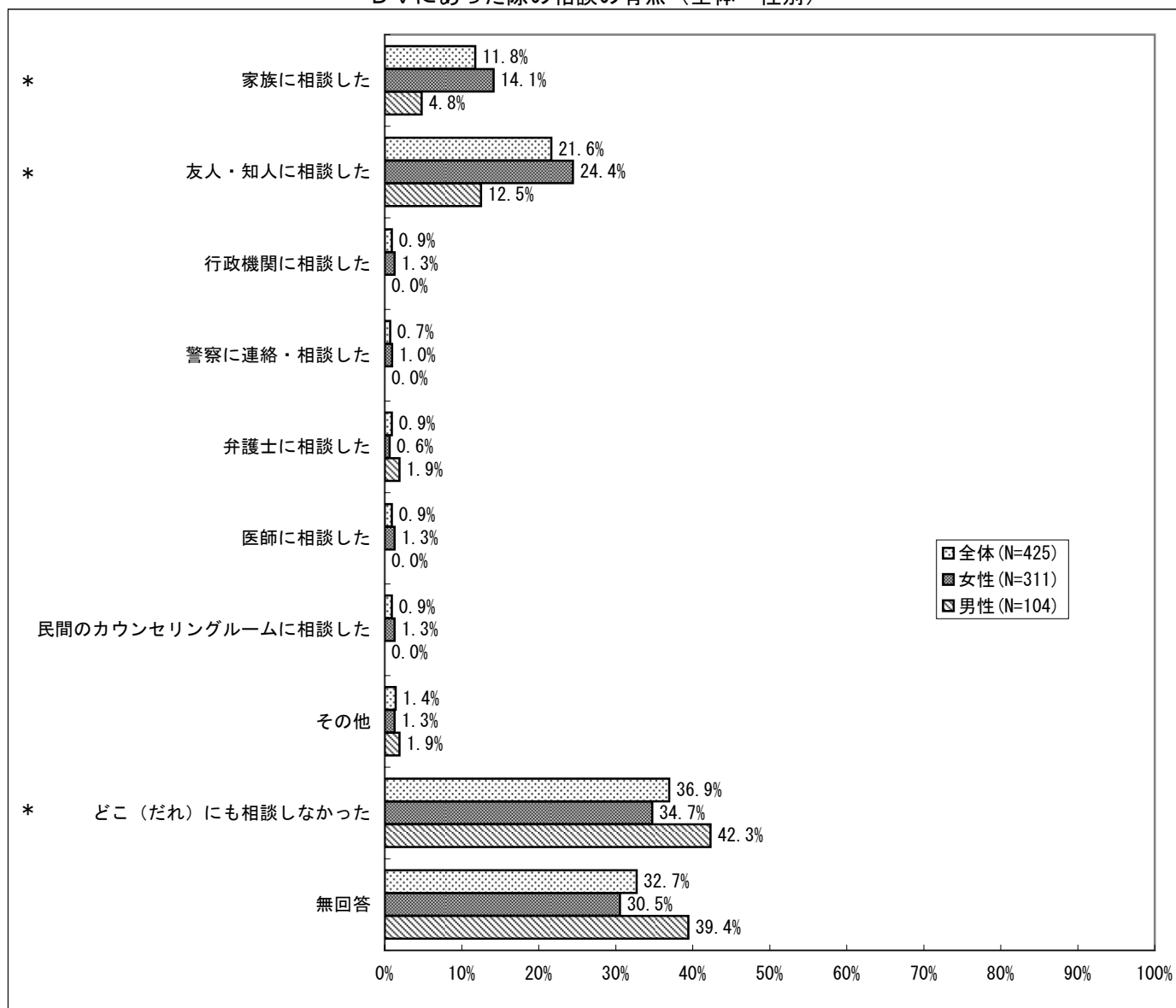
【問32】 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答)

～DV被害者の3割が友人・知人・家族に相談～

DVにあった際の相談の有無についてみると、全体では「どこ(だれ)にも相談しなかった」(36.9%)の割合が最も高く、次いで「友人・知人に相談した」(21.6%)、「家族に相談した」(11.8%)の順となっており、その他の項目は1%程度となっている。

これを性別で見ると、「家族に相談した」(女性:14.1%、男性:4.8%)と「友人・知人に相談した」(女性:24.4%、男性:12.5%)では女性の割合が男性より高く、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(女性:34.7%、男性:42.3%)では男性の割合が女性より高くなっている。

DVにあった際の相談の有無(全体・性別)



*:性別で有意差あり

DVにあった際の相談の有無（性・年代別）

		サンプル数	家族に相談した	友人・知人に相談した	行政機関に相談した	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	医師に相談した	民間のカウンセリングルームに相談した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	無回答
全体		100.0 425	11.8 50	21.6 92	0.9 4	0.7 3	0.9 4	0.9 4	0.9 4	1.4 6	36.9 157	32.7 139
性・年代別	男性計	100.0 104	4.8 5	12.5 13	0.0 0	0.0 0	1.9 2	0.0 0	0.0 0	1.9 2	42.3 44	39.4 41
	20代	100.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 1	50.0 1
	30代	100.0 17	5.9 1	29.4 5	0.0 0	0.0 0	5.9 1	0.0 0	0.0 0	5.9 1	52.9 9	5.9 1
	40代	100.0 14	7.1 1	7.1 1	0.0 0	0.0 0	7.1 1	0.0 0	0.0 0	7.1 1	50.0 7	28.6 4
	50代	100.0 25	4.0 1	4.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	44.0 11	48.0 12
	60代	100.0 36	2.8 1	16.7 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	38.9 14	44.4 16
	70歳以上	100.0 10	10.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	20.0 2	70.0 7
	女性計	100.0 311	14.1 44	24.4 76	1.3 4	1.0 3	0.6 2	1.3 4	1.3 4	1.3 4	34.7 108	30.5 95
	20代	100.0 25	16.0 4	48.0 12	0.0 0	4.0 1	0.0 0	4.0 1	0.0 0	0.0 0	36.0 9	4.0 1
	30代	100.0 56	21.4 12	50.0 28	3.6 2	1.8 1	1.8 1	1.8 1	1.8 1	1.8 1	23.2 13	16.1 9
	40代	100.0 51	19.6 10	35.3 18	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	2.0 1	2.0 1	41.2 21	17.6 9
	50代	100.0 68	14.7 10	10.3 7	0.0 0	1.5 1	1.5 1	1.5 1	2.9 2	2.9 2	29.4 20	41.2 28
	60代	100.0 85	7.1 6	11.8 10	2.4 2	0.0 0	0.0 0	1.2 1	0.0 0	0.0 0	40.0 34	42.4 36
	70歳以上	100.0 26	7.7 2	3.8 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	42.3 11	46.2 12

(9) DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由

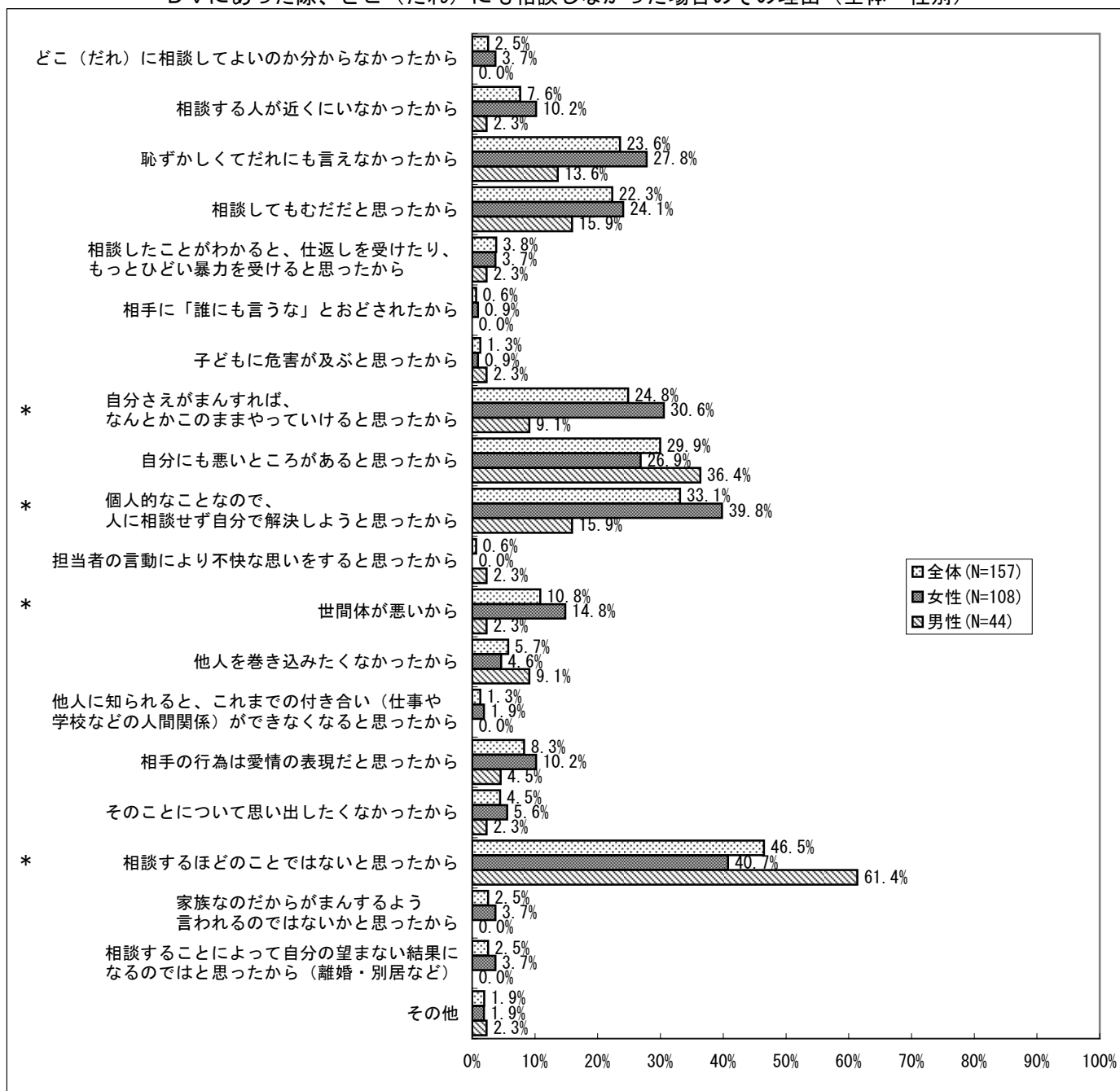
【問33】 問32で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。
 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（複数回答）

～相談するほどではないと思ったこと～

DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった場合のその理由についてみると、全体では「相談するほどのことではないと思ったから」（46.5%）が最も高く、「個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから」（33.1%）、「自分にも悪いところがあったから」（29.9%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（24.8%）と続いている。

これを性別にみると、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（女性：30.6%、男性：9.1%）、「個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから」（女性：39.8%、男性：15.9%）、「世間体が悪いから」（女性：14.8%、男性：2.3%）において女性の割合が男性より高くなっており、「相談するほどのことではないと思ったから」（女性：40.7%、男性：61.4%）では、男性の割合が女性より高くなっている。

DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった場合のその理由（全体・性別）



*: 性別で有意差あり

DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった場合のその理由（性・年代別）

		サンプル数	かど 分 か ら な か つ た か ら	ど こ （ だ れ ） に 相 談 し て よ い の	か ら 相 談 す る 人 が 近 く に い な か つ た	恥 づ か し く て だ れ に も 言 え な か つ た	相 談 し て も む だ だ と 思 つ た か ら	力 を 受 け た り 、 も つ と ひ ど い 暴 力 を 受 け た と 思 つ た か ら	相 談 し た こ と が わ か る と 、 仕 返 さ れ た か ら	相 手 に 「 誰 に も 言 う な 」 と お ど ろ し た か ら	子 ど も に 危 害 が 及 ぶ と 思 つ た か ら	か か ら の ま ま や つ て い け る と 思 つ た	自 分 の ま ま が ま ん す れ ば 、 な ん と も 思 つ た	自 分 に も 悪 い と こ ろ が あ る と 思 つ た	か ら せ ず 自 分 で 解 決 し よ う と 思 つ た	個 人 的 な こ と な の で 、 人 に 相 談 を す る と 思 つ た	相 談 し な か つ た か ら 不 快 な 思 い
全体	100.0	2.5	7.6	23.6	22.3	3.8	0.6	1.3	24.8	29.9	33.1	0.6					
	157	4	12	37	35	6	1	2	39	47	52	1					
性・年代別	男性計	100.0	0.0	2.3	13.6	15.9	2.3	0.0	2.3	9.1	36.4	15.9	2.3				
		44	0	1	6	7	1	0	1	4	16	7	1				
	20代	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	30代	100.0	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	44.4	0.0	11.1	0.0				
		9	1	1	2	0	0	0	0	4	0	1	0				
	40代	100.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0				
		7	0	1	1	0	0	0	0	3	1	0	0				
	50代	100.0	0.0	9.1	27.3	9.1	0.0	9.1	18.2	45.5	0.0	0.0	0.0				
		11	0	1	3	1	0	1	2	5	0	0	0				
	60代	100.0	0.0	21.4	7.1	0.0	0.0	0.0	14.3	21.4	35.7	0.0	0.0				
		14	0	3	1	0	0	0	2	3	5	0	0				
	70歳以上	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0				
		2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0				
	女性計	100.0	3.7	10.2	27.8	24.1	3.7	0.9	0.9	30.6	26.9	39.8	0.0				
		108	4	11	30	26	4	1	1	33	29	43	0				
	20代	100.0	0.0	22.2	11.1	11.1	11.1	0.0	22.2	33.3	44.4	0.0	0.0				
		9	0	2	1	1	1	0	2	3	4	0	0				
30代	100.0	0.0	30.8	46.2	7.7	0.0	0.0	23.1	23.1	30.8	0.0	0.0					
	13	0	4	6	1	0	0	3	3	4	0	0					
40代	100.0	4.8	28.6	19.0	4.8	0.0	0.0	33.3	19.0	33.3	0.0	0.0					
	21	1	6	4	1	0	0	7	4	7	0	0					
50代	100.0	10.0	30.0	35.0	0.0	0.0	0.0	25.0	35.0	35.0	0.0	0.0					
	20	2	6	7	0	0	0	5	7	7	0	0					
60代	100.0	14.7	32.4	17.6	0.0	0.0	0.0	29.4	26.5	50.0	0.0	0.0					
	34	5	11	6	0	0	0	10	9	17	0	0					
70歳以上	100.0	27.3	9.1	18.2	9.1	0.0	9.1	54.5	27.3	36.4	0.0	0.0					
	11	3	1	2	1	0	1	6	3	4	0	0					

		サンプル数	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったか	間関係（仕事や学校などの人）がでなくなると思つたから	付き合い（仕事や学校など）の行為は愛情の表現だと思つたから	そのことについて思い出したくなかつたから	相談するほどのことではないと思つたから	家族（離婚・別居など）の都合で家族の都合で思つたから	相談することによつて自分の望まぬ結果になるのではと思つたから	その他	無回答
全体		100.0	10.8	5.7	1.3	8.3	4.5	46.5	2.5	2.5	1.9	1.3
		157	17	9	2	13	7	73	4	4	3	2
性・年代別	男性計	100.0	2.3	9.1	0.0	4.5	2.3	61.4	0.0	0.0	2.3	2.3
		44	1	4	0	2	1	27	0	0	1	1
	20代	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	30代	100.0	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	88.9	0.0	0.0	11.1	0.0
		9	0	2	0	0	1	8	0	0	1	0
	40代	100.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0
		7	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0
	50代	100.0	9.1	9.1	0.0	18.2	0.0	54.5	0.0	0.0	0.0	9.1
		11	1	1	0	2	0	6	0	0	0	1
	60代	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0
		14	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0
	70歳以上	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	女性計	100.0	14.8	4.6	1.9	10.2	5.6	40.7	3.7	3.7	1.9	0.9
		108	16	5	2	11	6	44	4	4	2	1
	20代	100.0	22.2	11.1	11.1	22.2	0.0	55.6	0.0	11.1	0.0	0.0
		9	2	1	1	2	0	5	0	1	0	0
	30代	100.0	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	53.8	7.7	0.0	0.0	0.0
		13	1	1	0	0	0	7	1	0	0	0
40代	100.0	23.8	4.8	4.8	9.5	14.3	38.1	0.0	0.0	9.5	0.0	
	21	5	1	1	2	3	8	0	0	2	0	
50代	100.0	20.0	5.0	0.0	5.0	0.0	30.0	5.0	10.0	0.0	0.0	
	20	4	1	0	1	0	6	1	2	0	0	
60代	100.0	8.8	2.9	0.0	11.8	5.9	38.2	5.9	0.0	0.0	2.9	
	34	3	1	0	4	2	13	2	0	0	1	
70歳以上	100.0	9.1	0.0	0.0	18.2	9.1	45.5	0.0	9.1	0.0	0.0	
	11	1	0	0	2	1	5	0	1	0	0	

(10) DVの未然防止にとって必要なこと

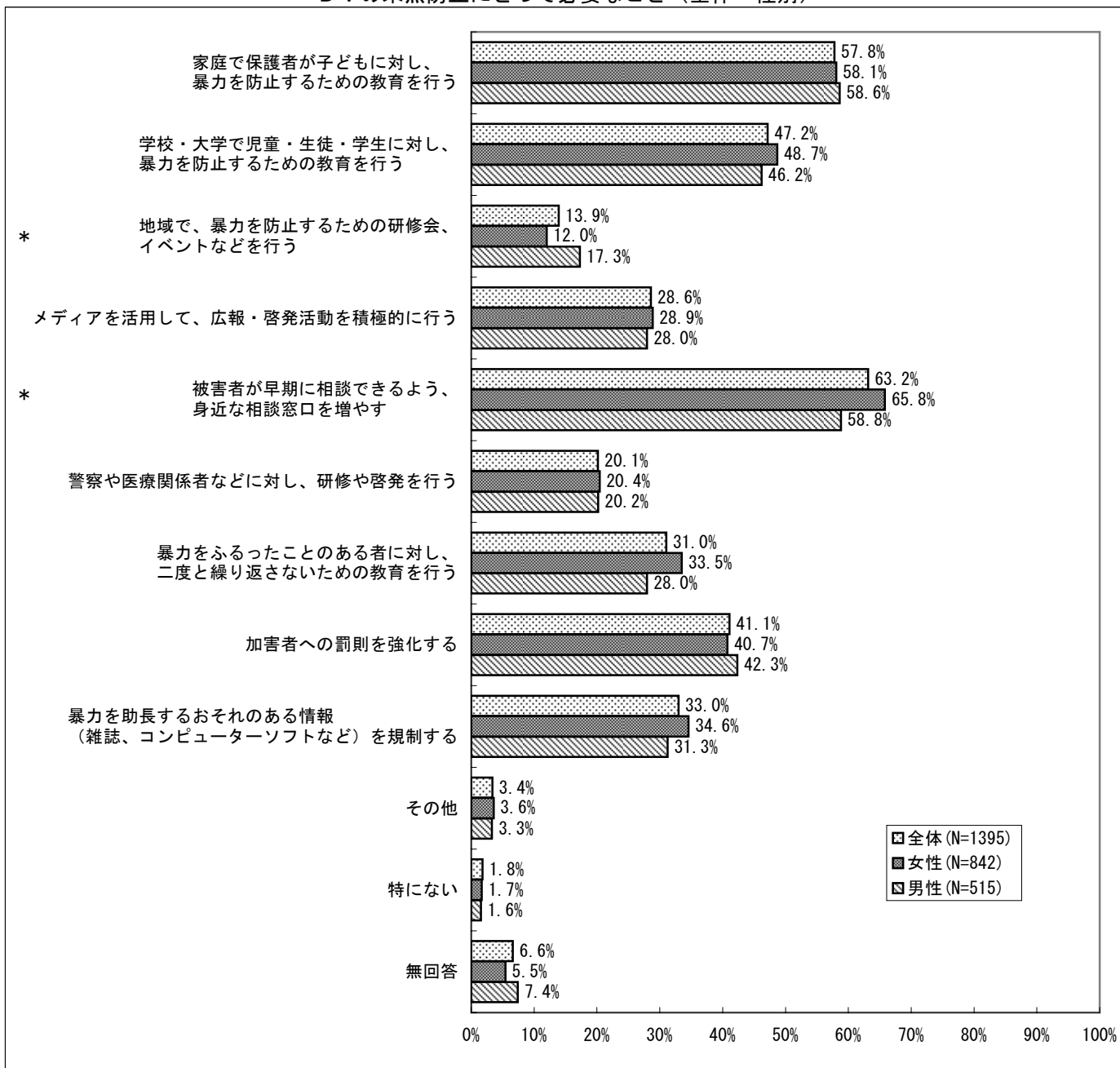
【問34】 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

～身近な相談窓口を増やすことや家庭、学校などにおける教育が必要～

DVの未然防止にとって必要なことについてみると、全体では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」（63.2%）の割合が最も高く、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」（57.8%）、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」（47.2%）、「加害者への罰則を強化する」（41.1%）と続いている。

これを性別にみると、「地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う」（女性：12.0%、男性：17.3%）では男性の割合が女性より高く、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」（女性：65.8%、男性：58.8%）では女性の割合が男性より高くなっている。

DVの未然防止にとって必要なこと（全体・性別）



*:性別で有意差あり

DVの未然防止にとって必要なこと（性・年代別）

		サンプル数	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対する暴力を防止するための教育を行う	地域、イベントなどを行う	地域で、暴力を防止するための研修	動画を積極的に活用して、広報・啓発活動を行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	暴力をふるったことのある者に教育を行う	加害者への罰則を強化する	（雑誌、コンピュータソフトなど）を規制する	暴力を助長するおそれのある情報	その他	特になし	無回答
全体		100.0	57.8	47.2	13.9	28.6	63.2	20.1	31.0	41.1	33.0	3.4	1.8	6.6			
		1395	806	658	194	399	881	281	433	573	460	47	25	92			
性・年代別	男性計	100.0	58.6	46.2	17.3	28.0	58.8	20.2	28.0	42.3	31.3	3.3	1.6	7.4			
		515	302	238	89	144	303	104	144	218	161	17	8	38			
	20代	100.0	58.9	53.6	21.4	37.5	58.9	25.0	28.6	42.9	30.4	5.4	3.6	5.4			
		56	33	30	12	21	33	14	16	24	17	3	2	3			
	30代	100.0	62.2	44.6	14.9	33.8	68.9	32.4	40.5	68.9	23.0	4.1	1.4	4.1			
		74	46	33	11	25	51	24	30	51	17	3	1	3			
	40代	100.0	53.0	47.0	19.7	27.3	63.6	24.2	25.8	37.9	27.3	6.1	1.5	4.5			
		66	35	31	13	18	42	16	17	25	18	4	1	3			
	50代	100.0	62.0	45.0	19.0	26.0	57.0	15.0	24.0	39.0	38.0	5.0	1.0	7.0			
		100	62	45	19	26	57	15	24	39	38	5	1	7			
	60代	100.0	60.6	45.5	16.7	22.7	60.6	19.7	25.8	37.9	29.5	1.5	0.8	6.1			
		132	80	60	22	30	80	26	34	50	39	2	1	8			
	70歳以上	100.0	52.9	44.8	13.8	27.6	46.0	10.3	26.4	33.3	36.8	0.0	2.3	16.1			
		87	46	39	12	24	40	9	23	29	32	0	2	14			
	女性計	100.0	58.1	48.7	12.0	28.9	65.8	20.4	33.5	40.7	34.6	3.6	1.7	5.5			
		842	489	410	101	243	554	172	282	343	291	30	14	46			
	20代	100.0	57.4	47.9	9.6	36.2	74.5	30.9	35.1	58.5	23.4	4.3	0.0	2.1			
		94	54	45	9	34	70	29	33	55	22	4	0	2			
	30代	100.0	57.2	46.1	11.2	32.9	75.7	27.6	35.5	59.2	35.5	3.3	0.0	1.3			
		152	87	70	17	50	115	42	54	90	54	5	0	2			
40代	100.0	64.4	54.4	15.0	35.6	68.8	30.0	36.9	43.8	38.8	5.6	1.3	2.5				
	160	103	87	24	57	110	48	59	70	62	9	2	4				
50代	100.0	58.4	43.8	12.4	29.2	68.5	14.0	32.0	34.3	37.6	3.9	1.7	4.5				
	178	104	78	22	52	122	25	57	61	67	7	3	8				
60代	100.0	56.4	52.7	12.1	24.2	55.2	12.1	31.5	25.5	36.4	1.8	1.8	10.3				
	165	93	87	20	40	91	20	52	42	60	3	3	17				
70歳以上	100.0	52.2	46.7	10.0	11.1	50.0	8.9	28.9	27.8	27.8	2.2	6.7	13.3				
	90	47	42	9	10	45	8	26	25	25	2	6	12				

(11)メディアにおける性・暴力表現についての考え

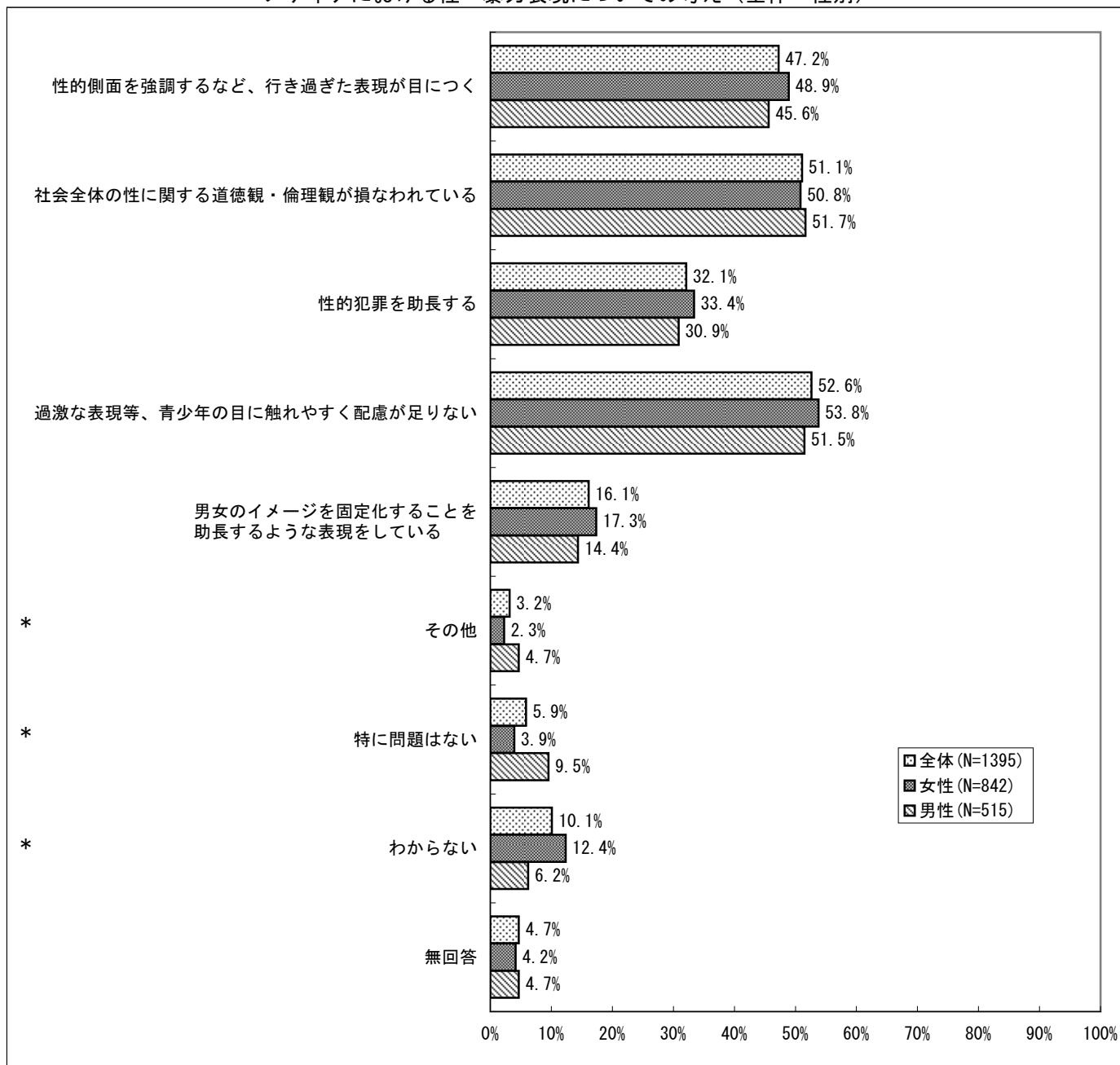
【問35】 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピューターゲーム等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。（複数回答）

～過激な表現等があり、配慮が足りないと感じる人が多い～

メディアにおける性・暴力表現についての考えについてみると、全体では「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」（52.6%）の割合が最も高く、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（51.1%）、「性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」（47.2%）と続いている。

これを性別にみると、「その他」（女性：2.3%、男性：4.7%）、「特に問題はない」（女性：3.9%、男性：9.5%）、「わからない」（女性：12.4%、男性：6.2%）において有意差がみられる。

メディアにおける性・暴力表現についての考え（全体・性別）



*:性別で有意差あり

テレビ、新聞、雑誌等のメディアにおける性・暴力表現についての意識（性・年代別）

		サンプル数	性的表現が目に強くつた側面を強調するなど、行き過ぎ	社会全体の性に関する道徳観・倫理	性的犯罪を助長する	過度な表現等、青少年の目に触れやす	助長するイメージを固定化している	その他	特に問題はない	わかからない	無回答
全体		100.0 1395	47.2 659	51.1 713	32.1 448	52.6 734	16.1 225	3.2 44	5.9 82	10.1 141	4.7 65
性・年代別	男性計	100.0 515	45.6 235	51.7 266	30.9 159	51.5 265	14.4 74	4.7 24	9.5 49	6.2 32	4.7 24
	20代	100.0 56	30.4 17	42.9 24	25.0 14	42.9 24	21.4 12	10.7 6	14.3 8	8.9 5	0.0 0
	30代	100.0 74	33.8 25	43.2 32	29.7 22	39.2 29	13.5 10	10.8 8	16.2 12	5.4 4	1.4 1
	40代	100.0 66	43.9 29	40.9 27	34.8 23	45.5 30	6.1 4	4.5 3	15.2 10	6.1 4	1.5 1
	50代	100.0 100	55.0 55	60.0 60	41.0 41	60.0 60	20.0 20	6.0 6	6.0 6	6.0 6	4.0 4
	60代	100.0 132	50.8 67	54.5 72	28.8 38	55.3 73	16.7 22	0.8 1	6.8 9	4.5 6	7.6 10
	70歳以上	100.0 87	48.3 42	58.6 51	24.1 21	56.3 49	6.9 6	0.0 0	4.6 4	8.0 7	9.2 8
	女性計	100.0 842	48.9 412	50.8 428	33.4 281	53.8 453	17.3 146	2.3 19	3.9 33	12.4 104	4.2 35
	20代	100.0 94	26.6 25	27.7 26	22.3 21	36.2 34	16.0 15	3.2 3	10.6 10	23.4 22	3.2 3
	30代	100.0 152	41.4 63	40.1 61	40.8 62	50.0 76	19.1 29	3.3 5	7.2 11	11.2 17	2.6 4
	40代	100.0 160	52.5 84	51.3 82	42.5 68	61.9 99	19.4 31	3.1 5	1.3 2	10.0 16	1.3 2
	50代	100.0 178	54.5 97	61.8 110	30.3 54	63.5 113	21.3 38	1.1 2	1.7 3	8.4 15	3.9 7
	60代	100.0 165	58.8 97	63.0 104	32.1 53	52.1 86	14.5 24	1.8 3	1.8 3	11.5 19	6.1 10
	70歳以上	100.0 90	50.0 45	48.9 44	25.6 23	48.9 44	10.0 9	1.1 1	4.4 4	15.6 14	8.9 8

11 男女共同参画に関する用語

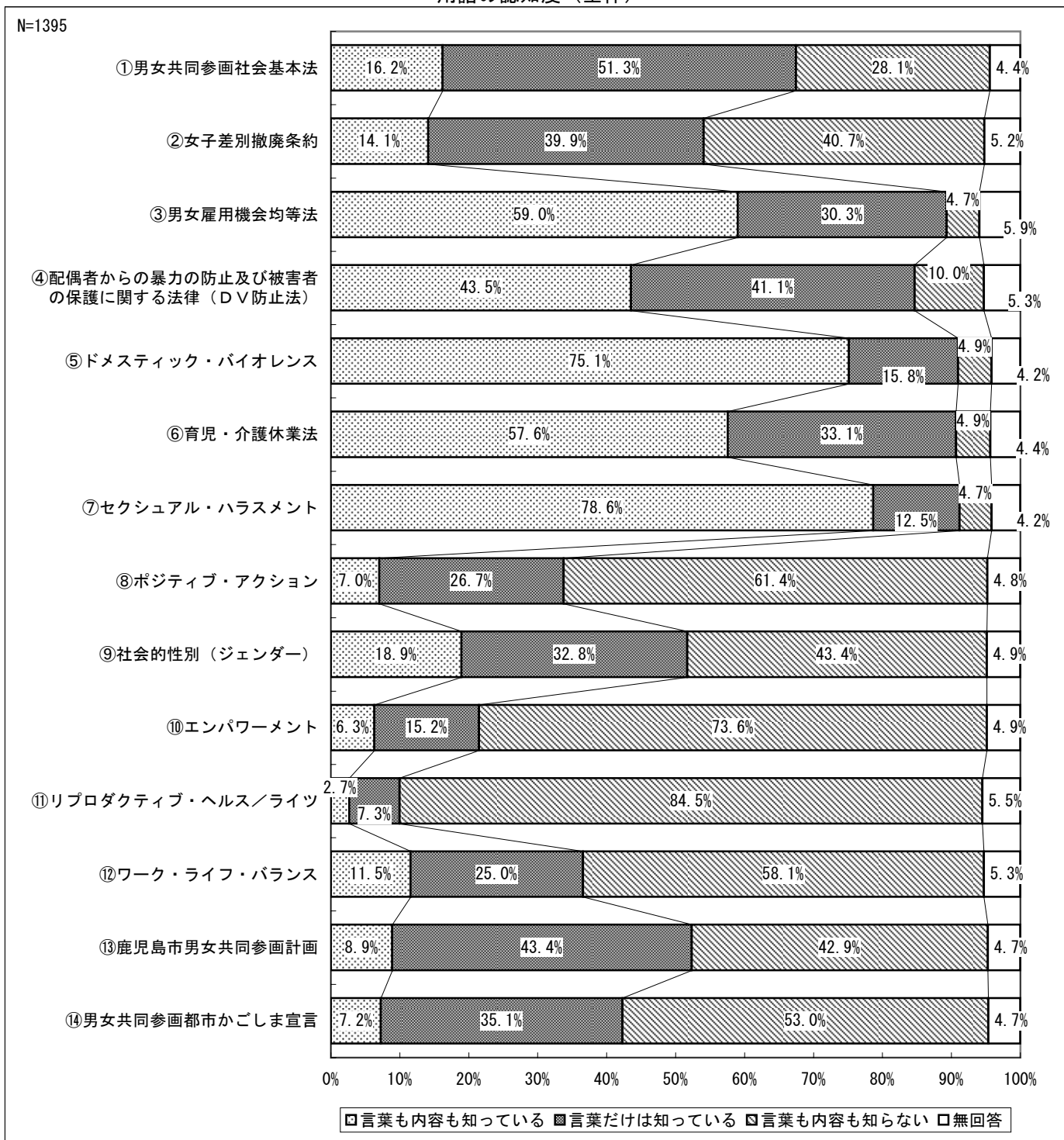
(1) 用語の認知度

【問36】 男女共同参画に関連の深い次の言葉をこれまで知っていましたか。①～⑭それぞれについてお答えください。

男女共同参画に関する用語については、「セクシュアル・ハラスメント」「ドメスティック・バイオレンス」の認知度が特に高くなっている。

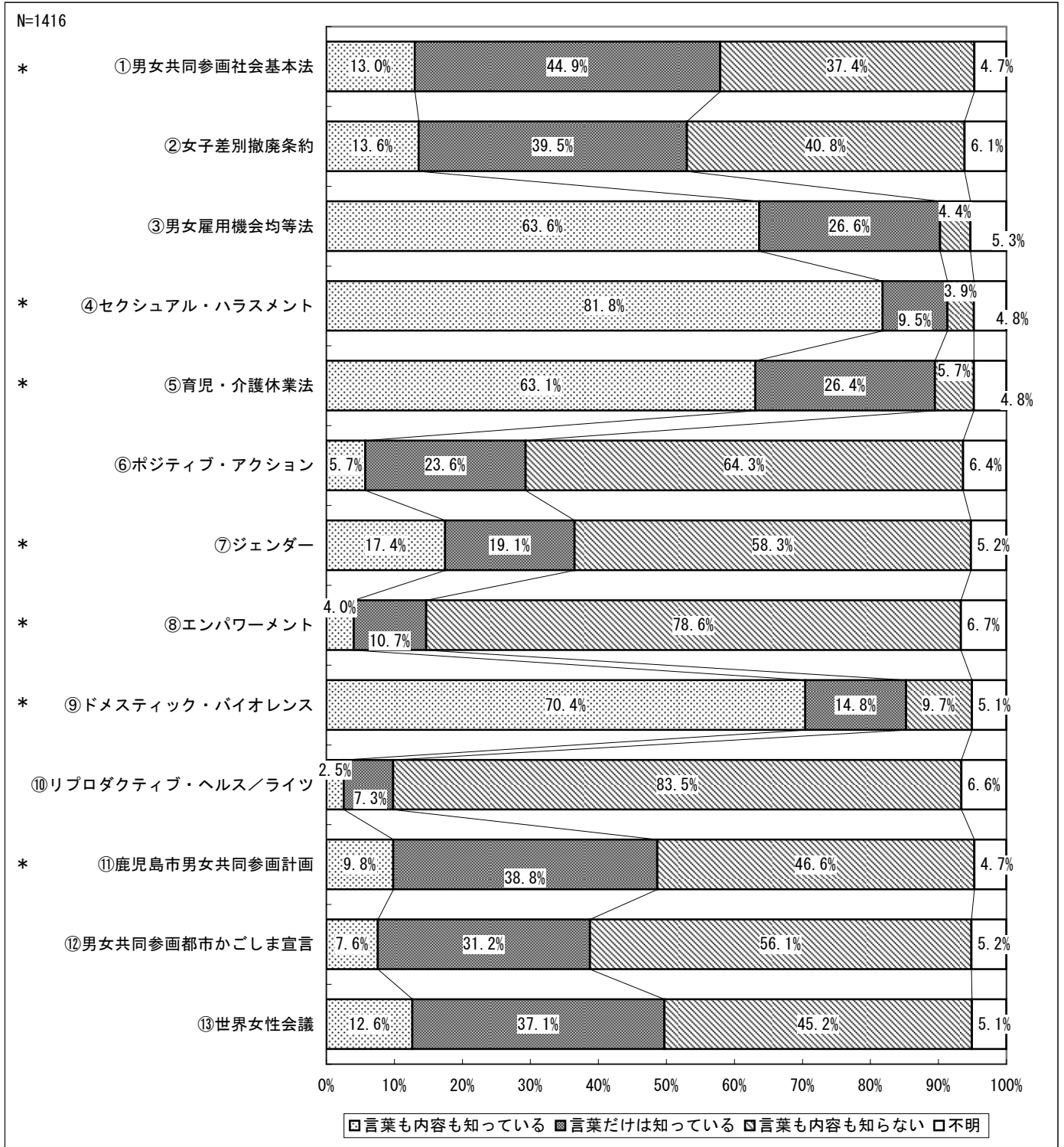
前回調査と比較すると、「ジェンダー」「エンパワーメント」「男女共同参画社会基本法」等の認知度が向上している。また、「育児・介護休業法」「セクシュアル・ハラスメント」については、言葉の認知度は向上しているものの内容の理解は後退している。

用語の認知度（全体）



【前回調査】

用語の認知度（全体）



*: 今回調査と有意差あり

用語の認知度（全体・性別）

		①男女共同参画社会基本法				②女子差別撤廃条約				③男女雇用機会均等法				
		る	言葉	言葉	無	る	言葉	言葉	無	る	言葉	言葉	無	
		言葉	だけ	も	回	言葉	だけ	も	回	言葉	だけ	も	回	
		も	は	も	答	も	は	も	答	も	は	も	答	
		知	知	知		知	知	知		知	知	知		
		つ	つ	ら		つ	つ	ら		つ	つ	ら		
		て	て	な		て	て	な		て	て	な		
		い	い	い		い	い	い		い	い	い		
全体	サンプル数	100.0	16.2	51.3	28.1	4.4	14.1	39.9	40.7	5.2	59.0	30.3	4.7	5.9
		1395	226	715	392	62	197	557	568	73	823	423	66	83
性別	男性計	100.0	20.6	51.1	23.7	4.7	15.9	41.7	37.1	5.2	63.5	27.8	3.9	4.9
		515	106	263	122	24	82	215	191	27	327	143	20	25
	女性計	100.0	13.7	51.3	31.0	4.0	13.3	38.5	43.3	4.9	56.5	31.9	5.2	6.3
		842	115	432	261	34	112	324	365	41	476	269	44	53

		④配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）				⑤ドメスティック・バイオレンス				⑥育児・介護休業法				
		る	言葉	言葉	無	る	言葉	言葉	無	る	言葉	言葉	無	
		言葉	だけ	も	回	言葉	だけ	も	回	言葉	だけ	も	回	
		も	は	も	答	も	は	も	答	も	は	も	答	
		知	知	知		知	知	知		知	知	知		
		つ	つ	ら		つ	つ	ら		つ	つ	ら		
		て	て	な		て	て	な		て	て	な		
		い	い	い		い	い	い		い	い	い		
全体	サンプル数	100.0	43.5	41.1	10.0	5.3	75.1	15.8	4.9	4.2	57.6	33.1	4.9	4.4
		1395	607	574	140	74	1048	221	68	58	803	462	69	61
性別	男性計	100.0	42.1	42.3	10.5	5.0	70.5	19.8	5.6	4.1	49.5	41.0	5.4	4.1
		515	217	218	54	26	363	102	29	21	255	211	28	21
	女性計	100.0	44.9	40.5	9.6	5.0	78.7	12.9	4.5	3.8	63.1	28.4	4.5	4.0
		842	378	341	81	42	663	109	38	32	531	239	38	34

		⑦セクシュアル・ハラスメント				⑧ポジティブ・アクション				⑨社会的性別（ジェンダー）				
		る	言葉	言葉	無	る	言葉	言葉	無	る	言葉	言葉	無	
		言葉	だけ	も	回	言葉	だけ	も	回	言葉	だけ	も	回	
		も	は	も	答	も	は	も	答	も	は	も	答	
		知	知	知		知	知	知		知	知	知		
		つ	つ	ら		つ	つ	ら		つ	つ	ら		
		て	て	な		て	て	な		て	て	な		
		い	い	い		い	い	い		い	い	い		
全体	サンプル数	100.0	78.6	12.5	4.7	4.2	7.0	26.7	61.4	4.8	18.9	32.8	43.4	4.9
		1395	1097	175	65	58	98	373	857	67	264	457	606	68
性別	男性計	100.0	79.2	13.4	3.3	4.1	6.2	28.7	59.8	5.2	18.8	36.3	40.0	4.9
		515	408	69	17	21	32	148	308	27	97	187	206	25
	女性計	100.0	79.0	11.8	5.5	3.8	7.5	25.9	62.5	4.2	19.2	30.8	45.5	4.5
		842	665	99	46	32	63	218	526	35	162	259	383	38

		⑩エンパワーメント				⑪リプロダクティブ・ヘルス／ライツ				⑫ワーク・ライフ・バランス				
		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	言葉も内容も知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	言葉も内容も知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答
全体		100.0	6.3	15.2	73.6	4.9	2.7	7.3	84.5	5.5	11.5	25.0	58.1	5.3
		1395	88	212	1027	68	37	102	1179	77	161	349	811	74
性別	男性計	100.0	6.2	16.7	71.7	5.4	2.7	8.2	83.3	5.8	10.1	28.2	56.1	5.6
		515	32	86	369	28	14	42	429	30	52	145	289	29
性別	女性計	100.0	6.4	14.5	74.9	4.2	2.6	7.0	85.4	5.0	12.7	23.5	59.1	4.6
		842	54	122	631	35	22	59	719	42	107	198	498	39

		⑬鹿児島市男女共同参画計画				⑭男女共同参画都市かごしま宣言				
		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	言葉も内容も知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答
全体		100.0	8.9	43.4	42.9	4.7	7.2	35.1	53.0	4.7
		1395	124	606	599	66	101	489	740	65
性別	男性計	100.0	8.0	44.3	43.1	4.7	6.8	36.5	51.8	4.9
		515	41	228	222	24	35	188	267	25
性別	女性計	100.0	9.6	42.6	43.5	4.3	7.6	34.1	54.2	4.2
		842	81	359	366	36	64	287	456	35

12 行政について

(1) 男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと

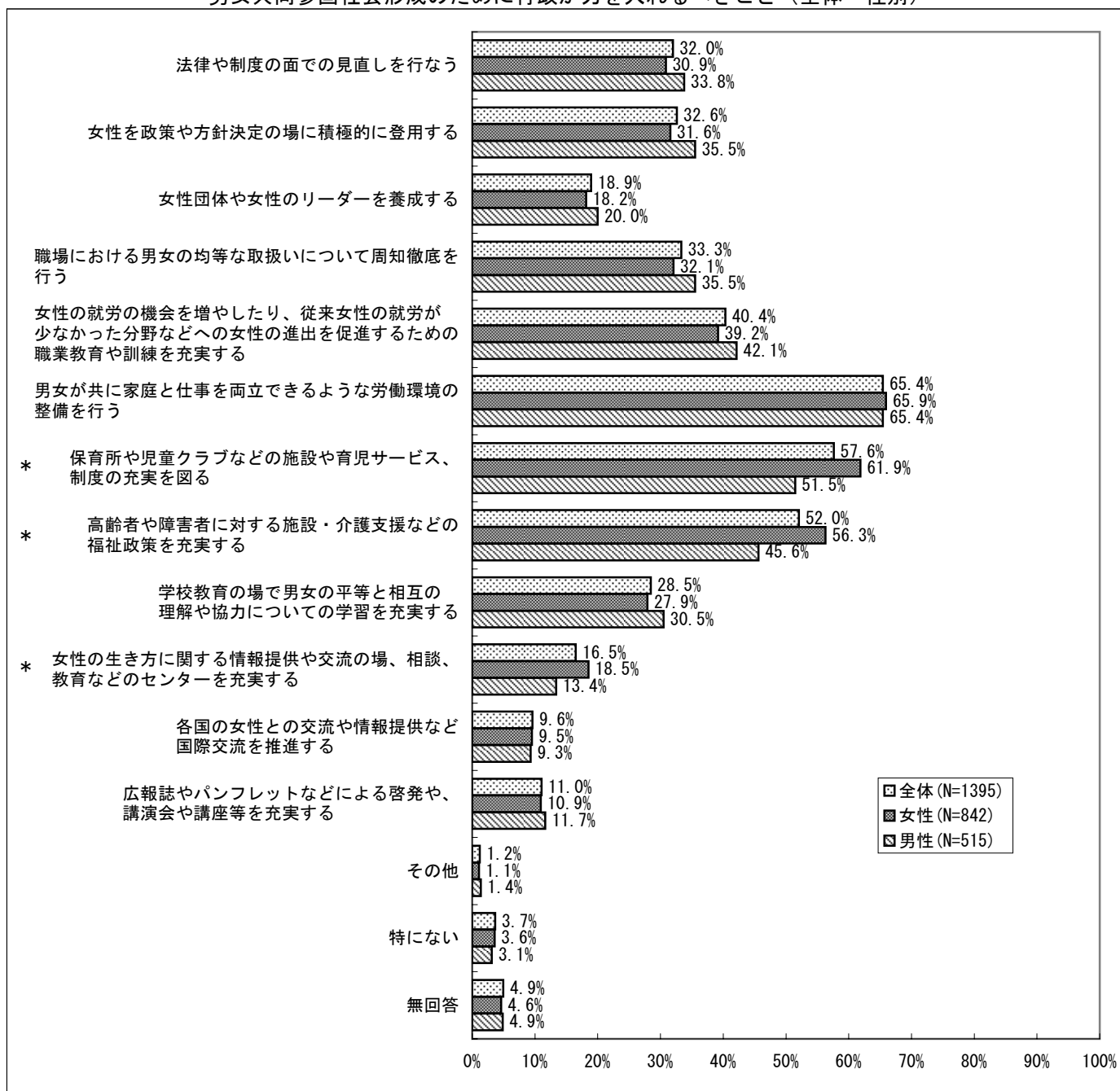
【問37】 「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

～労働環境の整備や、育児サービスの充実、高齢者や障害者に対する福祉政策の充実が望まれている～

男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきことについてみると、全体では「男女がともに家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う」(65.4%)の割合が最も高く、次いで「保育所や児童クラブなどの施設や育児サービス、制度の充実を図る」が57.6%、「高齢者や障害者に対する施設・介護支援などの福祉政策を充実する」が52.0%となっている。

これを性別にみると、「保育所や児童クラブなどの施設や育児サービス、制度の充実を図る」(女性：61.9%、男性：51.5%)、「高齢者や障害者に対する施設・介護支援などの福祉政策を充実する」(女性：56.3%、男性：45.6%)、「女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する」(女性：18.5%、男性：13.4%)において女性の割合が男性より高くなっている。

男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと (全体・性別)



*: 性別で有意差あり

男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと（性・年代、性別役割分担の考え方別）

		法律や制度の面での見直しを行なう	女性を政策や方針決定の場に積極的に登用する	女性団体や女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行なう	女性が就業機会を増やしたり、従来女性の就業機会を拡大した分野などへの女性の進出を促進する	男女が共に家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行なう	保育所や児童クラブなどの施設や育児サービス、制度の充実を図る	高齢者や障害者に対する施設・介護支援などの福祉政策を充実する	学校教育の場で男女の平等と相互の理解や協力に努める	女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談などを行う	
全体		100.0	32.0	32.6	18.9	33.3	40.4	65.4	57.6	52.0	28.5	16.5
	サンプル数	1395	446	455	264	465	563	913	804	726	397	230
性・年代別	男性計	100.0	33.8	35.5	20.0	35.5	42.1	65.4	51.5	45.6	30.5	13.4
		515	174	183	103	183	217	337	265	235	157	69
	20代	100.0	35.7	37.5	19.6	39.3	51.8	73.2	50.0	46.4	41.1	23.2
		56	20	21	11	22	29	41	28	26	23	13
	30代	100.0	40.5	36.5	18.9	45.9	47.3	73.0	64.9	44.6	32.4	10.8
		74	30	27	14	34	35	54	48	33	24	8
	40代	100.0	36.4	31.8	30.3	36.4	31.8	68.2	48.5	27.3	25.8	13.6
		66	24	21	20	24	21	45	32	18	17	9
	50代	100.0	35.0	38.0	13.0	30.0	33.0	61.0	44.0	40.0	36.0	12.0
		100	35	38	13	30	33	61	44	40	36	12
	60代	100.0	30.3	34.8	20.5	28.8	46.2	63.6	50.0	57.6	26.5	12.9
		132	40	46	27	38	61	84	66	76	35	17
	70歳以上	100.0	28.7	34.5	20.7	40.2	43.7	59.8	54.0	48.3	25.3	11.5
		87	25	30	18	35	38	52	47	42	22	10
	女性計	100.0	30.9	31.6	18.2	32.1	39.2	65.9	61.9	56.3	27.9	18.5
		842	260	266	153	270	330	555	521	474	235	156
	20代	100.0	34.0	28.7	11.7	29.8	44.7	67.0	70.2	60.6	33.0	20.2
		94	32	27	11	28	42	63	66	57	31	19
	30代	100.0	30.3	30.9	13.8	36.8	39.5	76.3	77.0	53.9	28.3	16.4
		152	46	47	21	56	60	116	117	82	43	25
40代	100.0	36.3	33.1	20.6	34.4	41.9	70.0	60.0	53.8	31.3	21.9	
	160	58	53	33	55	67	112	96	86	50	35	
50代	100.0	30.3	33.7	21.3	34.3	39.3	63.5	57.3	52.2	26.4	16.3	
	178	54	60	38	61	70	113	102	93	47	29	
60代	100.0	27.9	33.9	19.4	32.7	40.0	64.8	56.4	58.8	25.5	17.6	
	165	46	56	32	54	66	107	93	97	42	29	
70歳以上	100.0	26.7	25.6	20.0	17.8	27.8	47.8	52.2	64.4	24.4	20.0	
	90	24	23	18	16	25	43	47	58	22	18	
性別役割分担の考え方	賛成	100.0	29.2	27.2	16.9	29.2	35.3	60.4	53.5	49.2	25.2	16.3
		626	183	170	106	183	221	378	335	308	158	102
	反対	100.0	35.4	39.7	20.5	38.5	46.0	72.5	63.6	55.4	32.7	17.4
		615	218	244	126	237	283	446	391	341	201	107
わからない	100.0	29.7	27.5	21.0	29.7	41.3	60.1	51.4	50.7	25.4	13.8	
	138	41	38	29	41	57	83	71	70	35	19	

		サンプル数	各国の女性との交流や情報提供など国際交流を推進する	広報誌やパンフレットなどによる啓発や、講演会や講座等を充実する	その他	特にない	無回答	
全体		100.0 1395	9.6 134	11.0 154	1.2 17	3.7 51	4.9 69	
性・年代別	男性計	100.0 515	9.3 48	11.7 60	1.4 7	3.1 16	4.9 25	
		20代	100.0 56	14.3 8	16.1 9	1.8 1	5.4 3	0.0 0
	30代	100.0 74	10.8 8	9.5 7	1.4 1	6.8 5	1.4 1	
		40代	100.0 66	9.1 6	13.6 9	0.0 0	4.5 3	3.0 2
	50代	100.0 100	6.0 6	6.0 6	3.0 3	2.0 2	3.0 3	
		60代	100.0 132	9.1 12	9.1 12	1.5 2	1.5 2	7.6 10
	70歳以上	100.0 87	9.2 8	19.5 17	0.0 0	1.1 1	10.3 9	
		女性計	100.0 842	9.5 80	10.9 92	1.1 9	3.6 30	4.6 39
	20代	100.0 94	12.8 12	11.7 11	2.1 2	2.1 2	0.0 0	
		30代	100.0 152	9.2 14	7.9 12	0.7 1	0.7 1	1.3 2
	40代	100.0 160	10.0 16	11.3 18	1.3 2	3.8 6	4.4 7	
		50代	100.0 178	9.0 16	11.8 21	0.0 0	4.5 8	3.4 6
	60代	100.0 165	9.7 16	11.5 19	2.4 4	3.0 5	7.3 12	
		70歳以上	100.0 90	6.7 6	11.1 10	0.0 0	8.9 8	11.1 10
	性別役割分担の考え方	賛成	100.0 626	6.5 41	10.1 63	1.6 10	4.3 27	6.9 43
			反対	100.0 615	13.2 81	11.9 73	0.8 5	1.6 10
		わからない	100.0 138	8.7 12	11.6 16	1.4 2	10.1 14	2.9 4

13 自由意見

【問38】 男女共同参画に対するご意見やお考えを自由にお書きください。

寄せられた多くの意見の中から、本調査に直接関係のないものや要望、重複意見等を除き、一部を紹介する。

No	20代・男性
1	男女共同参画というと、女性の育児休暇や産休後の職場復帰に目がいきがちだが、男性、女性ともに仕事と家庭の両立ができるような社会づくりが必要である。制度を打ち出す官公庁がまずはモデルとなり、男女ともに働きやすい職場になるべきだと考える。家事や育児を夫婦が一緒に行うことが、暗い日本を活性化することに気付いていないのだろうか。未来を担う子どもたちが過ごしやすい社会を考えると、自然と男女共同参画の社会に近づくはずである。理想を掲げ、実践が伴わない日本にいることが恥ずかしい。
2	とにかく、これまであった慣習のようなものを見直して、男女のイメージをとっぴらうことが大事だと思います。
3	私の両親は共働きで、家事や育児もできる限り分担して行っていた環境で育ったので、男女共同参画に対してあまり問題を抱くことは少なかったが、親元から独立している今は、様々な問題点が見えてくるようになった。
4	私は男性ですが、職場で女性と接するにあたり、感情のコントロールがうまくできない女性の対応にしばしば戸惑っています。それは、身体的な生理的なものからきていると思いますが、女性の感情の起伏や身体的な特長（個人差はもちろんあると思いますが）について、男性も学習する必要があると思います。というのは、男性が、男性と同じような感覚で女性に接すると、急に怒り出したり、感情を表現できなかつたりで、理解不能と決め付けてしまう男性もいるのではないのでしょうか。もちろん女性にも素晴らしい能力を持った方が多くいます。そういう方達のためにも、活躍の場が広がるのではないのでしょうか。昔からの古い考えにとられずに、男性ももっと家事を積極的に行うべきだと私は考えます。
5	男女共同参画という言葉が一般的にあまり広まっていない。そういった講演、イベント等の紹介等の情報提供するサービス（携帯電話の市役所等のサイトに載せる）がもうちょっとほしい。
6	男女共同参画が世界中で広まっている風潮はあるが、だからといって行き過ぎだ。男女共同参画はやるべきではない。男女というものが、自分自身で考えて共同参画を考えるように、意識を改革していかなければ、押し付けられた男女共同参画は頓挫すると思う。
7	確かに現状で女性の社会進出が少ないとはいえると思うが、家庭に入りたいと女性自身が望んでいる場合も少なくないし、現状において進出する方法を探せばできなくはないと思える。育児や介護に関しては、もちろん男性もできることはすべきであると思うが、あくまでもできるものにとどめるべきである。また、どうしても女性不利ばかり取りざたされるが、現状において、逆に男性不利になっている会社や制度も少なからずある。雇用に関しては、とりあえずすべての職で雇用機会を男女ともに増やすべきである。

No	20代・女性
1	女性の不平等に対する考え方が未だに取り払われていない事だけでなく、女性自身が職を生涯していくものとして考えていないことや、夫へ依存する考え方が目立つと思う。男性は女性への理解は高まってきたが、やはり、配偶者よりはたけていたい気持ちや育児にはつきにくい考えが潜在的にあるように思う。家庭での考え方においても、男性は一生の職という考え方を押し付けられないような教育方針も大切だと思う。
2	特に鹿児島など九州は、“九州男児”という考えを持っている傾向が強く、男は外、女は家で家事全般という傾向が強いように思います。働く女性への理解や、“男は仕事、女は家事・育児”という考えをうえこまないよう、幼少期、学童期から地域や学校で教育の一つとして取り入れるべきだと思います。
3	日本の社会において、“男女の平等”って結局何だろうかと考えさせられました。女性の社会進出が促進されることで男女が平等と言えるのか？夫婦別姓についても正直理解できない。夫婦別姓をとることで日本の文化の継承という所で問題があるし、子どもも周囲も配慮しなくてははいけない。女性の社会進出における障害が出てくる、差別だというのが果たしてそうなのでしょう？男女の平等って、家事や育児、介護について男性が積極的に援助してくれる体制、制度を整えたら良いのかな？と。仕事のお茶くみにしても、男性がついでもらうのが当たり前だと思う、そのような価値観を形成する段階で（学童期等）関わる必要があるのでは？この結果をどう反映するのですか？施策に生かすといっても、地域住民にはそれほど理解してないのでは？
4	いくら職場への男女の均等な取り扱いを周知徹底しても、一人一人の考えが変わらなければ何も変わらない。一人一人の考えが変わらないと、会社の雰囲気というのはそう簡単には変わらず、結局「人ごと」「男女平等なんて今のハヤリ」などと考えられてしまうと思う。産休や育休、名前は存在してもとりづらひ、とれないのが現実。これを変えるなら、法律や制度を細かく見直すことが一番だと思う。
5	女性が社会活動を行うには、家庭生活で女性に求められる役割の比が男性よりも大きすぎると思う。日常家事はもちろん、親への配慮（介護や、介護まではいかなくとも手伝い、病院等への送迎等）も、女性の役割とされることが多い。社会通念として、女性＝家庭という構図はなかなか変わるものではないと思わざるを得ない。
6	法律や制度は見直されているかもしれませんが、社会通念や慣習、しきたり等は根強く残っています。親では男女平等の教育はできないと思います。（親自身がそういう教育を受けていないので）

No	20代・女性（つづき）
7	男女を完全に平等にすることは難しいと思うが、お互いに働きやすい社会にはなってほしい。法律や制度を変えることも大事だとは思いますが、人々の考え方を変えないとどうしようもないのでは。男女共同参画について知らない人も多いと思うので、もっと多くの人を知ること、少しは意識も変わるかもしれない。実際に、私もセクハラはありましたし、知り合いも痴漢に遭った人や、DVを受けた人もいます。痴漢に遭った人は、警官に「短いスカートをはいているお前が悪い。」と言われたそうです。警官が痴漢の味方するような発言をしている自体、人々の意識の低さを表していると思います。介護については、老人ホームをもっと増やしてほしい。人でも増やしてほしい。先月、祖母が亡くなるまで家族で介護していました。祖母は介護5でしたが、老人ホームはいっぱい入れず、デイサービスを利用。病院は、以前入院した所が人手不足で、ずっとベッドに縛られて入院していた為、退院した時は祖母は歩けなくなっていました。病気で入院するまで自宅で介護していました。母とおばと1日交替で介護していましたが、母の休みはすべて祖母にあてられ、疲れてヒステリーを起こすこともありました。介護は母だけでなく、家族、周りの人の協力がなければとても辛いことを知っています。やせていた祖母ですが、トイレに連れて行くのも大人2人で支えなければ、とても重くて危ないです。力仕事なので男手は絶対必要です。介護が女性の仕事だと思っている方がいるようでしたら、考えは改めてもらいたいです。
8	男性は男、女性は女に生まれてきたのだから、男性らしさ女性らしさは必要だと思います。ただ生命を残す為だけに男と女の役割があるとは思えません。リーダーの素質があれば、女性らしくリーダーをすればいいし、どの場面でも女性らしさと男性らしさをうまく使っていきべきだと思います。女性の能力開発を行う、女性へ資金的援助を行う、e t c . . . 。これは女性優遇になってしまいます。するのであれば、男性女性問わず、するべきです。

No	30代・男性
1	法律や制度、ハード面等は整備が進んでいると思うが、それぞれの意識や内面などについてはまだまだ問題が多い（差別等）と思う。こういう内面の問題は、改善、考え方を考えるのは時間がかかると思うので、時間をかけて、まだ小さい時から教育をしていくことが必要だと思う。
2	男女共同参画＝男の立場に女が取って代わる、ことではないと考える。能力がある人は男・女に関わらず、その能力に応じたポストや仕事を与える、という風潮は出来つつあるように思うが、一方で全ての女性が偉くなることや、仕事で活躍することを望んでいるのかも考慮すべきではなからうか？中には“専業主婦になりたい”と望んでいる人もいるのではないかと（こんな事を言う時点でジェンダーに縛られているのかもしれないが）。より問題なのは、「共働きしないと暮らしていけない」社会環境だと思う。個人の「バリバリ働きたい！」「子育てに専念したい！」「玉の輿に乗りたい（逆タマも）」等々の希望が、経済的な厳しさからかなえにくい状況にある現状を、（当アンケートも含め）行政はもっと認識すべき。個人的には、女性にしか出来ない役割もあると思っていて、そのメリットをもっと活かせる社会になればうれしく思う。（とりとめがなくてすみません）
3	まず、女性の意識を改めたほうが良いと思う。女性自身が「男が主、女は従」と思っている人が今が多いような気がする。今はまだ、そのほうが無難、かえって変革を求めようとする、つまはじきにされると思っている人が多いのでは？それを最初から男性に対して「ダメオヤジ」とか「男は気持悪い」とか、最初から受け入れないこともある。（これは身だしなみ等に気を使わない男性の責任もある）その他にも色々あると思うけど、今の20代以下の人たちの意識は、自分達ほど性差に対してアレルギーのようなものがないので、20年～30年後には、今よりずっと平等になっていると思う。ただ、今すぐに出来ることは、お互いの個性を認め合って、少しずつ役割を見直すことだと思う。現在の考え（男女平等に対する）は、多分に欧米の考えをそのまま適用しようとしている面があると思うので、日本の文化に合った政策を考えるべきだと思う。
4	用語の横文字はやめるべき（取り付きにくい）。転勤がある職場では、女性（妻）が仕事を続けることは困難。結局、それなりの収入がなくては理想のとおりにはならない。各家庭の問題もあり、あまり平等を言い過ぎるのも逆の差別（家庭にいる女性への差別）を生む。DV問題をメディアに結び付けてメディアを悪とするのは短絡的。メディアが発達していない時代からある問題を、今問題視し始めたにすぎない。法や制度をいくら見直しても、それを運用する側がついてこれなければ意味がない。今の法や制度を活かされていないのに、これ以上見直しても問題は解決しないと思う。
5	法律、行政で女性を優遇する対応は必要ない。ただ、男女を平等にするような法律は必要である。それと共に女性自身の意識が変わらなければ平等は不可能である。

No	30代・女性
1	ワークライフバランスを保つために、男性を仕事漬けから解放して家庭へ戻すよう、国も自治体も積極的に動いて欲しい。最近は「イクメン（育児に参加するメンズ?!）」も増えているそうだが、会社や周囲の理解が少ないと、イクメンが父親のあたりまえの姿になるのはまだまだ先のように思う。以前、TVで見たが、男女共働き世帯の多い石川県か富山県かだったか？夕方5時になると、小学生までの子供がいる世帯の父親は、働いている職場の上司、同僚から、早く帰れと家庭へ戻されると。子供達も、父親との夕食、お風呂と家族団らんの時間も持てて、母親の負担も軽減するとあった。まだまだ環境整備、法や制度の見直し、人々の理解、課題は多いが、より良い社会実現に向け、市政に期待したい。
2	男女共同や平等と、言ったところで政治の場を見ても女性議員等、意志を持った発言をすると、古い男性議員に小ばかにされ、潰されてしまう感じがする。一般社会でも、結局トップや重役ほとんどは男性で、政治と同じ傾向にある。一度、総理大臣も都知事も県知事も市長も女性が試みて、改めて見直してみたら実感できると思います。

No	30代・女性（つづき）
3	男女を平等に…と言っても、身体的、体力など違うものを同じにすることは、なかなか難しいことだと思います。ただ、今出来ることは、男女のそれぞれの特徴を活かし、それを能力として伸ばして活躍の場を与え、男女が協力していけばうまくいくのではないのでしょうか。（あまり具体的なことは分かりませんが…）自分は今妊娠中ですが、将来のしつけは性別にこだわらずに（“男だから” “女だから”）にかかわらず…）したいと考えています。
4	女性はどうしても出産や子育てで、仕事の間から一時的に離れてしまわなくてはならないことがほとんどです。出産や子育て後に職場への復帰、あるいは何か職に就きたいと思っても、保育施設が充実しておらず、預ける所が見つからなければ雇ってもらえませんし、仕事を探す事すらできない状況にあると思います。女性が社会活動へ入る大きな妨げになっています。女性の社会進出のために、行政の積極的な施策を期待します！
5	あまりにも教育の場でジェンダーフリーばかりを強調している為、非常に違和感を覚えます。男女の差を教育することも大切だと思います。男女共同参画も、あまりに露骨なやり方（お金のかけ方）をしていると、何か政治的意図、特定の政党の暗躍など疑ってしまう事もあります。無理やり社会・政治の場に女性を引き込もうとせず、女性の意思、権限を尊重してほしいと思います。仕事を持たない女性に対する女性からの蔑視も目にあまるものがあります。（私は国家資格保有しておりますが現在は家庭に専念中）男性・女性がこの国の未来のために何をすべきかを考え行動していけば、おのずと仕事・家庭に対する答えは出てくるのでは…。やはり未来を創造していくのは子供たちですので、甘やかさず育てていく事が大切だと思います、私は日々過ごしております。
6	昨年育休をとって、今年4月より復職いたしました。休暇をとるにあたり、私の職場は営業所なのですが、最初は「いい」と返事をもらっていたのに、代わりに派遣を雇う事になったのですが、朝礼の皆の前で「1ヶ月50万もの経費が掛かる」等のことを言われたり、他にも嫌な事をたくさん言われたりされました。復職後も…。地方の方に話を聞くとやはり鹿児島は男尊女卑の傾向が強く見られる気がします。今の現状、到底二人目での育休は望めません。せつかくこのような機会をいただきましたので、今後の改善を望みます。
7	このようなアンケートをとっていただいて、本当に活かされるのか疑問？仕事として、このアンケートを配布し、ただデータを取り、上に報告する為なら、非常に残念。このようなことがないように、このデータを活かし、これからの男女共同参画計画がうまくいくようお願いしたいです。期待しています。今日、無作為とはいえ選んでいただいて、日頃、全く考えていないことを勉強できました。ありがとうございます。
8	男性、女性ともに、意識の改革が必要だと思います。責任のある地位になると、仕事と家庭の両立に悩む女性もいて、そこそこのポジションに留まる方もいるので、非常にもったいない事だと思います。男性であれ、女性であれ、才能があれば正当に評価され、才能のある方が思いっきり力を発揮できるような社会を望みます。生産人口が減る中、女性もどんどん社会にでていかざるを得ないと思いますので、男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという考えにとらわれず、みんながそれぞれできる範囲でサポートしていかなければならないと思います。
9	教育が大事だと思います。男女のあり方を学ぶことは性教育にもつながっていくと思います。性を、いやらしく、汚い、隠さなければならないような負のイメージで語るのではなくて、尊い、すばらしくて愛情のある、まさに生そのものであることを伝える教育が浸透していくといいなあと思います。
10	男女の能力による違いを認めつつ、尊重する社会をつくるのが大切。家庭の仕事をした人はいやすい環境を、仕事を続けていきたい女性は続けることのできる社会や職場環境づくり・制度が重要。これまで学校・地域・職場で男性が要となる慣習はあるが、それを全て否定するつもりはない。むしろ、男女同権ばかり訴え、昔からの素晴らしい日本文化を否定する現状に疑問を感じることもある。
11	育休、介護休給付制度や出産手当金の金額上昇等、国の制度としては充実しているが、反面、企業側には難しい（というより、景氣的に余裕がない）部分もあると思う。不景気の為、長く育休をとったり時短勤務により仕事が制限される人よりも、フルで働き利益を得てくれる人をどうしても優先せざるを得ない傾向もある。問題は企画する側（国）と実施する側（企業）の現状のギャップである。企業はしないのではなく、する余裕がないのが現状かも。また、男性は相変わらず休みがとりづらい傾向がある。
12	「家事・育児」は女性の仕事と思っている日本人男性が多すぎる。そういう男性の意識改革がまず必要だと思います。

No	40代・男性
1	男女間に向き不向きな職業、役割があり、お互いに尊重しながら職業を選択すべきである。女性が優遇されている点も多々あるので、女性も権利だけを求めるのではなく、男性に対しても思いやりをかけることが必要。男女間の区別と差別の違いを理解していない人が多いので、その点の教育を進める必要がある。
2	そもそも男性と女性は生まれながらに特長がある。良い悪いでなく、性的特徴を重んじる方が自然である。大事な事は思いやりであり、性差について制度よりも道徳が大事と考える！！
3	急激な男女共同参画社会の形成、男女雇用機会均等の形成、改革は無理があり、これまで約2000年間培われたものを、そう短期間で実施するには無理がある。徐々に理解を得ながら社会の状況、反応を見ながら実施すべきである。
4	メディアを使った「男女共同参画」に対する周知と参画が可能になる環境の整備を改善する必要があると思います。

No	40代・男性（つづき）
5	社会通念が変革しなければ、お題目だけ唱えても何も変わらない。強制的に全国民が男女の人権や性差別について正しく学ぶ必要がある。介護を受ける人が当然のように娘や嫁をあてにしていたり、社会的に女性の地位が低い現状では、法的に見直しを行っても現状が変わらない。これまで男女については親からの教育が大きく影響を受けていることから、家庭の中で教育を行う親がまず正しい男女共同参画の社会を理解することが必要。男女の特性を活かした平等論でなければ意味を履き違えた女性活動家も多く、反感を持っている者も多いように思う。
No	40代・女性
1	年配の方に、男性のために女性が従うのが当たり前との考えがあり、結婚した時よくそのことで責められた。夫は聞きたくないことは聞かず、動かず、言わずで助けがなかったため、一人で全部やること、耐えることが多かった。子供が成人したら、別れて1人で生活できるように今働いている！そういう人は多くいると思う。特に鹿児島は、年配の人が厳しく、若い人達は大変だと思う。
2	女性は妊娠、出産という性での役割があり、すべて男女平等にあるべきだとは思っていません。ただ、能力のある女性の方は積極的に社会に進出してほしいです。
3	女性が社会の中で働く為には、結婚しているならば配偶者の大きな深い理解と協力が必要だと思いません。結婚当初はなかなか協力的でなかった主人も20年もするととても協力的で子育てにも積極的に関わり、地域や学校の部活等も一緒に過ごしてきてとてもよかったと思っています。その20年間の中で、よく他の人より“〇〇さんのご主人は時間があるからね～。うちは忙しいから～。”と言われました。確かにそうなのかもしれません。就労の時間の関係は大きく、家庭生活や社会のあり方に影響しているように思います。今年は仕事をしていますが、仕事をしている時に年配の方々の意識の差にびっくりする事が多くあります。女性に対する軽蔑的な発言や見方、特に会議などでの発言や意見の言いにくさを感じる事が多いです。前にも書きましたが、相手が女性であると、強く言う男性を見かけることが多いです。働く女性の中には、子育てもしながら一生懸命働く方と、まあまあ適当に仕事という方々もいます（これは男女同じ）。一生懸命働く方々の能力が発揮され、活かされる環境は必要だと思います。
4	私の会社の社長が理念の中の一つとして「より多くの人々に美しく輝き、希望を持って（人生の目標設定）自分らしく生きるよろこびを提供することで社会に貢献する」という使命をにかけて実行されている社長です。行政や法律も大事なんですけど、感じますことは、女性がきれいになる→嬉しい→笑顔→家庭が明るくなる→楽しいコミュニケーション→夫婦円満→子供がすくすく育つ、と教えていただきました。女性が変わると家庭が→社会が→世界が変わると言われています。そんなことに挑戦させていただく実践の場があることに日々感謝している女性の1人です。
5	子供は泣くと、父母が目の前にいたとして、母親のもとへ飛び込む。動物だって自立できるまで自ら育てをする。「保育所を増やせ、増やせ、女性を外で働かせろ！」は、何か違和感を感じます。男性が結婚をし、妻と子供を養えないような時代はどうなのか……。両方が働き、自らがつくった子供は外部の人間に育ててもらおう。短時間限りの幼稚園より保育所が求められ……。育ての分業化のような気がします。苦勞して、母の手で、せめて小学生に上がるまでは面倒をみましょう！という教育もあって良いと思います。古くないと思います。フランスの施策にあったように、女が育児で家庭に入った（帰った）時は、失業、無職の若者をあてがい、職業訓練させたら良いと思います。
6	女性には出産や育児など、女性にしかできない特有の機会があるが、それが仕事をする上でマイナスに働くことがあってはならないと思う。女性がそれらのことで休んでいる期間、男性が仕事上の経験をより多く積めるということにより、昇給や出世に差を設けてはいけない。子どもを産み、育てていくことにより、未来はあるのだと思う。社会的な役割分担に縛られてはいけないが、性差はあるのでお互いを認めて助け合う社会になってほしい。
7	家庭、仕事、地域活動、PTA活動と、一個人にとっても負担が多い。活動のために、子育てや家庭生活が雑になり、仕事を休み、職場スタッフへ迷惑をかけることになる。共同参画活動は、平日昼間に行っているようですが、仕事を持つ人には参加は難しいです。又、土日祝日にあると、子供を残して参加せざるを得ません。一家団欒の時間が必要だと思います。
8	鹿児島では、まだまだ職場での差別が違和感なく行われていると思います（50代男性上司が）。例えば、社外への自社のスタッフの紹介などは、男性のみ名前など紹介し、女性は事務担当ということで、ひとまとめられてたりとかしていました。若い方は、男女共同という意識は高いようですが、上司などの年齢の男性の意識は低いと感じます。
9	男性だけが優遇されていることもあれば、女性だけが優遇されていることもあるような気がします。例えば、母子家庭と父子家庭では、助成のハードルが違ったりと、父子家庭だと大変という話もよく耳にします。これから未婚や非婚も増えていくと思うので、本当の意味での「平等」、メリットもデメリットも「平等」にして、その上で不便なところは考えていくべきではないでしょうか。
10	政治、行政の場で、「女性を1人は入れなきゃ」というような、パフォーマンス的な登用でなく、力のある女性に名実共に要職に就いてもらい、活躍してほしい。地域はまだ閉鎖的。男女の役割も固定化されているが、地域のつながりの強さと思うと、世代が変わるのを待つしかないように思える。
11	まだまだ教育、研修の機会が足りないと思う。男性、女性ともに理解不足だと思う。教育現場でも男性主導だと考えられるので、男女共同参画社会が形成されるのは時間がかかると考える。

No	50代・男性
1	男女の性差や役割について、議論していく必要があると思います。子供を産んで、すべて（多くを）家族以外の人たちに任せるのは良くないと思いますので。ゆとりをもって、家族全体で子育てしていく環境が必要ではないでしょうか。社会全体が、子どもを産み育てる環境について、議論していく事が大切だと思います。日本の文化（良いところ、悪いところ）も再考してみる事は重要だと思います。私の個人的な意見ですが、若い頃は、やはり母親の育児（周りの協力は必要ですが）が主になったほうが、子供にとってはいいような気がします。その後の就業保障がしっかり実施されることが重要だと考えています。子どもを産むことのできる女性を大切にすることが必要だと思います。もちろん、産めない方もおられますので、また、欲しくない方もおられますので、そうした方々の「思い」も尊重する必要があります。以上です。
2	自分と妻の職場とも男女の差別を感じにくいところにいるので、感覚としては今の社会に男女の差をあまり感じていないのですが、現実的にはまだまだひどい差別があるのでしょうか。お互いを尊重し、補いながら、そして、それぞれの性の役割を活かしながら過ごす社会や家庭が理想的だと思います。その意味では、ジェンダーなどは偏った考えになると思います。能力のある女性はどんどんリーダーとして社会やグループをリードしていくべきだと思うし、家庭においても男女が積極的に家事に参加していくべきだと思います。やはり、根本はお互いを思いやる個人を育ていく社会の形成が、男女共同参画社会を醸成していくカギだと思います。
3	男女共同参画については、今後の日本社会を形成する上において当然に必要なことだと思います。今の施策等を継続することが必要だと思います。昔から鹿児島に伝えられている、男らしさ、女らしさは当然に必要で、お互いを尊重する思いやりを持つ教育が必要だと思います。
4	行き過ぎた男女共同参画社会は、国、地域、家庭を破滅させる。問25で「女性の・・・先進国の中で特に低く・・・」とあるが、外国と日本の国体は違う。合わず必要はない。

No	50代・女性
1	男女共同参画計画という言葉を知りませんでした。このようなアンケートの前に、市民に知らせる手段はなかったのでしょうか。
2	組織、会社などへの指導が必要では。又、女性自身の意識が低いのも問題。働く以上、男性、女性に関係ない。
3	高齢者が多くなり、介護の問題も社会問題になっています。女性もより、社会に参加できるよう、介護の負担を社会の問題として考えていただけたらと思います。現在、介護中ですが、時間的にも精神的にも負担が大きいです。
4	男女平等でありたいと思いつつも、現実には、家事は男には無理ということもあって、あきらめ気分です。しかし、やはり、協力は必要だと思います。もし、私が先に死んだら、食事は大変だと思います。子供の世話になるには早すぎるし、できるだけ自分のことは自分でするようにしてほしいと思います。又、女にしかできない出産も、育児等、協力してほしいです。そうでないし、益々少子化が進んで、先々大変な世の中になりそうで心配です。メディアももう少し、昔のような、子供たちにもためになる報道をお願いしたいです。良い事も悪い事も全部、メディアから吸収しています。
5	少し意図がぶれるかもしれませんが、忘れられない出来事がありましたので書かせてください。正社員として働いていた時です。ある電話を受けたら、いきなり「誰か男の人に代わって！」と言われた。用件を聞いても、部署を聞いても、誰でもいいからとにかく男の人に代われ！の一点張りでした。相手は年配の男性と思われましたが、非常に不愉快でした。鹿児島弁だったこともあり、典型的な鹿児島の男性と思いました。こんな形に近い言動は度々ありました。思い出たびに今でも腹が立ちます。こういう人が職場の中に、社会の中にまだ沢山いれば、「男女共同参画」はなかなか難しいと思われそうです。
6	何もかも男女平等という考えにはいささか反対です。生理的にも体力的にも男性、女性、向き不向きがあり、持久力の点でも女性に対し、男性と同じ“力”を求めるのは無理があると思います。愛情面でも母性、父性はある程度分けるべきと考えています。
7	確かに育児、家事、高齢者の介護は女性の仕事のような感じはしますが、その仕事の役割を家庭で夫、妻、子供とできる範囲ですれば、男、女と決めなくてもいいと思う。家に中学生の男の子がいますが、洗濯物の取り入れ、お風呂掃除、ご飯炊き、犬のお風呂入れなどさせていますが、ありがたう助かるわと言っているだけです。ごめんねという母の仕事をお願いしている形になるので、出来ることはだれでもという感じがいいそうです。家事ができると将来にも役に立つし、男、女、関係なく、自分にも“得”です。子供の時からそういうやり方でいくと、別に男、女、間がなくなるし、でもやはり、生活を担うのは父親の方が理想としては大事な部分、母はサポートで仕事ぐらいが子供もそれぞれ尊敬すると思います。母が仕事の主流だと、父への尊敬がなくなると思います。
8	女性が男性と同じように、仕事をフルタイムでしたいと思っても、子供がいると、病気、PTAなどへの参加で会社を休むなどのことを指摘され、採用が不利になる。学校もPTA参観日を夜、日曜日にするとか、社会、制度、法律など・・・、同じ目線での改革が必要。働く女性も、パートだからと責任を軽く考える人もいるが、パート、社員フルに関係なく、責任のある仕事をする事が、女性の地位向上につながると思うが、自覚が女性にも足りないと思う。多くの働く女性の生き方が・・・将来の女性の地位向上に必ず、ゆっくりだがつながっていくと信じています。
9	男女共同参画社会の形成が未だになされていないと感じるのは、妻が働き出ると、家事の負担は変わらず、全てをこなさねばならず、又、夫の中には家事がおろそかにならなければ働いてもいいということをする人がいます。そうなれば、女性はおのずと働く時間や責任のない仕事を選ばざるを得ない現状です。特に子育てが一段落して、いざ働こうと思っても、若い人を求める会社ばかりでやりがいのある仕事はない状態です。日本の社会通念を考えると、男は仕事、女は家事という意識改革をしていかないと、たくさんいる能力のある女性は社会に出て行けない

No	50代・女性（つづき）
10	ジェンダーフリー教育を徹底していくことが大切だと思っています。教育現場で男、女差の意識が刷り込まれています。また、メディアのあり方にも疑問です。性別で役割を固定するイメージをもたせるCMやドラマが多すぎます。
11	私3歳まで子育ては家庭でという考えでしたが、しかし、自分の子供（娘）たちには外で男性と同等に仕事についても同じように能力、責任を持って働いていけるように育ててきました。このアンケートに自分自身で矛盾を感じながら回答してきましたが、子供が少なくなり、女性も社会で働いていけないのであれば、行政、会社で専業主婦並みの子育て（PTA、社会活動の参加）ができるようなサービス、環境をつくってほしいです。例えば、保育所も幼稚園と同じ教育内容にして、時間も延長するとか、もっと会社で夫が自由に育児休暇がとれるような社会になってほしいです。
12	女性が社会に進出するのみに素晴らしい事ではないと思います。家庭をちゃんと守っている（主婦）に対しての評価が低すぎるのではないのでしょうか。男女共に（別に性別にこだわらず）お互いを尊重する教育が基本的にされていれば、このような「男女共同参画」などという政策は不必要と思います。男女に差別を抱く人は、高齢者、障害者の人々にも差別を何かしか持っているのではないかと思います。「人」としてお互いを認め合う教育をするべきではないのでしょうか。

No	60代・男性
1	私個人的考えについて述べさせていただきます。私の育った頃は、終戦後で一般的に貧乏で、どの家庭も余裕はなかったと思います。しかしながら、帰宅すると母はいつもいたし、母は育てるのに一生懸命でした。だから良いこと、悪いことを教えてくれました。お金もないので遊びは外で遊ぶし、昆虫とり、魚とり（フナ釣り、どじょう釣り）等で遊んだものでした。自然相手でお金は一切いらぬ。現在は、あまりにもお金の時代になりすぎて、振込詐欺等、人はどうでもいい、自分さえ良ければという時代です。お金だけの時代だから、女性も結婚、子育てはどうでもいい。働いて稼がなきゃ。だから少子化も進むし、子供のいる家庭は子供手当が出るのでそこそこ働いて養育する。本来人間は、先祖の人達がしてきたように、男性は働き、妻子を養い、女性は家庭を守るのが一番いい。あまりにも人権を言いすぎ、政治行政は振り回され我の時代です。女性は働くことは賛成ですが、以上のことを考えた上でのことじゃないのでしょうか。
2	どういふことをするのか把握してない人が多いのではないかと！一部の主旨が分かっている人だけで参画しても意味がない。全員が理解して、できるだけ全員が参画できるよう、いろんな手法で各自が理解できるように広報が必要ではないかと思ひます。
3	共同参画は、特定の部、課、機関、団体等がするのではなく、全ての部署で横の連携を發揮し、強化してこそ成り立つと思われる。
4	日本国は男女平等ですよ！日本国民も、色々な職場で指導的立場で頑張っている方々も多数いらっしゃいます。社会は、女性の参入を歓迎されていると思ひます。男女共同参画社会基本法等法令も整備されているし、あとは各個人が夢（参画したい職）に向かって努力すれば良い。努力の大小によって、夢も実現に近づくとと思ひます。人に与えられた夢は開きません。

No	60代・女性
1	男女を問わず、興味のある方、能力がある方が積極的に参加されたほうが、より良い社会が成り立っていくと思ひます。
2	互いが性の区別（男・女の特徴、特性）を認識し合い、尊重し合うこと。男女の関係が従属的なものでなく、パートナーであること。まず、女性自らの意識改革が必要であり、積極的に一人の人間として経済的自立を努力すること。これらを実現する社会にしていくためには、子どもの教育、しつけ等をまず夫婦で話し合い、一人の人間として育てること。それを支援する制度として、「男女の区別」を教える教育、さらに「専業主婦」が常識の時代にできた税制の見直し等へと進めていく。専業主婦を否定するつもりはないが、安易な生き方として、それを求める女性の意識が変わらないと、社会はそう簡単に変えられないと思ひます。個人、家庭、地域、行政が繋がって努力するしかないと思ひます。
3	身体的に違いがあるので一言で男女平等で同じ仕事をこなせるとは思ひていません。男は外で、女は家族、家を守るのが基本だと思ひ一人です。子どもが寂しい思いをしたり、性格が、人格が大きくなってから何らかの形で曲がった思いやりのない、人情味のない大人になる子が増えそうな気がします。特に、小学校低学年のうち、母親の役割は大切だと思ひ、自分もそうして子育てをしました。孫にもそんな目に遭わないように、娘達にも実行させています。
4	私自身は結婚生活と同時に専業主婦、子供2人を育てながら、子どもを取り巻く周りに人々、友人も共に自分自身も成長し今に至ると思ひています。アンケートの回答は、今の社会のこれからの又孫の世代・・・と考えながら協力させていただきました。息子夫婦を見ていて「男女共同参画社会」は家庭生活、子育て等、コミュニケーションも男女共同の世代を強く感じ、社会に根付いていっていると思ひます。「夫婦別姓」の問題は、子供達への姓名を考えて回答できませんでした。迷いながら“3”にしましたが。
5	男女共同、今までの習慣に問われず夫婦生活の中でともなれば特に難しいですね。お互いに一緒にかかりながら能力、個性を發揮していく前向きな考え方もありませんが、昔から女性は「女らしく」と言うように、切り替えが難しいと思ひます。子供の時から家庭生活、学校生活の教育の中で男女平等の教育の充実が図れたら、もっとうまくいくのではないかと思ひます。

No	60代・女性（つづき）
6	私どもの時代は、男性は外で仕事、女性は家で家庭を守るという社会通念や慣習があったと思います。しかし、現存では、女性の進出も多くなりました。夫婦で働く人が多くみられ、そうすると、子供の問題、保育児施設等の問題も出てきて、男女共同参画も難しくなりそうな気がします。又、女性が男女の均等な機会を得るには女性自身の自覚と知識、能力の向上と周りの支援や施設サービスの充実も必要となるのではないのでしょうか。どうしても、男性にはない女性は、独身でない限り、子供を産み、育てるという仕事があります。時には男性が主夫となり、女性に代わり子育てする方がいますが、まだまだ女性の役割となっているような気が致します。男女が対等なパートナーとしてやっていくには、女性が働きやすい労働条件や環境が整う事だと思います。
7	“用語解説”の中にあるように、人間は生まれつきの生物的性別があります。それで得意とする分野が違うので、それぞれが得意とする分野で力を発揮し、認め合い、助け合っていくべきだと思います。社会でバリバリ仕事をすることも立派ですが、家事をしっかりとこなし、子育てする女性もとても立派です。

No	70歳以上・男性
1	政治的にバランスのとれた考え方を基本にする。一方的に偏った方向へ導くような表現を行わない。要は住み良い社会（国家）をつくれれば・・・。
2	政策や方針決定の場に積極的に登用すれば、女性のリーダーも育つ。
3	鹿児島は男女差別の空気が未だに感じられる土地柄である。したがって、女性の社会進出に関しては、女性自らがやや消極的になっている面があるのかもしれないが、能力のある鹿児島おごじよの積極的社会進出を切に望むものである。と同時に職場においても、意欲のある女性についてはリーダーとしての登用を積極的に実施して欲しい。
4	男女共同参画社会基本法が制定されてから10年余り、今回のこのアンケートによりいろいろな設問からこの法律の趣旨を改めて理解させてもらいました。継ぎはぎだった知識が1本につながったように思います。今後、自分なりに勉強して社会に貢献できるように努めていきたいと思っています。設問34について、セクシャルハラスメントの被害者が警察へ相談しているケースは、マスコミの報道によればかなり多いようですが、警察の対応は誠にお粗末です。民事不介入を楯に、消極的な対応に終始している。相手に勧告した、見回り（巡視）をしたくらいのことしかしていない。その結果、事故（刑事事件）になってからでは遅いと思います。
5	以前からすると随分改善されているが、鹿児島は封建制の強いところか、「男尊女卑」の風習があり、女性の発言、就職先での積極的な活動等、職場の雰囲気は足りないと思う。女性が能力を発揮し、大いに敏腕を振り得るような環境づくりがあればと思う。

No	70歳以上・女性
1	鹿児島は男尊女卑の考え方が未だに根強いと思います。「女のくせにギを言うな、でしゃばるな。」こんな思いを心の底にお持ちの男性は多いのでは。お互いの性を尊重し、思いやりの気持ちを持って住みよい鹿児島になってほしいです。
2	男性と女性は同等であるべきですが、各々の特性は異なるのでお互い理解し合える平等であって、各々の特性を幼い頃より知って、尊敬し合える家庭や社会の環境と、学校教育が必要だと思う。又、増えつつあるあまりにも早い性教育や平等を主張するジェンダーフリーのような学校教育は、聖なる学校には持ち込まないでほしい。男性と女性の正しい愛情ある家庭の中で、男女共同参画は理解と協力から生まれてくると思います。純潔教育と共に男女共に色々な学習、社会参加を通して能力を高め、心身ともに成長する豊かな人づくり、教養を高め合える場も場も必要ではないのでしょうか。高齢者も含めて・・・ちょっと考える場を与えてくださってありがとうございました。突然で戸惑ってしまいました。才能ある女性、職場の中でも政治でも、男性ばかりの偏った考え方を改める為にも、女性参画で家庭や社会の理解を高めて男女平等は正しく発展して欲しいと思います。
3	女性型に従属せず個として生きてゆくためには、生まれた頃からの育て方にも問題がありそうです。男のくせに、女のくせに、男らしく、女らしく等、禁句ではないのでしょうか。お互いを思いやりながら人間らしく生きてゆくように育てたいと思います。
4	家事、子育てがどうしても女性のほうに比重がかかってしまうので、負担が大きくよっぽどの体力、強い意志、サポートがないと、仕事を続けるのは難しい。でも、もっと男性の意識を改革して、女性の立場を理解して協力してもらわないと、スムーズな男女共同参画社会の確立は難しいと思う。
5	女性、男性ともその人その人に個性がありますから、それを伸ばすためにも共同参画の意識はみんなが持たなければいけないと思います。意外な場面でよさを発揮できると思います。まだ男性の一部には、女性差別を生まれながらに持っている人々がいます。それは教育の場や家庭で改めていく必要があるかと思っています。一方で共同参画を振りかざしている場も見られることは残念です。資質も持ち合わせていないのに、女性の数合わせに参加させていることも見られます。特に今の政治のあり方に強く思います。大臣選にそう思っております。

No	年齢・性別不詳
1	男女共同参画のためには、仕事をする女性の身体的なハンディキャップを完全に埋めることが必要だと思います。ハンディキャップとは、子供を産めるのは女性だけだということです。出産、育児だけでなく、妊娠中も女性は大変きつい思いをしているのに、妊娠休暇、若しくはつわり休暇のようなものがないために、女性は仕事を辞めざるを得ません。仮にそれに耐えて仕事を続けたとしても、2人目、3人目ともなると、近くに親がいない限り仕事を続けるのは無理です。しかも今の出産育児休業制度は事務的な仕事をする人には向いてますが、それ以外の人には全く無意味なものです。結果、女性は社会進出ができないになってしまうのだと思います。働く女性が安心して妊娠できる法整備を早急にすべきだと思います。
2	今回このアンケートに答えることで男女共同参画という言葉の意味を初めて知りました。一人ひとりが自分はどう生きたいかを真剣に考え、今までの慣習や男女の別にとらわれず、理想に向かって活動していくことによって社会全体も変化していくと思います。そのためには市民へ広く「身近な人への理解・協力・尊重することの大切さ」を伝える必要があると思いました。自分は女性だからこうしなければならない、という考えが自分だけでなく他の人を傷つけたり苦しめたりするようなことになっていないか省みる良い機会になりました。ありがとうございました
3	調査項目を読んで、色々勉強、考えさせられました。男女平等といっても、それぞれにもって生まれた分野があります。そのことをしっかりとわきまえた上での主義主張であってほしいと思います。例えば、質問の中にありました、子供のしつけや教育についても、母親の影響がとても大きいといわれます。高学歴でなくても「かしこいお母さん」であってほしいと応援したくなります。女性は、自分を常に厳しく見つめ、磨きをかけて、そして制度に支えられながら輝いていてほしいと思います。私は公務員で退職組ですが、在職中の同僚（女性）それぞれの考え方、姿勢を見て考えさせられることが多々ありました。「まず、自分に厳しく、努力、その後、制度、権利です。」それが、男女共同参画へつながることを期待します。

第 3 章

資 料

調査ご協力をお願い

日頃から、鹿児島市政に対しまして深いご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

本市では、男女が対等なパートナーとして、お互いにその人権を尊重しあい、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現をめざし、「鹿児島市男女共同参画計画」（平成 14 年度～23 年度）を策定し、様々な取組を進めています。

今回、市民の皆様のお考えや生活の実情などを調査させていただき、今後の男女共同参画の施策に活かしてまいりたいと考えております。

この調査は、市内にお住まいの 20 歳以上の方の中から無作為に選ばせていただいた 3,000 人の方をお願いしております。調査の結果は全て統計的に処理いたしますので、ご回答くださったことでご迷惑をおかけすることは一切ございません。

ご多忙のところ恐れ入れますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成 22 年 9 月

鹿児島市長 森 博幸

＜ご記入にあたって＞

＜注意事項＞

- 調査票は無記名でご回答ください。調査の結果はすべて統計的に処理し、個々の内容を公表するものではありません。ご回答くださった方にご迷惑をおかけすることはございませんので、お考えや実情をありのままにお答えください。
- 調査票をお送りいたしましたご本人がお答えください。
- 回答については、特別に指定がない場合、それぞれの質問項目ごとに該当する番号に○印をつけてください。また、お答えが「その他」に該当する場合は、その番号に○印をつけ、（ ）の中になるべく具体的にご記入ください。
- ご記入後、お手数ですが三つ折にして、同封の返信用封筒（切手不要）にて、**9月24日（金）まで**にご返送ください。

※この調査票の内容についてのお問い合わせは、下記にお願いします。

鹿児島市 市民局市民部 男女共同参画推進課

電 話：099-813-0852

FAX：099-813-0937

《男女平等意識についておたずねします》

問1. 男性と女性は憲法上では平等となっていますが、次にあげる①～⑦の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	平等 になっている	不平等な 点がある	どちらとも いえない	わから ない
①家庭で	1	2	3	4
②職場で	1	2	3	4
③学校(学校教育)の中で	1	2	3	4
④地域社会の中で	1	2	3	4
⑤政治の場で	1	2	3	4
⑥法律や制度の上で	1	2	3	4
⑦社会通念や慣習、しきたりの中で	1	2	3	4

問2. 社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。(○印は1つ)

1. 男性の方が非常に優遇されている
2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
3. 平等
4. どちらかといえば女性の方が優遇されている
5. 女性の方が非常に優遇されている
6. わからない

問3. 問1、問2で不平等だと感じる、どちらかの性が優遇されていると答えた方におたずねします。主な原因はどこにあると思いますか。(○印は3つまで)

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 男女の役割に対する考え方 | 7. 男性の理解不足 |
| 2. 身体的・生理的な差 | 8. 法律や制度 |
| 3. 女性に対する偏見 | 9. その他 |
| 4. 男性に対する偏見 | (具体的に：) |
| 5. 社会的な慣行・しきたり | 10. わからない |
| 6. 女性の理解不足 | |

問4. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが重要であると思いますか。(○印は3つまで)

1. 法律や制度面の見直し
2. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し
3. 男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し
4. 女性の経済力の向上
5. 女性自身の自覚と知識・能力の向上
6. 女性の政治・職場・社会活動への積極的な参画
7. 企業や政府などの重要な役職への女性の登用
8. 家庭・学校での男女平等教育の充実
9. 職場内での男女平等処遇の徹底
10. 男性の理解・協力
11. 女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実
12. その他(具体的に:)
13. わからない

《家庭生活についておたずねします》

問5. 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○印は1つ)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

問6. 問5で「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。

その理由は何ですか。(○印はいくつでも)

1. 男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから
2. 家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから
3. 子どもの頃からそうした教育をされているから
4. 女性は仕事を持ってても不利な条件に置かれるから
5. 男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから
6. 社会全体にそうした風潮があるから
7. その他(具体的に:)

問7. 日常生活における役割分担についておたずねします

(1)①～⑧について、あなたの理想とする分担をお答えください。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	女性が主	男性が主	男女同程度	その他の人	わからない
①生活費を得ること	1	2	3	4	5
②炊事、掃除、洗濯などの家事	1	2	3	4	5
③育児や子どものしつけ	1	2	3	4	5
④子どもの教育方針や進学目標の決定	1	2	3	4	5
⑤PTA への参加	1	2	3	4	5
⑥家族の介護	1	2	3	4	5
⑦近所づきあい	1	2	3	4	5
⑧町内会や自治会などへの参加	1	2	3	4	5

(2)結婚している方、結婚してはいないがパートナーと暮らしている方におたずねします。

①～⑧について、実際にあなたの家庭では主にだれが分担していますか。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	女性が主	男性が主	男女同程度	その他の人	誰もしていない	わからない
①生活費を得ること	1	2	3	4	5	6
②炊事、掃除、洗濯などの家事	1	2	3	4	5	6
③育児や子どものしつけ	1	2	3	4	5	6
④子どもの教育方針や進学目標の決定	1	2	3	4	5	6
⑤PTA への参加	1	2	3	4	5	6
⑥家族の介護	1	2	3	4	5	6
⑦近所づきあい	1	2	3	4	5	6
⑧町内会や自治会などへの参加	1	2	3	4	5	6

問8. 男性が家事、育児などをする事についてどう思いますか。(○印は1つ)

1. 男性も積極的にする方がよい 2. 男性もできるだけする方がよい 3. 男性はあまりしない方がよい 4. 男性はやるべきでない 5. その他(具体的に：)
--

問9. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についておたずねします。

(1)あなたの希望に最も近いものはどれですか。（○印は1つ）

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. わからない

(2)それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（○印は1つ）

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8. わからない

問 10. 今後、男女がともに家事や子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印はいくつでも）

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
4. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること
5. 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を充実すること
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及させること
7. 夫婦や家族でのコミュニケーションをはかること
8. 子どもに対して、家事などを男女で分担するようなしつけや育て方を行なうこと
9. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行なうこと
10. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
11. 特に必要ない
12. その他（具体的に： _____)
13. わからない

《社会活動・地域活動への参加・参画についておたずねします》

問 11. あなたは現在、次のような活動に参加していますか。(○印はいくつでも)

1. 町内会・自治会の活動
2. 団体活動（女性団体や老人クラブ等）
3. PTA 役員や子ども会などの青少年育成活動
4. レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動
5. 市民講座、教養講座などの講座受講
6. ボランティア活動
7. 消費者活動、住民活動
8. 政治活動、労働運動
9. 職場や学校のグループ活動
10. その他（具体的に： _____)
11. 特にない

問 12. 特に、女性が社会活動・地域活動に参画していく上ではどのようなことが必要だと思いますか。
(○印は3つまで)

1. 女性も積極的に役職に登用する
2. 女性が発言しやすい雰囲気づくりをする
3. 男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする
4. 活動するための施設等を整備する
5. 女性の地域活動に対する家族や周囲の理解を促進する
6. 接待や後片付け等を女性の役割としない
7. 女性リーダーを育成する
8. 活動する上で必要な情報を提供する
9. 資金的な援助を行う
10. その他（具体的に _____)
11. 特に必要ない
12. わからない

《結婚についておたずねします》

問 13. 結婚についてのあなたの考えに近いものはどれですか。(○印は1つ)

1. 人は当然結婚すべきである
2. 経済的に独立し生活できるのであれば結婚しなくてもよい
3. 結婚する、しないは個人の自由であるからどちらでもよい
4. その他(具体的に: _____)

問 14. 現在の法律では、夫または妻のどちらかの姓を選び、夫婦は同じ姓を名乗るようになっていますが、「夫婦は同じ姓を名乗る」か「別々の姓を名乗る」かを選択できるようにすることについてどう思いますか。(○印は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. そうすべきだと思う | 3. どちらともいえない |
| 2. そうは思わない | 4. わからない |

《家庭での高齢者介護についておたずねします》

問 15. 現在、家庭での高齢者介護は、多くの場合女性が担っていますが、これについてどう思いますか。(○印は1つ)

1. 当然だと思う
2. 現状ではやむをえない
3. 夫や息子など男性も分担すべきである
4. その他(具体的に: _____)
5. わからない

問 16. 高齢者介護について今後どのようなことが必要だと思えますか。(○印は3つまで)

1. 介護施設の増設・充実
2. 男性の介護参加
3. 介護休暇制度の普及
4. 介護サービスを利用することへの周囲の意識改革や理解
5. デイサービスやショートステイ(施設への短期入所)などの在宅介護を支援する行政サービスの充実
6. 介護保険制度の充実
7. 介護用品の改良
8. 地域でのネットワーク作り
9. 介護予防策の充実
10. その他(具体的に: _____)
11. わからない

《就労についておたずねします》

問17. 女性の仕事についてのあなたの考えをおたずねします。あなたが女性の場合はあなた自身について、男性の場合はあなたのパートナー（いない場合はいると仮定して）についてお答えください。

	① 自分の理想	② 現実
1. 仕事は定年まで続ける	1	1
2. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける	2	2
3. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける	3	3
4. 子どもができれば仕事はやめる	4	4
5. 結婚したら仕事はやめる	5	5
6. 仕事はもたない	6	6
7. わからない	7	7

※各項目ごと
縦に見てお答え
ください
(○印はそれぞれ
ひとつ)

問18. 問17の「②現実」で、2～6を選んだ方におたずねします。その理由は何ですか。

(○印はいくつでも)

1. 家事・育児に専念したい（したかった）から
2. 保育施設等が充実していない（いなかった）から
3. 夫や家族の理解が得られない（得られなかった）から
4. 職場の慣行や雰囲気です仕事を続けることはできない（できなかった）から
5. その他（具体的に： _____)

問19. 働いている方（パートタイマー、派遣、アルバイトをしている学生も含む）におたずねします。あなたの職場で現在次のような男女格差がありますか。該当するものに○をつけてください。

(○印はいくつでも)

1. 同期に同年齢で入社した男女で賃金昇給の差がある
2. 社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある
3. 定年の年齢に男女差がある（慣行を含む）
4. 女性は昇進・昇給が遅い、または望めない
5. 女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある
6. 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある
7. 女性は補助的な仕事に従事する傾向がある
8. お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い
9. その他（具体的に： _____)
10. 特に男女格差はない

問 20. 社会全体として女性が働きやすい状況にあると思いますか。(○印は1つ)

1. 働きやすい	3. あまり働きやすいとはいえない	5. わからない
2. ある程度働きやすい	4. 働きにくい	

問 21. 問 20 で「あまり働きやすいとはいえない」「働きにくい」と答えた方におたずねします。

そう思う理由は何ですか。(○印は3つまで)

1. 女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない
2. 能力発揮の場が少ない
3. 働く場が限られている
4. 育児施設・サービスが十分でない
5. 昇進・教育訓練などで男女に差がある
6. 結婚・出産退職の慣行がある
7. 男性は仕事、女性は家庭という社会通念がある
8. 家族の理解、協力が得にくい
9. 職場や職場の周りの人々の協力が得られにくい
10. セクシュアル・ハラスメントの被害にあうことがある
11. その他(具体的に:)

《教育についておたずねします》

問 22. 子どもの育て方についての考えをおたずねします。(○印は1つ)

1. 男の子だから、女の子だからということを重視して育てた方がよい
2. 性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい
3. どちらともいえない
4. その他(具体的に:)

問 23. 男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。

(○印は3つまで)

1. 心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する
2. 互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する
3. 性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う
4. 学校生活で性別により固定化された役割分担をなくす
5. 教職員の男女共同参画意識を高める研修を充実する
6. PTA などを通じて、男女共同参画意識を高めるための啓発活動を充実する
7. 学校のクラス名簿に男女別名簿ではなく男女混合名簿の導入を推進する
8. 女性の校長や教頭を増やす
9. 今のままでよい
10. その他(具体的に:)

《女性の政策参画についておたずねします》

問 24. 次の①～④の各分野でその方針や政策を決めるとき、女性の意見はどの程度反映されていると思いますか。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わかりません
①職場で	1	2	3	4	5	6
②地域社会で	1	2	3	4	5	6
③市政・県政の場で	1	2	3	4	5	6
④国政の場で	1	2	3	4	5	6

問 25. 現在わが国の、政策や方針決定過程への女性の参画状況は先進国の中で特に低くなっています。政策の企画や方針決定の過程に、女性が進出していない理由は何だと思えますか。(○印はいくつでも)

1. 家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識
2. 男性優位の組織運営
3. 女性の能力開発の機会が不十分
4. 女性の活動を支援するネットワークの不足
5. 女性が積極的でない
6. 家族の支援・協力がいない
7. その他(具体的に：)
8. わからない

問 26. 女性の意見を政治や行政に十分反映させるためには、どのようなことが最も効果があると思えますか。(○印は2つまで)

1. 女性議員が多くなること
2. 官公庁での管理職や審議会等の委員など公職に就く女性が増えること
3. 一般の女性の自主的な活動が盛んになること
4. 女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること
5. 女性の能力開発の機会を設けること
6. 女性自身の政治への関心を高めること
7. その他(具体的に：)
8. わからない

《人権・暴力についておたずねします》

問 27. 配偶者等からの暴力（身体的、精神的、経済的、性的）は、多くの場合女性が被害者となっています。このような配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたはどう思われますか。※ドメスティック・バイオレンス・・・別紙で用語解説を同封しています。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
①ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である	1	2	3	4
②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない	1	2	3	4
③暴力をふるわれる方にも問題がある場合もある	1	2	3	4
④暴力をふるう相手とは別れたらいい	1	2	3	4
⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ	1	2	3	4
⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである	1	2	3	4

問 28. あなたは、現在または過去に配偶者（結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む）がいましたか。（○印は1つ）

- | |
|---|
| 1. 現在いる
2. 過去にいたが現在はいない
3. これまでいたことがない ⇒ 11 ページの問30にお進みください |
|---|

問 29. 問 28 で「現在いる」「過去にいたが現在はいない」と答えた方におたずねします。

(1) これまでに、あなたの配偶者（結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む）から次の①～③のようなことをされたことがありますか。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	まったくない	1・2度あった	何度もあった
①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

(2) その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。（○印は1つ）

- | |
|----------------|
| 1. ある
2. ない |
|----------------|

問 30. あなたの 10 歳代から 20 歳代の経験についてお聞きします。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。あなたは、その当時、交際相手がい了吗。あてはまる番号に○をつけてください。(○は 1 つ)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 交際相手がい了吗 (いる) | ⇒ 1 2 ページの間 34 にお進みください |
| 2. 交際相手はいなかった (いない) | |

問 31. 問 30 で「交際相手がい了吗 (いる)」と答えた方におたずねします。

(1) あなたは、10 歳代または 20 歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次の①～③のようなことをされたことがありますか。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれひとつ)	まったく ない	1・2 度あ った	何 度 も あ っ た
①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

(2) その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。(○印は 1 つ)

- | |
|-------|
| 1. ある |
| 2. ない |

問 32. 問 29 または問 31 で「1・2 度あった」「何度もあった」と答えた方におたずねします。

あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○印はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 家族に相談した |
| 2. 友人・知人に相談した |
| 3. 行政機関 (鹿児島市男女共同参画センター(サンエールかごしま相談室)、鹿児島県男女共同参画センター、鹿児島市女性相談室、鹿児島県女性相談センター、福祉事務所、保健所、法務局など) に相談した |
| 4. 警察に連絡・相談した |
| 5. 弁護士に相談した |
| 6. 医師に相談した |
| 7. 民間のカウンセリングルームに相談した |
| 8. その他 (具体的に) |
| 9. どこ (だれ) にも相談しなかった |

問 33. 問 32 で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。

どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○印はいくつでも）

1. どこ（だれ）に相談してよいのか分からなかったから
2. 相談する人が近くにいなかったから
3. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
4. 相談してもむだだと思ったから
5. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
6. 相手に「誰にも言うな」とおどされたから
7. 子どもに危害が及ぶと思ったから
8. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
9. 自分にも悪いところがあると思ったから
10. 個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから
11. 担当者の言動により不快な思いをすと思ったから
12. 世間体が悪いから
13. 他人を巻き込みたくなかったから
14. 他人に知られると、これまでの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
15. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
16. そのことについて思い出したくなかったから
17. 相談するほどのことではないと思ったから
18. 家族なのだからがまんするよう言われるのではないかと思ったから
19. 相談することによって自分の望まない結果になるのではと思ったから（離婚・別居など）
20. その他（具体的に)

問 34. 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思えますか。

（○印はいくつでも）

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
6. 警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
7. 暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
8. 加害者への罰則を強化する
9. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を規制する
10. その他（具体的に)
11. 特にない

問 35. テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピューターゲーム等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。(〇はいくつでも)

1. 性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく
2. 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
3. 性的犯罪を助長する
4. 過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない
5. 男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている
6. その他(具体的に)
7. 特に問題はない
8. わかならい

《男女共同参画に関する用語についておたずねします》

問 36. 男女共同参画に関連の深い次の言葉をこれまで知っていましたか。①～⑭それぞれについてお答えください。

※各項目ごと横に見てお答えください (〇印はそれぞれ1つずつ)	知 っ て い る 言 葉 も 内 容 も	知 っ て い る 言 葉 だ け は	知 ら な い 言 葉 も 内 容 も
①男女共同参画社会基本法	1	2	3
②女子差別撤廃条約	1	2	3
③男女雇用機会均等法	1	2	3
④配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	1	2	3
⑤ドメスティック・バイオレンス	1	2	3
⑥育児・介護休業法	1	2	3
⑦セクシュアル・ハラスメント	1	2	3
⑧ポジティブ・アクション	1	2	3
⑨社会的性別(ジェンダー)	1	2	3
⑩エンパワーメント	1	2	3
⑪リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3
⑫ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
⑬鹿児島市男女共同参画計画	1	2	3
⑭男女共同参画都市かごしま宣言	1	2	3

※ 別紙で用語解説を同封しています。

《行政についておたずねします》

問 37. 「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(○印はいくつでも)

1. 法律や制度の面での見直しを行なう
2. 女性を政策や方針決定の場に積極的に登用する
3. 女性団体や女性のリーダーを養成する
4. 職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行なう
5. 女性の就労の機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や訓練を充実する
6. 男女が共に家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行なう
7. 保育所や児童クラブなどの施設や育児サービス、制度の充実を図る
8. 高齢者や障害者に対する施設・介護支援などの福祉政策を充実する
9. 学校教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
10. 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する
11. 各国の女性との交流や情報提供など国際交流を推進する
12. 広報誌やパンフレットなどによる啓発や、講演会や講座等を充実する
13. その他(具体的に：)
14. 特にない

問 38. 男女共同参画に対するご意見やお考えを自由にお書きください。

※ 本調査は、ご回答者のプライバシーを尊重する観点から無記名方式でお願いしております。個別の回答が必要な「相談」や「質問」については、鹿児島市男女共同参画推進課へ直接お問い合わせください。

《あなたやあなたのご家族についておたずねします》

F 1. あなたの性別はどちらですか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F 2. あなたの年齢（満年齢）を教えてください。

- | | | | |
|------------|------------|------------|-------------|
| 1. 20～24 歳 | 4. 35～39 歳 | 7. 50～54 歳 | 10. 65～69 歳 |
| 2. 25～29 歳 | 5. 40～44 歳 | 8. 55～59 歳 | 11. 70 歳以上 |
| 3. 30～34 歳 | 6. 45～49 歳 | 9. 60～64 歳 | |

F 3. あなたのお仕事についておたずねします。あなたは、この中のどれにあたりますか。

- | | | |
|---|----------|------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 雇用者（役員を含む） | 3. 家族従業者 | 5. その他の無職（学生を含む） |
| 2. 自営業主（家庭内職者を含む） | 4. 主婦・主夫 | |

F 4. F 3で「雇用者（役員を含む）」と答えた方へおたずねします。そのお仕事は常勤（フルタイム）ですか、パートタイムですか。

- | | |
|----------------------------|--------|
| 1. 常勤（フルタイム） | 3. その他 |
| 2. パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他） | |

F 5. あなたは結婚していらっしゃいますか。

- | | | | |
|--|-------|------------|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 結婚している（結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む） | | | |
| 2. 離別 | 3. 死別 | 4. 結婚していない | |

F 6. F5で「結婚している（結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む）」と答えた方へおたずねします。ご夫婦の職業の有無について、この中のどれにあたりますか。（F3で雇用者（役員を含む）、自営業主（家庭内職者を含む）、家族従業者と答えた方は職業がある場合としてご回答ください。）

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. どちらも職業がある | 3. 配偶者にのみ職業がある |
| 2. 自分にのみ職業がある | 4. どちらも職業がない |

F 7. あなたにお子さんはいらっしゃいますか。（○印は1つ）

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

～ ご協力ありがとうございました ～

ご記入もれがないかももう一度ご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れ、

9月24日(金) までにご返送くださいますようお願いいたします。

●用語解説●

用語	内容
男女共同参画社会基本法	男女共同参画社会の形成を推進する上で、法的根拠となる法律です。1999年6月に制定されました。前文では、男女共同参画社会の実現を21世紀のわが国社会を決定する最重要課題と位置づけ、社会のあらゆる分野において、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の推進を図っていくことが明確にされています。
女子差別撤廃条約	1979年、国連総会で採択されました。わが国は、1984年の国籍法の改正、1985年の男女雇用機会均等法の制定、家庭科教育の見直しなどの条件整備を経て、1985年に批准しています。あらゆる分野の性差別を許さず、男女平等の実現には男女の伝統的役割の変更が不可欠であるとしています。
男女雇用機会均等法	雇用分野における男女の均等な機会及び待遇の確保を図るとともに、女性労働者が性別に差別されることなく、かつ母性を尊重されつつ充実した職業生活を営むことができることを目的としています。1986年4月に施行されました。
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	配偶者からの暴力についての通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的とする法律です。被害者が男性の場合もこの法律の対象となりますが、恋人からの暴力は対象となっていません。
ドメスティック・バイオレンス	配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力のことです。暴力の種類はなぐる、けるなどの身体的な暴力だけでなく、言葉などで精神的に追い詰める精神的暴力や経済的、性的な暴力など多岐にわたります。
育児・介護休業法	仕事と家庭の両立を図るため、1991年に育児休業法が成立し、その後介護休業法が加えられました。育児や介護を行う労働者の仕事と家庭との両立をより一層推進するため、両立を支援する各種制度の充実が進められています。
セクシュアル・ハラスメント	相手を不快にさせる性的な言動のことで、特に雇用の場においては、性的な言動への対応によって労働条件に不利益を受ける「対価型」と、就業環境が害される「環境型」があります。
ポジティブ・アクション	様々な分野において、活動に参画する機会の男女間の格差を解消するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものです。例として、審議会等委員への女性の登用のための目標の設定などがあります。
社会的性別(ジェンダー)	人間は生まれつきの生物学的性別(セックス/sex)があります。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的性別」(ジェンダー/gender)といいます。「社会的性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われています。
エンパワーメント	政治、経済、社会、家庭などのあらゆる分野で、自分たちのことは自分たちで決め行動できるような能力を身につけること。またはその能力を引き出すこと。女性自身が企画や政策・方針決定の場に参画し、社会を変えていく力を身につけることとして、女性問題の取組みの中で重要視されています。
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	女性が全生涯にわたって身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態をいいます。いつ何人子どもを産むか(産まないか)を選ぶ自由、安全で満足のある性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に育つこと、これらに関連して思春期や更年期における健康上の問題など、性と生殖に関する課題が含まれます。
ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活の調和のことで、実現に向けて官民一体となった取組が進められています。仕事と生活の調和が実現することにより、男性も女性もあらゆる世代の誰もが仕事や子育て、介護、自己啓発、地域活動など様々な活動を自分の希望するバランスで展開でき、仕事の充実と仕事以外の生活の充実が好循環をもたらすとされています。
鹿児島市男女共同参画計画	本市の男女共同参画社会の形成を目指す行動計画で、平成14年度から23年度までを計画期間としています。5つの基本目標と9つの重点課題を定め市民と行政が一体となった取組を進めています。
男女共同参画都市かごしま宣言	鹿児島市男女共同参画センターの開館を機に、平成13年1月30日、本市における男女共同参画社会の実現を目指して市民と行政が一体となって推進することを宣言しています。

**男女共同参画に関する
市民意識調査
報告書**

**鹿児島市市民局市民部
男女共同参画推進課**
〒890-0054
鹿児島市荒田1丁目4番1号
TEL 099-813-0852
FAX 099-813-0937